

平成 30（2018）年度

講義概要

東北大学文学部

平成30年度文学部・文学研究科専門科目授業日程

(2018年4月～2019年3月)

4月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
5月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
6月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
7月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
8月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
9月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

10月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
11月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
12月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
31年1月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
2月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28		
3月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

注) _____ は授業日, ■ は祝日等の休業日

注) ○印: 1月29日(火)は金曜日, 2月5日(火)は木曜日の授業を行う。

- ※ 6月22日(金)は創立記念日であるが授業を行う。
- ※ 11月2日(金)は大学祭実施予定のため、授業日とはしない。
- ※ 4/5、4/6オリエンテーション
- ※ 7/31、8/1はオープンキャンパス
- ※ 太線は補講日候補

平成30年度 文 学 部 学 年 暦

授業日程等	主な行事及び書類提出期日等	備 考
第 1 学期授業期間 自 4 月 9 日(月) 至 7 月 30 日(月)	2 年次ガイダンス 4 月 3 日(火)午前 入学式 4 月 4 日(水)午前 文学部新入生オリエンテーション 4 月 5 日(木)午後 ～ 4 月 6 日(金)午前	マルチメディア棟206 マルチメディア棟206・ 文学部研究棟
第 1 学期補講期間 自 7 月 24 日(火) 至 8 月 6 日(月) ※ 7 月 31 日～ 8 月 1 日 は休業日	WEB 履修登録期間 定期健康診断 5 月 7 日～18 日頃 教育実習（前期）（2 又は 3 週間） 5 月中旬～ 7 月上旬 介護等体験参加申込書提出期限 6 月中旬 創立記念日 6 月 22 日(金) 卒業論文・卒業研究題目届提出期限 6 月 25 日(月) 転専修出願期間 7 月 2 日(月)～ 6 日(金) 専修志望予備調査 7 月下旬（人文社会総論の授業時） 卒業論文・卒業研究提出期限 7 月 27 日(金)	日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡 協力校（中・高）及び 出身校（中・高） 9 月卒業予定者 2 年次 1 年次 9 月卒業予定者
夏季休業期間 自 8 月 7 日(火) 至 9 月 28 日(金)	オープンキャンパス 7 月 31 日(火)、 8 月 1 日(水) 介護等体験事前指導 9 月上旬 学位記授与式 9 月 25 日(火)	日程は掲示等で連絡
第 2 学期授業期間 自 10 月 1 日(月) 至 1 月 28 日(月)	卒業論文・卒業研究題目届提出期限 10 月 4 日(木) 教育実習参加申込書提出期限 10 月上旬 WEB 履修登録期間 教育実習（後期）（3 週間） 10 月中旬～11 月中旬 専修決定オリエンテーション 10 月下旬～11 月 教育実習事前指導 11 月中旬 学士編入学願書受付 10 月 22 日(月)～10 月 26 日(金) 大学祭 11 月 2 日(金)～11 月 4 日(日) 平成31年度 AO II 期第 1 次選考 11 月 3 日(土)（予定） 学士編入学試験 11 月 15 日(木) 平成31年度 AO II 期第 2 次選考 11 月 17 日(土)（予定）	次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡 協力校（中） 1 年次 次年度履修希望者 日程は掲示等で連絡
冬季休業期間 自 12 月 27 日(月) 至 1 月 3 日(木)	転専修出願期間 12 月中旬 教育職員免許状出願期限 12 月下旬 卒業論文・卒業研究提出期限 1 月 9 日(水) 転学部出願期間 1 月 7 日(月)～11 日(金) 専修志望本調査 1 月 8 日(火)～11 日(金) 転学部面接試験等 2 月 6 日(水) 平成31年度 AO III 期第 2 次選考 2 月 11 日(月) 研究生・科目等履修生入学願書受付 2 月 8 日(金)～ 2 月 15 日(金) 平成31年度個別学力試験（前期日程） 2 月 25 日(月)～26 日(火) 卒業業者決定の掲示 3 月上旬 学位記授与式 3 月 27 日(水)	日程は掲示等で連絡 日程は掲示等で連絡 3 月卒業予定者 1 年次
第 2 学期補講期間 自 1 月 22 日(火) 至 2 月 5 日(木)		
論文口頭試問期間 自 2 月 4 日(月) 至 2 月 14 日(木)		

（注 1）定期試験の期間は特に設けず、授業担当教員の判断により当該セメスター（学年）内に随時実施する。

（注 2）6 月 22 日(金)は創立記念日であるが授業を行う。

学部開講科目一覧

国文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国文学概論	日本近代文芸の諸問題	2	佐藤 伸宏	3	金	3	1
国文学概論	日本古典文芸の世界	2	佐倉 由泰	4	金	3	2
国文学基礎講読	『徒然草』を読む	2	佐倉 由泰	3	金	2	3
国文学基礎講読	『成尋阿闍梨母集』を読む	2	横溝 博	4	金	2	4
国文学各論	『住吉物語』の展開と享受	2	横溝 博	5	月	2	5
国文学各論	『我身にたどる姫君』を読む	2	横溝 博	6	月	2	6
国文学各論	〈接続する〉文芸学	2	中村 三春	集中(5)			7
日本文芸形成論各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	5	火	2	8
日本文芸形成論各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	6	火	2	9
国文学演習	『落窪物語』の研究	2	横溝 博	5	月	5	10
国文学演習	『落窪物語』の研究	2	横溝 博	6	月	5	12
国文学演習	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	5	水	2	14
国文学演習	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	6	水	2	15
国文学演習	説話文学の研究	2	佐倉 由泰	5	木	2	16
国文学演習	説話文学の研究	2	佐倉 由泰	6	木	2	17

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本思想史概論	日本から再び思想史する	2	片岡 龍	4	火	2	1
日本思想史概論	「日本思想史」の課題と方法	2	佐藤 弘夫	3	金	1	2
日本思想史基礎講読	近代史料を読む	2	岡安 儀之	4	金	2	3
日本思想史基礎講読	古代・中世資料を読む	2	佐藤 弘夫	3	金	3	4
日本思想史各論	日本思想を再発明する	2	片岡 龍	5	火	4	5
日本思想史各論	変容する死後世界の光景ー日本列島の死生観	2	佐藤 弘夫	6	金	1	6
日本思想史各論	新聞メディアから見た明治前期思想	2	岡安 儀之	5	金	2	7
日本思想史各論	戦後日本思想史再考	2	宇野田 尚哉	集中(6)			8
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 Ⅰ	2	佐藤 弘夫. 片岡 龍	5	水	3	9
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 Ⅱ	2	佐藤 弘夫. 片岡 龍	6	水	3	10

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本史概論	日本史概説1	2	堀 裕. 柳原 敏昭. 籠橋 俊光	3	木	2	1
日本史概論	日本史概説2	2	堀 裕. 柳原 敏昭. 籠橋 俊光. 安達 宏昭	4	木	2	2
日本史基礎講読	中世史料講読	2	柳原 敏昭	4	火	2	3
日本史基礎講読	近現代史料講読	2	安達 宏昭	4	火	4	4
日本史基礎講読	古代史料講読	2	堀 裕	3	金	3	5
古文書学	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	3	火	1	6
古文書学	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	4	水	4	7
日本史各論	英語で読む日本中世文 書	2	柳原 敏昭. クレイグ クリスト ファー	5	月	5	8
日本史各論	日本中世史研究法	2	柳原 敏昭	6	月	5	9
日本史各論	日本古代史の研究と方 法(1)	2	堀 裕	5	水	2	10
日本史各論	日本近現代史研究の 現状と課題(6)	2	安達 宏昭	6	水	2	12
日本史各論	歴史資料保全の実践 (その1)	2	佐藤 大介	5	木	4	13
日本史各論	歴史資料保全の実践 (その2)	2	佐藤 大介	6	木	4	14
日本史各論	日本古代史の研究と方 法(2)	2	堀 裕	6	金	2	15
日本史各論	近世社会の研究(1)	2	籠橋 俊光	5	金	3	16
日本史各論	近世社会の研究(2)	2	籠橋 俊光	6	金	3	17
日本史各論	日本近現代史研究の 焦点	2	吉田 裕	集中(6)			18

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳原 敏昭	5	月	3	19
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳原 敏昭	6	月	3	20
日本史演習	室町時代の政治と社会 (1) 中世史料演習(1)	2	柳原 敏昭	5	月	4	21
日本史演習	室町時代の政治と社会 (2)	2	柳原 敏昭	6	月	4	22
日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	5	火	2	23
日本史演習	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	6	火	2	25
日本史演習	近世史料研究(1)	2	籠橋 俊光	5	火	4	27
日本史演習	近世史料研究(2)	2	籠橋 俊光	6	火	4	28
日本史演習	近現代史研究法	2	安達 宏昭	6	火	5	29
日本史演習	古代史料研究(1)	2	堀 裕	5	水	3	30
日本史演習	近現代政治・社会史の 研究	2	安達 宏昭	6	水	3	32
日本史演習	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	5	水	5	33
日本史演習	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	6	水	5	34
日本史演習	近現代政治・外交史の 研究	2	河西 晃祐	5	金	2	35
日本史演習	古代史料研究(2)	2	堀 裕	6	金	3	36
日本史実習	史料整理・保存の理論 と方法	2	籠橋 俊光	5	金	4、5	38
日本史実習	史料整理実習	2	籠橋 俊光	6	金	4、5	39

考古学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
考古学概論	日本考古学概説	2	菅野 智則	4	月	2	1
考古学概論	先史考古学概説	2	阿子島 香	3	月	5	2
考古学基礎講読	考古学資料読解	2	田村 光平	4	月	5	3
考古学基礎実習	考古学資料の観察と記録	2	鹿又 喜隆	3	金	1、2	4
資料基礎論各論	先史考古学資料論	2	阿子島 香	6	月	3	5
考古学各論	日本考古学の諸問題	2	鹿又 喜隆	5	月	2	7
考古学各論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤 敦	5	火	3	8
考古学各論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤澤 敦	6	火	3	9
考古学各論	生物考古学	2	奈良 貴史	集中(5)			10
考古学講読	先史文化研究	2	阿子島 香	5	金	2	11
考古学演習	考古学研究史	2	阿子島 香. 鹿又 喜隆	5	金	4	12
考古学演習	考古学の方法と理論	2	阿子島 香	6	金	4	13
考古学実習	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿又 喜隆. 阿子島 香	5	水	3、4	14
考古学実習	考古学資料分析法(2)	2	阿子島 香	6	水	3、4	15

中国語学中国文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
中国文学概論	中国の恋愛詩(ウラ文学史)	2	佐竹 保子	3	木	1	1
中国文学概論	中国の小説と戯曲	2	土屋 育子	4	木	1	2
中国文学基礎講読	中国語実用文法研究	2	土屋 育子	3	水	4	3
中国文学基礎講読	現代文読解による中国語実用文法研究	2	矢田 尚子	4	水	4	4
中国語基礎演習	中級会話	2	馬 曉地	3	月	5	5
中国語基礎演習	中級会話	2	馬 曉地	4	月	5	6
中国文学各論	唐詩と唐代社会(胡曾の《詠史詩》)	2	馬 曉地	5	火	4	7
中国文学各論	唐詩と唐代社会(胡曾の《詠史詩》)	2	馬 曉地	6	火	4	8
中国文学各論	中国の詩学	2	川合 康三	集中(5)			9
中国文学演習	中国の通俗文学を読む	2	土屋 育子	6	水	4	10
中国文学演習	中国の通俗文学を読む	2	土屋 育子	5	水	5	11
中国文学演習	中国当代文学研究	2	馬 曉地	5	木	2	12
中国文学演習	中国当代文学研究	2	馬 曉地	6	木	2	13
中国文学演習	楚辞文学研究	2	矢田 尚子	5	金	1	14
中国文学演習	楚辞文学研究	2	矢田 尚子	6	金	1	15

中国思想中国哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
中国思想概論	明清思想史概論	2	三浦 秀一	3	火	1	1
中国思想概論	秦漢魏晉思想史概説	2	齋藤 智寛	4	火	1	2
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級1	2	齋藤 智寛	3	月	2	3
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級2	2	三浦 秀一	4	月	2	4
中国思想各論	中国古代中世思想研究の現状	2	齋藤 智寛	5	金	2	5
中国思想各論	中国近世・近代思想研究の現状と課題	2	三浦 秀一	6	金	2	6
中国思想各論	陸王心学研究	2	小路口 聡	集中(5)			7
中国思想演習	銭大昕『論語』問答研究	2	三浦 秀一	5	水	2	8
中国思想演習	漢代思想文献精読	2	齋藤 智寛	6	水	2	9

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	火	2	1
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	4	火	2	2
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	3	月	5	3
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	4	月	5	4
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	火	5	5
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	火	5	6
東洋史各論	清朝のモンゴル統治	2	岡 洋樹	5	水	4	7
東洋史各論	六朝時代の諸問題	2	川合 安	5	金	2	8
東洋史各論	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	6	金	2	9
東洋史各論	明清時代の諸問題	2	井上 徹	集中(6)			10
東洋史各論	唐宋時代の法と刑罰	2	徳永 洋介	集中(6)			11
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	水	5	12
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	水	5	13
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川合 安	5	金	4	14
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川合 安	6	金	4	15

インド学仏教史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその1ー	2	桜井 宗信	3	火	1	1
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその2ー	2	桜井 宗信	4	火	1	2
パーリ語	パーリ語入門	2	西村 直子	3	水	5	3
パーリ語	パーリ語講読	2	西村 直子	4	水	5	4
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅰ	2	桜井 宗信	3	月	1	5
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅱ	2	桜井 宗信	4	月	1	6
インド学各論	祭式文献講読 新月満月祭における搾乳と酸乳製造	2	西村 直子	5	木	5	7
インド学各論	ヴェーダ文献講読	2	尾園 絢一	6	木	5	8
インド仏教史各論	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	5	火	2	9
インド仏教史各論	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	6	火	2	10
インド学演習	インド哲学文献講読	2	尾園 絢一	5	水	3	11
インド学演習	インド哲学文献研究	2	西村 直子	6	水	3	12
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	5	月	3	13
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	6	月	3	14

英文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英文学概論	Introduction to English Poetry	2	大河内 昌	3	木	1	1
英文学概論	Introduction to English Novels	2	大河内 昌	4	木	1	2
英文学基礎講読Ⅰ	George Orwell, Burmese Days (1)	2	大貫 隆史	3	火	2	3
英文学基礎講読Ⅱ	George Orwell, Burmese Days (2)	2	大貫 隆史	4	火	2	4
英文学・英語学基礎講読Ⅰ	Reading the Modern Short Story	2	ティンク ジェイムズ	3	木	3	5
英文学・英語学基礎講読Ⅱ	Kazuo Ishiguro, The Remains of the Day and the Contemporary	2	ティンク ジェイムズ	4	木	3	6
英文学各論	Jane Austen, Persuasion	2	大河内 昌	5	水	1	8
英文学各論	Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray	2	大河内 昌	6	水	1	9
英文学各論	近代英国のふたつの文化???チャーチスト運動からサッチャー登場ま	2	山田 雄三	集中(5)			10
英語文化論各論	American Literature, 1900-Present	2	トニー・マガグナ	6	水	4	11
英語文化論各論	Emily Bronte, Wuthering Heights	2	大河内 昌	5	金	2	12
英文学講読	William Shakespeare, Twelfth Night and Renaissance Comedy	2	ティンク ジェイムズ	6	月	2	13
英文学演習Ⅰ	Raymond Williams, Border Country (1)	2	大貫 隆史	5	火	3	15
英文学演習Ⅱ	Raymond Williams, Border Country (2)	2	大貫 隆史	6	火	3	16
英文学演習Ⅲ	Bram Stoker, Dracula: Victorian Gothic Fiction and Modernity	2	ティンク ジェイムズ	5	月	2	17

英語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	水	5	1
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	4	水	5	2
英語学各論	形態論入門Ⅰ	2	島 越郎	5	火	2	3
英語学各論	統辞構造の外在化	2	土橋 善仁	集中(5)			4
英語解析学各論	形態論入門Ⅱ	2	島 越郎	6	火	2	5
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅰ	2	金子 義明	5	火	4	6
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅱ	2	金子 義明	6	火	4	7
英語学演習	英語学の諸問題研究 Ⅰ	2	島 越郎. 金子 義明	7	水	2	8
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	島 越郎. 金子 義明	8	水	2	9
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅠ	2	金子 義明	5	金	2	10
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅡ	2	金子 義明	6	金	2	11

ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ドイツ文学概論Ⅰ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 1	2	森本 浩一	3	水	4	1
ドイツ文学概論Ⅱ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 2	2	森本 浩一	4	水	4	2
ドイツ語学概論Ⅰ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	3	水	2	3
ドイツ語学概論Ⅱ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	4	水	2	4
ドイツ語学基礎講読Ⅰ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	3	火	1	5
ドイツ語学基礎講読Ⅱ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	4	火	1	6
ドイツ文学各論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(3)	2	佐藤 雪野	5	火	2	7
ドイツ文学各論Ⅱ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(4)	2	佐藤 雪野	6	火	2	8
ドイツ文学各論Ⅲ	近現代ドイツ・オーストリア文学概論	2	里村 和秋	集中(6)			9
ドイツ語学各論	カフカを読む	2	森本 浩一	5	月	3	10
ドイツ語学各論	カフカを読む	2	森本 浩一	6	月	3	11
ドイツ文学演習Ⅰ	フィクションの物語を批評する 1	2	森本 浩一	5	金	3	12
ドイツ文学演習Ⅱ	フィクションの物語を批評する 2	2	森本 浩一	6	金	3	13
ドイツ文学演習Ⅲ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 —— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅱ)	2	佐藤 研一	5	木	4	14
ドイツ文学演習Ⅳ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 —— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅲ)	2	佐藤 研一	6	木	4	15
ドイツ語学演習Ⅰ	ドイツ語学演習Ⅲ	2	ナロック ハイコ	5	水	3	16
ドイツ語学演習Ⅱ	ドイツ語学演習Ⅲ	2	ナロック ハイコ	6	水	3	17

ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ドイツ語学演習Ⅲ	中高ドイツ語講読	2	嶋崎 啓	5	月	2	18
ドイツ語学演習Ⅳ	中高ドイツ語講読	2	嶋崎 啓	6	月	2	19

フランス語学フランス文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
フランス文学概論Ⅰ	フランス文学史(近現代)	2	今井 勉	4	水	4	1
フランス語学概論Ⅰ	言語学の誕生から今日まで	2	阿部 宏	4	月	5	2
フランス文学基礎講読Ⅰ	短編小説を読む	2	今井 勉	3	水	4	3
フランス語学基礎講読	フランスの雑誌を読む	2	阿部 宏	3	月	5	4
フランス文学各論Ⅰ	フランス文学批評史	2	今井 勉	5	木	2	5
フランス文学各論Ⅱ	ランボーと近代抒情性の研究	2	深井 陽介	6	月	4	6
フランス文学各論Ⅲ	フランス語圏文学研究入門	2	廣松 勲	集中(6)			7
フランス文学演習Ⅰ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	5	水	2	8
フランス文学演習Ⅱ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	6	水	2	10
フランス語学演習Ⅰ	フランス語意味論Ⅰ	2	阿部 宏	5	火	3	12
フランス語学演習Ⅱ	フランス語意味論Ⅱ	2	阿部 宏	6	火	3	13

ヨーロッパ史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ヨーロッパ史概論	近世ヨーロッパ国家の 諸特徴	2	田中 良英	3	月	2	1
ヨーロッパ史概論	18～19世紀ヨーロッパ 国家の諸特徴	2	田中 良英	4	月	2	2
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	3	水	2	3
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	4	水	2	4
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	金	2	5
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献講読	2	浅岡 善治	4	金	2	6
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有光 秀行	3	金	4	7
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有光 秀行	4	金	4	8
ヨーロッパ史各論	「ノルマン人の帝国」に 生きる	2	有光 秀行	5	月	4	9
ヨーロッパ史各論	「戦間期(1918－39 年)」再考	2	浅岡 善治	6	水	3	10
ヨーロッパ史各論	ドイツ農村社会史研 究	2	山崎 彰	集中(5)			11
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	5	火	4	12
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	6	火	4	13
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近代革命の 歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	木	2	14
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近代革命の 歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	木	2	15
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近世・近代史 の諸問題	2	杵淵 文夫	5	金	2	16
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近世・近代史 の諸問題	2	杵淵 文夫	6	金	2	17

言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
現代言語学概論	言語学概論Ⅰ	2	後藤 斉	3	金	2	1
現代言語学概論	言語学入門(運用)	2	木山 幸子	4	金	2	2
現代言語学基礎講読	語用論研究法入門	2	木山 幸子	3	月	2	3
現代言語学基礎演習	入門的言語調査・実験 法実践	2	木山 幸子	4	月	2	4
言語交流学基礎講読	統語論入門	2	小泉 政利	4	金	1	5
音声学	音声学概説・調音音声 学	2	後藤 斉	3	水	4	6
音声学	音響音声学	2	後藤 斉	4	水	4	7
現代言語学各論	言語と思考	2	小泉 政利	6	水	3	8
現代言語学各論	モンゴル語の歴史	2	斎藤 純男	集中(5)			9
現代言語学各論	歴史語用論	2	椎名 美智	集中(6)			10
言語交流学各論	テキスト処理の基礎	2	後藤 斉	5	月	2	11
言語交流学各論	心理言語学方法論	2	木山 幸子	5	水	2	12
現代言語学演習	言語学研究法Ⅰ	2	後藤 斉. 木山 幸子	5	金	3	13
現代言語学演習	言語学研究法Ⅱ	2	後藤 斉. 小泉 政利. 木山 幸子	6	金	3	14
言語交流学演習	コーパスによる言語の 分析	2	後藤 斉	5	月	4	15
言語交流学演習	言語データ分析法基礎	2	木山 幸子	5	火	2	16
言語交流学演習	言語データ分析法発展	2	木山 幸子	6	火	2	17

言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
言語交流学演習	生成統語論	2	小泉 政利	6	水	4	18
言語交流学演習	コーパス言語学の展開	2	後藤 斉	6	金	2	19

国語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国語学概論	日本語の歴史	2	大木 一夫	3	月	5	1
国語学概論	方言研究	2	小林 隆	4	月	5	2
現代日本語学概論	日本語学概論	2	甲田 直美	3	火	3	3
現代日本語学概論	ことばのバリエーション	2	甲田 直美	4	火	3	4
国語学基礎講読	古典語・方言講読	2	小林 隆	4	月	2	5
国語学基礎講読	近代(明治期)の文語 文講読	2	齋藤 倫明	3	水	5	6
国語学各論	方言学的日本語史研究	2	小林 隆	6	火	2	7
国語学各論	日本語文法研究	2	大木 一夫	5	木	2	8
国語学各論	日本語文法変化の研究	2	小柳 智一	集中(5)			9
現代日本語学各論	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	5	月	3	10
現代日本語学各論	「連語」から見た「カテゴリーカルミーニング」	2	齋藤 倫明	5	月	4	11
国語学講読	三宝絵を読む(上)	2	大木 一夫	5	月	2	12
国語学講読	三宝絵を読む(下)	2	大木 一夫	6	木	2	13
国語学演習	方言調査法	2	小林 隆	5	火	2	14
現代日本語学講読	近世言語論講読	2	齋藤 倫明	6	水	5	15
現代日本語学演習	文章・談話の構造	2	甲田 直美	6	月	3	16

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語教育学概論	日本語と日本語教育	2	才田 いずみ	3	火	3	1
日本語教育学概論	日本語教育の基礎	2	才田 いずみ	4	火	3	2
現代日本論概論	現代日本における家族	2	田中 重人	3	火	2	3
現代日本論概論	現代日本における職業	2	田中 重人	4	火	2	4
日本語教育学基礎講読	外国語学習と習得	2	才田 いずみ	3	月	5	5
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小河原 義朗	4	月	5	6
現代日本論基礎講読	本を読む	2	田中 重人	3	火	1	7
現代日本論基礎講読	論文作成の基礎	2	田中 重人	3	金	2	8
現代日本論基礎講読	研究法入門	2	田中 重人	4	金	2	9
日本語教育学各論	学習者と社会	2	島崎 薫	6	火	3	10
日本語教育学各論	日本語教育方法論概説	2	衣川 隆生	集中(5)			11
日本語教育学各論	コミュニケーションのための日本語教育文法	2	野田 尚史	集中(6)			12
日本語教育学講読	中間言語語用論	2	才田 いずみ	6	月	2	13
日本語教育学演習	コンピュータ利用と日本語教育	2	才田 いずみ	5	火	4	14
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラムの評価	2	小河原 義朗	6	火	4	16
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	5	金	3	17
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	小河原 義朗	5	水	3、4	18

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	小河原 義朗	6	水	3、4	19
現代日本論講読	現代日本論論文講読	2	田中 重人	5	金	4	20
現代日本論演習	質問紙調査の基礎	2	田中 重人	5	水	2	21
現代日本論演習	調査的面接の基礎	2	田中 重人	6	水	2	22
現代日本論演習	統計分析の基礎	2	田中 重人	5	木	2	23
現代日本論演習	実践的統計分析法	2	田中 重人	6	木	2	24

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
哲学思想概論	近代哲学史(2)——自由と行為	2	城戸 淳	3	月	4	1
哲学思想概論	近代哲学史(3)——自己意識と人格同一性	2	城戸 淳	4	月	4	2
哲学思想概論	古代哲学史(前篇)	2	荻原 理	3	木	2	3
哲学思想概論	古代哲学史(後篇)	2	荻原 理	4	木	2	4
現代哲学概論	近現代哲学の諸問題(1)	2	直江 清隆	3	金	2	5
現代哲学概論	現代哲学の諸問題(2)	2	直江 清隆	4	金	2	6
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原 塑	3	水	4	7
現代哲学概論	科学哲学入門	2	原 塑	4	水	4	8
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(1)	2	直江 清隆. 荻原 理. 城戸 淳	3	水	3	9
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	荻原 理. 直江 清隆. 原 塑. 城戸 淳	4	水	3	10
哲学思想基礎講読	Horkheimerの“Montaigne und die Funktion der Skepsis”を読む(継続)	2	小松 恵一	3	木	3	11
哲学思想基礎講読	Horkheimerの“Montaigne und die Funktion der Skepsis”を読む(継続)	2	小松 恵一	4	木	3	12
哲学思想各論	プラトンの魂論	2	荻原 理	6	月	3	13
哲学思想各論	「フランクフルト学派」の哲学とその周辺	2	齋藤 直樹	6	火	4	14
哲学思想各論	分析哲学を使いこなす	2	伊藤 春樹	5	木	4	15
哲学思想各論	死者と価値、およびそれを語る言語	2	柏端 達也	集中(5)			16
生命環境倫理学各論	生命環境倫理の諸問題	2	直江 清隆	5	火	3	17

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
哲学思想演習	アーレント『革命について』第5章を読む	2	森 一郎	5	火	4	18
哲学思想演習	プラトン『饗宴』を読む (1)	2	荻原 理	5	火	5	19
哲学思想演習	プラトン『饗宴』を読む (2)	2	荻原 理	6	火	5	20
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』 研究	2	城戸 淳	5	水	5	21
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』 研究	2	城戸 淳	6	水	5	22
哲学思想演習	カントの歴史哲学	2	城戸 淳	5	木	2	23
哲学思想演習	カント『判断力批判』の 美学	2	城戸 淳	6	木	2	24
哲学思想演習	現代分析哲学・科学哲 学入門	2	原 塑	5	金	2	25
哲学思想演習	現代分析哲学・科学哲 学入門	2	原 塑	6	金	2	26
哲学思想演習	哲学のメソッド	2	原 塑	5	金	3	27
哲学思想演習	記号論理学	2	原 塑	6	金	3	28
哲学思想演習	フッサール「幾何学の 起源」を読む	2	直江 清隆	5	金	5	29
哲学思想演習	フッサール「幾何学の 起源」を読む	2	直江 清隆	6	金	5	30
生命環境倫理学演習	生誕や差別の生命倫 理学	2	直江 清隆	6	火	3	31

倫理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
倫理思想概論	現象学・倫理学通論	2	戸島 貴代志	3	火	2	1
倫理思想概論	倫理学の基礎	2	村山 達也	4	金	4	2
倫理思想基礎講読	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	3	月	2	3
倫理思想基礎講読	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	4	月	2	4
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (1)	2	村山 達也	3	水	3	5
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (2)	2	村山 達也	4	水	3	6
倫理思想各論	ルサンチマンについて	2	戸島 貴代志	6	火	2	7
倫理思想各論	ライプニッツ『形而上学 序説』を読む	2	村山 達也	5	金	4	8
倫理思想各論	哲学・思想を今考える ーハイデガー・ヘリゲ ル・禅を中心に	2	魚住 孝至	集中(6)			9
倫理思想演習	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	5	月	2	10
倫理思想演習	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	6	月	2	11
倫理思想演習	デカルト『方法叙説』講 読	2	村山 達也	5	水	2	12
倫理思想演習	デカルト『方法叙説』講 読	2	村山 達也	6	水	2	13
倫理思想演習	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	5	水	4	14
倫理思想演習	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	6	水	4	15
倫理思想演習	道徳的相対主義をめぐる 諸問題	2	村山 達也	5	金	2	16
倫理思想演習	利己主義をめぐる諸問 題	2	村山 達也	6	金	2	17

東洋・日本美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論— 彫刻の主題と表現	2	長岡 龍作	3	金	4	1
東洋・日本美術史概論	日本絵画史	2	杉本 欣久	4	金	4	2
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文 研究	2	長岡 龍作	5	金	5	4
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文 研究	2	杉本 欣久	6	金	5	5
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	3	火	3、4	6
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	4	火	3、4	7
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	5	月	2	8
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	6	木	2	9
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	5	水	3	10
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	6	水	3	12
東洋・日本美術史各論	古代・中世仏教絵画史 研究	2	泉 武夫	集中(5)			14
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長岡 龍作	5	木	2	15
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長岡 龍作	6	月	2	16
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡 龍作 杉本 欣久	5	火	2	17
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡 龍作 杉本 欣久	6	火	2	18

美学・西洋美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	2	1
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	2	2
美学・西洋美術史概論	ヨーロッパ美術の北と南 ——リアリズムの行方	2	尾崎 彰宏	4	金	3	3
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	3	水	4	4
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	4	水	4	5
美学・西洋美術史各論	ネーデルラント美術における共感表現、スペクタクル、美術市場	2	尾崎 彰宏	5	金	3	6
美学・西洋美術史各論	凱旋門と活人画	2	京谷 啓徳	集中(5)			7
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習(前期)	2	フォンガロ エンリコ	5	木	5	8
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習(後期)	2	フォンガロ、エンリコ	6	木	5	9
美学・西洋美術史演習	西洋美術史に関する方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	5	金	4	10
美学・西洋美術史演習	西洋美術に関する方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	6	金	4	11
美学・西洋美術史実習	西洋美術史の基礎知識と調査入門	2	尾崎 彰宏	5	火	3、4	12
美学・西洋美術史実習	美術作品の調査法について	2	尾崎 彰宏	6	火	3、4	13

社会学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
社会学概論	現代社会の秩序と動態	2	長谷川 公一	3	木	1	1
社会学概論	地域ケア・システムの 社会学	2	永井 彰	4	木	1	2
社会学基礎演習	平成の社会変動学	2	長谷川 公一	3	火	5	3
社会学基礎演習	コミュニケーション行為 の理論	2	永井 彰	4	水	5	4
社会学基礎演習	相互行為論の基礎視 角	2	木村 雅史	4	月	4	5
社会学各論	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	6	火	4	6
社会学各論	質的研究概論	2	徳川 直人	5	水	3	7
社会学各論	環境問題と社会運動の 社会学	2	長谷川 公一	5	木	2	8
社会学各論	ハーバーマスの社会理 論	2	永井 彰	6	木	2	9
社会学各論	福祉社会の成り立ち	2	菅原 真枝	5	火	3	10
社会学各論	ダニエル・ベルの社会 理論と現代アメリカ社会	2	清水 晋作	集中(5)			11
社会学各論	“被害者になる”ことの 社会学	2	本郷 正武	集中(6)			12
社会学演習	船橋晴俊を読む	2	長谷川 公一	5	火	4	13
社会学演習	社会科学のなかの社会 学	2	永井 彰	6	水	2	14
社会学実習	社会調査実習(1)	2	小松 丈晃	5	金	3、4	15
社会学実習	社会調査実習(2)	2	小松 丈晃	6	金	3、4	16

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
行動科学概論	ミクロ-マクロ問題入門	2	佐藤 嘉倫	3	月	4	1
行動科学概論	ゲーム理論入門	2	佐藤 嘉倫	4	月	4	2
行動科学概論	社会調査の基礎	2	木村 邦博	3	火	5	3
行動科学概論	社会調査の実際	2	木村 邦博	4	火	5	4
行動科学基礎演習	行動科学の基礎	2	浜田 宏	3	金	4	5
行動科学基礎演習	行動科学のための因果 推論入門	2	神林 博史	4	金	4	6
行動科学基礎実習	多変量解析	2	永吉 希久子	4	水	4、5	7
行動科学基礎実習	行動科学基礎実習	2	永吉 希久子	5	水	4、5	8
行動科学各論	リスクと防災の社会学	2	佐藤 嘉倫	5	月	5	9
行動科学各論	格差・不平等・リスクの 社会学	2	佐藤 嘉倫	6	月	5	10
行動科学各論	差別の社会学	2	永吉 希久子	6	木	2	11
行動科学各論	数理社会学	2	武藤 正義	集中(5)			12
行動科学演習	質問の科学	2	木村 邦博	5	月	4	13
行動科学演習	「質問の科学」実験実 習	2	木村 邦博	6	月	4	14
行動科学演習	ベイズアプローチによる 社会学の理論と実証	2	浜田 宏	5	水	2	15
行動科学演習	社会秩序の自己組織 化とエージェント・ベー スト・モデル	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	5	水	3	16
行動科学演習	エージェント・ベースト・ モデルによる自己組織 性の解明	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	6	水	3	17

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
行動科学演習	社会的排除	2	永吉 希久子	5	金	2	18
行動科学演習	実践計量社会学	2	永吉 希久子	6	金	2	19

心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
実験心理学概論(心理学概論)	心理学概論	2	阿部 恒之	3	水	2	1
実験心理学概論(心理学概論)	心理学概論	2	坂井 信之	4	月	3	2
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	辻本 昌弘	3	月	4	3
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	荒井 崇史	4	金	3	4
心理学実験	心理学基礎実験	2	坂井 信之・行場 次朗・ 阿部 恒之・辻本 昌弘・ 荒井 崇史	3	火	3、4	5
心理学研究法	心理学研究法	2	坂井 信之・行場 次朗・ 阿部 恒之・辻本 昌弘・ 荒井 崇史	4	火	3、4	6
心理学各論	態度の心理学	2	今城 周造	集中(6)			7
実験心理学各論(知覚・認知心理学)	知覚・認知心理学	2	行場 次朗	6	月	5	8
実験心理学各論(感情・人格心理学)	感情・人格心理学	2	阿部 恒之	5	水	1	9
実験心理学各論(神経・生理心理学)	神経・生理心理学	2	坂井 信之	6	水	3	10
実験心理学各論(心理学統計法)	心理調査概論	2	倉元 直樹	5	月	2	11
社会心理学各論(文化心理学)	文化心理学	2	辻本 昌弘	6	金	2	12
社会心理学各論(司法・犯罪心理学)	司法・犯罪心理学	2	荒井 崇史	5	金	3	13
実験心理学演習Ⅱ	感情の心理と生理	2	阿部 恒之	6	水	1	14
実験心理学演習Ⅲ	応用心理学(行動経済学)の文献研究	2	坂井 信之	5	水	3	15
実験心理学演習Ⅳ	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	6	月	2	16
社会心理学演習Ⅰ	犯罪・非行と心理学	2	荒井 崇史	6	木	2	17

心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
社会心理学演習Ⅱ	コミュニティと社会行動	2	辻本 昌弘	5	木	2	18
心理学特殊実験Ⅰ	心理学特殊実験Ⅰ	2	辻本 昌弘・行場 次朗・ 阿部 恒之・坂井 信之・ 荒井 崇史	5	火	3、4	19
心理学特殊実験Ⅱ	心理学特殊実験Ⅱ	2	辻本 昌弘・行場 次朗・ 阿部 恒之・坂井 信之・ 荒井 崇史	6	火	3、4	20

文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
文化人類学概論	アメリカ人類学における 文化進化主義(1)	2	沼崎 一郎	3	火	4	1
文化人類学概論	アメリカ人類学における 文化進化主義(2)	2	沼崎 一郎	4	火	4	2
文化人類学基礎講読	ジェンダー人類学入門	2	沼崎 一郎	3	火	2	3
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	川口 幸大	4	火	3	4
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	月	4	5
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	4	月	4	6
文化人類学各論	災害人類学	2	ボレー・ベンメレン・セバスチャン	6	金	3	7
文化人類学各論	博物館人類学	2	伊藤 敦規	集中(5)			8
文化人類学各論	ヨーロッパ人類学の現在	2	松前 もゆる	集中(6)			9
文化人類学演習	比較文化研究法	2	沼崎 一郎	5	火	3	10
文化人類学演習	文化人類学研究計画 法	2	沼崎 一郎	6	火	3	11
文化人類学演習	Native American Literature	2	トニー・マガグナ	6	木	2	12
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	5	水	3、4	13
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	6	水	3、4	14

宗教学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
宗教学概論	宗教の諸理論	2	山田 仁史	3	木	1	1
宗教学概論	宗教と現代社会	2	木村 敏明	4	木	1	2
宗教学基礎講読	宗教学の基礎理論	2	木村 敏明	3	金	3	3
宗教学基礎講読	ウェスターマルク再読	2	山田 仁史	4	金	3	4
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	3	金	5	5
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	4	金	5	6
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	3	月	4、5	7
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	4	月	4、5	8
宗教学各論	宗教と心理	2	高橋 原	5	水	3	9
宗教学各論	自然災害と宗教	2	木村 敏明	5	金	2	10
宗教学各論	宗教社会学概論	2	三木 英	集中(5)			11
宗教人類学各論	聖俗・性食論	2	山田 仁史	6	火	1	12
宗教学講読	A Study of Medical Folklore	2	アンドリュース デール	5	火	4	13
宗教学講読	A Study of Medical Folklore	2	アンドリュース デール	6	火	4	14
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	5	金	5	15
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	6	金	5	16
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史. 高倉 浩樹	5	月	4、5	17

宗教学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史. 高倉 浩樹	6	月	4、5	18

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
人文社会科学総合	臨床宗教師とスピリ チュアルケア	2	谷山 洋三	4	月	2	41
人文社会科学総合	死から生を考える臨床 死生学:人間の死とは何 か？	2	大村 哲夫	3	月	3	42
人文社会科学総合	悲嘆学試論	2	大村 哲夫	4	月	3	43
人文社会科学総合	よりよい研究のための 倫理	2	原 塑	3	月	4	44
人文社会科学総合	近代日本の歴史	2	クレイグ クリストファー	3	火	2	45
人文社会科学総合	日本文化と社会	2	クレイグ クリストファー	4	火	2	46
人文社会科学総合	宗教、スピリチュアリ ティ、心理療法	2	高橋 原	4	水	3	47
人文社会科学総合	研究と実践の倫理	2	行場 次朗. 戸島 貴代志. 阿部 恒之. 木村 邦博. 坂井 信之. 辻本 昌弘. 小林 隆. 小泉 政利	4	水	5	48
人文社会科学総合	死生学と宗教文化	2	高橋 原. 大村 哲夫	3	木	5	49
人文社会科学総合	実践宗教学試論～宗 教者によるケア実践	2	高橋 原. 木村 敏明. 谷山 洋三	4	木	5	50

専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
博物館概論	博物館概論	2	岡部 幹彦	集中(5)			1
博物館経営論	博物館経営論	2	高橋 修	集中(5)			2
博物館資料論	博物館資料・標本の特性	2	藤澤 敦	6	金	1	3
博物館資料保存論	博物館資料保存の方法と実務	2	水澤 教子	集中(5)			4
博物館展示論	博物館展示の理論と実践	2	水澤 教子	集中(6)			6
博物館情報・メディア論	博物館情報の現在	2	皿井 舞	集中(5)			8
博物館実習Ⅱ	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	5	金	4、5	9
博物館実習Ⅲ	博物館学資料分析法	2	阿子島 香	6	水	3、4	10
博物館実習Ⅳ	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	5	火	3、4	11
博物館実習Ⅴ	西洋美術史の基礎知識と調査入門	2	尾崎 彰宏	5	火	3、4	12
博物館実習Ⅵ	館園実習	1	藤澤 敦	集中(5)			13
地理学B	都市地理学からみた仙台	2	村山 良之	5	木	3	14
地誌学	都市社会の諸相・諸課題	2	小田 隆史	6	木	2	15
キリスト教史	世界の中のキリスト教	2	木村 敏明	6	水	2	16
書道	書表現の基礎(一) (漢字)	2	下田 真奈美	5	木	4	17
書道	書表現の基礎(二) (かな)	2	下田 真奈美	6	木	4	18
日本語・日本文化論講読	古典講読Ⅰ	2	高橋 章則	5	月	2	19

専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語・日本文化論講読	古典講読Ⅱ	2	高橋 章則	6	月	2	20
日本語・日本文化論講読	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	5	火	4	21
日本語・日本文化論講読	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	6	火	4	22
日本語・日本文化論講読	現代評論講読Ⅰ	2	高橋 章則	5	水	2	23
日本語・日本文化論講読	現代評論講読Ⅱ	2	高橋 章則	6	水	2	24
日本語表現論	日本語表現論Ⅱ	2	高橋 章則	6	水	1	25
日本語表現論	日本語表現論Ⅰ	2	高橋 章則	5	木	2	26

教職科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国語科教育論Ⅰ	国語科教育論Ⅰ	4	相澤 秀夫	通年	水	1	1
英語科教育論Ⅰ	英語科授業の基礎・基本	4	リース エイドリアン	通年	月	3	2
ドイツ語科教育法Ⅰ	多読によるドイツ語の習得	2	菊池 克己	5	火	4	3
ドイツ語科教育法Ⅱ	ドイツ語文献講読を通してドイツ語教授法を考える	2	松崎 裕人	6	木	3	4
フランス語科教育法Ⅰ	Du savoir-faire au savoir-être	2	メヴェル・ヤン	5	月	2	5
フランス語科教育法Ⅱ	Du savoir-faire au savoir-être	2	メヴェル・ヤン	6	月	2	6
地理歴史科教育法Ⅰ	高等学校の地理授業の設計と実践	2	初澤 敏生	6	木	1	7
地理歴史科教育法Ⅱ	高等学校の歴史授業の設計と実践	2	菊池 茂樹	5	木	1	8
宗教科教育法Ⅲ	岡正雄の日本宗教論 (1)	2	山田 仁史	5	金	1	9
宗教科教育法Ⅳ	岡正雄の日本宗教論 (2)	2	山田 仁史	6	金	1	10

海外研修科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
基礎海外研修Ⅰ	基礎海外研修Ⅰ	3	文学部学務教育室長	通年			1
基礎海外研修Ⅱ	基礎海外研修Ⅱ	6	文学部学務教育室長	通年			2
発展海外研修Ⅰ	発展海外研修Ⅰ	3	文学部学務教育室長	通年			3
発展海外研修Ⅱ	発展海外研修Ⅱ	6	文学部学務教育室長	通年			4

職業関連科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
キャリアデザイン講座	キャリア・イメージを作る	2	文学部入試就職室長	4	木	3	1
インターンシップ	インターンシップ(就業・ボランティア体験)	2	桜井 宗信	通年			3

人文社会科学開講科目 シラバス

国文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国文学概論	日本近代文芸の諸問題	2	佐藤 伸宏	3	金	3	1
国文学概論	日本古典文芸の世界	2	佐倉 由泰	4	金	3	2
国文学基礎講読	『徒然草』を読む	2	佐倉 由泰	3	金	2	3
国文学基礎講読	『成尋阿闍梨母集』を読む	2	横溝 博	4	金	2	4
国文学各論	『住吉物語』の展開と享受	2	横溝 博	5	月	2	5
国文学各論	『我身にたどる姫君』を読む	2	横溝 博	6	月	2	6
国文学各論	〈接続する〉文芸学	2	中村 三春	集中(5)			7
日本文芸形成論各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	5	火	2	8
日本文芸形成論各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	6	火	2	9
国文学演習	『落窪物語』の研究	2	横溝 博	5	月	5	10
国文学演習	『落窪物語』の研究	2	横溝 博	6	月	5	12
国文学演習	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	5	水	2	14
国文学演習	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	6	水	2	15
国文学演習	説話文学の研究	2	佐倉 由泰	5	木	2	16
国文学演習	説話文学の研究	2	佐倉 由泰	6	木	2	17

科目名：国文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LB35301, **科目ナンバリング：**LHM-LIT201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本近代文芸の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Literature (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：

本講義では、日本の近代文芸について、とくに明治期の文芸作品を中心的に取り上げて具体的な分析を行うとともに、作品内に折り込まれている多様なトピックスを取り出すことをとおして、日本近代文芸の特質、その固有の問題等について講述する。

毎回の授業の終わりに、講義内容に関する質問や意見を提出してもらい、その回答や補足の説明を行いながら、授業を進めていく。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本の近代文芸について、背景としての時代状況を視野に入れながら具体的な作品の分析を行うことをとおして、その多様な特質および近代文学史に関する理解を深める。

(2) 文芸作品の読解の基本的な方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質問への応答、補足説明等によって、下記の予定通りに進まないことがあり得る】

1. 日本近代文芸の成立
2. 坪内逍遙『小説神髓』における近代小説の理念
3. 二葉亭四迷『浮雲』の諸問題
4. 小説の近代化をめぐる
5. 樋口一葉「十三夜」を読む
6. 立身出世のイデオロギーと文学
7. 「女大学」と日本近代文学
8. 下層社会と日本近代文学
9. 日本近代文学における女性
10. 田山花袋「少女病」を読む
11. 日本近代文学における〈時間〉
12. 日本近代文学におけるロマン主義と自然主義
13. 日本近代文学における〈山の手〉〈下町〉というトポス
14. 近代日本における外国文学の受容に関する諸問題
15. まとめ

6. 成績評価方法：

学期末レポート・出席等（各 50%）を一応の目安とするが、総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については、教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品について、事前に熟読、精読しておく。

9. その他：

本講義は第 4 セメスターも連続して履修すること。

科目名：国文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB45301, **科目ナンバリング：**LHM-LIT201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本古典文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：

Study on Japanese Classical Literature

3. 授業の目的と概要：

日本の古典文芸について、具体的な作品、表現を考察し、それぞれの特徴を明らかにするとともに、その文学史上の意味、文化史上の意味を捉えて行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本の古典文芸について、具体的な作品の分析を通して、その多様な特質と史的展開に関する理解を深める。
- (2) 文芸作品の読解の基礎的な方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 はじめに—『おくのほそ道』と平安時代の和歌—
- 2 歌枕の形成
- 3 数寄ということ
- 4 白河の関をめぐる和歌、物語
- 5 安積山、黒塚をめぐる和歌、物語
- 6 信夫をめぐる和歌、物語
- 7 岩沼、名取をめぐる和歌、物語
- 8 宮城野、多賀城をめぐる和歌、物語
- 9 塩釜・松島をめぐる和歌・物語
- 10 平泉をめぐる和歌・物語
- 11 まとめ

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート〔50%〕と、小レポート〔50%〕をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本講義は、第3セメスターから連続して履修すること。

科目名：国文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『徒然草』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Study on “Essays in Idleness (徒然草 Tsurezuregusa)”

3. 授業の目的と概要：

『徒然草』の表現を考察する。

文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということを、調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。

4. 学習の到達目標：

- (1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
- (2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
- (3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
- (4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかにたいせつかということを考察の実践を通して理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める。

- 1 『徒然草』を読むにあたって（第1回～第2回）
- 2 変体仮名を読むために（第3回）
- 3 考察発表とそれにもとづく意見交換（第4回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：小川剛生訳注『徒然草』（角川ソフィア文庫）

かな研究会編『実用変体がな』（新典社）

参考書：小川剛生『兼好法師』（中公新書）をはじめ、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。

9. その他：

科目名：国文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：横溝 博 (准教授)

講義コード：LB45202, **科目ナンバリング：**LHM-LIT212J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『成尋阿闍梨母集』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read "Jojin Ajari haha no shu" (A collection of poems by mother of Jojin Ajari)

3. 授業の目的と概要：

『成尋阿闍梨母集』について輪読と発表を繰り返し行う中で、古典作品の本文の立て方や注釈の付け方、考察の方法等について、実践的に学ぶことを目的とする。また古典作品の鑑賞について学習することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『成尋阿闍梨母集』を素材に、

(1) 変体仮名の読解と翻刻、校訂本文の作成、注釈など、古典文学研究のための基本的な作業・所作について、実践的に学ぶ。

(2) 和歌や日記をはじめとする古典文学についての理解を深めるとともに、古典文学を読み進めるために必要な文献など、情報収集の手段や方法についても知識を得、その活用の仕方についても学ぶ。

以上を学習の到達目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業内容の説明、各回の発表者の決定。
2. 日記文学及び『成尋阿闍梨母集』についての講義。変体仮名の読解練習。
3. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
4. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
5. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
6. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
7. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
8. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
9. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
10. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
11. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
12. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
13. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
14. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
15. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポートの内容 [50%]、授業への参加の度合い (出席・質疑応答) [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書：平林文雄編著『校本成尋阿闍梨母集』(笠間書院、1977 年。授業では Kindle 版、オンデマンド版を用いる)。『実用変体がな』(新典社)。

参考書：変体仮名の読解練習に用いる影印についてはプリントで配布する。その他、教場で指示する。

8. 授業時間外学習：

事前に配布される発表資料に目を通し、質問事項を予め用意しておくこと。授業で扱う範囲外の部分についても、自学自習の上、作品内容の把握に努めること。また変体仮名のアプリを使う (遊ぶ) など、日常的に変体仮名の世界に触れること。

9. その他：

『成尋阿闍梨母集』は、子を思う母の心情が纏綿と綴られた、哀切極まりない作品です。現代でも十分に読む価値があります。この作品の全体を俯瞰するために、限られた回数でもあることから、数場面をピックアップして読み進めます。

科目名：国文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『住吉物語』の展開と享受

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Sumiyoshi monogatari (The Tale of Sumiyoshi)"

3. 授業の目的と概要：

『住吉物語』を読んで『住吉物語』の展開と享受について考える。日本古典文学の代表的な作品であり、継子物語の典型でもある『住吉物語』は、成立以後、様々に改作され、命脈を保ってきたきわめて得意な作品である。おそらくその本文のヴァリエーションは、日本古典文学に比類ないほど、多種多様である。具体的には、主として流布本によって読み進めるが、同時に多種多様な伝本、奈良絵本・絵巻などの絵画化されたテキストをも参照しつつ、文芸作品としての『住吉物語』の特質について考察する。また、『源氏物語』をはじめとする物語への影響をも視野に入れながら、日本文学史における『住吉物語』の文化的意義についても考えたい。授業では『住吉物語』テキストの読解を試みるだけではなく、『住吉物語』という作品が何故に全時代にわたってかくも影響力を持ち得たのか、『住吉物語』をめぐる日本文化の解明をも目指す。

4. 学習の到達目標：

『住吉物語』を読み解き、その物語世界に触れることで、(1)古物語の表現の様式と特質について学び、(2)物語文学の改作および享受の問題について広く理解することを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『住吉物語』の成立と展開。テキストおよび参考文献の紹介。
2. 『住吉物語』を読む (1)
3. 『住吉物語』を読む (2)
4. 『住吉物語』を読む (3)
5. 『住吉物語』を読む (4)
6. 『住吉物語』を読む (5)
7. 『住吉物語』を読む (6)
8. 『住吉物語』を読む (7)
9. 『住吉物語』を読む (8)
10. 『住吉物語』を読む (9)
11. 『住吉物語』を読む (10)
12. 『住吉物語』を読む (11)
13. 『住吉物語』を読む (12)
14. 『住吉物語』を読む (13)
15. 『住吉物語』を読む (14) まとめ

6. 成績評価方法：

レポートの内容 [50%]、授業への出席 [50%]。毎時間記入して提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

7. 教科書および参考書：

テキストとして吉海直人編『住吉物語』(和泉書院、1998 年)を用いるので購入すること。その他、参考文献等は随時紹介する。以下は主要なものである(基本的にすべてのテキストに目配りする)。

〔翻刻〕『鎌倉時代物語集成 第四巻』(市古貞次・三角洋一編、笠間書院、1991 年)

〔訳注〕中世王朝物語全集『雲ににごる 住吉物語』(室城秀之・桑原博史校注訳、笠間書院、1995 年)

新日本古典文学大系『落窪物語 住吉物語』(藤井貞和・稲賀敬二校注、岩波書店、オンデマンド版、2017 年)

新編日本古典文学全集『住吉物語 とりかへばや物語』(三角洋一・石埜敬子校訂・訳注、小学館、2002 年)

8. 授業時間外学習：

既に配布された資料であっても毎時間用意すること。『住吉物語』以外の継子物語についても、学習の範囲を広げて取り組むこと。また『住吉物語絵巻』を始め、奈良絵本・絵巻など、絵画された『住吉物語』についても目配りすること。

9. その他：

『住吉物語』は『源氏物語』とは別な意味で、日本古典文学の代表的な作品です。これを知らずして、日本の古典文学は理解できないといってよいでしょう。

なお、この授業は国文学演習・特論の内容と有機的な連関がありますので、三年生はそのつもりで受講してください。但し、二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講可能です。

科目名：国文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：横溝 博 (准教授)

講義コード：LB61201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『我身にたどる姫君』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read "Wagami-ni-Tadoru-Himegimi" in the Original

3. 授業の目的と概要：

「中世王朝物語」と呼ばれる平安末・鎌倉～室町時代にかけて作られた王朝物語の主要な作品の一つに、『我身にたどる姫君』がある。全八巻、帝にして7代・45年に及ぶ大作であり、後嵯峨院の文永八年(1271)には前半四巻は成立していたと思われる。『源氏物語』『狭衣物語』の批判的継承が顕著であり、「我身にたどる姫君」を主人公とする大河物語であるが、様々に登場しては移り変わっていく女性群像の中でも、賢明な女帝とその妹である好色の前斎宮は出色であり、女帝の没後、兜率天に登った女帝と近習女房らが歌会を開催するなど、奇想天外な場面設定も見どころの一つである。女性中心の色彩が強い上に、天上界と地上界を対比させた世界構想など、壮大なプロットが組み込まれていて、じつに興味深い作品である。この授業では、とくに第六巻を取り上げて精読する。おそらく平安から中世の数ある王朝物語の中でも、『我身にたどる姫君』の第六巻は、もっとも奇抜で、しかも愛すべきテキストである。斎宮を退いて京都に戻ってきた斎宮は、第五巻で理想的な御代を実現した女帝の妹であった——。女帝没後の世界を描く第七巻へのつながりの中で、第六巻は「並びの巻」という位置において、奇矯な前斎宮の物語を、女帝の裏物語とともに自在に語っていく。ここでは女帝はむしろ後背に退いている。禁忌の世界から都世界への帰還を果たした前斎宮は、男性女性構わず、好色の虜となって、周囲の女房たちを巻き込んでドタバタ劇を演じる。とくに前斎宮の同性愛の場面は、表現も相まって目を見張るものがある。かくも奇矯な前斎宮であるが、じつに愛くるしい人物であり、潔癖な姉女帝と好対照をなす。前斎宮の性愛が禁忌的にではなく、純真素朴に描かれている点が好ましく、他に例を見ない意欲作(異色作)である。授業では本テキストを読み味わい、楽しむことで、前斎宮の登場の意義と、『我身にたどる姫君』というテキストの目論見が何であるのか、その世界観の解明をも目指す。

4. 学習の到達目標：

『我身にたどる姫君』を主要なテキストとして読み解いていくことで、(1)『我身にたどる姫君』に固有の物語世界を明らかにし、(2)中世王朝物語への理解を深めること、を目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。『我身にたどる姫君』についての概説講義(物語史の展開。時代背景)。参考文献の紹介。
2. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(1)「前斎宮の登場、不埒な邸内」
3. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(2)「前斎宮と兵衛佐」
4. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(3)「前斎宮と女帝①」
5. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(4)「前斎宮の狂態と騒動」
6. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(5)「前斎宮と女帝②」
7. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(6)「前斎宮、悪夢を見る、呪詛騒ぎ」
8. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(7)「前斎宮、ご乱行」
9. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(8)「女帝の才覚」
10. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(9)「女帝と近習女房たち」
11. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(10)「女帝の漢籍の才」
12. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(11)「女帝、前斎宮を気遣う」
13. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(12)「女帝、死期迫り、近習女房たちに遺言」
14. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(13)「前斎宮の女房たちのその後」
15. 『我身にたどる姫君』巻六を読む(14)「女帝と近習女房、兜率天で歌会を催す」

6. 成績評価方法：

レポートの内容[50%]、授業への出席[50%]。毎時間記入して提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

7. 教科書および参考書：

基本的には教場で配布するプリントによる。その他、参考文献等は随時紹介する。以下は主要なものである。

〔翻刻〕『鎌倉時代物語集成 第七巻』(市古貞次・三角洋一編、笠間書院、1994年)

〔注釈〕『我身にたどる姫君物語全註解』(徳満澄雄、有精堂、1980年)

〔全訳〕『我身にたどる姫君』七冊(今井源衛・春秋会、桜楓社、1983年)

『我が身にたどる姫君 上下』(大槻修・大槻福子・片岡利博 校訂・訳注、2009～2010年)

8. 授業時間外学習：

既に配布された資料であっても毎時間用意すること。巻六以外の内容的に関連する物語について、各自で内容を確認してあらすじを補っておくことが望ましい。

9. その他：

二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。

科目名：国文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：中村 三春（非常勤講師）

講義コード：LB98803, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

〈接続する〉文芸学

2. Course Title (授業題目)：

Literary Theory for Connecting

3. 授業の目的と概要：

文芸テキストは係争する主体の葛藤の場であり、物語の語りは生成すると同時に媒介する。虚構・主体・語りの観点から〈接続する〉文芸学のあり方を概説し、原民喜から小川洋子に至る現代の文芸を例に採ってその諸様相を検証する。

4. 学習の到達目標：

現代文芸研究の方法論と、現代文芸の作品に関する基礎知識を習得し、授業内容について感想レポートを執筆するとともに、任意の文芸テキストについて水準の高い最終レポートを作成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

・授業はプリントを配付し、パワーポイントのスライドを利用した講義形式で進める。

序説 〈接続する〉文芸学の理論（第1回～第3回）

（虚構の理論と根元的虚構論—係争中の主体—接続と語りの理論）

本論

- 1 原民喜と表象の可能性と不可能性 「鎮魂歌」など（第4回～第5回）
- 2 森敦の〈わたし〉と小説の構造 『われ逝くものごとく』など（第6回～第7回）
- 3 谷川俊太郎と言葉の沈黙と構成 『六十二のソネット』『定義』など（第8回～第9回）
- 4 村上春樹と〈接続する〉物語 『1Q84』『騎士団長殺し』など（第10回～第12回）
- 5 小川洋子と監禁の終わるとき 『猫を抱いて象と泳ぐ』『琥珀のまたたき』など（第13回～第15回）

6. 成績評価方法：

感想レポート（30%）および最終レポート（70%）によって評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリント資料（テキスト、スライド）を配付する。

参考書は以下の外、教室で紹介する。

中村三春『フィクションの機構』（1994、ひつじ書房）

中村三春『フィクションの機構2』（2015、ひつじ書房）

中村三春『係争中の主体 漱石・太宰・賢治』（2006、翰林書房）

中村三春『花のフラクタル 20世紀日本前衛小説研究』（2012、翰林書房）

8. 授業時間外学習：

【予習】授業で取り上げる作家の作品を読んでおくこと。

【復習】作品を授業内容に照らして読み直し、理解を完全なものとするとともに、質問を感想レポートとして執筆し提出すること。

9. その他：

ホームページ

<http://projectm.s500.xrea.com/>

Twitter

@miharu_office

科目名：日本文芸形成論各論／ Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰 (教授)

講義コード：LB52201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。

毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい (これを「小レポート」と呼ぶ)、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める (同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む)。

- 1 『平家物語』の特質と概要
- 2 『平家物語』の成立と諸本
- 3 巻第一「祇園精舎」
- 4 『平家物語』における平忠盛
- 5 平清盛による「栄花」
- 6 巻第一「祇王」
- 7 巻第一「殿下乗合」
- 8 『平家物語』の「きかいが島」の記述
- 9 『平家物語』における平重盛
- 10 巻第四「橋合戦」
- 11 『平家物語』の福原遷都の記述
- 12 『平家物語』における平清盛

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート [60%] と、小レポート [40%] をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本講義 (『平家物語』の研究) は、第6セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文芸形成論各論／ Study of Formation of Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB62201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。

毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 『平家物語』における源頼朝と源義仲
- 2 『平家物語』における平家の人々の出京
- 3 『平家物語』の法住寺合戦の記述
- 4 巻第九「宇治川の先陣」
- 5 巻第九「木曾の最期」
- 6 『平家物語』の一の谷合戦の記述
- 7 『平家物語』における平重衡
- 8 『平家物語』における平維盛
- 9 『平家物語』の屋島合戦の記述
- 10 巻第十一「那須与一」
- 11 『平家物語』の壇の浦合戦の記述
- 12 『平家物語』における平宗盛
- 13 『平家物語』における建礼門院徳子
- 14 『平家物語』における源行家

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート〔60%〕と、小レポート〔40%〕をもとに評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本講義（『平家物語』の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LB51503, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『落窪物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Ochikubo monogatari" (The Tale of Ochikubo)

3. 授業の目的と概要：

『落窪物語』（巻一・二）を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と、本編となる【考察】をレジュメにまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察や論点をブラッシュアップしていくことで、『落窪物語』への理解を深め、読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『落窪物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（授業内容の説明、発表者及びローテーション決定）
2. 講義（『落窪物語』について、「継子物語」について）
3. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
12. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答

- (3) まとめ
- 13. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 14. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 15. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（出席と質疑応答の積極性）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

手持ちの共通テキストとして岩波文庫 藤井貞和校注『落窪物語』を用いるので購入すること。また文庫本では角川ソフィア文庫 室城秀之訳注『新版 落窪物語 上下』があり、Kindle 版でも購入可能。その他、参考文献は授業内で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

『落窪物語』そのものについて、自分なりに興味を持って読み進める。複数の注釈テキストを読み比べる。写本の影印も見たい。また他の継子物語や現代における『落窪物語』の受容（ライトノベル、コミックなども含む）についても目配りしたい。毎回の輪読箇所が決まっている上、発表資料（レジュメ）が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲の本文と資料を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：

本演習は、第 6 セメスターも連続して履修すること。物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LB61504, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『落窪物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Ochikubo monogatari" (The Tale of Ochikubo)

3. 授業の目的と概要：

『落窪物語』（巻三・四）を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と、本編となる【考察】をレジュメにまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察や論点をブラッシュアップしていくことで、『落窪物語』への理解を深め、読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『落窪物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 貴族社会の構造や有職故実、時代の風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
2. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
3. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 巻四の輪読

- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 12. 巻四の輪読
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 13. 巻四の輪読
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 14. 自由発表
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 15. 自由発表
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（出席と質疑応答の積極性）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

手持ちの共通テキストとして岩波文庫 藤井貞和校注『落窪物語』を用いるので購入すること。また文庫本では角川ソフィア文庫 室城秀之訳注『新版 落窪物語 上下』があり、Kindle 版でも購入可能。その他、参考文献は授業内で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

『落窪物語』そのものについて、自分なりに興味を持って読み進める。複数の注釈テキストを読み比べる。写本の影印も見たい。また他の継子物語や現代における『落窪物語』の受容（現代語訳、ライトノベル、コミックなども含む）についても目配りしたい。毎回の輪読箇所が決まっている上、発表資料（レジュメ）が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲の本文と資料を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：

本演習は、第 5 セメスターから連続して履修すること。物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LB53203, **科目ナンバリング：**LHM-LIT317J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明治前期の文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on the Japanese literature of the Meiji era

3. 授業の目的と概要：

日本近代文学の成立期である明治時代は、西洋文学の影響を受けながら、新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その明治時代の、とくに前半期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として明治 20 年代の小説等を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 明治前期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：明治という時代
- 2) 明治文学史
- 3) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 4) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 5) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 6) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 7) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 8) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 9) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 10) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 11) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 12) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 13) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 14) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 15) 前期のまとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく

9. その他：

本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

明治前期の文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on the Japanese literature of the Meiji era

3. 授業の目的と概要：

日本近代文学の成立期である明治時代は、西洋文学の影響を受けながら、新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その明治時代の、とくに前半期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として明治 30 年代の小説等を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 明治前期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：明治 30 年代という時代
- 2) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 3) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 4) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 5) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 6) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 7) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 8) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 9) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 10) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 11) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 12) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 13) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 14) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 15) 後期のまとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく

9. その他：

本演習は第 5 セメスターから連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB54204, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

説話文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Setsuwa

3. 授業の目的と概要：

文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、説話文学の考察の実践を通して理解して行く。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

説話文学についての解説（第1回～第5回）

考察発表とそれにもとづく意見交換（第6回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない。

参考書：授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本演習（説話文学の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：国文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB64203, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

説話文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Setsuwa

3. 授業の目的と概要：

文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、説話文学の考察の実践を通して理解して行く。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

考察発表とそれにもとづく意見交換（第1回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない。

参考書：授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本演習（説話文学の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本思想史概論	日本から再び思想史する	2	片岡 龍	4	火	2	1
日本思想史概論	「日本思想史」の課題と方法	2	佐藤 弘夫	3	金	1	2
日本思想史基礎講読	近代史料を読む	2	岡安 儀之	4	金	2	3
日本思想史基礎講読	古代・中世資料を読む	2	佐藤 弘夫	3	金	3	4
日本思想史各論	日本思想を再発明する	2	片岡 龍	5	火	4	5
日本思想史各論	変容する死後世界の光景ー日本列島の死生観	2	佐藤 弘夫	6	金	1	6
日本思想史各論	新聞メディアから見た明治前期思想	2	岡安 儀之	5	金	2	7
日本思想史各論	戦後日本思想史再考	2	宇野田 尚哉	集中(6)			8
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	佐藤 弘夫. 片岡 龍	5	水	3	9
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	佐藤 弘夫. 片岡 龍	6	水	3	10

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：片岡 龍 (准教授)

講義コード：LB42201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本から再び思想史する

2. Course Title (授業題目)：

Re-doing shisoshi from Japan

3. 授業の目的と概要：

日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かを考え直すテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. 学習の到達目標：

本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する知識と関心を深めることを期待する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：思想史と3.11後の生き方

第2回：丸山眞男と日本思想史

第3回：加藤周一と日本文化論

第4回：小林秀雄とハンナ・アレントの「考える」こと

第5回：「ウーマンリブ」・ジェンダー論から見直す思想史

第6回：沖縄から見直す思想史

第7回：東北から見直す思想史

第8回：アジアとの「和解」から見直す思想史

第9回：折口信夫『死者の書』を思想史する

第10回：柳田國男『先祖の話』を思想史する

第11回：「天皇・皇后」を思想史する

第12回：「公共・和」を思想史する

第13回：「いのち」と「霊性」の思想史

第14回：「ひと」と「天道」の思想史

第15回：「まこと」と「実学」の思想史

6. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

7. 教科書および参考書：

『日本思想史ハンドブック』（荻部直・片岡龍編、新書館）

『東アジアの共通善』（邊英浩編、岡山大学出版会）

8. 授業時間外学習：

小レポート（2～3回）の準備を中心に、教科書および参考書の指定箇所を学習する。

9. その他：

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫（教授）

講義コード：LB35101, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「日本思想史」の課題と方法

2. Course Title (授業題目)：

What is history of Japanese thought?

3. 授業の目的と概要：

毎回、日本思想史に関わる多様なテーマを取り上げ、資料に即した具体的な考察を行うことによって、日本思想史という学問の性格と特色について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

日本思想史という学問の持つさまざまな顔とその魅力を知る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 日本思想史への招待ー仙台と川内の原風景を探る
2. 青葉山「蒙古の碑」を読み解く
3. 起請文の宇宙ー中世文書に世界観を読む
4. 慈覚大師の足跡
5. 日本人と山ー日本文化論を見直す
6. 妖怪たちの住むところ
7. ゆるキャラの逆襲ー成仏する草木
8. 日本人と神
9. 死者の花嫁
10. 天皇制はなぜ続いたか
11. 美人女房落魄伝説ー才女が落ちぶれる話
12. 即身仏の寺ーミイラの精神史
13. 幽霊の発生
14. 神仏習合論再考
15. 仏の消えた浄土

6. 成績評価方法：

レポート 80% 出席 20%

7. 教科書および参考書：

参考書は毎回紹介する。スライドとプリントを使用する。

8. 授業時間外学習：

毎回、次週までの課題を指示する。

9. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LB45203, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近代史料を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading historical materials of modern period

3. 授業の目的と概要：

明治期の思想家が著した文献資料（新聞や雑誌など）を輪読形式で精読する。また、その文献が有する思想史的・同時代的意義についても検討する。

文献例：『明六雑誌』、『共存雑誌』、『東京日日新聞』、『日新真事誌』など。

4. 学習の到達目標：

日本思想史研究に用いる史料・文献を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) オリエンテーション

2) 報告と質疑応答

3) 報告と質疑応答

4) 報告と質疑応答

5) 報告と質疑応答

6) 報告と質疑応答

7) 報告と質疑応答

8) 報告と質疑応答

9) 報告と質疑応答

10) 報告と質疑応答

11) 報告と質疑応答

12) 報告と質疑応答

13) 報告と質疑応答

14) 報告と質疑応答

15) 報告と質疑応答

6. 成績評価方法：

平常点（報告内容・質疑応答への積極的参加の有無）[70%]

出席点 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

9. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫（教授）

講義コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代・中世資料を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading historical materials of ancient and medieval period

3. 授業の目的と概要：

佐藤弘夫著『死者のゆくえ』（岩田書院、2008 年）に引用された史料を、引用元となるテキストから探し出して精読する。日本思想史研究において、どのような史料が用いられるかを知るとともに、学術論文の組み立て方を学ぶ。初心者でも受講可。

4. 学習の到達目標：

日本思想史で用いる史料になじむとともに、できるだけ正確に読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. ～15. 古代・中世日本思想史関係資料購読

6. 成績評価方法：

平常点 60% レポート 40%

7. 教科書および参考書：

プリントを使用する

8. 授業時間外学習：

毎回授業の際に指示する

9. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：片岡 龍 (准教授)

講義コード：LB52401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本思想を再発明する

2. Course Title (授業題目)：

Re-inventing Japanese thought

3. 授業の目的と概要：

説話・オーラルヒストリー・探検という観点から、「人類」・「歴史」・「文明」概念の再構築を試みた研究（A 杉山和也『南方熊楠と説話学』、B 保荊実『ラディカル・オーラルヒストリー』、C 梅棹忠夫『日本探検』）を参考にした発表をもとに、討論をととして日本思想史の方法論的自覚を促す。

4. 学習の到達目標：

思想史における「経験」の意義の理解を共有し、共時的・地域学観点からの日本思想史の技法を検討する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・討論形式で進めます。

第1回：ガイダンス

第2回：A 南方熊楠と説話学

第3回：A 南方説話学から見た日本思想史の可能性

第4回：B オーストラリア先住民における「歴史実践」

第5回：B オーストラリア先住民における「歴史経験」

第6回：B 日本思想史における「歴史実践」の可能性

第7回：B 日本思想史における「歴史経験」の可能性

第8回：C 日本文明と教育（福山誠之館）

第9回：C 日本文明と宗教（大本教）

第10回：C 日本文明と開発（北海道独立論）

第11回：C 日本文明と自然（高崎山）

第12回：C 日本文明と交通（名神高速道路）

第13回：C 日本文明と二重構造（出雲大社）

第14回：C 「文明論的探検」から見た日本思想史の可能性

第15回：A B C 日本思想史における地域学の可能性

定期試験：なし

6. 成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：授業中に適宜資料を配付します。

参考書：『ヨーロッパの昔話』（マックス・リュティ、岩波文庫）、『歴史の方法について』（小谷汪之、東京大学出版会）、『近代世界における日本文明』（梅棹忠夫、中央公論新社）

8. 授業時間外学習：

担当する発表準備を中心に、各回ごとの教科書・参考書の指定箇所等を併せて学習する。

9. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫（教授）

講義コード：LB65101, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

変容する死後世界の光景—日本列島の死生観

2. Course Title (授業題目)：

Changing Concept of the World after Death in Japan

3. 授業の目的と概要：

死は人類にとって最重要の課題であり、日本列島についても各分野で膨大な研究が蓄積されてきた。しかし、従来の研究においては、一つの時代を超えた視点や列島以外の地域に向けられた眼差しはほとんどなかった。私たちはいまだに古代から現代に至る、列島の死後世界の全体的なイメージを共有できないでいるのである。

今年度の授業では、そうした現状を踏まえ、1、日本列島における死後世界の表象とその変遷を通時代的・総体的・立体的に解明し、その成果を国際的に通用するフォーマット化して世界に発信可能にすること、2、その技法を他地域にまで適用可能な「方法」として練磨することによって、国際的な比較研究の可能性を追求すること、3、広いコンテキストの中に現在の死生観や葬送儀礼の変動を位置付け、その意味を読み解くことによって、ターミナルケアや看取りなどに関わる今日的課題に対して具体的な提言を行うこと、の3点を基本目的とする。

4. 学習の到達目標：

日本列島の死生観と死後世界のイメージが時代によって大きく変化していることを理解するとともに、その変動の先にある現代社会が、死生観という視座から見たときどのような特色を持つ時代であるかを考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ～4. 古代の死生観
5. ～7. 中世の死生観
8. ～10. 近世の死生観
11. ～14. 近現代の死生観
15. まとめと討論

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

プリントとスライドを使用する。参考書は授業において指示する。

8. 授業時間外学習：

授業において指示する。

9. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LB55201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

新聞メディアから見た明治前期思想

2. Course Title (授業題目)：

Thought of early Meiji era from newspapers

3. 授業の目的と概要：

これまでの明治前期思想研究において、その中心となってきたのは、「啓蒙」や「民権」と名の付くような著名な思想家と呼ばれる人物であり、またそれらが集い意見し合う学術や政治に関する結社であった。つまり、この授業で取り上げる新聞や新聞記者は枝葉の存在とされてきたと言ってよい。しかし、近代的議会制度の成立していない明治前期において、新聞は極めて重要な政治的コミュニケーションの場であり、新聞という政治文化をいかに社会に定着させるかは、当時の知識人達の課題でもあった。この授業では、そうした研究動向を鑑み、明治前期の新聞メディアに光を当てていく。具体的には明治期の著名な新聞記者である福地源一郎（桜痴、1841～1906）と福沢諭吉（1835～1901）という近代日本を代表する思想家を比較することで、明治思想史の再検討を行う。

4. 学習の到達目標：

時代の転換期に明治知識人たちが向き合った思想課題を、文献史資料に即して分析説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) オリエンテーション
- 2) 「新聞記者」の誕生①
- 3) 「新聞記者」の誕生②
- 4) 「新聞記者」の誕生③
- 5) 政論新聞化と言論界の変容①
- 6) 政論新聞化と言論界の変容②
- 7) 士族と平民①
- 8) 士族と平民②
- 9) 士族と平民③
- 10) 華士族をめぐる論争①
- 11) 華士族をめぐる論争②
- 12) 明治前期の自治論①
- 13) 明治前期の自治論②
- 14) 明治前期の自治論③
- 15) まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [60%]

平常点（コメントペーパーをもとに授業への参加度や貢献度をみる）[40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で配布したレジュメをもとに、復習すること。また、授業の中で紹介する書籍を積極的に読むこと。

9. その他：

授業では、毎回感想や質問を記すコメントペーパーを用意し、それを中心に対話形式で進めていく予定である。コメントペーパーの提出は自主性に任せるが、それをもって平常点を判断するので注意すること。

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：宇野田 尚哉（非常勤講師）

講義コード：LB98804, **科目ナンバリング：**LHM-PHI301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

戦後日本思想史再考

2. Course Title (授業題目)：

Rethinking Postwar Japanese Intellectual History

3. 授業の目的と概要：

戦後史・戦後思想史の大まかな流れを把握するとともに、重要な出来事・人物・テキスト等についての基礎的な知識を蓄える。戦後史の各時期に、どのような歴史的背景のもとどのような問題についてどのような立場の人が何を考えたか、俯瞰的に把握する。

そのうえで、現状のさまざまな問題について自分の意見を持てるようになることを目指す。

授業は、通史的概観と個別のトピックについての講義を組み合わせるかたちで行う。

4. 学習の到達目標：

- (1)戦後史上のとくに重要な出来事を挙げ、説明できる。
- (2)戦後思想史上のとくに重要な人物やテキストを挙げ、説明できる。
- (3)戦後思想史のおおまかな流れを説明できる。
- (4)現在の日本が抱える思想的課題を指摘し、自分の意見を述べることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：課題・方法・資料
2. 「戦後」の始まり
3. 朝鮮戦争と日本
4. さまざまな「55 年体制」
5. 1960 年前後の日本
6. 高度経済成長と日本社会
7. 1960 年代後半の日本
8. 「戦後」日本とアジア
9. 「戦後」日本とマイノリティ
10. 「戦後」日本とジェンダー
11. ポスト高度成長期の日本：1970 年代
12. 「強い円」の時代：1980 年代
13. 冷戦構造の解体と日本：1990 年代
14. 「失われた 20 年」と現在：まとめにかえて
15. 試験

6. 成績評価方法：

授業中に課すリアクション・ペーパー40 点，試験 60 点

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ハンドアウトを配布する。参考文献は初回の授業の際にまとめて紹介する。

8. 授業時間外学習：

事前に reading assignment を配布するので読んでおくこと。

9. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫, 片岡 龍（教授、准教授）

講義コード：LB53304, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought1

3. 授業の目的と概要：

卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. 学習の到達目標：

卒業論文のテーマの決定

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

なし。

8. 授業時間外学習：

ブレレジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

9. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫, 片岡 龍（教授、准教授）

講義コード：LB63305, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：

前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. 学習の到達目標：

卒業論文作成の準備と研究内容の深化

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』ミネルヴァ書房

8. 授業時間外学習：

ブレレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

9. その他：

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本史概論	日本史概説1	2	堀 裕. 柳原 敏昭. 籠橋 俊光	3	木	2	1
日本史概論	日本史概説2	2	堀 裕. 柳原 敏昭. 籠橋 俊光. 安達 宏昭	4	木	2	2
日本史基礎講読	中世史料講読	2	柳原 敏昭	4	火	2	3
日本史基礎講読	近現代史料講読	2	安達 宏昭	4	火	4	4
日本史基礎講読	古代史料講読	2	堀 裕	3	金	3	5
古文書学	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	3	火	1	6
古文書学	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	4	水	4	7
日本史各論	英語で読む日本中世文 書	2	柳原 敏昭. クレイグ クリスト ファー	5	月	5	8
日本史各論	日本中世史研究法	2	柳原 敏昭	6	月	5	9
日本史各論	日本古代史の研究と方 法(1)	2	堀 裕	5	水	2	10
日本史各論	日本近現代史研究の 現状と課題(6)	2	安達 宏昭	6	水	2	12
日本史各論	歴史資料保全の実践 (その1)	2	佐藤 大介	5	木	4	13
日本史各論	歴史資料保全の実践 (その2)	2	佐藤 大介	6	木	4	14
日本史各論	日本古代史の研究と方 法(2)	2	堀 裕	6	金	2	15
日本史各論	近世社会の研究(1)	2	籠橋 俊光	5	金	3	16
日本史各論	近世社会の研究(2)	2	籠橋 俊光	6	金	3	17
日本史各論	日本近現代史研究の 焦点	2	吉田 裕	集中(6)			18
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳原 敏昭	5	月	3	19
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳原 敏昭	6	月	3	20

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本史演習	室町時代の政治と社会 (1) 中世史料演習(1)	2	柳原 敏昭	5	月	4	21
日本史演習	室町時代の政治と社会 (2)	2	柳原 敏昭	6	月	4	22
日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	5	火	2	23
日本史演習	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	6	火	2	25
日本史演習	近世史料研究(1)	2	籠橋 俊光	5	火	4	27
日本史演習	近世史料研究(2)	2	籠橋 俊光	6	火	4	28
日本史演習	近現代史研究法	2	安達 宏昭	6	火	5	29
日本史演習	古代史料研究(1)	2	堀 裕	5	水	3	30
日本史演習	近現代政治・社会史の 研究	2	安達 宏昭	6	水	3	32
日本史演習	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	5	水	5	33
日本史演習	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	6	水	5	34
日本史演習	近現代政治・外交史の 研究	2	河西 晃祐	5	金	2	35
日本史演習	古代史料研究(2)	2	堀 裕	6	金	3	36
日本史実習	史料整理・保存の理論 と方法	2	籠橋 俊光	5	金	4、5	38
日本史実習	史料整理実習	2	籠橋 俊光	6	金	4、5	39

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：堀 裕・柳原 敏昭・籠橋 俊光（准教授 他）

講義コード：LB34201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本史概説 1

2. Course Title (授業題目)：

Lecture on Japanese History 1

3. 授業の目的と概要：

日本史に関わる資料、おもに文字史料を用いて、日本の歴史の特色を明らかにする。文字史料は、歴史学を成り立たせる基本的な素材であり、その理解のしかたによっては、歴史像が大きく異なる場合もある。本講義では、おもに①政治史、②社会経済史、③文化史、④外交史の4つの視点から、史料読解を通じた歴史像構築の意義を示すこととしたい。

4. 学習の到達目標：

史料読解を通じた歴史像の構築の方法について学ぶこと

日本の歴史の概要と多様性を学ぶこと

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（柳原）

2. 古代史料と歴史 1（堀）

3. 古代史料と歴史 2（堀）

4. 古代史料と歴史 3（堀）

5. 古代史料と歴史 4（堀）

6. 中世史料と歴史 1（柳原）

7. 中世史料と歴史 2（柳原）

8. 中世史料と歴史 3（柳原）

9. 中世史料と歴史 4（柳原）

10. 近世史料と歴史 1（籠橋）

11. 近世史料と歴史 2（籠橋）

12. 近世史料と歴史 3（籠橋）

13. 近世史料と歴史 4（籠橋）

14. 近現代史料と歴史（籠橋）

15. まとめと試験（堀）

6. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加（30%）・試験（70%）

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

木曜日の3限目。ただし、事前に予約のこと。

9. その他：

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：堀 裕, 柳原 敏昭, 籠橋 俊光, 安達 宏昭 (准教授 他)

講義コード：LB44201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本史概説 2

2. Course Title (授業題目)：

Lecture on Japanese History 2

3. 授業の目的と概要：

日本史に関わる事件を通して、日本の歴史の概要と特色を学ぶことを目的とする。事件とは、戦争や政変、災害をはじめ、文化的・技術的な変革も含むものであり、人々の日常生活を変え、時代の変わり目となるものである。そこで本講義では、事件を取り上げ、時代の変革を捉えたい。

4. 学習の到達目標：

日本の歴史の概要を学ぶこと

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (柳原)
2. 古代 1 (堀)
3. 古代 2 (堀)
4. 古代 3 (堀)
5. 中世 1 (柳原)
6. 中世 2 (柳原)
7. 中世 3 (柳原)
8. 近世 1 (籠橋)
9. 近世 2 (籠橋)
10. 近世 3 (籠橋)
11. 近現代 1 (安達)
12. 近現代 2 (安達)
13. 近現代 3 (安達)
14. 歴史学のいま (安達)
15. まとめと試験 (堀・籠橋)

6. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・試験 (70%)

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

木曜日の 3 限目。ただし、事前に予約のこと。

9. その他：

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB42204, **科目ナンバリング：**LHM-HIS205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中世史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Japanese Medieval historical Materials

3. 授業の目的と概要：

歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができないといけない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。

4. 学習の到達目標：

基本的な中世史料を読解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、議論への関与度） [40%]

7. 教科書および参考書：

講義時にプリントを配布する。

References are handed out at every class.

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ2週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations 2 weeks in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近現代史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Japanese Modern Historical Documents

3. 授業の目的と概要：

日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。
- (2) 史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴
2. 大日本帝国憲法体制の展開 (1)
3. 大日本帝国憲法体制の展開 (2)
4. 大日本帝国憲法体制の展開 (3)
5. 大日本帝国憲法体制の展開 (4)
6. 大日本帝国憲法体制の変容 (1)
7. 大日本帝国憲法体制の変容 (2)
8. 大日本帝国憲法体制の変容 (3)
9. 大日本帝国憲法体制の変容 (4)
10. 大日本帝国憲法体制の変容 (5)
11. 日本国憲法体制の形成と展開 (1)
12. 日本国憲法体制の形成と展開 (2)
13. 日本国憲法体制の形成と展開 (3)
14. 日本国憲法体制の形成と展開 (4)
15. 授業のまとめ筆記試験

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験[60%]・() リポート[%]・(○) 出席[20%]・(○) その他（レスポンスペーパーなど）[20%]

7. 教科書および参考書：

随時、プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。

9. その他：

履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB35303, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory reading of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

日本古代史に関する基礎史料の講読を行う。日本古代の格（単行法令）を載せる『類聚三代格』を中心に、古代史に関する多様な史料を取り上げる。受講生は史料を読解し、各自報告を行う。これにより、歴史史料読解の能力を養う。

4. 学習の到達目標：

日本古代の漢文史料の読解力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。
2. 日本古代の文献史料を読む (1)
3. 日本古代の文献史料を読む (2)
4. 日本古代の文献史料を読む (3)
5. 日本古代の文献史料を読む (4)
6. 日本古代の文献史料を読む (5)
7. 日本古代の文献史料を読む (6)
8. 『類聚三代格』を読む (1)
9. 『類聚三代格』を読む (2)
10. 『類聚三代格』を読む (3)
11. 『類聚三代格』を読む (4)
12. 『類聚三代格』を読む (5)
13. 『類聚三代格』を読む (6)
14. 『類聚三代格』を読む (7)
15. まとめ と試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 (50%)・授業への参加 (50%)

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『類聚三代格』前編・後編 (吉川弘文館) (必ずしも購入の必要はない)

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜日の 3 限です。事前に予約ください。

9. その他：

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB32103, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世古文書読解入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書とは、差出人と受取人とは明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開についてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中世の原文書を読解できるようになる。
- (2) 中世古文書学の基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 10) 室町幕府文書 命令の傳達・施行
- 11) 軍事関係文書
- 12) 戦国大名文書①
- 13) 戦国大名文書②
- 14) 譲状、起請文など
- 15) 授業のまとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度）[20%]

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

8. 授業時間外学習：

受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (Pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

9. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB43404, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世古文書読解

2. Course Title (授業題目)：

Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. 学習の到達目標：

(1) 近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2) 近世古文書の読解能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・近世古文書学について
 2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
 3. 文字の読解法とその訓練
 4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
 5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
 6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
 7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
 8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
 9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
 10. 町方・村方文書 (1) 定
 11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
 12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
 13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
 14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
 15. 講義のまとめ・試験
6. 成績評価方法：
出席[30%]・筆記試験[60%]・その他（報告の内容など）[10%]
7. 教科書および参考書：
随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。
8. 授業時間外学習：
毎回事前の予習を必要とする。
9. その他：
オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭, クレイグ クリストファー (教授)

講義コード：LB51501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語で読む日本中世文書

2. Course Title (授業題目)：

Reading the Japanese History Sources in English

3. 授業の目的と概要：

鎌倉時代の古文書の原文と英語訳の双方を読んで、史料を英訳するプロセスについて学ぶ。そのことを通じて、史料用語を概念化することについても学ぶ。担当者をあらかじめ決め、その報告を基に議論していくスタイルをとる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本史の研究を国際的に発信するための基礎を身につける。
- (2) 史料用語を概念化することに習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 学生による報告と討論

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。参考書は、JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。References are handed out at every class. Reference book: JEFFREY P. MASS: The Kamakura Bakufu (Stanford University Press, 1976)。

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ2週間前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に資料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations 2 weeks in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講生は日本中世文書の基礎的な読解力を持っていることが望ましい。

It is recommended that participating students have basic skills in reading medieval Japanese sources.

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB61501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本中世史研究法

2. Course Title (授業題目)：

Learning how to study Japanese medieval history

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本中世史の研究能力を身につける。
- (2) 研究論文の作成法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

Nothing in particular

8. 授業時間外学習：

報告者は入念な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も積極的に授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare carefully in advance. Students who are not presenting are to participate in discussion actively.

9. その他：

受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。

In principle, students are limited to fourth graders who write graduation theses in Japanese medieval history.

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕（准教授）

講義コード：LB53201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本古代史の研究と方法（1）

2. Course Title (授業題目)：

Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：

日本古代史に関する代表的な論文（研究文献）を読む。おもに受講生による報告を通して、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文とは何かを知り、論文を読み解く手法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明

2.

論文を読む方法

3.

論文講読 1

4.

論文講読 2

5.

論文講読 3

6.

論文講読 4

7.

論文講読 5

8.

論文講読 6

9.

論文講読 7

10.

論文講読 8

11.

論文講読 9

12.

論文講読 10

13.

論文講読 11

14.

論文講読 12

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

出席と報告（５０％）・レポート（５０％）

７．教科書および参考書：

プリント随時配布

８．授業時間外学習：

配付された論文を読むこと。報告者となっている場合は、レポートの作成をすること。

９．その他：

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：安達 宏昭 (教授)

講義コード：LB63201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本近現代史研究の現状と課題 (6)

2. Course Title (授業題目)：

Current status and problems about the study of Japanese Modern History (6)

3. 授業の目的と概要：

日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、2014～16 年に刊行された『岩波講座 日本歴史』テーマ巻 1～3 の 3 冊におさめられている日本近現代史に関連する論文を読んでいく。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する論文の要旨や内容の特徴を発表し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本近現代史に関する最近の研究を読解し、内容を理解できるようになる。
- (2) 研究の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。
- (3) 最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本近現代史研究の特徴
2. 日本近現代史研究の方法
3. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (1)
4. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (2)
5. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (3)
6. 『岩波講座 日本歴史』第 20 巻所収論文についての報告と討論 (4)
7. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (1)
8. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (2)
9. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (3)
10. 『岩波講座 日本歴史』第 21 巻所収論文についての報告と討論 (4)
11. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (1)
12. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (2)
13. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (3)
14. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (4)
15. 『岩波講座 日本歴史』第 22 巻所収論文についての報告と討論 (5)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]

7. 教科書および参考書：

『岩波講座 日本歴史』(岩波書店、2014～16 年) テーマ巻 1～3 の該当する論文を、適宜、指示する。

8. 授業時間外学習：

『岩波講座 日本歴史』テーマ巻 1～3 の指定された研究論文を、事前に読んでおく。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 大介 (兼務教員)

講義コード：LB54401, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

歴史資料保全の実践 (その1)

2. Course Title (授業題目)：

Passing on the Historical heritage on Tohoku area(Part 1)

3. 授業の目的と概要：

いま、人文社会科学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題について、座学、討論、実践を通じて学んでいきます。

4. 学習の到達目標：

- ・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。
- ・「社会にとっての歴史研究者の存在意義」について、自ら考える力を付けます。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「歴史史料保全活動」の経緯①
2. 「歴史資料保全活動」の経緯②
3. 「歴史資料保全活動」の経緯③
4. 史料保全活動の現状①
5. 史料保全活動の現状②
6. 史料保全活動の現状③
7. 史料保全の実践①
8. 史料保全の実践②
9. 史料保全の実践③
10. 史料保全の実践④
11. 史料保全の実践⑤
12. 史料保全の実践⑥
13. 史料保全の実践⑦
14. 史料保全の実践⑧
15. 史料保全の実践⑨—まとめ

6. 成績評価方法：

- ・平常点 (出席、討論への参加) (40 パーセント)
- ・レポート (60 パーセント)

7. 教科書および参考書：

- ・奥村弘『大震災と歴史資料保存』(吉川弘文館 2011 年)
- ・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』(東北大学東北アジア研究センター報告 2012 年)
- ・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』(東京大学出版会 2014 年)

ほか、講義中指示する。

8. 授業時間外学習：

上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

9. その他：

- ・日本史各論 後期「歴史資料保全の実践 (その2)」と連続履修することが望ましい。
- ・実技や現地調査を行う関係で、受講者人数を制限する (最大 15 名程度)。
- ・日本史分野で扱う史料の基礎的知識を取得しておくことが望ましい。

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 大介 (兼務教員)

講義コード：LB64401, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

歴史資料保全の実践 (その 2)

2. Course Title (授業題目)：

Passing on the Historical heritage on Tohoku area(part 2)

3. 授業の目的と概要：

活字、くすし字を問わず、日本史研究で必須の「文書資料を読み解く力」は、それらに親しみのない市民が、過去の歴史を自ら学ぼうとする時、専門家に求められる能力です。地域の歴史に対する関心が高まる今、その能力を生かして市民と積極的に交流する事が求められています。この講義では、江戸時代の仙台藩に残された古文書を用いて、歴史を復元するための解読方法を学ぶとともに、知り得た内容をわかりやすく紹介するための方法を学びます。

4. 学習の到達目標：

- ・古文書の内容から、歴史を復元できるような情報を読み解く力を身につけます。
- ・さらに、その内容をどのようにしてわかりやすく伝えるかについても学びます。
- ・成果を実地に発表し、その反応を知る事で、歴史研究を学ぶ者が求められている課題を知ります。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに一市民と歴史像を共有する意義
2. 古文書を読んでみる①
3. 古文書を読んでみる②
4. 古文書を読んでみる③
5. 古文書を読んでみる④
6. 歴史像を復元する①
7. 歴史像を復元する②
8. 歴史像を復元する③
9. 歴史像を復元する④
10. 歴史像を伝える①
11. 歴史像を伝える②
12. 歴史像を伝える③
13. 歴史像を伝える④
14. 歴史像を伝える⑤
15. まとめ

6. 成績評価方法：

- ・分担か所の発表及び解説資料の内容 (50 パーセント)
- ・レポート (50 パーセント)

講義中に指示します。

7. 教科書および参考書：

歴史像を明らかにするには、多数の文献に当たる必要もあります。シラバスでそのすべてを紹介することはできませんので、講義中に指示します。

8. 授業時間外学習：

- ・この講義は、受講者による発表が基本となります。各回の予習は必須となります。あらかじめ担当か所を割り当てますので、発表前日に慌てて準備を始め「徹夜」になることのないよう、一日 30 分～1 時間程度、ないし週 2 時間程度の学習時間を、日課として取り入れていただくことをお勧めします。

9. その他：

- ・日本史各論 前期「歴史資料保全の実践 (その 1)」との連続履修が望ましいです。
- ・史料解読の能力が必要です。古文書学その他、日本史専修で開講される関連講義などで十分に学習しておいてください。
- ・少人数講義とします。希望者多数の場合は、日本史専修の学生を優先します。

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕（准教授）

講義コード：LB65201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本古代史の研究と方法（2）

2. Course Title（授業題目）：

Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：

日本古代を中心とした「王権」と宗教について論じる。東アジアのなかの交流史・比較史や、列島の中の地域史を視野にいれ、おおむね7-12世紀の「王権」と宗教の歴史的変遷を示すとともに、それが国家や社会とどのような関係にあったのかを明らかにする。

4. 学習の到達目標：

日本古代史の研究成果と研究方法を学ぶ

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. アジアのなかの仏教 1
3. アジアのなかの仏教 2
4. 7世紀倭国 1
5. 7世紀倭国 2
6. 喪葬 1
7. 喪葬 2
8. 即位 1
9. 即位 2
10. 寺院 1
11. 寺院 2
12. 再びアジアのなかの仏教
13. 国家と宗教 1
14. 国家と宗教 2
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（100％）

7. 教科書および参考書：

随時プリント配布

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜日3限です。事前に予約願います。

9. その他：

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB55301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近世社会の研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Research in Early Modern Society (1)

3. 授業の目的と概要：

日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
- (2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. ガイダンス
- 2. 受講者による報告と討論(1)
- 3. 受講者による報告と討論(2)
- 4. 受講者による報告と討論(3)
- 5. 受講者による報告と討論(4)
- 6. 受講者による報告と討論(5)
- 7. 受講者による報告と討論(6)
- 8. 受講者による報告と討論(7)
- 9. 受講者による報告と討論(8)
- 10. 受講者による報告と討論(9)
- 11. 受講者による報告と討論(10)
- 12. 受講者による報告と討論(11)
- 13. 受講者による報告と討論(12)
- 14. 受講者による報告と討論(13)
- 15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

「近世社会の研究 (2)」と連続して受講することが望ましい。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世社会の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Research in Early Modern Society (2)

3. 授業の目的と概要：

「近世社会の研究 (1)」に引き続き、日本近世の社会とその研究を理解することを目的として、様々な研究論文を読み進め、理解を深める。受講に際しては議論への積極的な参加が求められる。可能であれば、必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
- (2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. ガイダンス
- 2. 受講者による報告と討論(1)
- 3. 受講者による報告と討論(2)
- 4. 受講者による報告と討論(3)
- 5. 受講者による報告と討論(4)
- 6. 受講者による報告と討論(5)
- 7. 受講者による報告と討論(6)
- 8. 受講者による報告と討論(7)
- 9. 受講者による報告と討論(8)
- 10. 受講者による報告と討論(9)
- 11. 受講者による報告と討論(10)
- 12. 受講者による報告と討論(11)
- 13. 受講者による報告と討論(12)
- 14. 受講者による報告と討論(13)
- 15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

「近世社会の研究 (1)」と連続して受講することが望ましい。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：吉田 裕 (非常勤講師)

講義コード：LB98805, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近現代史研究の焦点

2. Course Title (授業題目)：

Focus on the Japanese Modern historical study

3. 授業の目的と概要：

「明治 150 年」ということもあって、明治という時代の評価が一つの焦点になっている。この授業では、戦争指導体制や首相権限の強化に取組んだ東条英機内閣の評価と関連させながら、あらためて明治憲法体制について再検討してみたい。アジア・太平洋戦争という視点から見た場合、明治憲法体制にはどのような評価が与えられるかというアプローチである。また、明治憲法体制下での政治運営のあり方を実際に見てみるために、伊藤隆ほか編『東條内閣総理大臣機密記録』（東京大学出版会、1990 年）、波多野澄雄・茶谷誠一編『金原節三 陸軍省業務日

4. 学習の到達目標：

明治憲法体制の特質について理解を深めるとともに、文献史料の読解方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、序論—歴史認識をめぐる諸問題
- 2、明治憲法体制の特質（1）
- 3、明治憲法体制の特質（2）
- 4、明治憲法体制の特質（3）
- 5、総力戦としての第 1 次世界大戦の衝撃
- 6、国家諸機関の分立性克服の試み
- 7、国務と統帥との統合の試み
- 8、東条内閣の成立
- 9、アジア・太平洋戦争の開戦決定と東条内閣
- 10、初期作戦の成功と内閣基盤の強化
- 11、戦局の悪化と東条内閣の崩壊
- 12、『東條内閣総理大臣機密記録』を読む
- 13、『金原節三 陸軍省業務日誌摘録 前編』を読む
- 14、『昭和天皇実録 第八』を読む
- 15、授業のまとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験による

7. 教科書および参考書：

教科書は使わない。プリントを配布して講義を行う。

8. 授業時間外学習：

質問などは随時、受け付ける。

9. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB51303, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

鎌倉時代の法と社会(1)

2. Course Title (授業題目)：

The Law and Society of the Kamakura Period 1

3. 授業の目的と概要：

鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、追加法および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の法と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中世史料の基礎的な読解力を身につける。
- (2) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容） [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法（岩波書店）。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is SATO Shinichi and IKEUCHI Yoshisuke "Chusei-Housei-Shiryousyu".

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講者は日本中世史料に関する基礎知識をもっていることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

It is recommended that participating students have basic skills in reading medieval Japanese sources. Students must take "The Law and Society of the Kamakura Period" 1 and 2 consecuti

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭 (教授)

講義コード：LB61304, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

鎌倉時代の法と社会 (2)

2. Course Title (授業題目)：

The Law and Society of the Kamakura Period 2

3. 授業の目的と概要：

「鎌倉時代の法と社会 (1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中世史料の読解力を身につける。
- (2) 鎌倉時代の法と社会について理解を深める。
- (3) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法 (岩波書店)。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is SATO Shinichi and IKEUCHI Yoshisuke "Chusei-Housei-Shiryousyu"

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

日本史演習「鎌倉時代の法と社会 (1) (2)」 (柳原担当) は連続履修すること。

Students must take "The Law and Society of the Kamakura Period" 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭 (教授)

講義コード：LB51403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

室町時代の政治と社会 (1)
中世史料演習 (1)

2. Course Title (授業題目)：

The Politics and Society of the Muromachi Period 1

3. 授業の目的と概要：

伏見宮貞成『看聞日記』は、記主が当時の政権中枢に近く、また所領である山城国伏見庄に居住していたため、朝廷や幕府の動向から、村落内部の様相までを詳細に知ることのできる希有の史料である。この日記を精読することを通じて、記録史料の読解力を錬磨するとともに、室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。受講者には、日本史演習「鎌倉時代の法と社会」より、一層高度な力量が求められる (大学院生レベルを想定)。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本中世史に関する高度な史料読解力を養う。
- (2) 報告・討論の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]

7. 教科書および参考書：

続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下 (続群書類従完成会)

Zoku-Gunsyoryuzyu Supplement2 “Kanmon Gyoki” First volume and second volume (Zoku-Gunsyoryuzyu-Kanseikai)

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。日本史演習「中世史料演習」(1)(2)は連続履修すること。

In principle, students are limited to fourth graders who write graduation theses in Japanese medieval history. Students must take “The Politics and Society of the Muromachi Period” 1 and 2

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：柳原 敏昭 (教授)

講義コード：LB61402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

室町時代の政治と社会 (2)

2. Course Title (授業題目)：

The Politics and Society of the Muromachi Period 2

3. 授業の目的と概要：

「室町時代の政治と社会」(1)の続講。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。

(2) 報告・討論の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、議論への関与度) [40%]

7. 教科書および参考書：

続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下 (続群書類従完成会)

Zoku-Gunsyoryuzyu Supplement2 “Kanmon Gyokii” First volume and second volume (Zoku-Gunsyoryuzyu-Kanseikai)

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

9. その他：

受講者は、原則として卒業論文を日本中世史で執筆する4年生に限る。日本史演習「室町時代の政治と社会」(1)(2)は連続履修すること。

In principle, students are limited to fourth graders who write graduation theses in Japanese medieval history.

Students must take “The Politics and Society of the Muromachi Period” 1 and

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB52205, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

養老令の注釈書である『令集解』をテキストとしてとりあげる。精読するとともに、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。本年度は神祇令を取り上げる。史料に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『令集解』を読む (1)

3.
『令集解』を読む (2)

4.
『令集解』を読む (3)

5.
『令集解』を読む (4)

6.
『令集解』を読む (5)

7.
『令集解』を読む (6)

8.
『令集解』を読む (7)

9.
『令集解』を読む (8)

10.
『令集解』を読む (9)

11.
『令集解』を読む (10)

12.
『令集解』を読む (11)

13.
『令集解』を読む (12)

14.
『令集解』を読む (13)

15.
まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50％） 報告・討論など授業への参加（50％）

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』第1巻（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜日3限です。来訪時は事前に連絡をください。

9. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB62207, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料の研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

平安時代の貴族の日記である『小右記』をテキストとして精読する。あわせて、関連史料も調査・読解することで、史料としての扱い方に習熟する。これにより古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では毎回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の基礎知識を得るとともにその読解に習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2.

『小右記』を読む (1)

3.

『小右記』を読む (2)

4.

『小右記』を読む (3)

5.

『小右記』を読む (4)

6.

『小右記』を読む (5)

7.

『小右記』を読む (6)

8.

『小右記』を読む (7)

9.

『小右記』を読む (8)

10.

『小右記』を読む (9)

11.

『小右記』を読む (10)

12.

『小右記』を読む (11)

13.

『小右記』を読む (12)

14.

『小右記』を読む (13)

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50%）、報告や討論参加など授業への参加（50%）

7. 教科書および参考書：

テキスト 『大日本古記録 小右記』 1～11（岩波書店）。購入の必要はない。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜 3 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

9. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB52403, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世史料研究（1）

2. Course Title（授業題目）：

Early Modern Document Research（1）

3. 授業の目的と概要：

本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。

4. 学習の到達目標：

(1) 近世史料の基礎的な読解能力を身につける。(2) 自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ガイダンス

2. 伊達騒動について（1）

3. 伊達騒動について（2）

4. 史料読解の報告と討論（1）

5. 史料読解の報告と討論（2）

6. 史料読解の報告と討論（3）

7. 史料読解の報告と討論（4）

8. 史料読解の報告と討論（5）

9. 史料読解の報告と討論（6）

10. 史料読解の報告と討論（7）

11. 史料読解の報告と討論（8）

12. 史料読解の報告と討論（8）

13. 史料読解の報告と討論（10）

14. 史料読解の報告と討論（11）

15. 史料読解の報告と討論（12）

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

7. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」（コピー配布） 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』（吉川弘文館）、『仙台市史』通史編 4 近世 2（仙台市）、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

必ず「近世史料研究（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB62404, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近世史料研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Early Modern Document Research (2)

3. 授業の目的と概要：

「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

(1) 近世史料の基礎的な読解能力を身につける。 (2) 自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 史料読解の報告と討論(1)

3. 史料読解の報告と討論(2)

4. 史料読解の報告と討論(3)

5. 史料読解の報告と討論(4)

6. 史料読解の報告と討論(5)

7. 史料読解の報告と討論(6)

8. 史料読解の報告と討論(7)

9. 史料読解の報告と討論(8)

10. 史料読解の報告と討論(9)

11. 史料読解の報告と討論(10)

12. 史料読解の報告と討論(11)

13. 史料読解の報告と討論(12)

14. 史料読解の報告と討論(13)

15. 史料読解の報告と討論(14)

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

7. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4 近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)

8. 授業時間外学習：

毎回事前の予習を必要とする。

9. その他：

必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB62502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近現代史研究法

2. Course Title (授業題目)：

Method of Studies on Japanese Modern History

3. 授業の目的と概要：

近現代史における基礎的な研究テーマについて受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題
関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、各自が論文をまとめることができるようにな
ることを目的としている。なお、日本近現代史の時期を対象にする卒業論文を書こうと考えている者は、必ず受講すること。

4. 学習の到達目標：

- (1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
- (2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
- (3) 上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義
2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（発表態度、受講態度）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB53305, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

research of Japanese ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

8 世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。できれば、現地見学会を実施する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。

2.

史料を読む (1)

3.

史料を読む (2)

4.

史料を読む (3)

5.

史料を読む (4)

6.

史料を読む (5)

7.

史料を読む (6)

8.

史料を読む (7)

9.

史料を読む (8)

10.

史料を読む (9)

11.

史料を読む (10)

12.

史料を読む (11)

13.

史料を読む (12)

14.

史料を読む (13)

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50％） 報告や討論への参加（50％）

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）・同『類聚三代格』（同） 8-9 世紀に興味のある方にも受講を勧めます。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは木曜 3 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

9. その他：

古代史料研究（1）（2）は連続履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：安達 宏昭 (教授)

講義コード：LB63306, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代政治・社会史の研究

2. Course Title (授業題目)：

A study of the Modern Japanese Political and Social History

3. 授業の目的と概要：

2014 年に編修が完了し、2015 年 3 月から公刊されている『昭和天皇実録』などを読解し、関連する史料と照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。この学期において『実録』で主に読解する時期は、日中戦争からアジア・太平洋戦争開戦に至る時期を予定している。

4. 学習の到達目標：

- (1) 史料を幅広い視点から分析できるようになる。
- (2) 史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
- (3) 上記 2 つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・『昭和天皇実録』の概要
2. 昭和天皇に関する研究書の把握・検討
3. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (1)
4. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (2)
5. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (3)
6. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (4)
7. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (5)
8. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (6)
9. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (7)
10. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (8)
11. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (9)
12. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (10)
13. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (11)
14. 『昭和天皇実録』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

6. 成績評価方法：

- () 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]
(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

7. 教科書および参考書：

『昭和天皇実録 第七』(東京書籍、2016 年 3 月)・『昭和天皇実録 第八』(東京書籍、2016 年 9 月)

8. 授業時間外学習：

『昭和天皇実録』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB53501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世史研究法（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research Methods in Early Modern History（1）

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論（1）

3. 受講者による報告と討論（2）

4. 受講者による報告と討論（3）

5. 受講者による報告と討論（4）

6. 受講者による報告と討論（5）

7. 受講者による報告と討論（6）

8. 受講者による報告と討論（7）

9. 受講者による報告と討論（8）

10. 受講者による報告と討論（9）

11. 受講者による報告と討論（10）

12. 受講者による報告と討論（11）

13. 受講者による報告と討論（12）

14. 受講者による報告と討論（13）

15. 受講者による報告と討論（14）

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB63501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Research Methods in Early Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：

「近世史研究法 (1)」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法 (1)」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受講者による報告・討論(1)

3. 受講者による報告・討論(2)

4. 受講者による報告・討論(3)

5. 受講者による報告・討論(4)

6. 受講者による報告・討論(5)

7. 受講者による報告・討論(6)

8. 受講者による報告・討論(7)

9. 受講者による報告・討論(8)

10. 受講者による報告・討論(9)

11. 受講者による報告・討論(10)

12. 受講者による報告・討論(11)

13. 受講者による報告・討論(12)

14. 受講者による報告・討論(13)

15. 受講者による報告・討論(14)

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「近世史研究法 (1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：河西 晃祐 (非常勤講師)

講義コード：LB55206, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代政治・外交史の研究

2. Course Title (授業題目)：

A study of the Modern Japanese Political and Diplomatic History

3. 授業の目的と概要：

日独伊三国同盟締結から大東亜共栄圏の崩壊までの、日本近現代史に関わる多様な一次史料を実際に読解・分析していくアクティブラーニングを進めていく。

4. 学習の到達目標：

- (1) 一次史料を多角的に分析できるようになる
- (2) 一次史料が成立した時代背景への理解を深めることができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. 欧州戦争勃発に関する一次史料の読解と討論
- 2. 日独伊三国同盟に関する一次史料の読解と討論(1)
- 3. 日独伊三国同盟に関する一次史料の読解と討論(2)
- 4. 日独伊三国同盟に関する一次史料の読解と討論(3)
- 5. 松岡洋右の大東亜共栄圏論に関する一次史料の読解と討論(1)
- 6. 松岡洋右の大東亜共栄圏論に関する一次史料の読解と討論(2)
- 7. 松岡洋右の大東亜共栄圏論に関する一次史料の読解と討論(3)
- 8. 徴用作家の南方体験に関する一次史料の読解と討論(1)
- 9. 徴用作家の南方体験に関する一次史料の読解と討論(2)
- 10. 徴用作家の南方体験に関する一次史料の読解と討論(3)
- 11. 大東亜会議に関する一次史料の読解と討論(1)
- 12. 大東亜会議に関する一次史料の読解と討論(2)
- 13. 大東亜会議に関する一次史料の読解と討論(3)
- 14. ポツダム宣言の読解と討論(1)
- 15. ポツダム宣言の読解と討論(2)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [] %・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [20%] (○) その他 (発表態度・受講態度) [30%]

7. 教科書および参考書：

河西晃祐『大東亜共栄圏—帝国日本の南方体験』(講談社選書メチエ、2016 年)

8. 授業時間外学習：

『大東亜共栄圏—帝国日本の南方体験』を通読したうえで、アジア歴史資料センターなどで関連する一次史料を自分で探してみる。

9. その他：

オフィスアワーなどについては、講義中に指示します。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (准教授)

講義コード：LB65302, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代史料研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

research of Japanese ancient historical materials 2

3. 授業の目的と概要：

8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、格を集成した『類聚三代格』をテキストとして、古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟する。授業では毎回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

古代史の基本史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 講読のすすめかたの確認

2.

史料を読む (1)

3.

史料を読む (2)

4.

史料を読む (3)

5.

史料を読む (4)

6.

史料を読む (5)

7.

史料を読む (6)

8.

史料を読む (7)

9.

史料を読む (8)

10.

史料を読む (9)

11.

史料を読む (10)

12.

史料を読む (11)

13.

史料を読む (12)

14.

史料を読む (13)

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (50%) 出席 (50%)

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同) 8-9 世紀に興味のある方にも受講を勧めます。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

9. その他：

古代史料研究 (1) (2) は連続履修すること。

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB55402, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：

歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り

4. 学習の到達目標：

史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い
13. フィールド実習
14. 史料整理の基礎 (1)
15. 史料整理の基礎(2)

6. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[20%]・レポート[50%]

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時, 後期 金曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB65401, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

史料整理実習

2. Course Title (授業題目)：

Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要：

実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に

4. 学習の到達目標：

実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 史料整理実習 (1)

3. 史料整理実習 (2)

4. 史料整理実習 (3)

5. 史料整理実習 (4)

6. 史料整理実習 (5)

7. 史料整理実習 (6)

8. 史料整理実習 (7)

9. 史料整理実習 (8)

10. 史料整理実習 (9)

11. 史料整理実習 (10)

12. 史料整理実習 (11)

13. 史料整理実習 (12)

14. 史料整理実習 (13)

15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

6. 成績評価方法：

出席[50%]・受講態度[50%]

7. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：

必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

考古学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
考古学概論	日本考古学概説	2	菅野 智則	4	月	2	1
考古学概論	先史考古学概説	2	阿子島 香	3	月	5	2
考古学基礎講読	考古学資料読解	2	田村 光平	4	月	5	3
考古学基礎実習	考古学資料の観察と記録	2	鹿又 喜隆	3	金	1、2	4
資料基礎論各論	先史考古学資料論	2	阿子島 香	6	月	3	5
考古学各論	日本考古学の諸問題	2	鹿又 喜隆	5	月	2	7
考古学各論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤 敦	5	火	3	8
考古学各論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤澤 敦	6	火	3	9
考古学各論	生物考古学	2	奈良 貴史	集中(5)			10
考古学講読	先史文化研究	2	阿子島 香	5	金	2	11
考古学演習	考古学研究史	2	阿子島 香 鹿又 喜隆	5	金	4	12
考古学演習	考古学の方法と理論	2	阿子島 香	6	金	4	13
考古学実習	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿又 喜隆 阿子島 香	5	水	3、4	14
考古学実習	考古学資料分析法(2)	2	阿子島 香	6	水	3、4	15

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：菅野 智則 (兼務教員)

講義コード：LB41201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本考古学概説

2. Course Title (授業題目)：

Jeneral Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：

日本における考古学研究は、土器や石器等の人工遺物に関する研究が主体的となり進められてきました。しかし、過去の文化について深く理解するためには、多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの当時の文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も過去の文化を理解する上では重要です。これらの多角的な視点や方法について、考古学では学ばなければなりません。本講義では、考古学に関する様々な研究の歴史を通じて、多種多様な研究方法や基礎知識について学びます。また、このことを通じて、考古学によって明らかにされた日本列島における歴史像を通史的に概観します。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 日本考古学研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義内容の概観と評価基準についての説明：本授業の内容の概観と評価基準について説明します。そして、考古学とはどのような学問かということに関して概観します。
2. フィールドワークの方法と実際：考古学におけるフィールドワークや室内での整理作業等について解説します。
3. 現代社会と考古学：世界遺産等で文化財（遺跡）が話題になることもあります。現代社会における考古学の位置付けについて説明します。
4. 第2次大戦前後の考古学研究史：考古学という学問が成立する前後の時期について、様々な論争を通じて説明します。
5. 第2次大戦後の考古学研究史：戦後に新たな視点により遺跡の発掘調査がなされ、様々な成果がありました。遺跡毎にその調査成果について解説します。
6. 近年までの考古学研究史：日本の景気が良くなると共に開発に伴う大規模な発掘調査が増加し、各時代の遺跡において様々な様相が明らかになってきました。遺跡毎にその調査成果について解説します。
7. 考古学における研究の枠組み：考古学に関する多様な研究視点、理論的研究について概説します。
8. 考古学研究の方法：考古学の伝統的な研究方法の一つとして、型式学的方法があります。縄文土器を素材として型式について説明します。
9. 考古学関連文献の取扱い：研究にあたっては、様々な文献を取扱います。その取扱い方について解説します。
10. 先史時代の考古学1：旧石器時代・縄文時代（早期）に関する主要な遺跡等に関して概観します。
11. 先史時代の考古学2：縄文時代（前期・中期）に関する主要な遺跡等に関して概観します。
12. 先史時代の考古学3：縄文時代（後期・晩期）に関する主要な遺跡等に関して概観します。
13. 先史時代以降の考古学1：東北地方の弥生時代以降の主要な遺跡等に関して概観します。
14. 先史時代以降の考古学2：13に引き続き東北地方の弥生時代以降の主要な遺跡等に関して概観します。
15. 日本考古学の展望：本授業のまとめを行います。それから、筆記試験を実施します。

6. 成績評価方法：

筆記試験[60%]・出席[40%]

7. 教科書および参考書：

プリントを適宜配布。参考書は講義中に随時提示する。

8. 授業時間外学習：

講義内で課した課題・質問に関して各自調べること。

9. その他：

オフィスアワー：月～金曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）。事前にメール（tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp）にて日程を確認すること。

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LB31501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

先史考古学概説

2. Course Title (授業題目)：

General Lecture of Prehistoric Archaeology

3. 授業の目的と概要：

先史考古学の歴史と特質、その資料としての遺跡・遺構・遺物の内容について、基礎的な事項を中心に学ぶ。主として石器時代の研究を対象とし、人類の文化進化について解説する。海外を含めて実際の調査、分析の事例を取り上げ、多数のスライドで紹介し、考古学の現在の状況についての理解を深める。

考古学遺跡の研究・出土遺物の観察について、各自の関心に従って、実際に自分で遺跡を訪ねるレポートを課します。その内容は授業で詳しく説明します。

4. 学習の到達目標：

(1) 先史時代の考古学研究の方法と歴史を理解できるようになる。(2) 考古学の資料の特質を理解できるようになる。(3) 猿人から新人までの人類文化の発展を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業の進行と評価基準についての説明。先史考古学の特質について。考古学研究史と文献の紹介（1）。
 2. 埋蔵文化財の保護。考古学研究史と文献の紹介（2）。
 3. 地域における遺跡の分布と発掘調査の方法。遺跡発掘調査報告書の理解。
 4. 層位学的方法と、編年研究の歴史。
 5. 猿人と原人の人類史、石器文化と生活様式。
 6. 氷河時代の環境変動と人類。
 7. 旧人から新人へ。ネアンデルタール人の文化。
 8. 期末レポートの説明と、注意点についての解説。受講者それぞれが選択した遺跡を、実際に自分で探訪してその成果をまとめる。文献のみではレポートを作成できない。
 9. 技術論。石器の製作技術と石材。
 10. 型式学。石器における器種と型式。
 11. 機能論。石器の使用痕の分析。
 12. 生業経済と遺跡。フランス、マドレーヌ文化の狩猟民。
 13. 精神生活の復元。クロマニヨン人の洞穴壁画。
 14. 考古学方法論の展望、および試験（1回目）。レポートの確認事項補足解説。
 15. 埋蔵文化財の展望、および試験（2回目）。レポート提出。
- 6. 成績評価方法：**
(○) 筆記試験 [30%]・(○) レポート [30%]・(○) 出席 [40%]
- 7. 教科書および参考書：**
参考文献について、随時教室で指示。資料プリントを多数配布する。その多くは、英語である。
- 8. 授業時間外学習：**
各回の配布資料を、よく理解するために補足学習を行なう。資料の内容を復習する。英文の場合は予習する。レポートについては、各自が日時を調整して、実際に遺跡・史跡、資料館などを自分自身の計画で探訪をすることが必要。
- 9. その他：**
毎回の出席を重視するが、出席カードには質問や感想などを記入してもらうことで、次回以降の授業内容にフィードバックを行なう。欠席の場合は、埋め合わせのミニレポートを提出する。

科目名：考古学基礎講読／ Archaeology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：田村 光平（兼務教員）

講義コード：LB41503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS207J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学資料読解

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、考古学研究の目的と手法を学び、考古学について自分なりの問題意識・視点を獲得することである。考古学研究は、対象とする時代・地域あるいは研究者によって、理論的・方法的に多様である。そして、研究成果は論文として発表されるが、論文には形式が存在する。形式に沿って構造化された文章に親しむことは、論文から正しく情報を引き出すために必須である。具体的な論文の読解を通して、考古学と論文の構造についての知識を獲得しつつ、考古学研究の多様性を認識する。こうした知識の獲得と同時に、自分なりの問題意識・視点をもち、議論できるようになることをめざす。そのため、講義時に内容を報告するとともに、全員で意見交換を行う。

4. 学習の到達目標：

- ①考古学研究の目的について理解し、どのような具体的活動が行われているのかについて知識を深めること
- ②学術論文の構造について理解すること
- ③考古学の研究について、自分なりの視点をもち、議論できるようになること

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 講義：研究という活動について
3. 講義：論文の構造について
4. 英文読解と議論
5. 英文読解と議論
6. 英文読解と議論
7. 英文読解と議論
8. 英文読解と議論
9. 中間まとめ
10. 英文読解と議論
11. 英文読解と議論
12. 英文読解と議論
13. 英文読解と議論
14. 英文読解と議論
15. 最終まとめ

6. 成績評価方法：

発表（30%）・受講態度（40%）・レポート（30%）

7. 教科書および参考書：

授業時に文献を選択あるいは指示する。適宜資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

各自が課題文献を予習済みであることを前提に進める。

9. その他：

科目名：考古学基礎実習／ Archaeology (Introductory Field Work)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時. 前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆（准教授）

講義コード：LB35102, 科目ナンバリング：LHM-HIS208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学資料の観察と記録

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Field Work of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

考古学研究のなかで、出土した遺物を正確に資料化していく作業は、きわめて重要です。今後の研究の基礎として、そのための基本的な方法、技術、および各種遺物の観察の仕方を学びます。土器・石器などの実測図作製の実習を通して、実証的な研究態度を身につけ、資料に対する観察眼を養い、客観的な資料提示の方法を学びます。実習資料は、実際の出土品を扱います。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学における出土遺物の資料化の意義を理解できるようになる。(2) 特に実測図作成の基本を学び、各種遺物の実測図を作成できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義のスケジュールは以下の通りです。

1. 考古学における資料化
2. 剥片の実測図作成
3. ツールの実測図作成
4. 石核の実測図作成①
5. 石核の実測図作成②
6. 石核の実測図作成③
7. 磨製石器の実測図作成①
8. 磨製石器の実測図作成②
9. 縄文土器の実測図作成①
10. 縄文土器の実測図作成②
11. 縄文土器の実測図作成③
12. 縄文土器の実測図作成④
13. 土師器・須恵器の実測図作成①
14. 土師器・須恵器の実測図作成②
15. 拓本の作成と断面実測

6. 成績評価方法：

(○) 出席 [30%]・(○) その他（具体的には、提出課題と受講態度）[70%]

7. 教科書および参考書：

実測図作成に必要な用具の購入について、別途指示します。

8. 授業時間外学習：

課題が講義時間内に終わらない場合には宿題になります。

9. その他：

課題の完成にあたっては、随時、教員に確認をもらうこと。特に出席と毎時間の受講態度を重視します。毎回かなりの課題（実習整理室での宿題）がありますので、受講者全員に積極的な取り組みを期待します。

科目名：資料基礎論各論／ Scientific Study of Historical Materials(Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LB61301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

先史考古学資料論

2. Course Title (授業題目)：

Research Method of Prehistoric Archaeology

3. 授業の目的と概要：

先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める授業である。西ヨーロッパ（特にフランス南部）、北米（特にアメリカのグレートプレーンズ地域）、東アジア（特に韓半島、ロシアサハリン）など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論のもつ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー（型式学）、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。期末レポートにおいては、受講者は日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を試みる。

4. 学習の到達目標：

先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。「キュレレーター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質（1）。
2. アメリカ考古学の特質（2）。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。
3. アメリカ考古学の歴史（1）。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。
4. アメリカ考古学の歴史（2）。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。
5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践（1）。
6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践（2）。
7. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（1）。
8. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（2）。
9. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（3）。
10. 課題レポートの解説（1）。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。
11. 課題レポートの解説（2）。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。
12. 先史考古学方法論の諸問題（1）。型式学と人間集団論および年代学。
13. 先史考古学方法論の諸問題（2）。機能論と使用痕分析法。
14. 先史考古学方法論の諸問題（3）。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。
15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。

6. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する（英語および日本語）。

8. 授業時間外学習：

各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文

献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。

9. その他：

セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆 (准教授)

講義コード：LB51202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本考古学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Special Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：

この講義では、日本の考古学研究史を通して、日本考古学の独自性と特徴を研究史を通して学びます。また、近年の考古学の課題や問題点を明示し、その解決方法に関する具体的な事例を解説します。特に、先史時代を主な対象として、自然環境や社会環境と、人類行動の関係を把握します。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学研究の歴史を理解する。(2) 現在の考古学研究の方法を理解する。(3) 人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきていることを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は、講義中心の授業です。毎回、パワーポイントのプレゼンテーションにより講義を進めます。内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 考古学の理論と方法 (1)
3. 抽象性の理解
4. 考古学の理論と方法 (2)
5. 寒冷適応
6. 環境変動の基礎的理解
7. 比較文化研究
8. 温暖適応
9. 災害と遺跡
10. 石刃技法をめぐる諸問題
11. 研究倫理と前期旧石器時代遺跡捏造事件
12. ヒトの姿を追って
13. 完新世の温暖化適応
14. 農耕の成立と展開
15. 植物利用の多様化

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [70%]・ (○) 出席 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考文献を講義中に随時提示する。

8. 授業時間外学習：

講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べることを。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:00

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB52301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

東北大学収蔵の考古学資料

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology collection of Tohoku University and history of the research

3. 授業の目的と概要：

東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約 20 万件あり、これらの資料はおよそ 90 年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた弥生時代および古墳時代研究の特質について検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。
- (2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 東北大学での考古学研究の歴史
3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
7. 東北大学における弥生文化研究 (1)
8. 東北大学における弥生文化研究 (2)
9. 東北大学における弥生文化研究 (3)
10. 東北大学における弥生文化研究 (4)
11. 東北大学における古墳文化研究 (1)
12. 東北大学における古墳文化研究 (2)
13. 東北大学における古墳文化研究 (3)
14. 東北大学における古墳文化研究 (4)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (60%)・出席 (40%)

7. 教科書および参考書：

教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB62301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study

3. 授業の目的と概要：

日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。
- (2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業概要と進め方の解説および導入
2. 日本の考古学をめぐる状況
3. 文化財保護法の基本理念と構成
4. 教育委員会制度
5. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (1) 埋蔵文化財関係条文
6. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (2) 保護調整手続き
7. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (3) 記録保存のための発掘調査
8. 国指定史跡制度
9. 国史跡の保存管理と整備活用
10. 史跡の実地見学
11. これからの文化財保護行政 (1)
12. これからの文化財保護行政 (2)
13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (60%)・出席 (40%)

7. 教科書および参考書：

教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：奈良 貴史 (非常勤講師)

講義コード：LB98806, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生物考古学

2. Course Title (授業題目)：

Bioarchaeology

3. 授業の目的と概要：

目的：考古学に必要な自然人類学的知識の習得
ら出土する人骨のヒトとしての進化学的位置、ならびに生物学的特性を理解したうえで、発掘調査における人骨の取り扱い方と研究法を学ぶ。

概要：遺跡か

4. 学習の到達目標：

①人類進化の流れを説明できる。 ②人骨の解剖学的特徴を説明できる。 ③発掘調査における人骨の取り扱い方を説明できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. どうして考古学に人類学的知識が必要か
2. 人類進化概説①霊長類の特徴
3. 人類進化概説②ヒトの定義
4. 人類進化概説③ホモ属の誕生
5. 人類進化概説④ホモ・サピエンスの誕生と拡散
6. 骨学概論
7. 骨学各論①頭骨
8. 骨学各論②体幹骨
9. 骨学各論③上肢骨
10. 骨学各論④下肢骨
11. 出土人骨研究法①遺跡での扱い方
12. 出土人骨研究法②研究室での清掃・復元
13. 出土人骨研究法③人骨の観察と計測
14. 出土人骨研究法④理化学的分析 - 遺伝子
15. 出土人骨研究法⑤ 理化学的分析 - 年代測定

6. 成績評価方法：

小テスト 30% レポート 70%

7. 教科書および参考書：

参考書 骨学実習の手びき 南山堂

8. 授業時間外学習：

授業時に提示する参考文献には必ず目を通すこと

9. その他：

科目名：考古学講読／ Archaeology (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (教授)

講義コード：LB55207, **科目ナンバリング：**LHM-HIS308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

先史文化研究

2. Course Title (授業題目)：

Studies in Prehistoric Culture

3. 授業の目的と概要：

考古学では近年、それぞれの地域、各時代における地域研究が深まり、国際的な比較研究は一層重要になってきている。この授業では、そのための基礎として、先史考古学、民族考古学の研究文献を正確に読解する力を養うことをめざす。単にテキストの英文を日本語に置き換えるのではなく、論じられている内容を、考古学の脈絡で理解することを目指し、資料分析の具体的方法について理解を深める。記載されている各分野の遺跡・遺物について、各受講者は、資料にそくした題材を自ら予習して調べ、総合的に学ぶ。また、アメリカの学術雑誌の実際の論文を通じて、海外の最新の動向の一端に触れながら、先史学の研究法を学ぶ。毎回、十分な予習が必要である。課題に関係する用語について、レポートを作成して、授業時間の中で報告し、受講者相互に理解を深める。また、テキスト読解の報告担当は、その場で当てる。出席と報告を重視する。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた先史考古学・民族考古学の学術文献を、基本的に正確に読解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス。成績評価基準の説明。授業のねらいの解説。最初のテキストの配布と説明。学史的な位置づけ。
- 2 専門文献の読解 (1)。英文和訳と内容理解との区別について。効果的な予習の方法。
- 3 専門文献の読解 (2)。「査読付き専門誌」と一般読者向け書籍・雑誌との本質的な区別について。
- 4 専門文献の読解 (3)。テクニカルタームということの意義について。
- 5 専門文献の読解 (4)。旧石器遺跡の発掘調査への参加者はそれにあてる (スケジュールの前後あり)。
- 6 専門文献の読解 (5)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (1)。
- 7 専門文献の読解 (6)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (2)。
- 8 授業で発表するレポート (用語解説と学史探求) 課題の出題と、各国の研究伝統についての解説。
- 9 専門文献の読解 (7)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (3)。
- 10 専門文献の読解 (8)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (4)。
- 11 専門文献の読解 (9)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (5)。
- 12 先史考古学の用語と学史についてのレポートの発表 (1)。
- 13 先史考古学の用語と学史についてのレポートの発表 (2)。
- 14 専門文献の読解 (10)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (6)。
- 15 専門文献の読解についての自己評価と、今後の展望、取り組んでいきたい分野 (アメリカを中心に) と時代 (旧石器時代から歴史時代まで) との認識。

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [20%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他 (具体的には、毎時間の報告) [50%]

7. 教科書および参考書：

アメリカ考古学の英文プリントを教室で配布します。理論的には、プロセス考古学学派の著作、ビンフォードなどの専門文献から一部を選択して配布する。

8. 授業時間外学習：

各受講者の取り組みの状況をフィードバックしながら、英文テキスト解説の難易度および進行速度を調整していくので、各自、内容を理解できるように前もって、辞書はもちろん関連の専門書を調べていく時間を持つようにする。

9. その他：

授業での報告担当は、パラグラフ程度を単位として、その場でランダムにあてるので、あらかじめ十分な予習が毎時間、必要とされる。積極的な授業参加を期待する。

科目名：考古学演習／ Archaeology (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：阿子島 香・鹿又 喜隆（教授、准教授）

講義コード：LB55403, 科目ナンバリング：LHM-HIS309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学研究史

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：

日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の展望を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解できるようになる。(2) 各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりを理解し、現状を把握できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスと研究発表の説明。

2. 学生による研究発表①

3. 学生による研究発表②

4. 学生による研究発表③

5. 学生による研究発表④

6. 学生による研究発表⑤

7. 学生による研究発表⑥

8. 学生による研究発表⑦

9. 学生による研究発表⑧

10. 学生による研究発表⑨

11. 学生による研究発表⑩

12. 学生による研究発表⑪

13. 学生による研究発表⑫

14. 学生による研究発表⑬

15. 学生による研究発表⑭

6. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他（具体的には、発表と討論）[40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は、時間外に各自がまとめる。

9. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学演習／ Archaeology (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (准教授)

講義コード：LB65402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目)：

Method and Theory of Archaeology

3. 授業の目的と概要：

考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は時間外に各自がまとめる。

9. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。オフィスアワー：金曜日 13:30～14:30

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆, 阿子島 香（准教授、教授）

講義コード：LB53306, 科目ナンバリング：LHM-HIS310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research and Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

考古学研究の基礎として、遺跡・遺物の資料化と資料操作の標準的な手順と方法を学ぶ。今年度は、土器・石器の整理、属性分析を学ぶ。通年で、出土品の処理と整理、正確な実測図の作製、コンピュータを使用した資料分析の基本などの実習を行い、基礎的な方法を学ぶ。考古学標本室の収蔵品の資料化とデータベースの実際を経験する。大学院の考古学研究実習と連動して、課題に取り組む。発掘調査報告書の作成のための方法を具体的に学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

（1）考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。（2）共同研究の意義について、理解できるようになる。（3）考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。（4）発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義のスケジュールは以下の通り。

出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）①

出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作②

発掘調査実習①

発掘調査実習②

出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作③

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

遺物の実測と製図①

遺物の実測と製図②

遺物の実測と製図③

遺物の実測と製図④

遺物の実測と製図⑤

測定の基礎と機器の操作①

測定の基礎と機器の操作②

測定の基礎と機器の操作③

6. 成績評価方法：

（○）レポート〔30％〕・（○）出席〔40％〕

（○）その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）〔30％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

9. その他：

考古学実習を通年で履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-HIS310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学資料分析法（2）

2. Course Title（授業題目）：

Methodology of Archaeological Analysis

3. 授業の目的と概要：

5セメスターに引き続き、実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際の発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

（1）考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。（2）共同研究の意義について、理解できるようになる。（3）考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。（4）発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理（1）。
 2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理（2）。
 3. 遺物の観察・記録と図化（1）。
 4. 遺物の観察・記録と図化（2）。
 5. 遺物の観察・記録と図化（3）。
 6. 遺物の観察・記録と図化（4）。
 7. 製図・トレース・レイアウトの作成（1）。
 8. 製図・トレース・レイアウトの作成（2）。
 9. 製図・トレース・レイアウトの作成（3）。
 10. 写真撮影（1）。
 11. 写真撮影（2）。
 12. 写真撮影（3）。
 13. 保存処理に関する研修。
 14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業（1）。
 15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業（2）。
6. 成績評価方法：
- （○）リポート〔30％〕・（○）出席〔40％〕
- （○）その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）〔30％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

9. その他：

考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。

中国語学中国文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
中国文学概論	中国の恋愛詩(ウラ文学史)	2	佐竹 保子	3	木	1	1
中国文学概論	中国の小説と戯曲	2	土屋 育子	4	木	1	2
中国文学基礎講読	中国語実用文法研究	2	土屋 育子	3	水	4	3
中国文学基礎講読	現代文読解による中国語実用文法研究	2	矢田 尚子	4	水	4	4
中国語基礎演習	中級会話	2	馬 暁地	3	月	5	5
中国語基礎演習	中級会話	2	馬 暁地	4	月	5	6
中国文学各論	唐詩と唐代社会(胡曾の《詠史詩》)	2	馬 暁地	5	火	4	7
中国文学各論	唐詩と唐代社会(胡曾の《詠史詩》)	2	馬 暁地	6	火	4	8
中国文学各論	中国の詩学	2	川合 康三	集中(5)			9
中国文学演習	中国の通俗文学を読む	2	土屋 育子	6	水	4	10
中国文学演習	中国の通俗文学を読む	2	土屋 育子	5	水	5	11
中国文学演習	中国当代文学研究	2	馬 暁地	5	木	2	12
中国文学演習	中国当代文学研究	2	馬 暁地	6	木	2	13
中国文学演習	楚辞文学研究	2	矢田 尚子	5	金	1	14
中国文学演習	楚辞文学研究	2	矢田 尚子	6	金	1	15

科目名：中国文学概論／ Chinese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：佐竹 保子（教授）

講義コード：LB34101, **科目ナンバリング：**LHM-LIT202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国の恋愛詩（ウラ文学史）

2. Course Title (授業題目)：

Love Poetry in Chinese Classical Literature: Looking for Another Side of Chinese Literary History

3. 授業の目的と概要：

【目的】

1. 中国紀元前10世紀頃から紀元11世紀頃までの古典詩について、恋愛詩をてがかりにしながら、理解を深めます。
2. いわゆる「漢文」の構造、古体詩と近体詩の違い、近体詩の格律（きまり・法則）など、基本知識をおさえます。

【概要】

中国古典は、ヨーロッパや日本の文学と違って、恋愛をテーマにすることが少ないとされます。確かに、恋愛より友情をうたうほうが常道です。しかしそもそも作品の絶対数が膨大なので、恋愛をうたう詩文も少なくありません。「あなたに逢いたい」というシンプルな恋いうたから、恋愛そのものの曰くいいがたさを表現する象徴詩まで、傑作に事欠きません。

恋愛文学には、最適の賞味期間があります。皆さんは、そのただ中に居ます。賞味期間の過ぎないうちに、高校までの「漢文」にはまず出てこない、中国文学の非正統的にして不可欠な一面にぜひ触れてください。

4. 学習の到達目標：

1. 中国文学史の前半を知る。
2. いわゆる「漢文」の構造を知る。
3. できれば白文が読めるようになる。
4. いわゆる「漢詩」の法則と種類を知る。
5. できれば返り点送り仮名ナシの「漢詩」が読めるようになる。
6. 中国古典文学を、他の地域のそれと比較できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーションと時空の確認
2. 『詩経』の恋うた（1）——東アジア最古の恋愛詩
3. 『詩経』の恋うた（2）——3000年前のギャル？
4. 漢代と南朝の民歌（1）——軍楽隊が恋を歌う
5. 漢代と南朝の民歌（2）——かけことばの饗宴
6. 陶淵明のうた（1）——夏目漱石と魯迅の中の陶淵明
7. 陶淵明のうた（2）——陶淵明はストーカー？
8. 盛唐の杜甫（1）——獄中の愛の詩
9. 盛唐の杜甫（2）——おじさんが新妻になりかわる？
10. 中唐の李賀（1）——沢木耕太郎の中の李賀
11. 中唐の李賀（2）——死せるひとの恋
12. 晩唐の李商隠（1）——missing you
13. 晩唐の李商隠（2）——恋愛そのものの描出
14. 宋代の李清照（1）——古典中国の女流詩人
15. 宋代の李清照（2）——彼女の恋したものは？

6. 成績評価方法：

出席（50%）

筆記試験（50%）

7. 教科書および参考書：

教科書は、プリントを配布します。

参考書は、授業中に適宜紹介します。

8. 授業時間外学習：

プリントは少し早めに配るので、所載の文の構造や、詩の対句・押韻について、見当をつけておいてください。

9. その他：

科目名：中国文学概論／ Chinese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：土屋 育子（准教授）

講義コード：LB44101, 科目ナンバリング：LHM-LIT202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国の小説と戯曲

2. Course Title (授業題目)：

Chinese Novel and Drama

3. 授業の目的と概要：

中国の小説・戯曲は、伝統詩文との関わりを保ちつつ、豊かな発展を遂げてきました。本講義では、「小説」と戯曲の起源を理解し、歴史的社会的背景をもとに中国の小説・戯曲がどのように発展してきたのかを、原文資料をもとに学びます。授業を通して、受講者の中国の小説と戯曲に対する基礎知識の再確認と理解を深めることを主たる目的とします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中国文学史（小説・戯曲）について知識を深める。
- (2) 中国の小説・戯曲の特徴を、多角的に考察し、自分の言葉でまとめられる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

作品の背景、作者、概要を説明し、原文を用いて作品を鑑賞します。

第一回 ガイダンス・志怪小説

第二回 唐代伝奇

第三回 宋元の小説

第四回 短篇白話小説

第五回 演劇史（1）

第六回 演劇史（2）

第七回 『三国志演義』（1）

第八回 『三国志演義』（2）

第九回 『水滸伝』（1）

第十回 『水滸伝』（2）

第十一回 『西遊記』（1）

第十二回 『西遊記』（2）

第十三回 『金瓶梅』

第十四回 清代の小説・戯曲

第十五回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席：50%

レポート：50%（レポート課題は講義の最終回に指示）

7. 教科書および参考書：

テキスト：プリント配布

参考書：授業中に紹介

8. 授業時間外学習：

授業中に紹介する参考書等を積極的に読み、講義内容の理解の参考にしてください。

9. その他：

科目名：中国文学基礎講読／ Chinese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：土屋 育子（准教授）

講義コード：LB33403, 科目ナンバリング：LHM-LIT213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国語実用文法研究

2. Course Title (授業題目)：

Chinese Grammar

3. 授業の目的と概要：

本講義は、中国語学習歴半年以上の学生が、中国語のリスニング、作文、スピーキングなどの演習を通して、中国語によるコミュニケーション能力・表現能力の向上を目指します。

(中国語を未履修の方は、事前にご相談ください。)

なお、この授業は講読演習を兼ねています。

4. 学習の到達目標：

(1) 現代中国語の文法について基礎的な事項を理解する。

(2) 基礎的な作文能力をつける。

(3) 基礎的な読解力を確実なものとする。

(4) 中国語の発音をブラッシュ・アップする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回 ガイダンス

第二回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (1)

第三回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (2)

第四回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (3)

第五回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (4)

第六回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (5)

第七回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (6)

第八回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (7)

第九回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (8)

第十回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (9)

第十一回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (10)

第十二回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (11)

第十三回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (12)

第十四回 発音、文法説明、翻訳、問題演習 (13)

第十五回 期末試験

6. 成績評価方法：

授業への取り組み、出席：50%

期末試験：50%

7. 教科書および参考書：

教科書については、初回に指示します。

辞書は、小学館『中日辞典』『日中辞典』、または、講談社『中日辞典』『日中辞典』などを用意してください。

8. 授業時間外学習：

毎回、辞書を用いた予習・復習を求めます。

9. その他：

科目名：中国文学基礎講読／ Chinese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：矢田 尚子（教授）

講義コード：LB43405, **科目ナンバリング：**LHM-LIT213J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代文読解による中国語実用文法研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of Chinese Grammar through reading Chinese Contemporary Prose

3. 授業の目的と概要：

【目的】中国語学習歴1年以上の受講生を対象に、中国語のより高度な読解能力・運用能力を身につけてもらうことを目的として開講します。

【概要】現代中国語で書かれた随筆や短編小説を取り上げて精読します。それを通して、受講生が、これまでに学んできた中国語の基礎的な文法事項について再確認し、理解を深めるとともに、発音のブラッシュアップができるよう促します。授業ではテキストを輪番で音読し、読解しますので、受講生の十分な予習が求められます。なお、この授業は、中国語の講読演習を兼ねています。

4. 学習の到達目標：

- ①現代中国語で書かれた随筆文や短編小説を、辞書を使いながら読んで理解し、適切な日本語に訳すことができる。
- ②現代中国語の文法についての知識を習得し、文章の文構造を把握できる。
- ③現代中国語で書かれた文章を正しい発音で音読することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 中国現代文読解 (1)
3. 中国現代文読解 (2)
4. 中国現代文読解 (3)
5. 中国現代文読解 (4)
6. 中国現代文読解 (5)
7. 中国現代文読解 (6)
8. 中国現代文読解 (7)
9. 中国現代文読解 (8)
10. 中国現代文読解 (9)
11. 中国現代文読解 (10)
12. 中国現代文読解 (11)
13. 中国現代文読解 (12)
14. 中国現代文読解 (13)
15. 中国現代文読解 (14)

6. 成績評価方法：

授業参加態度（発音・翻訳・応答などを含む）50%、筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

教科書については初回ガイダンスの際に指示します。参考書については授業で適時、紹介します。

8. 授業時間外学習：

予習：単語の発音を調べ、文構造や文法事項に留意しながら試訳文を作成する。

復習：主要な単語や文を暗記し、文構造や文法事項を正しく理解できるようにする。

9. その他：

科目名：中国語基礎演習／ Chinese Literature (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：馬 曉地 (准教授)

講義コード：LB31503, 科目ナンバリング：LHM-LIT214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中級会話

2. Course Title (授業題目)：

Chinses conversation

3. 授業の目的と概要：

毎週一つ的话题を決めて、早めに予習する上にそれをめぐって自由に話す。

4. 学習の到達目標：

日常会話及び学問に関する簡単な会話の能力を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 自己紹介

第2回 同上

第3回 家族

第4回 同上

第5回 友人

第6回 同上

第7回 趣味

第8回 同上

第9回 映画

第10回 同上

第11回 旅行

第12回 同上

第13回 運動

第14回 同上

第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

会話試験 (50%) 出席 (50%)

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：

科目名：中国語基礎演習／ Chinese Literature (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：馬 曉地 (准教授)

講義コード：LB41504, 科目ナンバリング：LHM-LIT214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中級会話

2. Course Title (授業題目)：

Chinses conversation

3. 授業の目的と概要：

毎週一つ的话题を決めて、早めに予習する上にそれをめぐって自由に話す。

4. 学習の到達目標：

日常会話及び学問に関する簡単な会話の能力を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 自己紹介

第2回 同上

第3回 夏休み

第4回 同上

第5回 大学

第6回 同上

第7回 授業

第8回 同上

第9回 読書

第10回 同上

第11回 漢詩

第12回 同上

第13回 食文化

第14回 同上

第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

会話試験 (50%) 出席 (50%)

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：

科目名：中国文学各論／ Chinese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB52402, 科目ナンバリング：LHM-LIT303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）

2. Course Title (授業題目)：

On Tang poetry

3. 授業の目的と概要：

晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 中国古代の詠史詩について
- 第2回 同上
- 第3回 唐代の詠史詩
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 詩人胡曾と彼の《詠史詩》
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 《詠史詩》精読
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめと復習

6. 成績評価方法：

レポート（50％） 出席（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：

科目名：中国文学各論／ Chinese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB62401, 科目ナンバリング：LHM-LIT303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

唐詩と唐代社会（胡曾の《詠史詩》）

2. Course Title (授業題目)：

On Tang poetry

3. 授業の目的と概要：

晩唐時代の詩人胡曾は上古から隋時代までの歴史を詠じる百五十首の詠史詩を作りました。これらの作品を一首一首精読し、詩の美しさを味わいながら、中国の歴史を勉強する。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。授業中に中国語で大量の詩文を読むので、受講生は二年以上中国語学習歴を有することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

唐詩の読解力を高める。特に中国語で唐詩及び文章を読む能力を養成すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 中国古代の詠史詩について
- 第2回 同上
- 第3回 唐代の詠史詩
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 詩人胡曾と彼の《詠史詩》
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 《詠史詩》精読
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめと復習

6. 成績評価方法：

レポート（50％） 出席（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：

科目名：中国文学各論／ Chinese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：川合 康三 (非常勤講師)

講義コード：LB98807, 科目ナンバリング：LHM-LIT303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国の詩学

2. Course Title (授業題目)：

Chinese Poetics

3. 授業の目的と概要：

中国古典詩の特質を考察する。

個々の作品及び詩人に関する研究には、すでに中国・日本・西欧に大きな蓄積があるが、中国古典詩の全体を貫く特質について、西欧・日本の詩とも比較しつつ考える。

4. 学習の到達目標：

中国古典詩全般に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

詩作品及び詩に関する言説を取り上げながら、それをもとに講述する。講義形式で行うが、随時、意見の提起を歓迎する。

- 1 詩とは何か、詩学とは何か。
- 2 中国古典詩の特質 1—道徳性
- 3 中国古典詩の特質 2—政治性
- 4 中国古典詩の特質 3—社会性
- 5 中国古典詩の担い手
- 6 恋愛の詩と友情の詩
- 7 女たちの文芸
- 8 伝統の一貫性
- 9 伝統の変容
- 10 詩と感情
- 11 詩と景物
- 12 人生の詩・靈感の詩
- 13 詩の動機
- 14 事実と虚構
- 15 詩の存在意義

6. 成績評価方法：

授業中の発言 (50%)

レポート (50%)

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配付する。

参考書：川合康三『中国名詩選 (上中下)』(岩波文庫)

8. 授業時間外学習：

前もって配布する資料を各自読んでおくこと。

9. その他：

積極的に発言することを求める。発言の正否は問わない。

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：土屋 育子（准教授）

講義コード：LB63402, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国の通俗文学を読む

2. Course Title (授業題目)：

Chinese Popular Literature

3. 授業の目的と概要：

中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の俗文学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力を習得します。授業は、発表と質疑応答によってすすめます。今学期は出席者の希望により決定します。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中国近世の白話文の読解力を向上させる。
- (2) 白話文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。
- (3) 辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に習熟する。
- (4) 歴史的背景を基に、白話文学作品がどのように変遷してきたかを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりである。

1. イントロダクション
2. 作品について
3. 発表と質疑応答 (1)
4. 発表と質疑応答 (2)
5. 発表と質疑応答 (3)
6. 発表と質疑応答 (4)
7. 発表と質疑応答 (5)
8. 発表と質疑応答 (6)
9. 発表と質疑応答 (7)
10. 発表と質疑応答 (8)
11. 発表と質疑応答 (9)
12. 発表と質疑応答 (10)
13. 発表と質疑応答 (11)
14. 発表と質疑応答 (12)
15. 発表と質疑応答 (13)

6. 成績評価方法：

出席：30%

発表・授業への取り組み：70%

7. 教科書および参考書：

テキストはプリントを配布。Textbooks are handed out at the beginning of the course.

参考文献は授業中に指示。References books will be designated at every class.

8. 授業時間外学習：

辞書を用いて予習・復習することを原則とします。原文の一字一字についてそれがどのような意味か、その箇所が前後の文脈からどのような状況を言っているのか、などに気を配りながら、丁寧な学習をこころがけてください。

9. その他：

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：土屋 育子（准教授）

講義コード：LB53502, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国の通俗文学を読む

2. Course Title (授業題目)：

Chinese Popular Literature

3. 授業の目的と概要：

中国近世の白話文学作品の読解を通して、中国の通俗文学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力を習得することを目的とします。授業は、発表と質疑応答によって進めます。

今学期は『西遊記』を取り上げます。

4. 学習の到達目標：

- (1) 中国近世の白話文の読解力を向上させる。
- (2) 白話文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。
- (3) 辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に習熟する。
- (4) 歴史的背景を基に、白話文学作品がどのように変遷してきたかを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりである。

1. イントロダクション
2. 作品について
3. 発表と質疑応答 (1)
4. 発表と質疑応答 (2)
5. 発表と質疑応答 (3)
6. 発表と質疑応答 (4)
7. 発表と質疑応答 (5)
8. 発表と質疑応答 (6)
9. 発表と質疑応答 (7)
10. 発表と質疑応答 (8)
11. 発表と質疑応答 (9)
12. 発表と質疑応答 (10)
13. 発表と質疑応答 (11)
14. 発表と質疑応答 (12)
15. 発表と質疑応答 (13)

6. 成績評価方法：

出席：30%

発表・授業への取り組み：70%

7. 教科書および参考書：

テキストはプリントを配布。

参考文献は授業中に指示。

8. 授業時間外学習：

辞書を用いて予習・復習することを原則とします。原文の一字一字についてそれがどのような意味か、その箇所が前後の文脈からどのような状況を言っているのか、などに気を配りながら、丁寧な学習をこころがけてください。

9. その他：

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB54205, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国当代文学研究

2. Course Title (授業題目)：

Chinses modern novel

3. 授業の目的と概要：

中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶广芩氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。

4. 学習の到達目標：

中国当代の文学作品の読解力を高めること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 中国当代女性作家と代表作品

第2回 同上

第3回 叶广芩と彼女の《全家福》

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 《全家福》第11章の精読

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 まとめと復習

6. 成績評価方法：

レポート（50％）、出席（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視すること。

9. その他：

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB64204, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国当代文学研究

2. Course Title (授業題目)：

Chinses modern novel

3. 授業の目的と概要：

中国当代の有名な女性作家の代表作品を選んで精読し、面白い内容と新鮮な言語表現を味わう。今年叶广芩氏の京味小説《全家福》を読む。授業は輪番で報告してもらう形式で進める。

4. 学習の到達目標：

中国当代の文学作品の読解力を高めること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 叶广芩と彼女の《全家福》

第2回 同上

第3回 同上

第4回 《全家福》第11章の精読

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 まとめと復習

6. 成績評価方法：

レポート（50％）、出席（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視すること。

9. その他：

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：矢田 尚子（教授）

講義コード：LB55101, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

楚辞文学研究

2. Course Title (授業題目)：

Literary Study of Chu Ci

3. 授業の目的と概要：

【目的】中国古典詩文の基礎的・伝統的な読解方法、テキストの校勘方法など、中国古典文学を研究していく上で必要なスキルを習得することを目的とします。

【概要】中国詩歌文学の源流の一つである韻文文学作品『楚辞』の代表的な作品である「離騷」を解説します。授業は、受講者の発表と質疑応答を中心に進めていきます。担当者は、テキストおよび関係資料を精査してレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表をおこないます。担当者以外の受講者は、レジュメや口頭発表の内容について質問・意見を出し、双方の議論を通して、テキストに対する理解を深めていきます。

4. 学習の到達目標：

- ①中国古典詩文を読む際に必要な基礎的事項を理解し、実際に運用することができる。
- ②分かりやすいレジュメを作成し、内容が的確に伝わるように口頭で説明することができる。
- ③レジュメや発表の内容を理解して疑問点や問題点を明確にし、積極的に質問や意見を出すことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 『楚辞』について(1)
3. 『楚辞』について(2)
4. 『楚辞』「離騷」の解説(1)
5. 『楚辞』「離騷」の解説(2)
6. 『楚辞』「離騷」の解説(3)
7. 『楚辞』「離騷」の解説(4)
8. 『楚辞』「離騷」の解説(5)
9. 『楚辞』「離騷」の解説(6)
10. 『楚辞』「離騷」の解説(7)
11. 『楚辞』「離騷」の解説(8)
12. 『楚辞』「離騷」の解説(9)
13. 『楚辞』「離騷」の解説(10)
14. 『楚辞』「離騷」の解説(11)
15. 『楚辞』「離騷」の解説(12)

6. 成績評価方法：

授業参加態度（質疑応答）50%、発表内容（レジュメおよび口頭での説明）50%

7. 教科書および参考書：

教科書については初回ガイダンスの際に指示します。参考書については授業で適時、紹介します。

8. 授業時間外学習：

予習：担当者は、テキストの担当箇所および関連書籍を精査してレジュメを作成するとともに、質疑応答に備えること。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読し、関連書籍にも目を通して、疑問点・問題点を発見すること。

復習：担当者は、授業中の議論を通して明確になった点を反映させてレジュメに修正を加えること。担当者以外の受講者は、授業中の議論によって得られた知見を自身の担当時に反映させることができるよう理解を深めておくこと。

9. その他：

科目名：中国文学演習／ Chinese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：矢田 尚子（教授）

講義コード：LB65102, 科目ナンバリング：LHM-LIT318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

楚辞文学研究

2. Course Title (授業題目)：

Literary Study of Chu Ci

3. 授業の目的と概要：

【目的】中国古典詩文の基礎的・伝統的な読解方法、テキストの校勘方法など、中国古典文学を研究していく上で必要なスキルを習得することを目的とします。

【概要】中国詩歌文学の源流の一つである韻文文学作品『楚辞』の代表的な作品である「離騷」を解説します。授業は、受講者の発表と質疑応答を中心に進めていきます。担当者は、テキストおよび関係資料を精査してレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表をおこないます。担当者以外の受講者は、レジュメや口頭発表の内容について質問・意見を出し、双方の議論を通して、テキストに対する理解を深めていきます。

4. 学習の到達目標：

- ①中国古典詩文を読む際に必要な基礎的事項を理解し、実際に運用することができる。
- ②分かりやすいレジュメを作成し、内容が的確に伝わるように口頭で説明することができる。
- ③レジュメや発表の内容を理解して疑問点や問題点を明確にし、積極的に質問や意見を出すことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 『楚辞』について(1)
3. 『楚辞』について(2)
4. 『楚辞』「離騷」の解説(1)
5. 『楚辞』「離騷」の解説(2)
6. 『楚辞』「離騷」の解説(3)
7. 『楚辞』「離騷」の解説(4)
8. 『楚辞』「離騷」の解説(5)
9. 『楚辞』「離騷」の解説(6)
10. 『楚辞』「離騷」の解説(7)
11. 『楚辞』「離騷」の解説(8)
12. 『楚辞』「離騷」の解説(9)
13. 『楚辞』「離騷」の解説(10)
14. 『楚辞』「離騷」の解説(11)
15. 『楚辞』「離騷」の解説(12)

6. 成績評価方法：

授業参加態度（質疑応答）50%、発表内容（レジュメおよび口頭での説明）50%

7. 教科書および参考書：

教科書については初回ガイダンスの際に指示します。参考書については授業で適時、紹介します。

8. 授業時間外学習：

予習：担当者は、テキストの担当箇所および関連書籍を精査してレジュメを作成するとともに、質疑応答に備えること。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読し、関連書籍にも目を通して、疑問点・問題点を発見すること。

復習：担当者は、授業中の議論を通して明確になった点を反映させてレジュメに修正を加えること。担当者以外の受講者は、授業中の議論によって得られた知見を自身の担当時に反映させることができるよう理解を深めておくこと。

9. その他：

中国思想中国哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
中国思想概論	明清思想史概論	2	三浦 秀一	3	火	1	1
中国思想概論	秦漢魏晉思想史概説	2	齋藤 智寛	4	火	1	2
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級1	2	齋藤 智寛	3	月	2	3
中国思想基礎講読	中国思想文献講読・初級2	2	三浦 秀一	4	月	2	4
中国思想各論	中国古代中世思想研究の現状	2	齋藤 智寛	5	金	2	5
中国思想各論	中国近世・近代思想研究の現状と課題	2	三浦 秀一	6	金	2	6
中国思想各論	陸王心学研究	2	小路口 聡	集中(5)			7
中国思想演習	錢大昕『論語』問答研究	2	三浦 秀一	5	水	2	8
中国思想演習	漢代思想文献精読	2	齋藤 智寛	6	水	2	9

科目名：中国思想概論／ Chinese Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB32101, **科目ナンバリング：**LHM-PHI202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清思想史概論

2. Course Title (授業題目)：

Ming-Qing China Intellectual History

3. 授業の目的と概要：

モンゴル王朝を打ち倒した明王朝は、朱子学を中心とする学術をその体制教学として整備するとともに、科举制度によってその普及をはかった。しかしその体制教学が形骸化するにともない、それを批判する思想活動が発生し、その活動は、やがて陳白沙や王陽明といった思想家によって体系化され、明代後半における知識人社会の主流となった。だが、その新たな学問に対しても批判の潮流が湧き起こり、そうしたなか明王朝は倒潰する。漢民族の王朝である明朝に替わって中国大陸を支配した満州族の清朝は、思想界の混乱を收拾すべく明朝以前の朱子学に依拠する姿勢を示し、かつまた漢民族の知的自由を制限するのだが、知識人社会における学術の主流は、中国の古典を文献実証的な方法によって解釈する学問へと移行する。しかし清朝中期以降、そうした禁欲の学問に対する自己批判の動きが生まれると同時に、欧州列強からの圧力により、西洋の学問が中国に流入することになった。思想学術のこうした歴史的展開について、原資料を紹介しながら解説してゆくことにより、時代思潮の特徴に関する理解を培い、あわせて中国思想史の基礎知識を、部分的ながらも習得する。

4. 学習の到達目標：

明・清両王朝の治下において、如何なる思想が形成され、またそれがどのように展開したのかを、その思想史的背景に溯りつつ、根拠にもとづきながら説明できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス・序論

第2回：明初思想：宋濂の心学

第3回：明代前半の朱子学と科举

第4回：陳献章

第5回：陳献章の弟子たち

第6回：王守仁

第7回：王守仁の弟子たち（1）

第8回：王守仁の弟子たち（2）

第9回：明代後半の出版文化

第10回：明代後半の老荘学

第11回：清初の代表的思想家（1）：黄宗羲

第12回：清初の代表的思想家（2）：王夫之

第13回：四庫全書の編纂と戴震の思想

第14回：章学誠の六経皆史論

第15回：龔自珍と清代後半の思想情況

6. 成績評価方法：

3回の課題レポートによって成績を判断する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、配付資料によって授業をおこなう。基本的な参考書は第1回の講義において紹介する。

8. 授業時間外学習：

第1回講義において紹介された参考書等を読むとともに、配付資料を復習し、レポートの作成に備える。

9. その他：

特になし。

科目名：中国思想概論／ Chinese Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：齋藤 智寛 (准教授)

講義コード：LB42101, **科目ナンバリング：**LHM-PHI202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

秦漢魏晉思想史概説

2. Course Title (授業題目)：

Intellectual History in Qin-Han through Wei-Jin era in China

3. 授業の目的と概要：

秦によって戦国時代に終止符を打たれた中国大陆は、漢による 400 年の統一を経て、魏晉期にはふたたび分裂の時代を迎える。この 400 年を思想史的に見れば、諸子百家の時代が終わり、法家思想や道法折衷的な政治思想がおこなわれる時期を経て儒教一尊体制が確立し、統一王朝の動揺とともに道家思想や宗教思想がふたたび関心を集めるまでの時期と言える。本講義は、この大きな流れの上に位置する諸思想を原典の翻訳にもとづいて解説するとともに、合わせて中心的な思潮に懐疑的な思想や、出土文物を手がかりに見えて来る精神世界についても紹介する。

4. 学習の到達目標：

講義で取り上げられた諸思想と歴史的背景とについて理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 秦漢思想前史：荀子の思想
3. 秦漢思想前史：韓非子の思想
4. 『呂氏春秋』の思想
5. 漢初の黄老思想と儒教思想
6. 『淮南子』の思想
7. 前漢武帝期の儒教思想
8. 『白虎通』と後漢初期の儒学
9. 桓譚『新論』と王充『論衡』の思想
10. 後漢末の儒学と政治思想
11. 魏晉玄学の思想
12. 魏晉期の古典解釈とその思想
13. 史学の成立と漢魏の学術史
14. 出土文物から見た古代思想：馬王堆帛書の世界
15. 出土文物から見た古代思想：非文字資料に現れた思想と信仰

6. 成績評価方法：

学期中の小テストまたは小レポート (30%)、期末レポート (70%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

紹介された参考書は積極的に読んでみることを。

9. その他：

科目名：中国思想基礎講読／ Chinese Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛 (准教授)

講義コード：LB31202, 科目ナンバリング：LHM-PHI209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国思想文献講読・初級 1

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Classical Chinese: Using Philosophical Texts 1

3. 授業の目的と概要：

句読点と訓点が施された中国思想文献を読む。漢文の基本的な語法に習熟すると共に、思想文献特有の思惟方法や表現形式に慣れるのが目的である。テキストとしては、安井息軒『大学説』を予定している。

4. 学習の到達目標：

訓点を頼りに中国思想に関する漢文文献を読むことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 漢文基礎文法 1
3. 漢文基礎文法 2
4. 漢文基礎文法 3
5. 『大学説』読解 1
6. 『大学説』読解 2
7. 『大学説』読解 3
8. 『大学説』読解 4
9. 『大学説』読解 5
10. 『大学説』読解 6
11. 『大学説』読解 7
12. 『大学説』読解 8
13. 『大学説』読解 9
14. 『大学説』読解 10
15. 『大学説』読解 11

6. 成績評価方法：

予習状況と討論での発言状況 (100%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。

8. 授業時間外学習：

辞書を引き、訓読と現代日本語訳を準備すること。

9. その他：

科目名：中国思想基礎講読／ Chinese Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB41203, 科目ナンバリング：LHM-PHI209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国思想文献講読・初級 2

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese Philosophical Classics 2

3. 授業の目的と概要：

思想的な内容をもつとともに、訓点などが施された中国古典のテキストに対し、受講者各自が訓読や現代語訳、注解をおこなう。そうした訓練を重ねるなかで、高校段階における「漢文訓読」のレベルを超え、中国の古典文に対する深い読解が可能になるような基礎力を身につける。

4. 学習の到達目標：

思想系の中国古典文において特徴的な語彙や語法を知るとともに、古典文全般に対する基礎的読解力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンスとテキストの紹介

第2回：中国古典文の読解と討論（1）

第3回：中国古典文の読解と討論（2）

第4回：中国古典文の読解と討論（3）

第5回：中国古典文の読解と討論（4）

第6回：中国古典文の読解と討論（5）

第7回：中国古典文の読解と討論（6）

第8回：中国古典文の読解と討論（7）

第9回：中国古典文の読解と討論（8）

第10回：中国古典文の読解と討論（9）

第11回：中国古典文の読解と討論（10）

第12回：中国古典文の読解と討論（11）

第13回：中国古典文の読解と討論（12）

第14回：中国古典文の読解と討論（13）

第15回：中国古典文の読解と討論（14）

6. 成績評価方法：

授業時間内における報告内容（50％）、討論への参加度（50％）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。

8. 授業時間外学習：

漢和辞典を活用した、徹底的な予習。

9. その他：

特になし。

科目名：中国思想各論／ Chinese Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛 (准教授)

講義コード：LB55202, 科目ナンバリング：LHM-PHI302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国古代中世思想研究の現状

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the contemporary researches for Chinese ancient and medieval thought

3. 授業の目的と概要：

日本国内の学術誌に発表された学術論文を題材に、中国古代中世思想研究の現状を把握し検討する。授業は、担当教員による講義と受講生による発表と討論の両形式により進める。発表では、発表担当者は自分の選んだ論文について紹介し、教員と他の受講生も当該論文の内容について討論する。学術論文について研究史や著者の課題といった背景を踏まえた読解をし、その理解の上に立って的確な批判と批評をおこなう能力を養うのが本講義の目的である。

4. 学習の到達目標：

学術論文の論旨を理解し、他人にも説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入。

2. 論文の紹介と批評 1

3. 論文の紹介と批評 2

4. 論文の紹介と批評 3

5. 論文の紹介と批評 4

6. 論文の紹介と批評 5

7. 論文の紹介と批評 6

8. 論文の紹介と批評 7

9. 発表と討論 1

10. 発表と討論 2

11. 発表と討論 3

12. 発表と討論 4

13. 発表と討論 5

14. 発表と討論 6

15. 発表と討論 7

6. 成績評価方法：

発表内容と討論での発言 (100%)

7. 教科書および参考書：

講義中に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

講義で取り上げる論文は各自読んでおくこと。

9. その他：

科目名：中国思想各論／ Chinese Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB65202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国近世・近代思想研究の現状と課題

2. Course Title (授業題目)：

Recent Studies on the Thought of the Pre-modern and Modern China in Japan

3. 授業の目的と概要：

中国思想に関する日本語で書かれた研究論文・論著のなかから、いわゆる近世から近代にいたる時期を対象として執筆された最近の作品を読み、その概要をまとめる。受講生は、そうした作業を通じて、当該時代の研究状況を全体的に把握するとともに、個別の論文に対する批判的読解の作法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

学術論文の探索、読解、批判に習熟する。中国近世、近代の思想に関する研究の動向を掌握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：中国近世思想関連論文選読（1）

第3回：討議（1）

第4回：中国近世思想関連論文選読（2）

第5回：討議（2）

第6回：中国近代思想関連論文選読（1）

第7回：討議（1）

第8回：中国近世思想関連論文選読（3）

第9回：討議（3）

第10回：中国近世思想関連論文選読（4）

第11回：討議（4）

第12回：中国近代思想関連論文選読（2）

第13回：討議（2）

第14回：中国近代思想関連論文選読（3）

第15回：討議（3）

6. 成績評価方法：

授業時間内における報告内容（50％）、討論への参加度（50％）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、討論の対象となる研究論文をその都度、配付する。

8. 授業時間外学習：

自身が担当する論文について、論証方法や独自性などに注意しながら、その概要をまとめ、報告の準備をおこなう。自身が担当しない論文についても、事前に読んでおく。

9. その他：

特になし。

科目名：中国思想各論／ Chinese Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：小路口 聡 (非常勤講師)

講義コード：LB98808, **科目ナンバリング：**LHM-PHI302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

陸王心学研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of the mind learning by Lu Jiu-yuan and Wang Shou-ren

3. 授業の目的と概要：

中国哲学の研究とは、中国思想のテキストを、ひとつの哲学的資源として、主体的に読み、思索し、言葉にするという営みである。宋明の儒学者、主に南宋の朱熹と陸九淵、そして、明の王守仁と王畿という4人の哲学者のテキストの精読を通して、中国哲学の可能性について、一緒に考えていきたい。

4. 学習の到達目標：

- ・中国哲学の研究に興味を持つことができた。
- ・中国哲学のテキストを主体的に読むことの意義を理解した。
- ・中国哲学の可能性の一端に触れることができた。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス—中国哲学を学ぶことの意義
- 2) 「儒学」とは？——「学び」の主体としての人間の発見
- 3) 木下鉄矢氏の仕事をふりかえる——朱子学とは？
- 4) 哲学的人間観としての性善説の意義
- 5) 朱熹哲学の基軸——木下論文再読
- 6) 朱陸論争とは何だったのか？
- 7) 陸九淵心学再考
- 8) 「心の病」は医し難し —陸九淵の朱子学批判 (1)
- 9) 事実の楽しみ、言語の病 —陸九淵の朱子学批判 (2)
- 10) 「心学」の血脈——陸九淵・王守仁・王畿
- 11) 宋明儒学思想における「現在」主義の哲学
- 12) 王畿の思想——良知現成論とは？
- 13) 良知心学と講学活動
- 14) 『語り合う〈良知〉たち』について
- 15) まとめ

方法：

講義形式で行うが、演習や討議も取り入れる。受講者はあらかじめ配付されて原典資料を各自で読んでおくこと。また、授業で取り上げる哲学者達の問題提起について、討議を行うので、主体的に参加すること。

6. 成績評価方法：

評価項目としては、事前に課す課題(20%)、及び、事後に課すレポート (60%)、及び、授業における発言 (口頭、リアクション・ペーパー等/20%) をもとに、総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は、特に使用しない。プリントを配布する。

参考書：

小路口聡『即今自立の哲学——陸九淵心学再考——』研文出版

『哲学的資源としての中国思想——吉田公平教授退休記念論集』研文出版

小路口聡編著『語り合う〈良知〉たち——王龍溪の良知心学と講学活動——』研文出版

木下鉄矢『朱子学』講談社現代新書メチエ

木下鉄矢『朱熹再考』研文出版

木下鉄矢『朱熹哲学の視軸』研文出版

吉田公平『中国近世の心学思想』研文出版

8. 授業時間外学習：

講義の中で検討する原典資料 (漢文) を事前に配付するので、各自、読んでくること。

参考文献に目を通しておくこと。

9. その他：

科目名：中国思想演習／ Chinese Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：三浦 秀一（教授）

講義コード：LB53204, 科目ナンバリング：LHM-PHI310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

銭大昕『論語』問答研究

2. Course Title (授業題目)：

Stydy of Qian Da-xin's "Lunyu Dawen(Questions and answers on the Analects)"

3. 授業の目的と概要：

清代中期の学者である銭大昕が残した『論語』をめぐる諸問題への問答を読み、その内容や問題解決の方法とを把握することによって、かかる知見の同時代的ないし思想史的意義を考察する。授業は、担当者が各自、テキストの訳注を作成し、それにもとづいて受講者全員が討議を重ねながら、より妥当な訳注の完成をめざす。

4. 学習の到達目標：

銭大昕による解釈の内容と方法とに習熟する。

中国古典文の訳注作業を覚える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：第1条読解

第3回：同討論

第4回：第2条読解

第5回：同討論

第6回：第3条読解

第7回：同討論

第8回：第4条読解

第9回：同討論

第10回：第5条読解

第11回：同討論

第12回：第7条読解

第13回：同討論

第14回：第8条読解

第15回：同討論

6. 成績評価方法：

発表（60%）、受講態度（40%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義のなかで紹介する。

8. 授業時間外学習：

担当者は、発表の準備を入念におこなう。担当者以外の受講者も、担当者と同等もしくはそれ以上に、読解のための予習をおこなう。また、発表時に配布されたレジュメ等に関しては、それを改めて読み直し、次回以降の授業に活用する。

9. その他：

特になし。

科目名：中国思想演習／ Chinese Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛 (准教授)

講義コード：LB63203, 科目ナンバリング：LHM-PHI310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

漢代思想文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Research: the Thought of Han dynasty in China

3. 授業の目的と概要：

後漢・荀悦の『申鑑』を読む。漢文読解力を向上させつつ、原典を通して漢代思想についての理解を得るのが目標である。

4. 学習の到達目標：

句読点のほどこされていない中国古典文を読み、日本語に翻訳することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入

2. 『申鑑』会読 1

3. 『申鑑』会読 2

4. 『申鑑』会読 3

5. 『申鑑』会読 4

6. 『申鑑』会読 5

7. 『申鑑』会読 6

8. 『申鑑』会読 7

9. 『申鑑』会読 8

10. 『申鑑』会読 9

11. 『申鑑』会読 10

12. 『申鑑』会読 11

13. 『申鑑』会読 12

14. 『申鑑』会読 13

15. 『申鑑』会読 14

6. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況 (100%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。

9. その他：

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	火	2	1
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	4	火	2	2
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	3	月	5	3
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	4	月	5	4
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	火	5	5
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	火	5	6
東洋史各論	清朝のモンゴル統治	2	岡 洋樹	5	水	4	7
東洋史各論	六朝時代の諸問題	2	川合 安	5	金	2	8
東洋史各論	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	6	金	2	9
東洋史各論	明清時代の諸問題	2	井上 徹	集中(6)			10
東洋史各論	唐宋時代の法と刑罰	2	徳永 洋介	集中(6)			11
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	水	5	12
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	水	5	13
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川合 安	5	金	4	14
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川合 安	6	金	4	15

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB32201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：

中国清王朝 (1616-1912) の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科举制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. 学習の到達目標：

中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国清王朝の歴史について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 清王朝成立史 (1)
4. 清王朝成立史 (2)
5. 康熙・雍正・乾隆時代史 (1)
6. 康熙・雍正・乾隆時代史 (2)
7. 康熙・雍正・乾隆時代史 (3)
8. 清朝文書行政 (1)
9. 清朝文書行政 (2)
10. 官僚制度－中央官制
11. 官僚制度－地方官制
12. 清朝後期史 (1)
13. 清朝後期史 (2)
14. 清朝の滅亡
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB42202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：

中国明王朝 (1368-1644) の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科举制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. 学習の到達目標：

中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国明王朝の歴史について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 明王朝成立史 (1)
4. 明王朝成立史 (2)
5. 明王朝成立史 (3)
6. 官僚制度－中央官制 (1)
7. 官僚制度－地方官制 (2)
8. 明代中期の歴史 (1)
9. 明代中期の歴史 (2)
10. 例の成立 (1)
11. 例の成立 (2)
12. 明末政治史 (1)
13. 明末政治史 (2)
14. 明清交替の歴史
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB31504, **科目ナンバリング：**LHM-HIS209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N 〈 R e a d i n g 〉

3. 授業の目的と概要：

中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』隋紀（隋の時代について書かれた部分）の隋代末期の記述を取り上げる。受講者は、9 回目の授業以降、全員、当該部分の書き下し文と現代日本語訳を準備し、発表する。

4. 学習の到達目標：

中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』について
- 2、隋代史概説
- 3、漢文語法概説
- 4、漢和辞典（小型のもの）を使ってみる
- 5、『大漢和辞典』、『漢語大詞典』を使ってみる
- 6、返り点、送り仮名をつけて漢文を読んでみる
- 7、『資治通鑑』の訓読、現代日本語訳の実例
- 8、『資治通鑑』隋紀講読（1）李淵の挙兵準備
- 9、『資治通鑑』隋紀講読（2）李淵、王威らを斬る
- 10、『資治通鑑』隋紀講読（3）李密の動向
- 11、『資治通鑑』隋紀講読（4）李淵、突厥と結ぶ
- 12、『資治通鑑』隋紀講読（5）李淵、西河を攻撃
- 13、『資治通鑑』隋紀講読（6）李淵、大將軍となる
- 14、『資治通鑑』隋紀講読（7）突厥、李淵に馬を送る
- 15、授業の総括と試験

6. 成績評価方法：

小テスト（1～7 回の授業時に実施）20%、発表内容（8～14 回）30%、試験（最終回）50%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：小川環樹・西田太郎『漢文入門』（岩波書店「岩波全書」、1957 年）。ほかは、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

8 回目の授業以降、毎回、授業前に当該箇所の書き下し文と現代日本語訳とを準備する。

9. その他：なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：川合 安（教授）

講義コード：LB41505, **科目ナンバリング：**LHM-HIS209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N (R e a d i n g)

3. 授業の目的と概要：

『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文（漢文）で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。4 回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備し発表する。あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についても報告する。

4. 学習の到達目標：

学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』隋紀の関連史料
- 2、隋唐時代の官職、制度等の調べ方
- 3、隋唐史関係研究論文の調べ方
- 4、『資治通鑑』隋紀講読（1）李淵の挙兵
- 5、『資治通鑑』隋紀講読（2）李淵と李密の連携
- 6、『資治通鑑』隋紀講読（3）李淵の進軍
- 7、『資治通鑑』隋紀講読（4）李軌の自立
- 8、『資治通鑑』隋紀講読（5）薛举の自立
- 9、『資治通鑑』隋紀講読（6）竇憲徳の活躍
- 10、『資治通鑑』隋紀講読（7）李淵、霍邑を占領
- 11、『資治通鑑』隋紀講読（8）李淵軍、龍門に到達
- 12、『資治通鑑』隋紀講読（9）関中の群盗の動向
- 13、『資治通鑑』隋紀講読（10）魏徴、李密に仕える
- 14、『資治通鑑』隋紀講読（11）李密の勢力拡大
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト（1～3 回、最終回の授業時に実施）20%、発表内容（4～14 回）80%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

8. 授業時間外学習：

4 回目の授業以降、受講者は授業前に、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、東洋史研究室所蔵の関連史料についても調査しておく。

9. その他：なし

東洋史基礎講読（3 セメスター）と連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（准教授）

講義コード：LB52501, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. 学習の到達目標：

Paul Heng-chao Ch'en 著” Chinese Legal Tradition under the Mongols” を題材にして、元王朝の法律制度を中心に、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題 I ー (1) 及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題 I ー (2) 及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題 I ー (3) 及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題 I ー (4) 及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題 I ー (5) 及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題 I ー (6) 及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題 I ー (7) 及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題 I ー (8) 及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題 I ー (9) 及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題 I ー (10) 及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題 I ー (11) 及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題 I ー (12)
14. 中国近世史の諸問題 I ー (13)
15. 中国近世史の諸問題 I ー (14) 及びまとめ

6. 成績評価方法：

レポート。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB62501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題Ⅰー(1)及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題Ⅰー(2)及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題Ⅰー(3)及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題Ⅰー(4)及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題Ⅰー(5)及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題Ⅰー(6)及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題Ⅰー(7)及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題Ⅰー(8)及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題Ⅰー(9)及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題Ⅰー(10)及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題Ⅰー(11)及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題Ⅰー(12)
14. 中国近世史の諸問題Ⅰー(13)
15. 中国近世史の諸問題Ⅰー(14)及びまとめ

6. 成績評価方法：

レポート。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：岡 洋樹 (兼務教員)

講義コード：LB53402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

清朝のモンゴル統治

2. Course Title (授業題目)：

The Qing Dynasty's Rule over the Mongols

3. 授業の目的と概要：

マンジュが建国した清朝 (大清国) は、17 世紀から 18 世紀半ばまでにモンゴル遊牧民の大半を支配下に入れ、中国農耕社会と遊牧民社会を統合し、安定した統治を打ち立てた。また清の支配は、ロシアの東進とともに現在に至る東北アジアの政治地図の原型を作ったという意味でも重要な時代である。本講義では、清朝のモンゴル遊牧民統治の成立過程と行政統治構造を、遊牧民社会の特質にも目を配りつつ考察することによって、東北アジア地域史におけるその歴史的意義を論じる。

4. 学習の到達目標：

清代のモンゴルについては、東北アジアの遊牧民史上、漢文のみならず、モンゴル文・満洲文の史料が多数残されている。清代は、漢文史料などの隣接地域の史料に依拠しなければならない北元期までとは異なり、遊牧民自身が残した史料を用いてその政治・経済・社会・文化を明らかにすることができるという点で、前近代遊牧民史中特異な時代である。本講義では、これらの史料を用いながら、遊牧民の社会を内在的に理解することを目的とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義では以下の内容を考察する予定である。

1. イントロダクション：清朝のモンゴル統治と民族語史料
清代モンゴル史研究で用いられる主な史料を紹介し、これまでの研究史を概観する。
2. 清朝のモンゴル統治：統治の構造とその歴史的文脈
3. 清朝のモンゴル統治：いわゆる「封禁政策」をめぐって
4. 清朝のモンゴル統治：清朝皇帝と王公たち
5. 清代モンゴルの歴史認識
6. まとめ：東北アジア史の中の清代モンゴル

6. 成績評価方法：

出席 (50%) とレポート (50%) により評価する。

7. 教科書および参考書：

モンゴル史の概説

護雅夫, 岡田英弘編『中央ユーラシアの世界』民族の世界史 4、山川出版社、1990 年

宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』刀水書房、2002 年

島田正郎『北方ユーラシア法系通史』創文社、1995 年

清代の概説

岡田英弘, 神田信夫, 松村潤『紫禁城の栄光：明・清全史』講談社 (講談社学術文庫) 2006 年

石橋崇雄『大清帝国への道』講談社学術文庫、2011 年

清代モンゴル史の研究文献

田山茂『清代に於ける蒙古の社会制度』文京書院、1954 年

萩原守『清代モンゴルの裁判と裁判文書』創文社、2006 年

岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東方書店、2007 年

そのほか

森川哲雄『モンゴル年代記』白帝社、2007 年

8. 授業時間外学習：

上記参考書などにより、基本的な知識を得ておくこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55203, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

六朝時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of The Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：

中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、六朝時代の概略
- 2、秦漢古代帝国の概要
- 3、九品官人法の制定と魏の貴族制
- 4、西晋の貴族制
- 5、東晋の貴族制
- 6、五胡十六国における漢人士族
- 7、宋・齊の貴族制
- 8、梁の貴族制
- 9、陳の貴族制
- 10、北魏前期における漢人士族
- 11、北魏後期の貴族制
- 12、東魏・北齊の貴族制
- 13、西魏・北周の貴族制
- 14、隋・唐初の貴族制
- 15、総括

6. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート 70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布

参考書：川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「学術文庫」2003 年）。ほかは、講義中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65203, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

隋唐時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of Sui and Tang dynasties

3. 授業の目的と概要：

隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、隋唐時代の概略
- 2、隋王朝の政治
- 3、貞観の治
- 4、隋唐帝国と高句麗
- 5、則天武後の時代
- 6、玄宗の開元時代
- 7、玄宗の天宝時代
- 8、安史の乱
- 9、安史の乱後の情勢
- 10、徳宗の時代
- 11、憲宗の時代
- 12、牛李の党争
- 13、宣宗の時代
- 14、黄巢の乱
- 15、総括

6. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート 70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：布目潮風・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997 年）。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：井上 徹（非常勤講師）

講義コード：LB98809, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The Problem of Orthodoxy in Late Imperial China

3. 授業の目的と概要：

明代の広東は多民族・多文化が混在する辺境地帯であったが、明末清初までの間に漢族の儒教文化を中核とする一元的な社会へと変貌したこと（儒教化）を、宗族という男系血縁集団の動向を基点として、ヤオ族・チワン族などの少数民族、都市化・商業化、王朝の政策、郷紳など多様な観点から明らかにする。儒教化の際だった特色は、多様な産業をめぐって激化した争奪戦のなかで、郷紳を送り出して親族の結合を強め、科举官僚制を通じて国家と連携したことが競争に生き延びる最大の方策となった点であり、この競争に勝利した宗族は郷紳を抱える有力宗族

4. 学習の到達目標：

明清時代における地域固有の社会構造を解き明かす分析の方法を習得すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- ① ガイダンス
- ② 宗族分析の視角
- ③ 宗族研究の現状
- ④ 明朝の対外政策と両広社会
- ⑤ 民族反乱の勃発
- ⑥ 「華」はどのように「夷」を包摂したか？
- ⑦ 明朝の州県管理
- ⑧ 中国近世の都市と礼の威力
- ⑨ 石頭霍氏—広東の郷紳の家—
- ⑩ 霍氏と珠璣巷伝説
- ⑪ 霍輅による宗法システムの構築
- ⑫ 明末の商税徴収と広東社会
- ⑬ 明末の都市広州の搶米暴動と救済
- ⑭ 珠江デルタの郷紳と宗族
- ⑮ 総括と試験

6. 成績評価方法：

平常点（30％） 試験（70％）

7. 教科書および参考書：

教科書：プリント配布

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した論文、史料を精読すること

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：徳永 洋介 (非常勤講師)

講義コード：LB98810, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

唐宋時代の法と刑罰

2. Course Title (授業題目)：

Law and Punishment in China under the Tang-Song period

3. 授業の目的と概要：

唐朝が創りあげた精緻な官制や刑法の体系は、しばしば「律令体制」とも呼ばれ、わが国をはじめ、同時代の東アジア諸国家にも絶大な影響を及ぼした。八世紀なかばに集成された『六典』はこうした唐制の偉容を高らかに謳いあげるものであったが、ほどなく起きた安史の乱を経て、理念と現実の乖離は深刻の度を深めていった。その一方で、唐後半から南宋滅亡までの五百余年にわたる政治的な南北分断のなかで、つねに根幹的な法的権威を保ち機能していたのが唐の律や『六典』であった事実は注意されねばならない。換言すれば、唐宋時代を通じて、唐制の骨

4. 学習の到達目標：

唐宋時代の法と刑罰のあり方を通じて、「律令体制」なる言葉の虚実を把握するとともに、現代中国でもますます先鋭化している法と社会の関わりについても理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- ①漢律から唐律へー基本法典の成立ー
- ②律令格式の編纂ー唐代の副次法典ー
- ③刑統の時代ー律令法系の変容ー
- ④編勅から勅令格式へー宋代の副次法典ー
- ⑤用例破法と因例立法ー法の修正・追加の構造ー
- ⑥正刑と閏刑ー唐律の刑罰体系ー
- ⑦配流と左降ー律外の刑罰（１）ー
- ⑧杖殺刑の登場ー律外の刑罰（２）ー
- ⑨折杖法の成立ー五代濫刑の終焉ー
- ⑩配役と編配ー強制労働と強制移住ー
- ⑪神宗朝の刑法改革論ー『六典』的世界の再構築ー
- ⑫園土と拘鎖ー拘禁装置の多様化ー
- ⑬景迹と警跡ー隔離と監視ー
- ⑭唐律から明律へー近世後期の中国法ー
- ⑮まとめと展望、筆記試験

6. 成績評価方法：

講義の最後に行う筆記試験（70％）と平常点（30％）とをあわせて評価する。

7. 教科書および参考書：

必要な資料はプリントで配布する。

8. 授業時間外学習：

配布資料は事前に精読するとともに、講義中に紹介した参考文献には必ず目を通しておくこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB53503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き (史料の探し方や辞書・索引の使い方等) を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究 I - (1)
3. 明清史料研究 I - (2)
4. 明清史料研究 I - (3)
5. 明清史料研究 I - (4)
6. 明清史料研究 I - (5)
7. 明清史料研究 I - (6)
8. 明清史料研究 I - (7)
9. 明清史料研究 I - (8)
10. 明清史料研究 I - (9)
11. 明清史料研究 I - (10)
12. 明清史料研究 I - (11)
13. 明清史料研究 I - (12)
14. 明清史料研究 I - (13)
15. 明清史料研究 I - (14)

6. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

9. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB63502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究Ⅱー(1)
3. 明清史料研究Ⅱー(2)
4. 明清史料研究Ⅱー(3)
5. 明清史料研究Ⅱー(4)
6. 明清史料研究Ⅱー(5)
7. 明清史料研究Ⅱー(6)
8. 明清史料研究Ⅱー(7)
9. 明清史料研究Ⅱー(8)
10. 明清史料研究Ⅱー(9)
11. 明清史料研究Ⅱー(10)
12. 明清史料研究Ⅱー(11)
13. 明清史料研究Ⅱー(12)
14. 明清史料研究Ⅱー(13)
15. 明清史料研究Ⅱー(14)

6. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

9. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55404, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究 I

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、5 回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果を発表する。このような作業を通じて、漢文史料読解—研究の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。

4. 学習の到達目標：

中国古代・中世の漢文史料を読解し研究するための基本的手続きを理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『晋書』載記について
- 2、五胡十六国時代の概略
- 3、『晋書』載記の関連史料
- 4、『晋書』載記読解の実例
- 5、『晋書』載記を読む (1) 劉聡の晩年
- 6、『晋書』載記を読む (2) 劉粲の政治
- 7、『晋書』載記を読む (3) 靳準の乱
- 8、『晋書』載記を読む (4) 劉聡政権と陳元達
- 9、『晋書』載記を読む (5) 劉曜の人となり
- 10、『晋書』載記を読む (6) 劉曜の即位—前趙王朝の成立—
- 11、『晋書』載記を読む (7) 南陽王保の勢力
- 12、『晋書』載記を読む (8) 劉曜の隴右平定
- 13、『晋書』載記を読む (9) 氐・羌の動向
- 14、『晋書』載記を読む (10) 劉曜の政治
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト (1～4、15 回に実施) 20%、発表内容 (6～14 回) 80%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012 年)。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

5 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討する。

9. その他：なし

東洋史基礎講読 4 単位を既に履修していることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

『晋書』載記の研究Ⅰの作業を継続する。Ⅱでは、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底するとともに、必要に応じて先行研究批判も行う。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。

4. 学習の到達目標：

漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『晋書』載記関連研究論文について
- 2、『晋書』載記関連研究論文検証批判の実例
- 3、『晋書』載記を読む (1) 劉曜の政治に対する批判
- 4、『晋書』載記を読む (2) 劉曜の政治による災異
- 5、『晋書』載記を読む (3) 劉曜の氏・羌親征
- 6、『晋書』載記を読む (4) 劉曜による陵墓造営
- 7、『晋書』載記を読む (5) 劉曜、陳安を滅ぼす
- 8、『晋書』載記を読む (6) 前涼、前趙に服属
- 9、『晋書』載記を読む (7) 劉曜の後継者問題
- 10、『晋書』載記を読む (8) 劉曜と石勒との対峙
- 11、『晋書』載記を読む (9) 劉曜の子、劉胤の大単于就任
- 12、『晋書』載記を読む (10) 劉曜政権の人事異動
- 13、『晋書』載記を読む (11) 劉曜の仇池攻略
- 14、『晋書』載記を読む (12) 劉曜、石勒に大敗
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト (1、2、15 回の授業時に実施) 10%、発表内容 (90%)

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012 年)。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

3 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文、現代日本語訳を作成するほか、関連史料との記述の異同の調査考察、関連研究論文等の調査考察を行う。

9. その他：なし

『晋書』載記の研究Ⅰと連続して履修することが望ましい。

インド学仏教史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその1ー	2	桜井 宗信	3	火	1	1
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその2ー	2	桜井 宗信	4	火	1	2
パーリ語	パーリ語入門	2	西村 直子	3	水	5	3
パーリ語	パーリ語講読	2	西村 直子	4	水	5	4
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅰ	2	桜井 宗信	3	月	1	5
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅱ	2	桜井 宗信	4	月	1	6
インド学各論	祭式文献講読 新月満月祭における搾乳と酸乳製造	2	西村 直子	5	木	5	7
インド学各論	ヴェーダ文献講読	2	尾園 絢一	6	木	5	8
インド仏教史各論	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	5	火	2	9
インド仏教史各論	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	6	火	2	10
インド学演習	インド哲学文献講読	2	尾園 絢一	5	水	3	11
インド学演習	インド哲学文献研究	2	西村 直子	6	水	3	12
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	5	月	3	13
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	6	月	3	14

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB32102, **科目ナンバリング：**LHM-PHI204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド仏教史概説－その 1－

2. Course Title (授業題目)：

Outline of Indian Buddhist History 1

3. 授業の目的と概要：

釈尊（紀元前 5 世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。

4. 学習の到達目標：

釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 仏教成立時代の社会と思想の概略
2. 釈尊の生涯と主な事蹟- 1 -
3. 釈尊の生涯と主な事蹟- 2 -
4. 釈尊の生涯と主な事蹟- 3 -
5. 釈尊の思想- 1 -
6. 釈尊の思想- 2 -
7. 釈尊の思想- 3 -
8. 仏教教団の成立と展開- 1 -
9. 仏教教団の成立と展開- 2 -
10. アショーカ王と「法」- 1 -
11. アショーカ王と「法」- 2 -
12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 1 -
13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 2 -
14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 3 -
15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 4 -

6. 成績評価方法：

レポート [100%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。

8. 授業時間外学習：

レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

9. その他：

最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。

なお、参考書は授業において随時追加紹介を行う。

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB42102, **科目ナンバリング：**LHM-PHI204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド仏教史概説－その 2－

2. Course Title (授業題目)：

Outline of Indian Buddhist History 2

3. 授業の目的と概要：

インド大乘仏教史の概略を理解し、『般若経』等の初期大乘經典について学んだのち、中観派・瑜伽行唯識派という大乘仏教思想を代表する二大学派の内容を、基本的な専門用語の理解にも留意しながら把握することを目指す。

4. 学習の到達目標：

インドにおける大乘仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 大乘仏教の出現- 1 -
2. 大乘仏教の出現- 2 -
3. 初期大乘仏教經典概説- 1 -
4. 初期大乘仏教經典概説- 2 -
5. 初期大乘仏教經典概説- 3 -
6. ナーガールジュナと初期中観思想- 1 -
7. ナーガールジュナと初期中観思想- 2 -
8. 中期中観思想- 1 -
9. 中期中観思想- 2 -
10. 中期中観思想- 3 -
11. 瑜伽行唯識派の思想- 1 -
12. 瑜伽行唯識派の思想- 2 -
13. 瑜伽行唯識派の思想- 3 -
14. 瑜伽行唯識派の思想- 4 -
15. 予備時間

6. 成績評価方法：

レポート [100%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。

参考書は、授業時に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

9. その他：

「インド仏教史概説－その 1－の既習者であること」を履修の原則とする。

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB33502, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

パーリ語入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Pali language

3. 授業の目的と概要：

サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。 Geiger, A Pali Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pali Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。前期はブッダの前生譚である「ジャータカ」を扱う。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。

4. 学習の到達目標：

サンスクリット語の知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
- 2 「スンスマラー・ジャータカ」 (1)
- 3 同 (2)
- 4 同 (3)
- 5 同 (4)
- 6 「バカ・ジャータカ」 (1)
- 7 同 (2)
- 8 同 (3)
- 9 同 (4)
- 10 「シーハチャンマ・ジャータカ」
- 11 「ササ・ジャータカ」 (1)
- 12 同 (2)
- 13 同 (3)
- 14 同 (4)
- 15 同 (5)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

Geiger—Norman, A Pali Grammar, D. Anderson, A Pali Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB43502, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

パーリ語講読

2. Course Title (授業題目)：

Pali Reader

3. 授業の目的と概要：

文法事項，シンタクス，仏教用語などについて，繰り返し復習確認しながら，Anderson の Reader から抜粋して読む。ジャータカ，ブッダの伝記，ダンマパダ，ミリンダパンハーなど，言語と内容の両面を大切にして取り組む。

4. 学習の到達目標：

前期に習得した能力を基に，比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)
- 2 同 (2)
- 3 「ブッダの誕生」(1)
- 4 同 (2)
- 5 「四門出遊」(1)
- 6 同 (2)
- 7 「ボーディサッタの出家」 (1)
- 8 同 (2)
- 9 同 (3)
- 10 「ブッダの死」(1)
- 11 同 (2)
- 12 同 (3)
- 13 『ダンマパダ』より
- 14 『ミリンダパンハー』より(1)
- 15 同 (2)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%)，授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

Geiger—Norman, A Pali Grammar, D. Anderson, A Pali Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが，自分で持っていて後まで役立つ。辞書，参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

8. 授業時間外学習：

受講者は単語を調べ，語形を確定し，訳すように努力すること。予習が難しい場合は，授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。

科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：前期 月曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB31101, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典チベット語初級文法 I

2. Course Title (授業題目)：

Classical Tibetan Grammar

3. 授業の目的と概要：

チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。

教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、読解力の養成を計る。

4. 学習の到達目標：

(1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。

(2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. チベット文字発音法・正書法-1-

2. チベット文字発音法・正書法-2-

3. チベット文字発音法・正書法-3-

4. 古典チベット語初級文法-1-

5. 古典チベット語初級文法-2-

6. 古典チベット語初級文法-3-

7. 古典チベット語初級文法-4-

8. 古典チベット語初級文法-5-

9. 古典チベット語初級文法-6-

10. 古典チベット語初級文法-7-

11. 古典チベット語初級文法-8-

12. 古典チベット語初級文法-9-

13. 古典チベット語初級文法-10-

14. 古典チベット語初級文法-11-

15. 古典チベット語初級文法-12-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%), 授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；インド学仏教史研究室に備え付けがある）

8. 授業時間外学習：

予習時には教科書記載チベット文字例文の音読練習を行い、復習時には新出事項の確認-発音法・正書法学習時には各文字の発音・書取練習、文法学習時には新出チベット語単語や重要文法用語の記憶など-を行う。

9. その他：

サンスクリット語初級文法の既習者であることを原則とする。

また、教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。

科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：後期 月曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB41101, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典チベット語初級文法Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Classical Tibetan Grammar & Reading

3. 授業の目的と概要：

チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。本期は第 15 章の途中より読み始める予定。

「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた充分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。

4. 学習の到達目標：

古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『インド仏教史』訳読-1-
2. 『インド仏教史』訳読-2-
3. 『インド仏教史』訳読-3-
4. 『インド仏教史』訳読-4-
5. 『インド仏教史』訳読-5-
6. 『インド仏教史』訳読-6-
7. 『インド仏教史』訳読-7-
8. 『インド仏教史』訳読-8-
9. 『インド仏教史』訳読-9-
10. 『インド仏教史』訳読-10-
11. 『インド仏教史』訳読-11-
12. 『インド仏教史』訳読-12-
13. 『インド仏教史』訳読-13-
14. 『インド仏教史』訳読-14-
15. 『インド仏教史』訳読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（40%）、授業で示される理解度（60%）

7. 教科書および参考書：

Tāranātha：『インド仏教史』（コピーを配布する）

8. 授業時間外学習：

予習時に辞書を用いながら自らテキストの翻訳を行い、授業で発表出来るように準備する。

9. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。

科目名：インド学各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB54501, 科目ナンバリング：LHM-PHI303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

祭式文献講読 新月満月祭における搾乳と酸乳製造

2. Course Title (授業題目)：

Vedic literature

3. 授業の目的と概要：

ヴェーダ祭式の伝承はマントラ（祝詞、祭詞、B.C. 1200 年頃以降）を根幹とし、これに対するブラーフマナ（B.C. 8 世紀頃以降）を経てシュラウターストラ（祭式綱要書、B.C. 6 世紀頃以降）において体系化されるに至る。ブラーフマナは、マントラ（祝詞、祭詞）の解釈、祭式行為や道具、供物等の由来を語る神話及び神学議論などを主な内容とし、シュラウターストラの土台を為す部分とウパニシャッド（B.C. 600 年頃以降）に展開される哲学議論の萌芽的部分とを併せ持つ。本講義では新月満月祭の準備日の晩に行われる搾乳と酸乳（dadhi）製造のマントラとブラーフマナを取り上げ、読解演習を行う。ヤジールヴェーダ諸学派のサンヒター及びブラーフマナを用いる。ヴェーダ祭式の基本的伝承スタイルに触れ、ヴェーダの宗教及び祭式文献に関する知識を得るとともに、サンスクリット語の文法・語彙についても更なる理解の深化を目指す。『マイトラーヤニー サンヒター』『カタ・サンヒター』『タイッティリーヤ・サンヒター』『ヴァーージャサネーイ・サンヒター』『タイッティリーヤ・ブラーフマナ』『シャタパタ・ブラーフマナ』をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, McDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション（テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明）

2 Maitrāyaṇī Samhitā I 1, 3 (1)

3 同 (2)

4 同 IV 1, 3 (1)

5 同 (2)

6 同 (3)

7 Kaṭha-Samhitā I 3 (1)

8 同 XXXI 2 (2)

9 同 (3)

10 Taittirīya-Samhitā I 1, 3, Taittirīya-Brahmaṇa III 2, 3 (1)

11 同 (2)

12 同 (3)

13 Vājasaneyi-Samhitā I 2-4, Śatapatha-Brahmaṇa I 7, 1 (1)

14 同 (2)

15 同 (3)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（30%）、授業で示される理解度（70%）

7. 教科書および参考書：

Maitrāyaṇī Samhitā 及び Kaṭha-Samhitā (Ed. Schröder), Taittirīya-Samhitā (Ed. Keith), Taittirīya-Brahmaṇa (Ed. Ānandāśrama Sanskrit Series), Vājasaneyi-Samhitā (Ed. Weber), Śatapatha-Brahmaṇa (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MAYRHOFFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK: Altindische Syntax; WHITNEY: Sanskrit Grammar 等。

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回 7～9 詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：尾園 絢一 (非常勤講師)

講義コード：LB64501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ヴェーダ文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Vedic Literature

3. 授業の目的と概要：

インド最古の文献『リグヴェーダ』を中心とするヴェーダ文献を講読し、文献学的訓練を行う。今学期はヴァルナ讃歌を講読する。音韻、形態、シンタックス、意味、語源などの点から語形を分析し、原典の読解に取り組む。

4. 学習の到達目標：

- ・『リグヴェーダ』の原典を文法的、語源的に一語一語分析することができる。
- ・古インドアーリヤ語 (サンスクリット) 歴史文法の基礎を身につける。
- ・基本図書、関連図書の使い方を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 3 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 4 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 5 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 6 ヴァルナ讃歌 (RV II 28)
- 7 ヴァルナ讃歌 (RV II 28)
- 8 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 9 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 10 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 11 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 12 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)
- 13 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)
- 14 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)
- 15 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)

6. 成績評価方法：

平常点 (40%), 予習 (30%), 授業内容の理解度 (30%)

7. 教科書および参考書：

Aufrecht 校訂テキストのコピーを授業前に準備する。関連図書、先行研究については毎回の授業で紹介する。

他の参考図書：

H. Grassmann, Wörterbuch des Rigveda (1872-1885), M. Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen (1986-2001), T. Gotō, Old Indo-Aryan Morphology (2013), A.A. MacDonell, Vedic Grammar (1910), etc.

8. 授業時間外学習：

毎回の授業の予習と復習を行うこと。予め語形を分析し、訳すように努力すること。語彙や文法を詰め込むのではなく、原理を理解することが大事である。

9. その他：

受講者はサンスクリット語初級の知識を有すること。

科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

2. Course Title (授業題目)：

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan : reading

3. 授業の目的と概要：

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

4. 学習の到達目標：

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%), 授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po cheñi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol.3 (東洋文庫刊), pp.1-70.

8. 授業時間外学習：

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

9. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB62202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

2. Course Title (授業題目)：

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan : reading

3. 授業の目的と概要：

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

4. 学習の到達目標：

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%), 授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po cheñi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol.3 (東洋文庫刊), pp.1-70.

8. 授業時間外学習：

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

9. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：尾園 絢一 (非常勤講師)

講義コード：LB53307, **科目ナンバリング：**LHM-PHI311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド哲学文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

家長の義務、共同体の規範、慣習を定めた、最古の法経 (Dharmasūtra) の一つである Āpastamba Dharmasūtra を講読する。ヴェーダ文献やハラダッタ注の記述と比較しながら読み解き、ポスト・ヴェーダ期の社会、バラモン教の世界観の理解を目指す。

4. 学習の到達目標：

サンスクリット語の基本原理の理解、読解力の向上、文献学的手法の習得を目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 総則 1 (ĀpDhS I 1)
3. 総則 2 (ĀpDhS I 1)
4. 入門 1 (ĀpDhS I 1, 1)
5. 入門 2 (ĀpDhS I 1, 1)
6. 入門 3 (ĀpDhS I 1, 1)
7. 学生期 1 (ĀpDhS I 1-2)
8. 学生期 2 (ĀpDhS I 1-2)
9. 学生期 3 (ĀpDhS I 1-2)
10. 学生期 4 (ĀpDhS I 1-2)
11. 学生期 5 (ĀpDhS I 1-2)
12. 学生期 6 (ĀpDhS I 1-2)
13. 学生期 7 (ĀpDhS I 1-2)
14. 学生期 8 (ĀpDhS I 1-2)
15. 学生期 9 (ĀpDhS I 1-2)

6. 成績評価方法：

平常点 (40%), 予習 (30%), 授業内容の理解度 (30%)

7. 教科書および参考書：

G. Bühler の校訂テキストのコピーを配布する。

その他の参考書：

G. Bühler, The Sacred Law of the Āryas as taught in the Schools of Āpastamba, Gautama, Vāsiṣṭha, and Baudhāyana (Sacred of Books of the East).

E. Friedrich, Das Āpastamba-Dharmasūtra—Aufbau und Aussage (1993)

8. 授業時間外学習：

予め語形を分析し、訳しておくこと。

9. その他：

受講者はサンスクリット語初級の知識を有すること。

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：西村 直子 (非常勤講師)

講義コード：LB63308, **科目ナンバリング：**LHM-PHI311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド哲学文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では、『シャタパタ・ブラーフマナ』XI 5, 1 (B.C. 650 頃以降) に採録される「プルーラヴァースとウルヴァシー」の神話を取り上げ、読解演習を行う。この神話は人間の王プルーラヴァースがアプサラスのウルヴァシーとの結婚、別離を経て、祭式に用いる特別な火（祭火）を獲得するまでを描き、祭火の起源を語る神話となっている。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Weber が校訂した Śatapatha-Brahmaṇa をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ブラーフマナの講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 Śatapatha-Brahmaṇa XI 5, 1

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 同 (7)

9 同 (8)

10 同 (9)

11 同 (10)

12 同 (11)

13 同 (12)

14 同 (13)

15 同 (14)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)

7. 教科書および参考書：

Śatapatha-Brahmaṇa (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MAYRHOFFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTÔ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar, etc.

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB51304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

3. 授業の目的と概要：

Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（40%）、授業で示される理解度（60%）

7. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

8. 授業時間外学習：

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

9. その他：

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB61305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

3. 授業の目的と概要：

Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前期に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（40%）、授業で示される理解度（60%）

7. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

8. 授業時間外学習：

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

9. その他：

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

英文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英文学概論	Introduction to English Poetry	2	大河内 昌	3	木	1	1
英文学概論	Introduction to English Novels	2	大河内 昌	4	木	1	2
英文学基礎講読Ⅰ	George Orwell, Burmese Days (1)	2	大貫 隆史	3	火	2	3
英文学基礎講読Ⅱ	George Orwell, Burmese Days (2)	2	大貫 隆史	4	火	2	4
英文学・英語学基礎講読Ⅰ	Reading the Modern Short Story	2	ティンク ジェイムズ	3	木	3	5
英文学・英語学基礎講読Ⅱ	Kazuo Ishiguro, The Remains of the Day and the Contemporary	2	ティンク ジェイムズ	4	木	3	6
英文学各論	Jane Austen, Persuasion	2	大河内 昌	5	水	1	8
英文学各論	Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray	2	大河内 昌	6	水	1	9
英文学各論	近代英国のふたつの文化???チャーチスト運動からサッチャー登場まで	2	山田 雄三	集中(5)			10
英語文化論各論	American Literature, 1900-Present	2	トニー・マガグナ	6	水	4	11
英語文化論各論	Emily Bronte, Wuthering Heights	2	大河内 昌	5	金	2	12
英文学講読	William Shakespeare, Twelfth Night and Renaissance Comedy	2	ティンク ジェイムズ	6	月	2	13
英文学演習Ⅰ	Raymond Williams, Border Country (1)	2	大貫 隆史	5	火	3	15
英文学演習Ⅱ	Raymond Williams, Border Country (2)	2	大貫 隆史	6	火	3	16
英文学演習Ⅲ	Bram Stoker, Dracula: Victorian Gothic Fiction and Modernity	2	ティンク ジェイムズ	5	月	2	17

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：大河内 昌 (教授)

講義コード：LB34102, **科目ナンバリング：**LHM-LIT203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Introduction to English Poetry

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Poetry

3. 授業の目的と概要：

英文学のジャンルの中でも詩は馴染みがうすいかもしれません。しかし、詩を読解することによって言葉そのものがもつ不思議さと大きな力を知り、英語という言葉の奥深さに触れることができます。この授業では、ルネサンスから 18 世紀の古典主義時代に書かれたイギリスの詩の中から、とても有名で比較的短いものを選んで読解してゆきます。この時代の詩はジャンルや約束事が分からないと理解できない作品が多いので、そうした事項を説明しながら詩のテキストを読解してゆきます。詩は読者から近づいて行かないと何も答えてくれませんが、直接詩の原文に触れて積極的に問いかけてゆけば詩はいろいろなことを答えてくれるはずです。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英文学史の知識を身につける
- (2) 英語読解力を身につける
- (3) 分析的思考力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Thomas Wyatt
- (3) Earl of Surrey
- (4) Philip Sidney
- (5) Edmund Spenser
- (6) William Shakespeare (1)
- (7) William Shakespeare (2)
- (8) Review and mid-term exam
- (9) John Donne (1)
- (10) John Donne (2)
- (11) George Herbert
- (12) John Milton
- (13) John Dryden
- (14) Alexander Pope
- (15) Review and term-end exam

6. 成績評価方法：

成績評価の方法：中間テスト 50%、 期末テスト 50%

7. 教科書および参考書：

プリントを配布します

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：大河内 昌 (教授)

講義コード：LB44102, **科目ナンバリング：**LHM-LIT203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Introduction to English Novels

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Novels

3. 授業の目的と概要：

18 世紀～19 世紀初頭におけるイギリス小説の歴史を「家庭小説」の形成に焦点を当てながら跡づけます。イギリスは近代的なリアリズム小説が比較的早い時期に成立しましたが、その背景には政治的・社会的な要因が大きく作用しています。この授業では、そうした歴史的背景を説明しながら、この時期の主要な作品を紹介してゆきます。同時に、小説の批評的な分析方法も紹介してゆきます。また、英語力を養うために、各作品の名場面を英語の原文で鑑賞します。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英文学史の知識を身につける
- (2) 英語読解力を身につける
- (3) 分析的思考力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Daniel Defoe, Robinson Crusoe
- (3) Daniel Defoe, Moll Flanders
- (4) Samuel Richardson, Pamela
- (5) Samuel Richardson, Clarissa
- (6) Horace Walpole, The Castle of Otranto
- (7) Clara Reeve, The Old English Baron
- (8) Review and mid-term exam
- (9) Anne Radcliffe, The Castle of Udolpho
- (10) Anne Radcliffe, The Italian
- (11) Jane Austen, Northanger Abbey
- (11) Jane Austen, Pride and Prejudice
- (12) Jane Austen, Mansfield Park
- (13) Emily Bronte, Wuthering Heights
- (14) Elizabeth Gaskell, Mary Barton
- (15) Review and term-end exam

6. 成績評価方法：

中間テスト 50%、 期末テスト 50%

7. 教科書および参考書：

プリントを配布します

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと

9. その他：

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学基礎講読Ⅰ／ English Literature (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史（准教授）

講義コード：LB32204, 科目ナンバリング：LHM-LIT215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

George Orwell, Burmese Days (1)

2. Course Title (授業題目)：

George Orwell, Burmese Days (1)

3. 授業の目的と概要：

『1984 年』や『動物農場』で知られるジョージ・オーウェルによる『ビルマの日々』を英語の原文で読解していきます。オーウェルは自分の経験をもとにしながら、また、想像力を駆使しながら当時ビルマと呼称されていた英領植民地の社会を描いています。イギリス人植民者、現地人のエリートや庶民たちからなる複雑な人間模様を描くことで、オーウェルは読者である私たちに何を手渡そうとしているのかを、「エグザイル」「植民地」「身体」などをキーワードに考えていきます。授業では、毎回三人の担当者により発表をしてもらいます。担当者は、該当箇所を日本語に翻訳し、コメントをしてください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakShION
2. Burmese Days, pp. 1-11
3. Burmese Days, pp. 12-23
4. Burmese Days, pp. 24-35
5. Burmese Days, pp. 36-47
6. Burmese Days, pp. 48-59
7. Burmese Days, pp. 60-71
8. Burmese Days, pp. 72-83
9. Burmese Days, pp. 84-96
10. Burmese Days, pp. 97-109
11. Burmese Days, pp. 110-122
12. Burmese Days, pp. 123-135
13. Burmese Days, pp. 135-148
14. ディスカッション
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

George Orwell, Burmese Days (Penguin, 2009)

8. 授業時間外学習：

予習箇所を事前に必ず学習してくること

9. その他：

科目名：英文学基礎講読Ⅱ／ English Literature (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史（准教授）

講義コード：LB42205, 科目ナンバリング：LHM-LIT216J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

George Orwell, *Burmese Days* (2)

2. Course Title (授業題目)：

George Orwell, *Burmese Days* (2)

3. 授業の目的と概要：

『1984年』や『動物農場』で知られるジョージ・オーウェルによる『ビルマの日々』を英語の原文で読解していきます。オーウェルは自分の経験をもとにしながら、また、想像力を駆使しながら当時ビルマと呼称されていた英領植民地の社会を描いています。イギリス人植民者、現地人のエリートや庶民たちからなる複雑な人間模様を描くことで、オーウェルは読者である私たちに何を手渡そうとしているのかを、「エグザイル」「植民地」「身体」などをキーワードに考えていきます。授業では、毎回三人の担当者により発表をしてもらいます。担当者は、該当箇所を日本語に翻訳し、コメントをしてください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakShION
2. *Burmese Days*, pp. 149-161
3. *Burmese Days*, pp. 162-174
4. *Burmese Days*, pp. 175-187
5. *Burmese Days*, pp. 188-200
6. *Burmese Days*, pp. 200-212
7. *Burmese Days*, pp. 213-226
8. *Burmese Days*, pp. 227-240
9. *Burmese Days*, pp. 241-254
10. *Burmese Days*, pp. 255-268
11. *Burmese Days*, pp. 269-282
12. *Burmese Days*, pp. 282-291
13. *Burmese Days*, pp. 292-300
14. ディスカッション
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

George Orwell, *Burmese Days* (Penguin, 2009)

8. 授業時間外学習：

予習箇所を事前に必ず学習してくること

9. その他：

科目名：英文学・英語学基礎講読Ⅰ／ English Literature and Linguistics (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：ティンク ジェイムズ (准教授)

講義コード：LB34301, 科目ナンバリング：LHM-LIT217E, 使用言語：英語

1. 授業題目：

Reading the Modern Short Story

2. Course Title (授業題目)：

現代の短編小説

3. 授業の目的と概要：

This course is an introduction to reading fiction in English and also some common approaches to literary criticism. Students will read a selection of British, Irish, and American short stories from the 19th century onwards that will be introduced in class along with relevant supporting material, and be used for class discussion and comprehension exercises. Subjects for discussion include: the historical contexts of each story; critical approaches to understanding genre and style in modern fiction, and arguments about the significance of fiction in contemporary culture. Assessment will be by short written assignments and a final exam on the course content.

4. 学習の到達目標：

Students must read one short a week in advance of the class, which will include a mini-lecture and group exercises. Learning goals include: (1) To improve skills of intensive reading in English; (2) To better understand some formal and historical aspects of modern literature in English; (3) To better understand some critical approaches to reading literature and modern culture.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction

2: Edgar Allen Poe “The Fall of the House of Usher”

3: Mark Twain, “The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”

4: Henry James, “Paste”

5: Rudyard Kipling, “The Record of Badalia Herodsfoot”

6 Hector Hugh Monro (Saki), “Sredni Vashtar”

7: James Joyce, “Grace”

8: Katherine Mansfield, “The Woman at the Store”

9: William Faulkner, “Dry September” [mid-term test]

10: Ernest Hemingway, “Hills Like White Elephants”

11: Elizabeth Bowen, “The Demon Lover”

12: V.S. Pritchett, “Many are Disappointed”

13: Eudora Welty, “A Visit of Charity”

14: Doris Lessing, “Mrs Fortescue”

15: Conclusion and Final Exam

6. 成績評価方法：

40% two short papers; 20% mid-term exam; 40% final exam

7. 教科書および参考書：

V.S. Pritchett, editor, The Oxford Book of Short Stories (Oxford: Oxford U.P. 1981)

8. 授業時間外学習：

Two short written papers; mid-term test; final written exam

9. その他：

This class will be conducted in English and the assignments will be in English.

科目名：英文学・英語学基礎講読Ⅱ／ English Literature and Linguistics (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：ティンク ジェイムズ (准教授)

講義コード：LB44301, 科目ナンバリング：LHM-LIT218E, 使用言語：英語

1. 授業題目：

Kazuo Ishiguro, The Remains of the Day and the Contemporary Novel

2. Course Title (授業題目)：

カズオイシグロ。今日の遺跡。

3. 授業の目的と概要：

Kazuo Ishiguro (born in Japan 1954) is one of the most acclaimed novelists in the world today, as confirmed by his award of the Nobel Prize for Literature in 2017. In this course, we will study what is for many critics his most influential work, The Remains of the Day (1989). A fiction about the life and times of an English butler working for an aristocrat in 1930s Britain, the novel explores themes of memory and personal friendships, along with ideas of responsibility and public ethics during the period before the Second World War. We will read the novel in weekly instalments of around 30 pages to improve skills for comprehension and analysis of English fiction and also consider some critical and historical aspects of the novel, such as the history of the Second World War in Britain, arguments about national identity, and approaches to popular memory and the idea of “heritage” in contemporary literature.

4. 学習の到達目標：

Students will read excerpts in advance, and use the class for listening to a mini-lecture and group discussion. Assessment will be based on in-class tests and short writing assignments. Learning goals include: (1) To read the original novel in English; (2) To better understand approaches to understanding fiction in English; (3) To better understand relevant topics in contemporary culture and criticism, including popular memory of the Second World War and ideas of national identity.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction to Ishiguro

2: Reading The Remains of the Day, pp 1-20

3: pp. 23-45

4: pp. 46-70

5: pp. 70-95

6: pp. 95-115

7: pp. 116-133

8: pp. 134-149

9: pp. 150-167

10: pp. 167-190

11: pp. 190-211

12: pp. 212-239

13: pp. 240-258

14: The Remains of the Day and the contemporary World Literature

15: Conclusion and Final Exam

6. 成績評価方法：

Mid-tem test 20% two short written assignments 20% final exam 40%

7. 教科書および参考書：

Kazuo Ishiguro, The Remains of the Day, London: Faber, 1989.

8. 授業時間外学習：

In-class tests (x2) written assignments (x2)

9. その他：

This class will be conducted in English and assignments will be in English. Translations of the novel are widely available and acceptable for use out-of-class, but the course content will be based on the English text.

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大河内 昌 (教授)

講義コード：LB53101, **科目ナンバリング：**LHM-LIT304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Jane Austen, Persuasion

2. Course Title (授業題目)：

Jane Austen, Persuasion

3. 授業の目的と概要：

イギリスの女性小説家 Jane Austen の後期の小説 Persuasion を精読します。18 世紀末から 19 世紀初頭に生きた小説家 Austen はイングランドの田舎の紳士階級の女性たちの恋愛と結婚を主題とした小説を書きました。彼女の小説は現在でも多くの読者をもっています。一見、平坦な彼女の小説には非常に深い問題が隠されています。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の英語を読解する力を身につける
- (2) 小説分析の技法を身につける
- (3) 発表力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Persuasion I-Capter 1-3
- (3) Persuasion I-Capter 4-6
- (4) Persuasion I-Capter 7-8
- (5) Persuasion I-Capter 9-10
- (6) Persuasion I-Capter 11
- (7) Persuasion I-Capter 12
- (8) Persuasion II-Capter 1-3
- (9) Persuasion II-Capter 4-5
- (10) Persuasion II-Capter 6-7
- (11) Persuasion II-Capter 8-9
- (12) Persuasion II-Capter 10
- (13) Persuasion II-Capter 11-12
- (14) Discussion
- (15) Review and exam

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

Jane Austen, Persuasion (Oxford World' s Classics, 2004)

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：大河内 昌 (教授)

講義コード：LB63101, **科目ナンバリング：**LHM-LIT304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray

2. Course Title (授業題目)：

Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray

3. 授業の目的と概要：

19 世紀末の作家 Oscar Wilde の The Picture of Dorian Gray を精読します。この作品はある美青年が自分の美しい肖像画に魅了されることで破滅するというゴシック小説です。唯美主義やドッペルゲンガーといったテーマを含んでいますが、それはおそらく表象と実体の区別の難しさという問題に収斂してゆきます。この授業では作品の精読を通して、小説作品を非法的に読む方法を身に着けることを目標とします。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の英語を読解する力を身につける
- (2) 小説分析の技法を身につける
- (3) 発表力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Chapters 1-2
- (3) Chapter 3
- (4) Chapter 4
- (5) Chapter 5
- (6) Chapters 6-7
- (7) Chapters 8-10
- (8) Chapters 11-12
- (9) Chapters 13-14
- (10) Chapter 15
- (11) Chapter 16
- (12) Chapters 17-19
- (13) Chapter 20
- (14) Discussion
- (15) Review and exam

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray (Oxford World's Classics, 2006)

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), **単位数：**2

担当教員：山田 雄三 (非常勤講師)

講義コード：LB98811, **科目ナンバリング：**LHM-LIT304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近代英国のふたつの文化???チャーチスト運動からサッチャー登場まで

2. Course Title (授業題目)：

Two Cultures in Modern Britain?: From Chartist Movement to the Thatcher Administration

3. 授業の目的と概要：

産業革命以降の近代イギリスでは、幾度となく「ふたつの文化」をめぐる論争が起きている。「ふたつの文化」への分断が近代にはじまるイデオロギーだとしたら、その分断に抵抗して、生の営みを全体的にとらえようと試みた人びとを、この講義では見ていきたい。

4. 学習の到達目標：

- (1) マッシュュー・アーノルドが定義した「文化」にはどのような制約や排除があるかを理解する。
- (2) マリノフスキーの「文化」概念が冷戦構造および高度消費社会の登場といかに緊密に関係しているかを、歴史的に確認する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 イン트로ダクション???なぜふたつの文化なのか?
- 第2回 「ふたつの文化」と普通教育制度
- 第3回 文化とアナーキズム
- 第4回 ハイドパーク暴動(1866)の意味
- 第5回 中産階級フラクションの挑戦
- 第6回 ウィリアム・モリスの文化実践
- 第7回 トマス・ハーディの挑戦と挫折
- 第8回 講義前半(19世紀文化論)のまとめ
- 第9回 アーノルドの後継者たち???F.R. リーヴィス
- 第10回 アーノルドの後継者たち???リチャード・ホガート
- 第11回 スノウ＝リーヴィス論争(1)
- 第12回 スノウ＝リーヴィス論争(2)
- 第13回 怒れる若者たちの政治参加
- 第14回 ユニオンジャックにない色のために
- 第15回 授業後半(20世紀文化論)のまとめと試験

6. 成績評価方法：

- ①エッセイ・ライティングの試験 (70点)
- ②授業内課題および授業での積極的発言 (30点)

7. 教科書および参考書：

プリントを事前に配布する。

その他の参考文献：

マッシュュー・アーノルド『教養と無秩序』, 岩波文庫, 2007;

山田雄三『ニューレフトと呼ばれたモダニストたち』, 松柏社, 2013.

8. 授業時間外学習：

事前に配布したテキストに目を通して授業に臨むこと。また、授業で扱うメディア・テキストのうち、インターネット配信などで視聴できるものは、視聴した上で受講すること。

9. その他：

科目名：英語文化論各論／ English Culture (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：トニー・マラグナ (准教授)

講義コード：LB63401, **科目ナンバリング：**LHM-LIT305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

American Literature, 1900-Present

2. Course Title (授業題目)：

American Literature, 1900-Present

3. 授業の目的と概要：

This course surveys a wide range of American writers from around 1900 to the present. It examines these writers in the social, intellectual, and historical contexts of the 20th and 21st centuries. Alongside discussions of the literature itself, we will explore broader influences that have shaped modern American writers, including in terms of history, religion, politics, fine arts, and popular culture.

4. 学習の到達目標：

In this course, students will be introduced to the major authors and movements that have defined American literature from the beginning of the 20th century to the present day. Additionally, they will come to understand how the literature has both reflected and shaped American culture and identity.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introductions & Opening Conversation
2. Looking Back: Frontier, Wilderness, and Identity in American Literature
3. The African American Experience after the Civil War: Washington & Du Bois
4. Becoming Urban & Industrial
5. Immigration & "Americanization"
6. Women's Experience, Part I: Domesticity & Resistance
7. American Modernism, Part I: Fiction
8. American Modernism: Part II: Poetry
9. The Harlem Renaissance
10. Documenting the Great Depression
11. Post-War Prosperity: Chasing the American Dream
12. The Beat Generation
13. Women's Experience, Part II: Beyond the "Feminine Mystique"
14. What's an American?: Ethnicity, Diversity, and American Identity
15. The New Hybridity: Rewriting Identity & Form

6. 成績評価方法：

Mini written responses (50%); Participation (20%); Brief final essay (30%)

7. 教科書および参考書：

Handouts will be distributed.

8. 授業時間外学習：

Please note that all instruction, discussion, and office hours will be conducted in English. Most reading will also be in English, although occasional Japanese-language translations may be available.

9. その他：

科目名：英語文化論各論／ English Culture (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：大河内 昌（教授）

講義コード：LB55204, 科目ナンバリング：LHM-LIT305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Emily Bronte, Wuthering Heights

2. Course Title (授業題目)：

Emily Bronte, Wuthering Heights

3. 授業の目的と概要：

19 世紀イギリスで書かれたもっとも有名な小説のひとつである Emily Bronte の Wuthering Heights を批評的に分析します。この作品はイギリスの田舎を舞台として激しい男女の愛を描いたものですが、ジャンルの的にはゴシック小説と家庭小説の混濁した作品と考えられます。小説史と社会史を背景に作品を丁寧に読解し、イギリス小説の特徴を学ぶと同時に、小説を批評的に分析する方法を説明します。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の英語を読解する力を身につける
- (2) 小説分析の技法を身につける
- (3) 英文学史の知識を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Wuthering Heights I-Capters 1-3
- (3) Wuthering Heights I-Capters 4-6
- (4) Wuthering Heights I-Capters 7-8
- (5) Wuthering Heights I-Capters 9-10
- (6) Wuthering Heights I-Capters 11-12
- (7) Wuthering Heights I-Capters 13-14
- (8) Wuthering Heights II-Capters 1-3
- (9) Wuthering Heights II-Capters 4-6
- (10) Wuthering Heights II-Capters 7-11
- (11) Wuthering Heights II-Capters 12-15
- (12) Wuthering Heights II-Capters 16-18
- (13) Wuthering Heights II-Capters 19-20
- (14) Critical history of Wuthering Heights
- (15) Review and exam.

6. 成績評価方法：

授業参加とミニペーパー50%；試験 50%

7. 教科書および参考書：

Emily Bronte, Wuthering Heights (Oxford World's Classics, 2009)

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学講読／ English Literature (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：ティンク ジェイムズ (准教授)

講義コード：LB61203, **科目ナンバリング：**LHM-LIT319E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

William Shakespeare, Twelfth Night and Renaissance Comedy

2. Course Title (授業題目)：

ウィリアム・シェイクスピア、十二夜

3. 授業の目的と概要：

Twelfth Night (1600) is one of Shakespeare's most popular comedies, combining romantic adventure, a plucky cross-dressing heroine, a witty fool, Christmas celebrations, rude jokes, and yet also some more disturbing questions about power and cruelty. In this class, we will examine the play in the context of English renaissance stage comedy, to try and better understand how Shakespeare borrows from and adapts ideas of play and comedy in early-modern culture for this play. Each week, we will study the play instalments and consider relevant themes and contexts. We will also compare some different versions of the play available on film and DVD to see how it can be adapted in modern performance.

4. 学習の到達目標：

Learning outcomes include: (1) To be able to read and analyze a work of Shakespeare in English; (2) To better understand the historical and intellectual context of renaissance drama; (3) To better understand aspects of theatrical adaptation and performance; (4) To improve use of academic English through discussion and writing.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction to Shakespeare and Comedy

2: Reading Twelfth Night 1.1-2.

3: Twelfth Night 1.3-4.

4: Twelfth Night, 1.5

4: Twelfth Night, 2.1-3

5: Twelfth Night, 2.4-5

6: Twelfth Night 3.1-3.2

7: Twelfth Night 3.3-4.

8: Twelfth Night 4.1-3

9: Twelfth Night 5.1

10: Shakespeare and Early-Modern Festive Comedy

11: Shakespeare and Traditions of English Stage Comedy

12: Shakespeare and Gender Theory

13: Shakespeare and Film

14: Twelfth Night and Global Shakespeare

15: Conclusion and Final Exam

6. 成績評価方法：

Mid-term test (25%) final exam (25%) two essays (50%)

7. 教科書および参考書：

William Shakespeare, Twelfth Night, edited by Keir Elam. Arden Shakespeare: Bloomsbury, 2009.

8. 授業時間外学習：

Two In-class tests and two written assignments

9. その他：

This course will be conducted in English and assignments must be in English.

科目名：英文学演習Ⅰ／ English Literature (Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史（准教授）

講義コード：LB52304, 科目ナンバリング：LHM-LIT320J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Raymond Williams, Border Country (1)

2. Course Title (授業題目)：

Raymond Williams, Border Country (1)

3. 授業の目的と概要：

レイモンド・ウィリアムズ『辺境』を読んでいきます。ウィリアムズは、その理論的な書物が文学研究だけではなく社会学やメディア研究にも大きな影響を与えている人物ですが、本人が最も力を注いでいたのは小説の執筆活動だったと言われています。『辺境』は、「教育」を受けることによって「故郷」との距離が生じる、という、皆さんにとってもおそらくは身近な経験を扱った小説です。これを、「エグザイル」「コミュニティ」「身体」などをキーワードに読解していきます。毎回担当者を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。

4. 学習の到達目標：

- (1) モダニズム期小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション
2. Border Country, pp. 1-14
3. Border Country, pp. 15-29
4. Border Country, pp. 30-44
5. Border Country, pp. 45-59
6. Border Country, pp. 60-74
7. Border Country, pp. 75-90
8. Border Country, pp. 91-106
9. Border Country, pp. 107-122
10. Border Country, pp. 123-138
11. Border Country, pp. 139-154
12. Border Country, pp. 155-170
13. Border Country, pp. 171-187
14. ディスカッション
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

Raymond Williams, Border Country (Parthian, 2005)

8. 授業時間外学習：

予習箇所を事前に必ず学習してくること

9. その他：

科目名：英文学演習Ⅱ／ English Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史（准教授）

講義コード：LB62303, 科目ナンバリング：LHM-LIT321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Raymond Williams, Border Country (2)

2. Course Title (授業題目)：

Raymond Williams, Border Country (2)

3. 授業の目的と概要：

レイモンド・ウィリアムズ『辺境』を読んでいます。ウィリアムズは、その理論的な書物が文学研究だけではなく社会学やメディア研究にも大きな影響を与えている人物ですが、本人が最も力を注いでいたのは小説の執筆活動だったと言われています。『辺境』は、「教育」を受けることによって「故郷」との距離が生じる、という、皆さんにとってもおそらくは身近な経験を扱った小説です。これを、「エグザイル」「コミュニティ」「身体」などをキーワードに読解していきます。毎回担当者を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。

4. 学習の到達目標：

- (1) モダニズム期小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション
2. Border Country, pp. 189-208
3. Border Country, pp. 209-228
4. Border Country, pp. 229-248
5. Border Country, pp. 249-268
6. Border Country, pp. 269-288
7. Border Country, pp. 289-308
8. Border Country, pp. 309-329
9. Border Country, pp. 330-350
10. Border Country, pp. 351-371
11. Border Country, pp. 372-392
12. Border Country, pp. 393-413
13. Border Country, pp. 414-436
14. ディスカッション
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

Raymond Williams, Border Country (Parthian, 2005)

8. 授業時間外学習：

授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること

9. その他：

科目名：英文学演習Ⅲ／ English Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：ティンク ジェイムズ (准教授)

講義コード：LB51206, **科目ナンバリング：**LHM-LIT322E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

Bram Stoker, Dracula: Victorian Gothic Fiction and Modernity

2. Course Title (授業題目)：

ブラムストーカー、ドラキュラ

3. 授業の目的と概要：

Since its publication in 1897, Bram Stoker's Dracula has gradually become one of the most popular and influential of all British 19th century novels. As well as introducing the iconic figure of the vampire Count Dracula into popular culture, the novel itself is also a fascinating exploration of a range of themes and anxieties of British and European culture at the beginning of the twentieth century. During the course we will read the entire novel in instalments (around 30 pages a week) and examine some relevant themes: the tradition of gothic literature, vampires, and the idea of the supernatural; the impact of technology and scientific modernity; late Victorian ideas of sexuality and gender, including the theme of the "New Woman"; international relations, colonialism and ideas of race in British culture, including fear of the "East". The course will also consider the legacy of the novel for ideas of horror fiction in contemporary culture.

4. 学習の到達目標：

Students will read part of the novel in advance each week, and discuss the novel in class through group work. Learning outcomes include: (1) To read the novel in the original English; (2) To better understand the historical and intellectual contexts of Dracula and late 19th century British culture; (3) To better understand some theories of fiction and literature in modernity; (4) To improve skills for discussion and writing in English through class work

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: Introduction to Dracula
- 2: Reading Dracula: Chapters 1-2
- 3: Chapters 3-4
- 4: Chapters 5-7
- 5: Chapters 8-10
- 6: Chapters 11-12
- 7: Chapters 13-15 [mid-term test]
- 8: Chapters 16-18
- 9: Chapters 19-21
- 10: Chapters 22-24
- 11: Chapters 25-28
- 12: Dracula and the Powers of Horror
- 13: Dracula and Gender Theory
- 14: Afterlives of Dracula: World Cinema
- 15: Conclusion

6. 成績評価方法：

20% mid term quiz 20% final test 20% mid-term paper 40% essay

7. 教科書および参考書：

Bram Stoker, Dracula, edited by Maurice Hindle, (Harmondsworth: Penguin Classics, 2003).

8. 授業時間外学習：

Two tests, one short written assignment, final essay

9. その他：

This class will be conducted in English and assignments will be in English.

英語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	水	5	1
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	4	水	5	2
英語学各論	形態論入門Ⅰ	2	島 越郎	5	火	2	3
英語学各論	統辞構造の外在化	2	土橋 善仁	集中(5)			4
英語解析学各論	形態論入門Ⅱ	2	島 越郎	6	火	2	5
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅰ	2	金子 義明	5	火	4	6
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅱ	2	金子 義明	6	火	4	7
英語学演習	英語学の諸問題研究 Ⅰ	2	島 越郎, 金子 義明	7	水	2	8
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	島 越郎, 金子 義明	8	水	2	9
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅠ	2	金子 義明	5	金	2	10
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅡ	2	金子 義明	6	金	2	11

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB33501, **科目ナンバリング：**LHM-LIN201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論入門 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Syntax I

3. 授業の目的と概要：

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史的変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史的変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：導入
第2回：英語の普遍性と特殊性
第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論
第4回：英語音声の基本的特徴
第5回：英語の綴り字と発音
第6回：英語のリズムとイントネーション
第7回：文をつくる規則：句構造規則
第8回：句構造規則と文法
第9回：構成素について
第10回：樹形図と構造関係
第11回：構造関係に基づく文法原理
第12回：文、樹形図、文法原理の関係
第13回：品詞と歴史的変化
第14回：語彙と意味の歴史的変化
第15回：まとめと期末試験

6. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

江川泰一郎著『英文法解説』金子書房

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

8. 授業時間外学習：

講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

9. その他：

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB43501, **科目ナンバリング：**LHM-LIN201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Syntax II

3. 授業の目的と概要：

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン

第3回：音韻・意味素性、主要部、句について

第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割 小テスト1

第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い

第8回：複文構造の歴史的变化

第9回：発音されない代名詞と歴史的变化

第10回：名詞句の構造と歴史的变化

第11回：句構造規則からXバー理論へ 小テスト2

第12回：Wh 疑問文における移動操作

第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化

第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点

第15回：まとめと期末試験

6. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

江川泰一郎著『英文法解説』金子書房

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

8. 授業時間外学習：

講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

9. その他：

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：島 越郎（教授）

講義コード：LB52203, 科目ナンバリング：LHM-LIN301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

形態論入門 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Morphology

3. 授業の目的と概要：

英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。今年度は、Level Ordering、語の構成素構造、複合語(Compounds)、Bracketing Paradoxes、等々の問題について考察する。

4. 学習の到達目標：

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論

第2回：Siegel の Level Ordering 仮説

第3回：Level Ordering 仮説の問題

第4回：語の構成素構造

第5回：Williams (1981) の Righthand Head Rule

第6回：Righthand Head Rule の例外

第7回：二種類の複合語：主要複合語と総合的複合語

第8回：英語における総合的複合語

第9回：総合的複合語に関する語彙的分析

第10回：総合的複合語に関する統語的分析

第11回：Bracketing Paradoxes

第12回：Bracketing Paradoxes に関する分析：Williams の Lexical Relatedness

第13回：Bracketing Paradoxes に関する分析：Sproat の Mapping Principle

第14回：Bracketing Paradoxes に関する分析：Paradigmatic Word Formation

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

大石強著『形態論』開拓社

8. 授業時間外学習：

毎回の授業の復習をしっかりとやること

9. その他：

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5)， 単位数：2

担当教員：土橋 善仁（非常勤講師）

講義コード：LB98812， 科目ナンバリング：LHM-LIN301J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

統辞構造の外在化

2. Course Title (授業題目)：

Externalization of Syntactic Structures

3. 授業の目的と概要：

本講義では、特に韻律的現象の領域の決定メカニズムに着目し、外在化プロセスの理論の近年の発展を学び、この分野の現在の諸課題を理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

受講生が、この授業を通して統辞・音韻インターフェイスにおける諸課題を理解し、マッチ理論やフェイズ理論などの主要な理論のもと基本的な韻律現象を分析できるようになることが到達目標である。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 統辞構造の外在化をめぐる諸問題の概観
2. 韻律現象と階層性
3. 「標準理論」(1)：統辞構造関係と韻律領域
4. 「標準理論」(2)：句構造の端と韻律領域
5. 最適性理論と韻律領域
6. 機能範疇と韻律領域
7. 句構造のラベルと韻律領域
8. フェイズ理論と音韻句形成
9. フェイズ理論と韻律階層
10. マッチ理論
11. 情報構造と韻律領域
12. 統辞現象と韻律現象
13. 統辞対象物の音韻的解釈
14. 派生の終了と韻律領域
15. まとめと今後の課題

6. 成績評価方法：

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

9. その他：

質問は随時受け付ける。(特に授業終了後)

科目名：英語解析学各論／ Analytical Study of English (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB62203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

形態論入門 II

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Morphology II

3. 授業の目的と概要：

英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。今年度は、受動態、中間態、使役交替などについて考察する。

4. 学習の到達目標：

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論

第2回：受動態 (1) : Analytic Passive と Synthetic Passive

第3回：受動態 (2) : Impersonal Passive と Pseudo Passive

第4回：受動態 (3) : Reflexive Passive

第5回：中間態

第6回：使役と反使役

第7回：適用態

第8回：反受動態

第9回：編入

第10回：格と意味役割

第11回：非対格仮説

第12回：Marantz の形態素に基づく分析

第13回：反使役と中間態の相違点

第14回：形容詞的受動文

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

大石強著『形態論』開拓社

8. 授業時間外学習：

毎回の授業の復習をしっかりとやること

9. その他：

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB52404, **科目ナンバリング：**LHM-LIN309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の基本的思考法 I

2. Course Title (授業題目)：

Fundamental Perspectives in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 Defining conditionals
- 3 The position of merger of the if-clause
- 4 Clause-internal syntax of the if-clause
- 5 Then as a correlative proform
- 6 Structure for conditionals with then
- 7 Some apparent problems for the conditional-correlative link
- 8 Relevance conditionals
- 9 Factual conditionals
- 10 Stacking if-clauses of different types
- 11 Adnominal conditionals
- 12 Reduced conditional
- 13 Chinese bare conditionals
- 14 Other topics of conditionals
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：Rajesh Bhatt and Roumyana Pancheva (2017) "Conditionals," in The Wiley Blackwell Companion to Syntax, ed. by Martin Everaert and Henk C. van Riemsdijk, pp. 1079-1126.

参考書：原口庄輔・中村敏・金子義明 (編)『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと (2 時間)。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB62405, **科目ナンバリング：**LHM-LIN309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の基本的思考法Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Fundamental Perspectives in English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 Introduction
- 3 Structure of double object constructions: Overview
- 4 Flat structures
- 5 VP shell structures
- 6 Small clause structures
- 7 Applicative structures
- 8 Transformational versus lexicalist approaches
- 9 Dative shift: Overview
- 10 Status of "promoted" object
- 11 Productivity
- 12 Meaning differences
- 13 Symmetric versus asymmetric passives
- 14 Other topics of double object constructions
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

7. 教科書および参考書：

テキスト: Barbara Citko, Joseph Embley Emonds, and Rosemarie Whitney (2017) "Double Object Constructions," in The Wiley Blackwell Companion to Syntax, ed. by Martin Everaert and Henk C. van Riemsdijk, pp. 1365-1410.

参考書: 原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと (2 時間)。授業後は、内容を確認するとともに、参考書等を活用して疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：7, **単位数：**2

担当教員：島 越郎, 金子 義明 (教授)

講義コード：LB73201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Topics in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

- ① 英語学研究の最新動向を把握する
- ② 研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③ 効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：導入

第 2 回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 3 回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 4 回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 5 回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 6 回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 7 回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 8 回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 9 回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 10 回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 11 回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 12 回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 13 回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 14 回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第 15 回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：8, **単位数：**2

担当教員：島 越郎, 金子 義明 (教授)

講義コード：LB83201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 II

2. Course Title (授業題目)：

Topics in English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学研究の最新動向を把握する
- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第3回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第4回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第5回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第6回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第7回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第8回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第9回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第10回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第11回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第12回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第13回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第14回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB55208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論：極小主義によるアプローチ I

2. Course Title (授業題目)：

English Syntax: A Minimalist Approach I

3. 授業の目的と概要：

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

- 2 Grammar (1): Traditional Grammar (Oral report and discussion)
- 3 Grammar (2): Universal and Language Acquisition (Oral report and discussion)
- 4 Grammar (3): Parameters and Parameter Setting (Oral report and discussion)
- 5 Words (1): Lexical Categories and Functional Categories (Oral report and discussion)
- 6 Words (2): Determiners, Quantifiers, and Auxiliaries (Oral report and discussion)
- 7 Words (3): Categorization Problems and Grammatical Features (Oral report and discussion)
- 8 Structure (1): Phrases, Clauses, and Specifiers (Oral report and discussion)
- 9 Structure (2): Projections and Testing Structures (Oral report and discussion)
- 10 Structure (3): Structural Relations and Word Order (Oral Report and discussion)
- 11 Null Constituents (1): Null T in Indicative Clauses (Oral report and discussion)
- 12 Null Constituents (2): Null T and Null C in Finite Clauses (Oral report and discussion)
- 13 Null Constituents (3): Null C in Infinitive Clauses and Defective Clauses (Oral report and discussion)
- 14 Null Constituents (4): Null Heads in Nominals (Oral report and discussion)
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB65206, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論：極小主義によるアプローチ II

2. Course Title (授業題目)：

English Syntax: A Minimalist Approach II

3. 授業の目的と概要：

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Head Movement (1): Auxiliary Inversion and CP Recursion (Oral report and discussion)

3 Head Movement (2): Null Operators and V-to-T Movement (Oral report and discussion)

4 Head Movement (3): Auxiliary Raising and Negation (Oral report and discussion)

5 Head Movement (4): Do-support (Oral Report and discussion)

6 Wh-Movement (1): Wh-Movement and Driving Wh-Movement (Oral report and discussion)

7 Wh-Movement (2): Subject Questions and Pied-Piping (Oral report and discussion)

8 Wh-Movement (3): Wh-Movement as Copying (Oral report and discussion)

9 Wh-Movement (4): Constraint on movement (Oral report and discussion)

10 A-bar Movement (1): Wh-exclamatives and Relative clauses (Oral report and discussion)

11 A-bar Movement (2): Two movement accounts of restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

12 A-bar Movement (3): Refining the Antecedent Raising analysis (Oral report and discussion)

13 A-bar Movement (4): Two sources for restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

14 A-bar Movement (5): Other A-bar Movement constructions (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ドイツ文学概論Ⅰ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 1	2	森本 浩一	3	水	4	1
ドイツ文学概論Ⅱ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 2	2	森本 浩一	4	水	4	2
ドイツ語学概論Ⅰ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	3	水	2	3
ドイツ語学概論Ⅱ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	4	水	2	4
ドイツ語学基礎講読Ⅰ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	3	火	1	5
ドイツ語学基礎講読Ⅱ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	4	火	1	6
ドイツ文学各論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(3)	2	佐藤 雪野	5	火	2	7
ドイツ文学各論Ⅱ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(4)	2	佐藤 雪野	6	火	2	8
ドイツ文学各論Ⅲ	近現代ドイツ・オーストリア文学概論	2	里村 和秋	集中(6)			9
ドイツ語学各論	カフカを読む	2	森本 浩一	5	月	3	10
ドイツ語学各論	カフカを読む	2	森本 浩一	6	月	3	11
ドイツ文学演習Ⅰ	フィクションの物語を批評する 1	2	森本 浩一	5	金	3	12
ドイツ文学演習Ⅱ	フィクションの物語を批評する 2	2	森本 浩一	6	金	3	13
ドイツ文学演習Ⅲ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅱ)	2	佐藤 研一	5	木	4	14
ドイツ文学演習Ⅳ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅲ)	2	佐藤 研一	6	木	4	15
ドイツ語学演習Ⅰ	ドイツ語学演習Ⅲ	2	ナロック ハイコ	5	水	3	16
ドイツ語学演習Ⅱ	ドイツ語学演習Ⅲ	2	ナロック ハイコ	6	水	3	17
ドイツ語学演習Ⅲ	中高ドイツ語講読	2	嶋崎 啓	5	月	2	18
ドイツ語学演習Ⅳ	中高ドイツ語講読	2	嶋崎 啓	6	月	2	19

科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB33401, **科目ナンバリング：**LHM-LIT204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 1

2. Course Title (授業題目)：

History and culture of the German-speaking sphere in the European context 1

3. 授業の目的と概要：

「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。今期は古代から 16 世紀までを扱う。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ近代の歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ゲルマン人
2. 古典古代(1)
3. 古典古代(2)
4. キリスト教(1)
5. キリスト教(2)
6. フランク王国と「ヨーロッパ」の成立(1)
7. フランク王国と「ヨーロッパ」の成立(1)
8. 神聖ローマ帝国(1)
9. 神聖ローマ帝国(2)
10. 12～13 世紀のヨーロッパ
11. 過渡期の帝国
12. 中世の終わり
13. 宗教改革
14. 16 世紀のヨーロッパ
15. まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、出席（30％）と期末レポート（70％）。

7. 教科書および参考書：

参考書としては、坂井栄八郎『ドイツ 10 講』、岩波新書、2003 年。その他は、授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることを。

m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

xkc-

科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)II

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB43401, **科目ナンバリング：**LHM-LIT205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 2

2. Course Title (授業題目)：

History and culture of the German-speaking sphere in the European context 2

3. 授業の目的と概要：

「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。今期は 17 世紀から現代までを扱う。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ近代の歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 中世のドイツ（要約）
- 2 キリスト教と宗教改革
- 3 30 年戦争とその後
- 4 ドイツ語圏の文化と思想(1)
- 5 プロイセンの成立と発展
- 6 18 世紀のドイツ語圏
- 7 フランス革命とその余波（19 世紀）
- 8 ドイツ語圏の文化と思想(2)
- 9 ドイツ帝国の半世紀
- 10 世界大戦の時代
- 11 ドイツ語圏の文化と思想(3)
- 12 ヒトラーとホロコースト(1)
- 13 ヒトラーとホロコースト(2)
- 14 戦後ドイツ
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、出席（30％）と期末レポート（70％）。

7. 教科書および参考書：

参考書としては、坂井栄一郎『ドイツ 10 講』、岩波新書、2003 年。その他は、授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ることを。

m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

xkc-

科目名：ドイツ語学概論 I / German Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LB33201, 科目ナンバリング：LHM-LIT206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中級ドイツ文法

2. Course Title (授業題目)：

Intermediate German Grammar

3. 授業の目的と概要：

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 人称代名詞・指示代名詞・不定代名詞
- 3 非人称の es (1)
- 4 非人称の es (2)
- 5 関係代名詞 (1)
- 6 関係代名詞 (2)
- 7 冠詞類
- 8 形容詞の格変化
- 9 冠飾句
- 10 前置詞 (1)
- 11 前置詞 (2)
- 12 副詞 (1)
- 13 副詞 (2)
- 14 接続詞 (1)
- 15 接続詞 (2)

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』（三省堂）

8. 授業時間外学習：

予習をする必要はない。復習をしてください。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。

9. その他：

科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB43201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT207J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中級ドイツ文法

2. Course Title (授業題目)：

Intermediate German Grammar

3. 授業の目的と概要：

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 動詞の変化
- 3 命令法
- 4 話法の助動詞 (1)
- 5 話法の助動詞 (2)
- 6 話法の助動詞 (3)
- 7 分離動詞・非分離動詞 (1)
- 8 分離動詞・非分離動詞 (2)
- 9 受動態 (1)
- 10 受動態 (2)
- 11 再帰動詞 (1)
- 12 再帰動詞 (2)
- 13 機能動詞
- 14 語順
- 15 否定文

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)

8. 授業時間外学習：

予習をする必要はない。復習をしてください。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。

9. その他：

科目名：ドイツ語学基礎講読 I / German Linguistics (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB32104, 科目ナンバリング：LHM-LIT221J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：

German Literature (Introductory Reading) I

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身につけたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第1話

3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第2話

4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第3話

5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第4話

6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第5話

7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第6話

8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第7話

9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第8話

10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第9話

11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第10話

12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第11話

13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第12話

14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第13話

15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第14話

6. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

7. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinvolucris&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

科目名：ドイツ語学基礎講読Ⅱ／ German Linguistics (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB42103, **科目ナンバリング：**LHM-LIT222J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：

German Literature (Introductory Reading)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身につけたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者の ドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 15 話
3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 16 話
4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 17 話
5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 18 話
6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 19 話
7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 20 話
8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 21 話
9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 22 話
10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 23 話
11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 24 話
12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 25 話
13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 26 話
14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 27 話
15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 28 話

6. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

7. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinvolucris&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 雪野 (兼務教員)

講義コード：LB52204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ (語) 文化圏の文化と歴史 (3)

2. Course Title (授業題目)：

Culture and History of German Cultural Sphere (3)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ (語) 文化圏に着目する。

今学期はヨーロッパ東部に居住している (いた) ドイツ人が、なぜそこに移り住んだのか、周辺異民族とどのように交流しつつ、自らの文化を維持し、発展させ、アイデンティティを形成したかを検討する。

そのために、ドイツ語で書かれたテキストを精読し、ドイツ語の読解力も高める。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ (語) 文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション

2. Die Siedlung Deutscher in Osteuropa

3. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (1)

4. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (2)

5. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (3)

6. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (4)

7. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (5)

8. Die Ostsiedlung der Deutschen im Mittelalter/ Der Aufschwung in Westeuropa (6)

9. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (1)

10. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (2)

11. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (3)

12. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (4)

13. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (5)

14. Die neuzeitliche Ostsiedlung / Der Beitrag der deutschen Siedler und ihrer Nachfahren zur europäischen Kultur (6)

15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 (出席、アサインメント、発言状況) : 70%

期末課題 : 30%

7. 教科書および参考書：

テキスト : Dralle, Lothar, Die Deutschen in Ostmittel- und Osteuropa: Ein Jahrtausend europäischer Geschichte, Darmstadt: Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1991.

その他参考書等については、随時指示する。

8. 授業時間外学習：

予習中心 : テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明 (オフィス・アワー、講師への連絡方法など) は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 雪野（兼務教員）

講義コード：LB62204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ（語）文化圏の文化と歴史（4）

2. Course Title（授業題目）：

Culture and History of German Cultural Sphere（4）

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、余り知られていないドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

今学期はかつてプラハに存在したドイツ文化空間の特性を、ユダヤ人との関係に注目しつつ検討する。

そのために、初版が 1916 年に出版されたグスタフ・マイリンクの『ゴーレム』をテキストとして精読し、作品とその背景を考察する。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハのドイツ語文学について
3. グスタフ・マイリンクとゴーレム
4. Golem: Prag (1)
5. Golem: Prag (2)
6. Golem: Prag (3)
7. Golem: Punsch (1)
8. Golem: Punsch (2)
9. Golem: Punsch (3)
10. Golem: Punsch (4)
11. Golem: Nacht (1)
12. Golem: Nacht (2)
13. Golem: Nacht (3)
14. Golem: Wach
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

7. 教科書および参考書：

テキスト：Meyrink, Gustav, Golem, Augsburg: Weltbild, 1994. 他の版でも可。

その他参考書等については随時指示する。

8. 授業時間外学習：

予習中心：テキストをよく読んでおくこと。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：里村 和秋 (非常勤講師)

講義コード：LB98813, **科目ナンバリング：**LHM-LIT308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代ドイツ・オーストリア文学概論

2. Course Title (授業題目)：

Modern literature and culture of German and Austrian language Sphere

3. 授業の目的と概要：

中欧に位置するドイツおよびオーストリアは、民族の大移動以来、地政学的な条件から、周辺各国との間で相互に大きな影響関係を持ちながら独自の文化を形成してきた。この授業では、「ヨーロッパ」の文脈を意識しながら、19世紀以降のドイツおよびオーストリアの文学を概観し、文学作品の読解・分析を通じて、それぞれの作家の文学作品のテーマや様式の特徴を把握することを目的とする。特に同じドイツ語圏にありながら、ドイツ文学とは異なる特徴を持つオーストリア文学について、その歴史的経緯や文化的背景との関連からアプローチする。

4. 学習の到達目標：

近現代のドイツ語圏の文学作品を概観しながら、学習者は、言語やアイデンティティ、社会や政治などの問題が文学作品にどのように反映しているかを確認し、その特徴を理解できるようにする。特に、ドイツ文学と深い影響関係を持ちながらも異なる発展を遂げたオーストリア文学について、その知識を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス (近現代オーストリア・ドイツ文学の諸問題)
- 2 ビーダーマイヤー期 (グリルパルツァー・シュティフター)
- 3 ウィーン民衆劇1 (ライムント)
- 4 ウィーン民衆劇2 (ネストロイ)
- 5 カフェ文化と文学
- 6 世紀末オーストリア文学
- 7 アルトウール・シュニッツラー
- 8 ホフマンスタール1 (概論)
- 9 ホフマンスタール2 (散文作品)
- 10 ホフマンスタール3 (演劇作品)
- 11 ウィーンと都市問題
- 12 ナチスとプロパガンダ
- 13 ヘッセ1 (前期)
- 14 ヘッセ2 (後期)
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の平常点 40%と期末レポート 60%によって評価を行う。平常点は、授業において扱うテキストを正確に理解できているかどうかを評価する。期末レポートでは、課題に従って、説得力のある論理的な議論が展開できているかどうかを評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：プリントを配布する。参考書：原研二『物語と不在—十九世紀オーストリア小説とミュージル』、クラウドディオ マグリス『オーストリア文学とハプスブルク神話』、田口 晃『ウィーン—都市の近代』 (岩波新書)、飯田 道子『ナチスと映画』 (中公新書)など。

8. 授業時間外学習：

授業ではテキストの講読も行うので、講義に先立って配布するテキストをあらかじめ読んでおくこと。また講義終了後提出する期末レポートについてテーマを選定し、そのための事前調査・資料収集を行っておくこと。

9. その他：

事前の授業に関する問い合わせは、satomura@law.seikei.ac.jp までお願いします。

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カフカを読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Kafka

3. 授業の目的と概要：

フランツ・カフカの小説作品を対象として、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ドイツ文学作品の読解力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 導入

第2回～第14回 テキストの講読

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加（70％）とレポート（30％）。

7. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備する。

8. 授業時間外学習：

毎回、事前に訳読の準備をして出席すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp
(森本浩一)

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB61302, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カフカを読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Kafka

3. 授業の目的と概要：

フランツ・カフカの小説作品を対象として、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ドイツ文学作品の読解力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 導入

第2回～第14回 テキストの講読

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加（70％）とレポート（30％）。

7. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備する。

8. 授業時間外学習：

毎回、事前に訳読の準備をして出席すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp
(森本浩一)

科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB55304, **科目ナンバリング：**LHM-LIT323J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フィクションの物語を批評する 1

2. Course Title (授業題目)：

Doing a criticism of the fictional narrative

3. 授業の目的と概要：

様々なフィクションの物語を実際に読んだり見たりして、その解釈を行い「批評」的なテキストを書く訓練を行う。特に、メディアの特性による物語経験の違いに焦点をあて、形式と内容の両面から作品について論述する方法を検討する。参加者の発表をメインとし、参加者相互および教員との討議によって授業を進める。

4. 学習の到達目標：

物語のメディア的側面に対する感受性が高まり、作品を批評する技倆が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. メディア比較
3. メディア比較
4. 自由課題批評
5. 自由課題批評
6. 自由課題批評
7. 映画を批評する
8. 映画を批評する
9. 小説を批評する
10. 小説を批評する
11. マンガを批評する
12. マンガを批評する
13. 映画を批評する
14. 映画を批評する
15. 長篇小説を批評する

6. 成績評価方法：

おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加（80%）およびレポート（20%）。

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

各人の批評文を素材として授業を行うので、指定された提出物は必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp
（森本浩一）

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-LIT324J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フィクションの物語を批評する 2

2. Course Title (授業題目)：

Doing a criticism of the fictional narrative

3. 授業の目的と概要：

様々なフィクションの物語を実際に読んだり見たりして、その解釈を行い「批評」的なテキストを書く訓練を行う。特に、メディアの特性による物語経験の違いに焦点をあて、形式と内容の両面から作品について論述する方法を検討する。参加者の発表をメインとし、参加者相互および教員との討議によって授業を進める。

4. 学習の到達目標：

物語のメディア的側面に対する感受性が高まり、作品を批評する技倆が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 導入

第2回～第14回 参加者各人の個別発表と討議

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

個人発表および各回の討議への参加と応答文の提出（80%）、自らの発表をもとにした最終レポート（20%）。

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

最低一回は個別発表が課されるので、その事前準備を行うこと。各人の発表作品を事前に読んで（見て）おくこと。各回の発表に対する応答文を次回授業前日までにメール添付で提出すること。

9. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。xkc-m2rt@tohoku.ac.jp（森本浩一）

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 研一 (非常勤講師)

講義コード：LB54403, **科目ナンバリング：**LHM-LIT325J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生—— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(II)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (II)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729-81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を前年度にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772) を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

1. オリエンテーション

2. Zweiter Aufzug, Erster Auftritt

3. Zweiter Aufzug, Erster Auftritt

4. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

5. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

6. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

7. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

8. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

9. Zweiter Aufzug, Zweiter Auftritt

10. Zweiter Aufzug, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt, Fünfter Auftritt

11. Zweiter Aufzug, Sechster Auftritt

12. Zweiter Aufzug, Siebenter Auftritt, Achter Auftritt

13. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt

14. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt

15. Zweiter Aufzug, Neunter Auftritt

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) はプリントで配布する。

参考文献はつぎのとおり。

・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.

・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vor

8. 授業時間外学習：

古代ギリシア悲劇から現代劇まで貪欲に戯曲の世界と触れること。

9. その他：

科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 研一 (非常勤講師)

講義コード：LB64402, **科目ナンバリング：**LHM-LIT326J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(III)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (III)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程にほかならない。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではないのである。この点を見定めながら、十八世紀ドイツを代表するレッシング (1729-81) の喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を前学期にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか考える。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772) を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくる。原典を読みつつ、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

1. オリエンテーション

2. Dritter Aufzug, Erster Auftritt, Zweiter Auftritt

3. Dritter Aufzug, Zweiter Auftritt

4. Dritter Aufzug, Zweiter Auftritt

5. Dritter Aufzug, Dritter Auftritt

6. Dritter Aufzug, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt

7. Dritter Aufzug, Vierter Auftritt

8. Dritter Aufzug, Fünfter Auftritt

9. Dritter Aufzug, Fünfter Auftritt, Sechster Auftritt

10. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt

11. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt

12. Dritter Aufzug, Siebenter Auftritt

13. Dritter Aufzug, Achter Auftritt, Neunter Auftritt, Zehnter Auftritt

14. Dritter Aufzug, Zehnter Auftritt

15. Dritter Aufzug, Elfter Auftritt, Zwölfter Auftritt

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) はプリントで配布する。

参考文献はつぎのとおり。

・Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004.

・Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vor

8. 授業時間外学習：

古代ギリシア悲劇から現代劇まで貪欲に戯曲の世界と触れること。

9. その他：

科目名：ドイツ語学演習Ⅰ／ German Linguistics (Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB53308, 科目ナンバリング：LHM-LIT327J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語学演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Linguistics (Seminar)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。

読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. 学習の到達目標：

B1レベルのドイツ語を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Kaufen I – Beschreibungen
2. Kaufen II – Farben
3. Kaufen III – Kaufen
4. Kaufen IV – Reklamieren
5. Kaufen V – Nacherzählen
6. Kaufen VI – Rhythmusgruppen
7. Kaufen VII – Adjektive
8. Kaufen VIII – Artikel
9. Kaufen IX – Fragewörter
10. Kaufen X – Modalverben
11. Krankheit I – Beschwerden nennen
12. Krankheit II – Witz erzählen
13. Krankheit III – Bild beschreiben
14. Krankheit IV – Text zusammenfassen
15. Krankheit V – Gedicht

6. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

7. 教科書および参考書：

Stufen International 2

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

教材の事前購入を勧める

科目名：ドイツ語学演習Ⅱ／ German Linguistics (Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB63309, 科目ナンバリング：LHM-LIT328J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語学演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Linguistics (Seminar)I

3. 授業の目的と概要：

2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。

読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. 学習の到達目標：

B1レベルのドイツ語を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Krankheit VI - Orthographie
2. Krankheit VII - Lange und kurze Vokale
3. Krankheit VIII - Passiv
4. Krankheit IX - Relativsatz
5. Krankheit X - Konjunktiv
6. Klima I - Wettererscheinungen benennen
7. Klima II - Geschichte zu Bildern erfinden
8. Klima III - Pro und Kontra Diskussion
9. Klima IV - literarischer Text
10. Klima V - Erlebnisbericht
11. Klima VI - Brief
12. Klima VII - Wortakzent und Satzakzent
13. Klima VIII - Präpositionen
14. Klima IX - Komparation
15. Klima X - Plusquamperfekt

6. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

7. 教科書および参考書：

Stufen International 2

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：

教材の事前購入を勧める

科目名：ドイツ語学演習Ⅲ／ German Linguistics (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB51207, **科目ナンバリング：**LHM-LIT329J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中高ドイツ語講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading "Nibelungenlied" in middle high German

3. 授業の目的と概要：

ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200 年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。

4. 学習の到達目標：

中高ドイツ語の文構造が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1
- 3 中高ドイツ語入門 2
- 4 中高ドイツ語入門 3
- 5 「ニーベルンゲンの歌」講読 1
- 6 「ニーベルンゲンの歌」講読 2
- 7 「ニーベルンゲンの歌」講読 3
- 8 「ニーベルンゲンの歌」講読 4
- 9 「ニーベルンゲンの歌」講読 5
- 10 「ニーベルンゲンの歌」講読 6
- 11 「ニーベルンゲンの歌」講読 7
- 12 「ニーベルンゲンの歌」講読 8
- 13 「ニーベルンゲンの歌」講読 9
- 14 「ニーベルンゲンの歌」講読 10
- 15 「ニーベルンゲンの歌」講読 11

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997.

参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、『ニーベルンゲンの歌』（相良守峯訳）岩波文庫、『ニーベルンゲンの歌』（岡崎忠弘役）鳥影社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.

8. 授業時間外学習：

前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をすること。

9. その他：

講読する箇所は先学期からの続きである。

科目名：ドイツ語学演習Ⅳ／ German Linguistics (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB61204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT330J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中高ドイツ語講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading "Nibelungelied" in middle high German

3. 授業の目的と概要：

ドイツ中世叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を原文で講読する。1200 年頃の中高ドイツ語 (Mittelhochdeutsch) をよりよく理解することを目指しながら、物語展開上の文脈の解釈にも重点を置きたい。その際、中世ヨーロッパの文化や社会についての理解を深めることにも留意する。また北欧の伝承との関連についてもあわせて考察したい。

4. 学習の到達目標：

中高ドイツ語の文構造が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1
- 3 中高ドイツ語入門 2
- 4 中高ドイツ語入門 3
- 5 「ニーベルンゲンの歌」 講読 1
- 6 「ニーベルンゲンの歌」 講読 2
- 7 「ニーベルンゲンの歌」 講読 3
- 8 「ニーベルンゲンの歌」 講読 4
- 9 「ニーベルンゲンの歌」 講読 5
- 10 「ニーベルンゲンの歌」 講読 6
- 11 「ニーベルンゲンの歌」 講読 7
- 12 「ニーベルンゲンの歌」 講読 8
- 13 「ニーベルンゲンの歌」 講読 9
- 14 「ニーベルンゲンの歌」 講読 10
- 15 「ニーベルンゲンの歌」 講読 11

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Stuttgart: Reclam 1997.

参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社、『ニーベルンゲンの歌』（相良守峯訳）岩波文庫、『ニーベルンゲンの歌』（岡崎忠弘役）鳥影社、浜崎長寿『中高ドイツ語の分類語彙と変化表』大学書林、M. Lexers Mittelhochdeutsches Taschenwörterbuch. Stuttgart: Hirzel.

8. 授業時間外学習：

前もって単語の文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づきつつ、辞書を使って予習をすること。

9. その他：

講読する箇所は先学期からの続きである。

フランス語学フランス文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
フランス文学概論Ⅰ	フランス文学史(近現代)	2	今井 勉	4	水	4	1
フランス語学概論Ⅰ	言語学の誕生から今日まで	2	阿部 宏	4	月	5	2
フランス文学基礎講読Ⅰ	短編小説を読む	2	今井 勉	3	水	4	3
フランス語学基礎講読	フランスの雑誌を読む	2	阿部 宏	3	月	5	4
フランス文学各論Ⅰ	フランス文学批評史	2	今井 勉	5	木	2	5
フランス文学各論Ⅱ	ランボーと近代抒情性の研究	2	深井 陽介	6	月	4	6
フランス文学各論Ⅲ	フランス語圏文学研究入門	2	廣松 勲	集中(6)			7
フランス文学演習Ⅰ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	5	水	2	8
フランス文学演習Ⅱ	Langue et culture de la France contemporaine	2	メヴェル・ヤン	6	水	2	10
フランス語学演習Ⅰ	フランス語意味論Ⅰ	2	阿部 宏	5	火	3	12
フランス語学演習Ⅱ	フランス語意味論Ⅱ	2	阿部 宏	6	火	3	13

科目名：フランス文学概論 I / French Literature (General Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LB43402, **科目ナンバリング：**LHM-LIT208J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス文学史 (近現代)

2. Course Title (授業題目)：

History of french modern literature

3. 授業の目的と概要：

人間論の基本的な教養として、フランス文学史の知識は有効です。この授業では、18 世紀後半から 19 世紀末までのフランス文学史上重要な作品を、毎回一篇程度取り上げて、テキスト読解を試みます。具体的には、ルソー、コンスタン、ユゴー、スタンダール、バルザック、フローベール、ボードレール、ランボー、マラルメ、ゾラなどの作品について、当時の歴史的・文化的な背景を絡めながら、代表的なテキストを取り上げて、解説を加えていきます。

4. 学習の到達目標：

フランス文学史を通覧しながら、フランス文学の傑作に触れる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う作家・作品および進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

- 第 1 回 フランス文学史の方法に関する概説
- 第 2 回 ルソー『告白』『孤独な散歩者の夢想』
- 第 3 回 コンスタン『アドルフ』
- 第 4 回 ユゴー『エルナニ』
- 第 5 回 スタンダール『赤と黒』
- 第 6 回 バルザック『ゴリオ爺さん』
- 第 7 回 フローベール『ボヴァリー夫人』
- 第 8 回 フローベール『感情教育』
- 第 9 回 ボードレール『悪の華』『パリの憂鬱』
- 第 10 回 ランボー『地獄の季節』
- 第 12 回 マラルメ『詩集』
- 第 13 回 ゾラ『居酒屋』
- 第 14 回 ヴァレリー『テスト氏との一夜』
- 第 15 回 まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

出席 20% + 筆記試験 80%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。参考書としては『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房、2002 年）を挙げておきます。

8. 授業時間外学習：

毎回、次の授業で扱うプリントを配付しますので、あらかじめよく読んで、授業に臨んでください。

9. その他：

連絡先： tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス語学概論 I / French Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：阿部 宏（教授）

講義コード：LB41501, 科目ナンバリング：LHM-LIT210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語学の誕生から今日まで

2. Course Title (授業題目)：

From the birth of linguistics to today

3. 授業の目的と概要：

- ・言語研究の歴史についてフランス語のテキストにもとづいて解説する.
- ・言語研究の最近の成果を概説する.
- ・フランス語の論文の読解に慣れる.

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語学の基礎知識が身につく.
- ・フランス語の論説文が読めるようになる.
- ・フランス語の中級文法をマスターできる.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 比較文法（1）
3. 比較文法（2）
4. ソシュール（1）
5. ソシュール（2）
6. 音韻論（1）
7. 構造主義（2）
8. アメリカ構造主義
9. 生成変形文法
10. 認知意味論
11. 文法化（1）
12. 文法化（2）
13. 主観性（1）
14. 主観性（2）
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 50%, 筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

プリント使用.

参考書：阿部宏（2015）『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会.

他にも、関連図書を適宜推薦します.

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス文学基礎講読Ⅰ／ French Literature (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：今井 勉（教授）

講義コード：LB33404, 科目ナンバリング：LHM-LIT223J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

短編小説を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading of french short stories

3. 授業の目的と概要：

基礎文法を確認しながら、フランス文学の原典に親しみます。この授業では、19 世紀末に活躍した作家マルセル・シュオブ (1867-1905) の作品を読みます。

4. 学習の到達目標：

フランス文学の原典を読む基礎的な作法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う予定の作品・進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

第1回 導入。マルセル・シュオブについて。

第2回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (1)

第3回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (2)

第4回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (3)

第5回 『二重の心』より「〇八一号列車」の読解 (4)

第6回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (1)

第7回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (2)

第8回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (3)

第9回 『二重の心』より「骸骨」の読解 (4)

第10回 『黄金仮面の王』より「大地炎上」の読解 (1)

第11回 『黄金仮面の王』より「大地炎上」の読解 (2)

第12回 『黄金仮面の王』より「ミイラ造りの女」の読解 (1)

第13回 『黄金仮面の王』より「ミイラ造りの女」の読解 (2)

第14回 『黄金仮面の王』より「ペスト」の読解 (1)

第15回 『黄金仮面の王』より「ペスト」の読解 (2) および筆記試験

6. 成績評価方法：

毎回の予習に基づく授業参加状況 50%＋筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

コピーを配付します

8. 授業時間外学習：

毎回予習をして授業に臨むこと

9. その他：

連絡先： tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス語学基礎講読／ French Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LB31505, **科目ナンバリング：**LHM-LIT225J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランスの雑誌を読む

2. Course Title (授業題目)：

French magazine reading comprehension

3. 授業の目的と概要：

フランス語で書かれた平易な雑誌記事やガイドブックを題材に、初級文法・基礎的語彙の復習、中級文法の学習、文章読解の練習を行います。また、発音のわかりづらい点（発音記号の理解、語末音の発音の有無、複母音字、鼻母音、リエゾンなど）、文法のわかりづらい点（部分冠詞、名詞の性、中性代名詞、複合過去と半過去との違い、単純過去、条件法、接続法など）、フランスと英語や日本語との違い、フランス語の語源とフランス語史などについて解説します。仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても紹介します。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語の雑誌やガイドブックが読めるようになる。
- ・フランス語の中級文法がわかるようになる。
- ・仏々辞典、仏英辞典、文法事典の使い方をマスターする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 辞典、文法事典、参考書の紹介
3. 雑誌記事・日本紹介（1）
4. 雑誌記事・日本紹介（2）
5. 雑誌記事・日本紹介（3）
6. 雑誌記事・時事問題（1）
7. 雑誌記事・時事問題（2）
8. 雑誌記事・時事問題（3）
9. ガイドブック・大学案内（1）
10. ガイドブック・大学案内（2）
11. ガイドブック・大学案内（3）
12. ガイドブック・旅行案内（1）
13. ガイドブック・旅行案内（2）
14. ガイドブック・旅行案内（3）
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 50%. 筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。参考書については、教室で現物をお見せして、適宜推薦します。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス文学各論 I / French Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LB54201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス文学批評史

2. Course Title (授業題目)：

History of french criticism

3. 授業の目的と概要：

19 世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和政』(1983)を主要参考文献として、19 世紀後半から 20 世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。

4. 学習の到達目標：

フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う節・進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

1. 導入。コンパニョン『文学の第三共和政』第 1 部「ギュスターヴ・ランソン 人と作品」の第 27 節から第 30 節についての解説。

2. 同書第 2 部「文学とは何か」より (1) 読書

3. 同 (2) 図書館

4. 同 (3) 愛書家

5. 同 (4) 偶像崇拜

6. 同 (4) 読書あるいは人生

7. 同 (6) インスピレーション

8. 同 (7) ヴィジョン

9. 同 (8) ブルースト『失われた時を求めて』

10. 同 (9) フローベール『現代のフランス』

11. 同 (10) 文学史を少々

12. 同 (11) テーヌ

13. 同 (12) 反動

14. 同 (13) フローベール、テーヌ、ブルースト

15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。主要参考文献は以下の通り。アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983) [邦訳なし]、『理論の魔』(1998) [邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)]、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法 (1800-2000)』(2016) [邦訳なし]。

8. 授業時間外学習：

毎回、引用文の訳を担当していただく場合がありますので、ご準備ください。

9. その他：

連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス文学各論Ⅱ／ French Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：深井 陽介（兼務教員）

講義コード：LB61401, **科目ナンバリング：**LHM-LIT313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ランボーと近代抒情性の研究

2. Course Title (授業題目)：

ランボーと近代抒情性の研究

3. 授業の目的と概要：

この授業では、フランス 19 世紀詩人アルチュール・ランボーに焦点をあてて、韻文作品・散文作品を読解し、韻律・文体・テーマ・文学と社会などの様々な観点から分析していきます。また、ランボー以前の作家（特に 19 世紀前半のロマン派やボードレールなど）との比較を通して、近代詩における「主体」と抒情性の問題について考えてみたいと思います。

4. 学習の到達目標：

19 世紀フランス文学の全体像がわかる。

近代詩の特徴が理解できる。

フランス文学の読解方法をマスターしており、様々な観点から分析できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 授業の進め方とテキスト分析の方法。詩人ランボーとその作品に関する概説。

第 2 回 ドゥエ詩帖 「悪」の読解・分析

第 3 回 ドゥエ詩帖 「水から立ち現れるヴィーナス」の読解・分析

第 4 回 「花について詩人に語られたこと」の読解

第 5 回 「花について詩人に語られたこと」の分析

第 6 回 後期韻文詩「黄金時代」の読解

第 7 回 後期韻文詩「黄金時代」の分析

第 8 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して①

第 9 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して②

第 10 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して③

第 11 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して④

第 12 回 イリュミナシオン「王位」の読解・分析

第 13 回 イリュミナシオン「夜明け」の読解・分析

第 14 回 イリュミナシオン「民主主義」の読解分析

第 15 回 イリュミナシオン「セール」の読解・分析

6. 成績評価方法：

授業への参加度 50%（グループワークや分析の際に積極的に参加し、発言しているかを評価します）

レポート 50%（授業で学んだ方法を使って、文学作品を分析しレポートを提出して頂き、それを論理性・独創性などの観点から評価します）

7. 教科書および参考書：

必要なテキストは授業初回に配布しますので、受講を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。

また参考書に関しては必要に応じてその都度紹介します。

8. 授業時間外学習：

授業で扱う文学作品は比較的難解なものが多いので、扱うものを毎回入念に読んで予習してきてください。また、詩作品は凝縮されたテキストですので、複数のメッセージが隠されています。ただ読むだけではなく、そこから客観的に何が論じられるのかまとめてきてください。

9. その他：

授業への積極的な参加を求めます。

科目名：フランス文学各論Ⅲ／ French Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：廣松 勲(非常勤講師)

講義コード：LB98814, **科目ナンバリング：**LHM-LIT314J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語圏文学研究入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Literatures of French-Speaking World

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、アメリカ大陸の「フランス語圏(フランコフォニー)」を中心対象として、フランス語圏文学の共通性と差異を具体的なテキスト分析に基づいて検討することにある。まずは、「フランコフォニー」が世界5大陸に広がった歴史的・社会文化的背景を検討し、各地域(特にカリブ海域諸島・マルティニク島とカナダ・ケベック州)の言語状況を紹介する。その上で、フランス語圏文学を研究する上での前提知識を扱ったエッセイ、各地域の代表的な作家たちの小説・詩などを講読し、参加者で討論を行う。

4. 学習の到達目標：

- ①フランス語圏の世界規模の広がりについて、その歴史的・社会文化的要因を説明できる。
- ②フランス語圏文学を研究する際の基本的条件を理解できる。
- ③上記に基づいて、フランス語圏文学のテキストを精緻に読み込むことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：フランス語圏(フランコフォニー)とは何か？：歴史と地理
2. カリブ海域諸島・マルティニク島のフランス語圏：歴史、社会、言語状況
3. カナダ・ケベック州のフランス語圏：歴史、社会、言語状況
4. フランス語圏文学研究の基礎的条件
5. 原典講読①：Jean-Marc Moura, Littératures francophones et théorie postcoloniale (1999)
6. 原典講読②：Jean-Marc Moura, Littératures francophones et théorie postcoloniale (1999)
7. カリブ海域諸島・マルティニク島の文学と思想
8. 原典講読①：Aimé Césaire, Cahier d'un retour au pays natal (1939)
9. 原典講読②：Édouard Glissant, La Lézarde (1955)
10. 原典講読③：Patrick Chamoiseau, Solibo Magnifique (1988)
11. カナダ・ケベック州の文学と思想
12. 原典講読①：Jacques Godbout, Salut Galarneau ! (1967)
13. 原典講読②：Émile Ollivier, Passages (1991)
14. 原典講読③：Dany Laferrière, Je suis un écrivain japonais (2008)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 40%＋最終レポート 60%

最終レポートでは自ら選んだフランス語圏文学(アメリカ大陸以外でも可)の作品について、個別の作品分析をしてもらいます。

7. 教科書および参考書：

参考書：

平野千香子著『フランス植民地主義の歴史』人文書院, 2002年.

鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語』関西学院大学出版会, 2012年.

小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』明石書店, 2009年.

コーラル・アン・ハウエルズ他著『ケンブリッジ版 カナダ文学史』(日本カナダ学会他編訳), 彩流社, 2016年.

国本伊代編著『カリブ海世界を知るための70章』明石書店, 2017年.

中村隆之著『フランス語圏カリブ海文学小史』風響社, 2012年.

8. 授業時間外学習：

最終レポート執筆に向けて、授業内で扱った作品のみならず、事前にフランス語圏文学(アメリカ大陸以外も含む)にはどのような作家がおり、どのような作品が書かれているのかを調査して欲しい。

9. その他：

「授業内容・方法と進度予定」については、受講人数等の諸事情により変更する場合があります。

科目名：フランス文学演習 I / French Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LB53205, **科目ナンバリング：**LHM-LIT331J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Langue et culture de la France contemporaine

2. Course Title (授業題目)：

Langue et culture de la France contemporaine

3. 授業の目的と概要：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.

Une lecture de textes littéraires pourra être proposée, en fonction des centres d'intérêt des étudiants.

4. 学習の到達目標：

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :

- la lecture de divers types de textes
- un entraînement à la compréhension de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Expression orale et écrite

2) Expression orale et écrite

3) Expression orale et écrite

4) Expression orale et écrite

5) Expression orale et écrite

6) Expression orale et écrite

7) Expression orale et écrite

8) Expression orale et écrite

9) Expression orale et écrite

10) Expression orale et écrite

11) Expression orale et écrite

12) Expression orale et écrite

13) Expression orale et écrite

14) Expression orale et écrite

15) Projection de film et discussion

6. 成績評価方法：

Une présence à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60 % dans l'évaluation globale.

L'évaluation portera aussi sur des textes brefs, rédigés régulièrement pendant le semestre.

7. 教科書および参考書：

A. Berthet, E. Daill, C. Hugot, V. M. Kizirian, M. Waendendries, Alter ego +, Paris, Éditions Hachette Français langue étrangère, 2012.

Des photocopies seront fournies pour les premiers cours.

8. 授業時間外学習：

Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec le cours.

9. その他：

科目名：フランス文学演習Ⅱ／ French Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LB63204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT332J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Langue et culture de la France contemporaine

2. Course Title (授業題目)：

Langue et culture de la France contemporaine

3. 授業の目的と概要：

A l'oral comme à l'écrit, le cours permettra

- d'enrichir le vocabulaire et de consolider la syntaxe
- d'augmenter les capacités d'argumentation
- d'améliorer les capacités de compréhension

Le cours aidera aussi à découvrir la vie quotidienne en France, ses codes et usages.

Une lecture de textes littéraires pourra être proposée, en fonction des centres d'intérêt des étudiants.

4. 学習の到達目標：

Le cours prendra plusieurs formes. Il permettra :

- la lecture de divers types de textes
- un entraînement à la compréhension de documents sonores
- une analyse de documents visuels
- des discussions sur des sujets de société
- des jeux de rôles

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Expression orale et écrite

2) Expression orale et écrite

3) Expression orale et écrite

4) Expression orale et écrite

5) Expression orale et écrite

6) Expression orale et écrite

7) Expression orale et écrite

8) Expression orale et écrite

9) Expression orale et écrite

10) Expression orale et écrite

11) Expression orale et écrite

12) Expression orale et écrite

13) Expression orale et écrite

14) Expression orale et écrite

15) Projection de film et discussion

6. 成績評価方法：

Une présence à tous les cours est nécessaire. La participation à l'oral compte pour 60 % dans l'évaluation globale.

L'évaluation portera aussi sur des textes brefs, rédigés régulièrement pendant le semestre.

7. 教科書および参考書：

A. Berthet, E. Daill, C. Hugot, V. M. Kizirian, M. Waendendries, Alter ego +, Paris, Éditions Hachette Français langue étrangère, 2012.

Des photocopies seront fournies pour les premiers cours.

8. 授業時間外学習：

Des exercices permettront de revoir du vocabulaire ou des points de grammaire. Il faudra aussi rédiger des textes brefs en relation avec le cours.

9. その他：

科目名：フランス語学演習 I / French Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LB52305, **科目ナンバリング：**LHM-LIT335J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語意味論 I

2. Course Title (授業題目)：

French Semantics I

3. 授業の目的と概要：

- ・19 世紀のフランス文学作品のテキストを題材に、フランス語の言語的現象を分析し、同時に文化論・文学論・歴史学的な考察を行います。
- ・フランス語の諸現象について、文法化、認知意味論、主観性などの観点から解説します。
- ・実例に基づいた言語研究、およびフランス語・英語・日本語間の対照研究の方法論について考察します。
- ・仏々辞典、仏英辞典、文法事典、類義語辞典などの有効な活用法についても、具体的に説明します。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語の読解力が高まる。
- ・フランス語の語彙と文法の仕組みがわかるようになる。
- ・語学研究の自分なりのテーマを見つけられる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 仏々辞典等の使用法
3. 文法事典等の使用法
4. 意味論概説 (1)
5. 意味論概説 (2)
6. 意味論概説 (3)
7. テキスト読解 (1)
8. テキスト読解 (2)
9. テキスト読解 (3)
10. テキスト読解 (4)
11. テキスト読解 (4)
12. テキスト読解 (5)
13. テキスト読解 (6)
14. テキスト読解 (7)
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 50%, 筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

参考書：阿部宏 (2015) 『言葉に心の声を聞く』 東北大学出版会。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス語学演習Ⅱ／ French Linguistics (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LB62304, **科目ナンバリング：**LHM-LIT336J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語意味論 II

2. Course Title (授業題目)：

French semantics II

3. 授業の目的と概要：

- ・フランス語の語彙，文法，歴史を扱った論文を読みながら，文法構造，歴史，語彙など，フランス語の特徴について総合的に解説し，考察します。また，適宜，英語，日本語などとの対照的考察を行います。
- ・語学研究の方法論を解説するとともに，フランス語と日本語の類似点と相違点について考察します。
- ・LEXIS などの仏々辞典，『朝倉・新フランス文法事典』，Le Bon Usage, Dupre などの文法事典，Robert-Collins などの仏英辞典，Benac などの類義語辞典，Le Robert historique などの語源辞典の利用法について，具体例にもとづいて解説します。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語の読解力が高まる。
- ・フランス語，英語，日本語などの言葉の違いを超えた共通性に気づく。
- ・語学研究の自分なりのテーマを見つけられる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 意味論関連文献読解 (1)
3. 意味論関連文献読解 (2)
4. 意味論関連文献読解 (3)
5. 意味論関連文献読解 (4)
6. 意味論関連文献読解 (5)
7. 主観性関連文献読解 (1)
8. 主観性関連文献読解 (2)
9. 主観性関連文献読解 (3)
10. 主観性関連文献読解 (4)
11. 語用論関連文献読解 (1)
12. 語用論関連文献読解 (2)
13. 語用論関連文献読解 (3)
14. 語用論関連文献読解 (4)
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 50% + 出席 50%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。

参考書：阿部宏 (2015)『言葉に心の声を聞く』東北大学出版会。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので，関連資料を調査し，各自考えていただきます

9. その他：

ヨーロッパ史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ヨーロッパ史概論	近世ヨーロッパ国家の諸特徴	2	田中 良英	3	月	2	1
ヨーロッパ史概論	18～19世紀ヨーロッパ国家の諸特徴	2	田中 良英	4	月	2	2
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	3	水	2	3
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	4	水	2	4
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	金	2	5
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献講読	2	浅岡 善治	4	金	2	6
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有光 秀行	3	金	4	7
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有光 秀行	4	金	4	8
ヨーロッパ史各論	「ノルマン人の帝国」に生きる	2	有光 秀行	5	月	4	9
ヨーロッパ史各論	「戦間期(1918－39年)」再考	2	浅岡 善治	6	水	3	10
ヨーロッパ史各論	ドイツ農村社会史研究	2	山崎 彰	集中(5)			11
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	5	火	4	12
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	6	火	4	13
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	木	2	14
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	木	2	15
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近世・近代史の諸問題	2	杵淵 文夫	5	金	2	16
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近世・近代史の諸問題	2	杵淵 文夫	6	金	2	17

科目名：ヨーロッパ史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：田中 良英 (非常勤講師)

講義コード：LB31201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近世ヨーロッパ国家の諸特徴

2. Course Title (授業題目)：

Historical Features of the Early Modern European States

3. 授業の目的と概要：

歴史を学ぶとは、年代や人名、事件の名称を暗記することではなく、過去の社会に関する従来の理解の妥当性を常に問い直すことである。「近世」ヨーロッパについては「初期近代」という呼び方もあるように、かつて「近代」の準備期間として捉えられる傾向が強かったが、近年では「近世」の独自性に着目する視点も提示され、それにより「近代」に関する理解も改めて多様化している。本講義では、近世ヨーロッパ史理解における新たな視点について紹介しつつ、各地域間の普遍性と独自性を考察する。

4. 学習の到達目標：

近世ヨーロッパ国家の基本的な特徴について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：「近世」ヨーロッパ史を考察する意義
2. 神聖ローマ帝国と中世ヨーロッパ
3. 世界の一体化の開始と「ヨーロッパ中心主義」
4. 長期的過程としての宗教改革
5. 三十年戦争と主権国家体制の萌芽
6. 領邦国家における富国強兵の試み
7. 「礫岩のような国家」と「イギリス革命」
8. 「財政=軍事国家」論
9. フランス王国における統治構造
10. 君主儀礼による統合機能
11. バルト海における覇権争い (1)
12. バルト海における覇権争い (2)
13. 大北方戦争とピョートル改革
14. プロイセン王国の台頭
15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

授業時に全4回の小レポートを求めると共に (40%)、学期末に筆記試験を行い (60%)、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に定めず、資料などを授業時に配布し、文献についても適宜紹介する予定。なお全般的な参考文献として、大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年。南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』ミネルヴァ書房、2016年。

8. 授業時間外学習：

「概論」として、今後の専門的な学習の基礎になるような基本的知識の紹介に努めるが、入試教科として「世界史」を学んだ経験がないなど、講義内容の理解に不安がある場合には、概説書や紹介文献の講読などにより主体的に補完する態度が求められる。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：田中 良英（非常勤講師）

講義コード：LB41202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

18～19 世紀ヨーロッパ国家の諸特徴

2. Course Title (授業題目)：

Historical Features of the European States in the Eighteenth and Nineteenth Centuries

3. 授業の目的と概要：

歴史を学ぶとは、年代や人名、事件の名称を暗記することではなく、過去の社会に関する従来の理解の妥当性を常に問い直すことである。「近世」的特徴を残しつつ、ヨーロッパ国家が近代化する過程に関し、その理解における新たな視点を紹介しつつ、各地域間の普遍性と独自性とを考察する。

4. 学習の到達目標：

18～19 世紀ヨーロッパ国家の基本的な特徴について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：「身分制社会」としての近世
2. 18 世紀ヨーロッパ国際関係の基本軸
3. 近世ヨーロッパにおける女性君主の正統性
4. 「啓蒙の世紀」としての 18 世紀
5. 啓蒙絶対主義 (1)：プロイセン王国
6. 啓蒙絶対主義 (2)：ハプスブルク君主国
7. 啓蒙絶対主義 (3)：ロシア帝国
8. ポーランド王国の解体過程
9. フランス革命と政治文化
10. ナポレオン帝国とウィーン体制
11. 伝統と近代化の相克：ロシアを中心に
12. 近代ヨーロッパにおける国民国家の志向
13. 近代ヨーロッパにおける多民族帝国
14. 産業化と「市民社会」
15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

授業時に全 4 回の小レポートを求めると共に (40%)、学期末に筆記試験を行い (60%)、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に定めず、資料などを授業時に配布し、文献についても適宜紹介する予定。なお全般的な参考文献として、大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014 年。南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』ミネルヴァ書房、2016 年。

8. 授業時間外学習：

「概論」として、今後の専門的な学習の基礎になるような基本的知識の紹介に努めるが、入試教科として「世界史」を学んだ経験がないなど、講義内容の理解に不安がある場合には、概説書や紹介文献の講読などにより主体的に補完する態度が求められる。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB33205, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論(1)a

3. 試訳の検討と討論(1)b

4. 試訳の検討と討論(1)c

5. 試訳の検討と討論(1)d

6. 試訳の検討と討論(1)e

7. 小括(1)

8. 試訳の検討と討論(2)a

9. 試訳の検討と討論(2)b

10. 試訳の検討と討論(2)c

11. 試訳の検討と討論(2)d

12. 試訳の検討と討論(2)e

13. 小括(2)

14. 課題発表(1)

15. 中間的総括(1)

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%

7. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB43204, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 課題発表 (2)
2. 試訳の検討と討論 (3) a
3. 試訳の検討と討論 (3) b
4. 試訳の検討と討論 (3) c
5. 試訳の検討と討論 (3) d
6. 試訳の検討と討論 (3) e
7. 小括 (3)
8. 試訳の検討と討論 (4) a
9. 試訳の検討と討論 (4) b
10. 試訳の検討と討論 (4) c
11. 試訳の検討と討論 (4) d
12. 試訳の検討と討論 (4) e
13. 小括 (4)
14. 中間的総括 (2)

15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%

7. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB35203, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

専門書・論文を読めるような英文読解力を身につけると同時に、西洋史についても理解を深めることを目指します。歴史と伝記についての論文を読む予定です。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

英語で書かれた、歴史と伝記についての論文を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で 1000 字くらいを予定）と解説。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読み残したテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。）

7. 教科書および参考書：

教室で指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB45204, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in English

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、およびより高度な英語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1) a
3. 試訳の検討と討論 (1) b
4. 試訳の検討と討論 (1) c
5. 試訳の検討と討論 (1) d
6. 試訳の検討と討論 (1) e
7. 小括 (1)
8. 課題発表
9. 試訳の検討と討論 (2) a
10. 試訳の検討と討論 (2) b
11. 試訳の検討と討論 (2) c
12. 試訳の検討と討論 (2) d
13. 試訳の検討と討論 (2) e
14. 小括 (2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など） 70%

7. 教科書および参考書：

開講後発表。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フランス語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading French Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を涵養することを目的とします。ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。

4. 学習の到達目標：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で 700 字くらい）と解説。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読み残したテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します）

7. 教科書および参考書：

教室で指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成し、提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB45403, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フランス語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading French Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を涵養することを目的とします。ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。

4. 学習の到達目標：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前セメスターにつづき、ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で 700 字くらい）と解説。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読み残したテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します）

7. 教科書および参考書：

教室で指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成し、提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史各論／ European and American History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB51401, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「ノルマン人の帝国」に生きる

2. Course Title (授業題目)：

Living in the Empire of the Normans

3. 授業の目的と概要：

中世の「帝国」社会について具体的に理解することを目標とします。中世の日常言語で記された最初期の伝記の主人公、ウィリアム・マーシャルの、とくに後半生に着目します。

4. 学習の到達目標：

中世西北ヨーロッパ社会について、また「帝国」について、具体的な人物また史料を通して理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

11～13 世紀にノルマン人が進出した地域・社会を、近年 D・ベイツは「ノルマン人の帝国」として理解することを提案しています。その彼が提唱しているように、当時の人々の具体的な足跡をたどる中で「帝国」のあり方を考察します。大陸・ブリテン島・アイルランドと各地に所領を持った大貴顕、ウィリアム・マーシャルのとくに後半生に焦点をあて、当時の史料にも論究しながら論じます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50 パーセント）とレポート（50 パーセント）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

教室で指示する参考文献を読みながら、予習・復習をかならずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史各論／ European and American History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「戦間期（1918－39 年）」再考

2. Course Title (授業題目)：

The Reconsideration of the Interwar Period (1918-39)

3. 授業の目的と概要：

100 年を目前にして、かつて E・H・カーが「危機の 20 年」と称した両大戦間期の歴史的再検討が急速に進んでいる。本講義では、近年の研究成果に依拠しつつ、戦間期のヨーロッパとアメリカの歴史を再検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 欧米各国史および国際関係史の観点から、20 世紀史の概要を把握する。
- (2) 近現代史の知見を基に、現代の諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー本講義の趣旨と進め方について
2. 最初の世界戦争の終わり
3. パリ講和会議（1）
4. パリ講和会議（2）
5. 「平常への回帰」？（1）
6. 「平常への回帰」？（2）
7. 「平常への回帰」？（3）
8. 民族の自決（1）
9. 民族の自決（2）
10. ヴェルサイユからロカルノへ
11. ファシズムとコミュニズム（1）
12. ファシズムとコミュニズム（2）
13. ファシズムとコミュニズム（3）
14. 新たなる世界戦争
15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

特定の教科書は使用しない。参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。事実関係の確認には、大江一道『世界近現代全史Ⅲ 世界戦争の時代』（山川出版社、1997 年）が有用である。

8. 授業時間外学習：

「各論」でありながらも内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史各論／ European and American History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：山崎 彰（非常勤講師）

講義コード：LB98815, **科目ナンバリング：**LHM-HIS305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ農村社会史研究

2. Course Title (授業題目)：

Rural Social History of Germany

3. 授業の目的と概要：

ベルリン周辺に広がるブランデンブルク地方の農村社会史について、以下の点を論じる。①研究史について。②ドイツの文書館と所領文書について。③自然環境と資源利用について。④定住形態について。⑤領主制と土地貴族について。⑥農村の市民社会化について。

かつてエルベ川の東部に位置するブランデンブルク地方の農村は、権威主義的な特殊ドイツ的政治社会の社会基盤と見なされてきた。しかし東西ドイツ統合後は、むしろ東部ドイツ農村社会にヨーロッパ社会共通の性格を見いだそうとする研究が増えている。授業では上記の論点を中心に、中

4. 学習の到達目標：

- (1) ヨーロッパ農村社会の基本的特性を理解する。
- (2) 環境と自然資源利用の歴史を理解する。
- (3) 農村史とヨーロッパ市民社会の関係について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ヨーロッパ地域社会の歴史的特性—農村と都市
2. 研究史
3. 文書館利用と領地文書—日本の地方文書との比較
4. ブランデンブルクの自然環境—台地と低湿地
5. 中世における定住形態と自然利用
6. 三十年戦争と「17世紀危機」
7. 三十年戦争後の復興と近世農場領主制の形成
6. 低湿地開発—経済資源の拡大
7. 農民をめぐる裁判と土地評価制度の形成—農民の権利安定化と都市知識人の役割
8. 領主制解体の過程

6. 成績評価方法：

出席点(40点) 試験(60点)

7. 教科書および参考書：

参考書：

山崎彰『ドイツ近世的権力と土地貴族』（未来社）
藤田幸一郎『ヨーロッパ農村景観論』（日本経済評論社）
飯尾唯紀『近世ハンガリー農村社会の研究』（北海道大学出版会）
桐生裕子『近代ボヘミア農村と市民社会』（刀水書房）

8. 授業時間外学習：

大塚久雄『共同体の基礎理論』（岩波現代文庫）を読んでおくことが望ましい。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世伝記研究をあつかった論文の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB62406, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前セメスターにつづき、通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世伝記研究をあつかった論文の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。毎回、訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答を基本とします。また前セメスターに作成したレポートの報告会もおこないます。学期末には、やはり前セメスターと同様に、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB54206, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論(1)a
3. 試訳の検討と討論(1)b
4. 試訳の検討と討論(1)c
5. 試訳の検討と討論(1)d
6. 試訳の検討と討論(1)e
7. 小括(1)
8. 試訳の検討と討論(2)a
9. 試訳の検討と討論(2)b
10. 試訳の検討と討論(2)c
11. 試訳の検討と討論(2)d
12. 試訳の検討と討論(2)e
13. 小括(2)
14. 課題発表(1)
15. 中間的総括(1)

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004 年; Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB64205, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 課題発表(2)
2. 試訳の検討と討論(3)a
3. 試訳の検討と討論(3)b
4. 試訳の検討と討論(3)c
5. 試訳の検討と討論(3)d
6. 試訳の検討と討論(3)e
7. 小括(3)
8. 試訳の検討と討論(4)a
9. 試訳の検討と討論(4)b
10. 試訳の検討と討論(4)c
11. 試訳の検討と討論(4)d
12. 試訳の検討と討論(4)e
13. 小括(4)
14. 中間的総括(2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004 年; Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LB55209, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。同時に、卒業論文ないし卒業研究を見据えつつ、各自テーマを設定して研究動向等の調査を実施し、その成果を発表する。これらの課題を通じて、歴史研究を行うための基礎的な素養を習得する。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や技法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認
2. テキスト解釈の報告と討論(1)
3. テキスト解釈の報告と討論(2)
4. テキスト解釈の報告と討論(3)
5. テキスト解釈の報告と討論(4)
6. テキスト解釈の報告と討論(5)
7. 課題報告（前期中間）(1)
8. 課題報告（前期中間）(2)
9. テキスト解釈の報告と討論(6)
10. テキスト解釈の報告と討論(7)
11. テキスト解釈の報告と討論(8)
12. テキスト解釈の報告と討論(9)
13. テキスト解釈の報告と討論(10)
14. 課題報告（前期最終）(1)
15. 課題報告（前期最終）(2)

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LB65207, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。また、前期に引き続いて、各自で設定したテーマについて文献の調査や分析を進め、その成果を発表する。これらの課題を通じて、卒業論文ないし卒業研究の準備を完了させる。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や方法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認
2. テキスト解釈の報告と討論(1)
3. テキスト解釈の報告と討論(2)
4. テキスト解釈の報告と討論(3)
5. テキスト解釈の報告と討論(4)
6. テキスト解釈の報告と討論(5)
7. 課題報告（後期中間）(1)
8. 課題報告（後期中間）(2)
9. テキスト解釈の報告と討論(6)
10. テキスト解釈の報告と討論(7)
11. テキスト解釈の報告と討論(8)
12. テキスト解釈の報告と討論(9)
13. 課題報告（後期最終）(1)
14. 課題報告（後期最終）(2)
15. 授業総括

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：

言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
現代言語学概論	言語学概論Ⅰ	2	後藤 斉	3	金	2	1
現代言語学概論	言語学入門(運用)	2	木山 幸子	4	金	2	2
現代言語学基礎講読	語用論研究法入門	2	木山 幸子	3	月	2	3
現代言語学基礎演習	入門的言語調査・実験 法実践	2	木山 幸子	4	月	2	4
言語交流学基礎講読	統語論入門	2	小泉 政利	4	金	1	5
音声学	音声学概説・調音音声 学	2	後藤 斉	3	水	4	6
音声学	音響音声学	2	後藤 斉	4	水	4	7
現代言語学各論	言語と思考	2	小泉 政利	6	水	3	8
現代言語学各論	モンゴル語の歴史	2	斎藤 純男	集中(5)			9
現代言語学各論	歴史語用論	2	椎名 美智	集中(6)			10
言語交流学各論	テキスト処理の基礎	2	後藤 斉	5	月	2	11
言語交流学各論	心理言語学方法論	2	木山 幸子	5	水	2	12
現代言語学演習	言語学研究法Ⅰ	2	後藤 斉. 木山 幸子	5	金	3	13
現代言語学演習	言語学研究法Ⅱ	2	後藤 斉. 小泉 政利. 木山 幸子	6	金	3	14
言語交流学演習	コーパスによる言語の 分析	2	後藤 斉	5	月	4	15
言語交流学演習	言語データ分析法基礎	2	木山 幸子	5	火	2	16
言語交流学演習	言語データ分析法発展	2	木山 幸子	6	火	2	17
言語交流学演習	生成統語論	2	小泉 政利	6	水	4	18
言語交流学演習	コーパス言語学の展開	2	後藤 斉	6	金	2	19

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB35201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学概論 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

言語学の文献を読んだり卒業論文に向けて専門的に研究を進めていくうえでぜひとも知っておかなければならない基礎的な概念や言語現象, 分析方法などについて学びます。今学期は特に, 音韻論と形態論の分野に焦点を当てる。

4. 学習の到達目標：

世界の言語について基本的な理解を得る。音韻論と形態論における基礎的な概念を理解し、それを使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、言語学とは
2. 世界の諸言語 1：地理
3. 世界の諸言語 2：系統
4. 世界の諸言語 3：類型
5. 世界の諸言語 4：文字
6. 音声学 1：音声
7. 音声学 2：調音音声学
8. 音声学 3：音響音声学
9. 音韻論 1：音素
10. 音韻論 2：音節とモーラ
11. 音韻論 3：韻律と音韻現象
12. 形態論 1：語と形態素
13. 形態論 2：語形成
14. 形態論 3：辞書
15. まとめ

6. 成績評価方法：

概ね次のような基準で総合的に評価を決定する。

小テスト 40%、章ごとのテスト 60%

7. 教科書および参考書：

教科書：風間喜代三他『言語学』第2版、東京大学出版会、2004.

8. 授業時間外学習：

毎回、授業の復習をこまめに行うこと。テストには授業時間外に行う課題を含むことがある。

9. その他：

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB45201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学入門 (運用)

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

ことばは、様々な状況で、様々な話し手と聞き手の間のやりとりで用いられます。「語用論 (Pragmatics)」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまでに発展してきた語用論理論の概要を理解し、それらの理論を検証した主要な先行研究の要点を把握します。

4. 学習の到達目標：

身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、言語処理の過程は使用者の特性（個人間の差および個人内の変化）に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 呼称：人をどう呼ぶか？呼ばないか？
3. あいさつ：対人関係構築の端緒を開く
4. あいづち：さえぎりか？促しか？
5. 敬語の東西：共時的変化をたどる
6. 敬語の古今：通時的変化をたどる
7. 間接的発話行為：なぜ直接言わないの？
8. 中間まとめ：ことばの持つ多様性
9. 語用論と認知機能：意図理解、メンタライジング、注意
10. 子どものことば：発達における協同注意の役割
11. ことばの性差：遺伝的影響？環境的影響？
12. 母語と外国語：その習得過程の違い
13. ことばと加齢：保たれる機能、衰える機能
14. 語用論の神経基盤：ことばと裏腹の意図を理解する仕組み
15. まとめと筆記試験：ことばを使う人間の多様性

6. 成績評価方法：

筆記試験 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (50%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回とりあげるテーマに関連の深い文献を紹介するので、それを読むこと。また関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

人間の言語処理過程の実証的研究のおもしろさを垣間見てもらいたいと思います。

科目名：現代言語学基礎講読／ Modern Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB31203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN208J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

語用論研究法入門

2. Course Title (授業題目)：

Research Methodologies in Pragmatics: An Introduction

3. 授業の目的と概要：

語用論 (Pragmatics) は、ことばの実際の運用に目を向けた言語学の中でも比較的新しい学問分野です。本科目では、語用論で扱われる主要なトピックや理論について、受講生自身に文献を調べてまとめ、他の受講生と共有してもらいます。このグループワークを通して、専門的な文献の要旨を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図しています。さらに、語用論研究における興味深い独創的テーマを自ら見出す訓練として、期末レポートで仮想語用論研究計画書をまとめてもらいます。

4. 学習の到達目標：

語用論の関心事と主要理論の概要を理解し、そこから独自の研究テーマを設定できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (教員)
2. 語用論研究の奥ゆきと広がり (教員)
3. 終助詞 (受講生)
4. 直示 (受講生)
5. 敬語 (受講生)
6. 文法化 (受講生)
7. 異文化間語用論 (受講生)
8. 中間まとめ：身近な言語現象の語用論的機能 (教員)
9. 語用論、対人配慮行動の理論の発展 (教員)
10. Grice の協調の原理 (教員)
11. Searle の発話行為理論 (受講生)
12. Brown & Levinson のボライトネス理論 (受講生)
13. Sperber & Wilson の関連性理論 (受講生)
14. Baron-Cohen の心の理論 (受講生)
15. まとめ：語用論研究の未来 (教員)

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

加藤重広・滝浦真人編 (2016)『語用論研究法ガイドブック』東京：ひつじ書房 (授業中に 2 割引購入の便宜を図ります)

8. 授業時間外学習：

受講者全員にグループ発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

期末レポートとして、語用論をテーマに何か研究するとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示しますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。計画書を仮想で終わらせるのはもったいないと思ったら、ぜひ後期の同教員による基礎演習「入門的言語調査・実験法実践」を受講して実際に言語データを取得し分析するおもしろさを体験してください

科目名：現代言語学基礎演習／ Modern Linguistics (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB41204, **科目ナンバリング：**LHM-LIN209J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

入門的言語調査・実験法実践

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Experiments in Language Processing

3. 授業の目的と概要：

本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が適宜助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの(小さな)研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらえればと思います。

4. 学習の到達目標：

実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない(大いに異なる)ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (教員)
2. 研究テーマ策定 (グループワーク)
3. 研究デザイン立案 (グループワーク)
4. 中間発表①：各々の計画の実現可能性についてグループ間で議論
5. 調査・実験素材の準備 (グループワーク)
6. 質問紙・実験プログラム等作成 (グループワーク)
7. データ整理・分析法の基礎 (教員)
8. データ整理 (グループワーク)
9. データ分析 (グループワーク)
10. 中間発表②：各グループの分析結果を共有し、全員で解釈の方向性を検討する
11. プレゼンテーションの基礎 (教員)
12. 分析結果の図表作成 (グループワーク)
13. 分析結果のまとめ (グループワーク)
14. プレゼンテーションの準備 (グループワーク)
15. 成果発表：グループごとのフラッシュトークと質疑応答

6. 成績評価方法：

グループワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (50%)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習・作業が必要になります。とくに、データを収集は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください (初回でその意思の確認をします)。

9. その他：

多様な背景を持つ意欲ある受講生を歓迎したいと思いますが、授業の性質上、受講者数を制限する可能性があります。その場合は、前期の同教員による基礎講読「語用論研究法入門」を受講済みの学生、言語学及び関連領域の学生を優先します。

科目名：言語交流学基礎講読／ Interlinguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB45101, 科目ナンバリング：LHM-LIN210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

統語論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introductio to Syntax

3. 授業の目的と概要：

この授業では、英文テキストの読解を通じて、統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、学術文献の読解および口頭発表のスキルの獲得も目指します。

4. 学習の到達目標：

統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：統語論とは何か
2. 生成文法 1
3. 生成文法 2
4. 品詞 1
5. 品詞 2
6. 品詞 3
7. 構成素構造 1
8. 構成素構造 2
9. 構成素構造 3
10. 構造関係 1
11. 構造関係 2
12. 構造関係 3
13. 束縛理論 1
14. 束縛理論 2
15. 復習とまとめ

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：音声学／ Phonetics

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：後藤 斉（教授）

講義コード：LB33405, 科目ナンバリング：LHM-LIN211J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

音声学概説・調音音声学

2. Course Title (授業題目)：

Introducion to phonetics, Articulatory phonetics

3. 授業の目的と概要：

音声は言語の基本的な側面である。この授業では、言語音の生成の原理と個別の音声の調音のしくみについて講義形式で扱う。あわせて国際音声記号のうちの主要な単音の発音および聴き取りの訓練も大きな比重を占めており、できるだけ時間をかけて発音の練習を行う。この際に、日本語の音声にも十分な注意を払う。また、担当教員の肉声以外に多様な音声サンプルに触れるようにする。

4. 学習の到達目標：

調音音声学の原理についての理論的な理解および国際音声記号の実践的な技能と知識を得ることによって、音声言語（特に日本語）の客観的な観察と記述に習熟する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、言語における音声の位置づけ
2. 音声器官の構造と働き
3. 音声記述の原理と国際音声記号
4. 母音の調音、母音体系
5. 第一次基本母音
6. 第二次基本母音
7. 基本母音のまとめ
8. その他の母音と補助符号
9. 子音体系、破裂音、鼻音
10. 摩擦音
11. その他の肺臓気流子音
12. 非肺臓気流子音
13. アクセント
14. その他の超分節音
15. 日本語の音声

6. 成績評価方法：

授業への参加（60%）、小テスト（40%）

7. 教科書および参考書：

教科書：斎藤純男 『日本語音声学入門』（三省堂、2006）

参考書は <http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html> に記載してある。

ほか、資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

授業中の発音練習に倣って、自分でも練習すること。

主要な音声記号が間違わずに書けるように練習すること。

9. その他：

発音練習の時間をできるだけ確保するために、受講者数を 30 名程度に制限する。言語学および隣接分野の専修の学生を優先する。

発音練習の際に手鏡を持参すること。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics.html> も参照すること。

科目名：音声学／ Phonetics

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：後藤 斉（教授）

講義コード：LB43406, 科目ナンバリング：LHM-LIN211J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

音響音声学

2. Course Title (授業題目)：

Acoustic phonetics

3. 授業の目的と概要：

音声は物理現象でもあるから、音声言語を客観的に観察し、理解するためには音声の音響的分析はきわめて有効な手法である。この授業では、音声の物理的性質についての講義ののち、音声分析装置（パソコン）を用いた音声の取得と分析の実習を行う。基本母音と日本語の音声を用いて、波形およびスペクトログラム、フォルマント等の分析結果の読み取りを行う。その結果を、すでに知っている調音音声学的事実および聴き取りと比較してみる。

内容として理科系的な要素が強いが、この授業では複雑な数式は使わない。

4. 学習の到達目標：

言語音の物理的側面の基礎を理解し、音声分析の手法に慣れることにより、言語音を客観的に観察する技術を身につける。連続音声の波形とスペクトログラムを読み取ることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、音の物理
2. 純音の周波数と高さ
3. アナログとデジタル、サンプリングと量子化
4. パソコンにおける音声の取り扱いと音声分析装置
5. 複合音とスペクトル
6. 音源フィルター理論
7. 母音のスペクトログラムとフォルマント
8. 母音の音響的特徴（調音音声学的特徴との比較）
9. 広帯域と狭帯域のスペクトログラム
10. 子音（鳴音）の波形とスペクトログラム
11. 子音（阻害音）の波形とスペクトログラム
12. フォルマント遷移
13. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント
14. 有声と無声、VOT
15. ピッチ、その他

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、実習レポート 60%

授業期間中に 3 回の実習レポートを提出してもらう。レポートの書き方は指示に従うこと。

7. 教科書および参考書：

教科書：吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』（海文堂，2006）

参考書は <http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html> に記載。

ほか資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

音響学分野の用語や概念が頻出するので、理解を確かなものにするため十分な復習をすること。

レポートには十分な時間をかけること。

9. その他：

調音音声学の基礎を習得済みであることが望ましい。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html> も参照すること。

講義資料の一部は次の URL に掲載する。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics/>

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB63302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語と思考

2. Course Title (授業題目)：

Language and Thought

3. 授業の目的と概要：

どのような語順の言語を話すか（母語に持つか）にかかわらず人間の思考で最も好まれる順序は「動作主・被動者・行為」であるとする仮説がある(e.g. Goldin-Meadow et al 2008)。この一般化が OS 言語（目的語が主語よりも前にくる語順を基本語順とする言語）の話者についても当てはまるかどうかを言語認知脳科学の様々な研究事例に基づいて検証する。

4. 学習の到達目標：

言語と思考との関係について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：言語と思考
2. SO 語順選好
3. カクチケル・マヤ語
4. 文理解における語順選好 I: 行動実験
5. 文理解における語順選好 II: fMRI
6. 文理解における語順選好 III: 脳波
7. 言語の基本語順と思考の順序
8. ここまでのまとめと復習
9. 文産出における語順選好 I
10. 文産出における語順選好 II
11. 文産出における語順選好 III
12. 文の理解と事象の認識
13. 文産出における処理負荷
14. カクチケル語の統語構造
15. まとめ, 筆記試験

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・筆記試験：50%
- ・読書レポート：30%
- ・ミニット・ペーパー：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：斎藤 純男 (非常勤講師)

講義コード：LB98816, **科目ナンバリング：**LHM-LIN303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

モンゴル語の歴史

2. Course Title (授業題目)：

History of the Mongolic Languages

3. 授業の目的と概要：

現在、西はカスピ海沿岸から東は中国東北地方にまで広く分布するモンゴル系諸言語がどのような変遷をたどってきたかを理解する。

4. 学習の到達目標：

モンゴル語はさまざまな種類の文字によって記録されてきたが、それらの文字の特徴と表記の限界を知り、文献を通して知ることのできるモンゴル語の構造を理解する。現代モンゴル系諸言語の構造についてもその流れの中で捕える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のような内容で講義を行う。

・モンゴル語の文献とその言語

- 1 キタン語とキタン字文献
- 2 ウイグル字文献
- 3 パクパ字文献
- 4 漢字文献
- 5 アラビア字文献
- 6 その他の文字による文献

・現代モンゴル系諸言語

- 7 分布と分類
- 8 狭義のモンゴル語
- 9 その他のモンゴル系諸言語
- 10 モンゴル系諸言語の主な特徴

・モンゴル語の史変遷

- 11 母音 (母音調和、割れ)
- 12 母音 (長母音、弱化母音)
- 13 子音 (語頭の h-, その他)、アクセント
- 14 文法 (動詞と形容詞の語尾、その他)
- 15 語彙

6. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考文献については授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

集中講義なので授業時間外学習には時間的な制約が大きいですが、講義に出てきた用語や固有名詞について信頼のおける資料を見て情報を補い、紹介した文献についてざっとでも目を通すことができれば、非常によい。なお、講義終了後、レポート執筆の際にはいくつかの文献に当たることとなる。

9. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：椎名 美智 (非常勤講師)

講義コード：LB98817, **科目ナンバリング：**LHM-LIN303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

歴史語用論

2. Course Title (授業題目)：

Historical Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

歴史語用論は昔の人たちがどのように話をしていたのか、過去のコミュニケーションを再現しようとする試みです。その基本的な考え方と研究方法について学び、自分でもテキストを分析できるような応用力をつけることを目的としています。具体的には、以下の3つのテーマを中心に授業を進めていきます。(1) 歴史語用論はどんな分野なのか？ (2) 歴史語用論のデータ問題とアプローチ (3) 事例研究。

最後の2回のワークショップでは、受講生は各自、自分の興味のある分野、ジャンルを一つ選び、過去のテキストと現在のテキストを選んで持ち寄り

4. 学習の到達目標：

歴史語用論の理論的な枠組みとアプローチを学び、事例研究を批判的に読解し、自らもテキスト分析ができるような技術を習得し、実際にテキスト分析をやってみる段階にまで到達することを目的としています。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：歴史語用論の面白み
2. 歴史語用論のデータ問題：書かれた言葉と話された言葉
3. 歴史語用論研究の2つのアプローチと研究例：形式が先か、機能が先か
4. コーパス・アプローチ：社会語用論的アノテーション
5. 歴史語用論的アドレスターム（呼称・呼びかけ語）研究(1)：二人称代名詞のTVシステム
6. 歴史語用論的アドレスターム（呼称・呼びかけ語）研究(2)：コーパスを使った量的分析と質的分析
7. 歴史語用論的スピーチ・アクト研究：チャールズ一世の弾劾裁判（偉いのは国王か裁判長か？）
8. 初期近代英語期の疑問文の語用論的意味：裁判記録における疑問文のフォース
9. 現代日本語の疑問文の語用論的意味：裁判記録は文字通りの世界
10. ポライトネス研究：B&L以来のポライトネス理論の変遷
11. インポライトネス研究：インポライトはポライトの反対なのか？
12. 日本語ベネファクティブの歴史語用論：「させていただく」を中心に(1)
13. 日本語ベネファクティブの歴史語用論：「させていただく」を中心に(2)
14. 歴史語用論ワークショップ(1)：学生によるデータ紹介とコンサルテーション
15. 歴史語用論ワークショップ(2)：コンサルテーションと総括

6. 成績評価方法：

授業への積極的参加と貢献度(20%)、レポート(80%)

7. 教科書および参考書：

参考書（図書館等で読んでおいてください）

・高田博行・椎名美智・小野寺典子(2011)『歴史語用論入門一過去のコミュニケーションを復元する』（大修館書店）の1章、6章

・金水敏・高田博之・椎名美智共編著(2014)『歴史語用論の世界一文法化・待遇表現・発話行為』（ひつじ書房）の4章

・加藤重広・滝浦真人編(2016)『語用論研究法ガイドブック』（ひつじ書房）の4章

上記以外はネットで共有、または配布する予定

8. 授業時間外学習：

指示された論文や教材を読んで来ること。また、課題をやってくること。

9. その他：

科目名：言語交流学各論／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB51203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

テキスト処理の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to text processing

3. 授業の目的と概要：

主な対象言語を日本語とし、必要に応じて英語における事情も参照しながら、主として以下の事項について講義する。さらに実習により、その知識をより深め、また応用力を磨く。

- ・テキストエディターと文字コード
- ・さまざまな種類のテキストアーカイブとコーパス
- ・正規表現
- ・KWIC コンコーダンサーと関連のツール
- ・オンラインコーパス検索

4. 学習の到達目標：

コンピュータを用いてテキストを分析する方法について、基本的な知識と技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストエディター
3. 文字コード1 (ASCII, JIS)
4. 文字コード2 (Unicode)
5. テキストアーカイブとコーパス概観
6. 正規表現
7. 正規表現 (続き)
8. 正規表現 (続き)
9. 正規表現 (続き)
10. 英語用のコンコーダンサー
11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール
12. 日本語のコンコーダンサー
13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール
14. オンラインコーパス検索
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

参考書：大名力 『言語研究のための正規表現によるコーパス検索』(ひつじ書房, 2012)

ほか、<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> に掲載。

8. 授業時間外学習：

紹介したツールは自身の関心に応じてさらに使ってみて、理解を確かなものにするよう努力すること。

9. その他：

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> も参照すること。

科目名：言語交流学各論／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB53202, **科目ナンバリング：**LHM-LIN304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理言語学方法論

2. Course Title (授業題目)：

Methodology of psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：

心理言語学は、人間がことばをどのように学習し使っているかについて、調査・実験によって確かめようという科学的研究分野です。本科目では、心理言語学でとられる主要な方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、心理言語学の方法論の趣旨を理解することを目指します。また、グループワークを通して、専門的な文献の要点を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図してい

4. 学習の到達目標：

心理言語学および関連分野の関心事の要点、またそれに応じた方法論の概要を理解する。それらを踏まえて独自の研究計画を立案できるようになる。また、自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (教員)
2. 実証研究の論文の構成 (教員)
3. 質問紙法 (受講生)
4. 談話完成タスク (受講生)
5. 会話分析 (受講生)
6. 発達 (縦断的) 研究 (受講生)
7. 言語処理の実験法の概要 (教員)
8. 反応時間 (受講生)
9. プライミング (受講生)
10. 視線計測 (受講生)
11. 言語の脳機能研究について (教員)
12. 脳波、事象関連電位 (受講生)
13. 脳機能イメージング (受講生)
14. フィールドでの実験研究 (受講生)
15. まとめ：心理言語学の未来 (教員)

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。各回で講読する文献のパッケージを配布する。

8. 授業時間外学習：

受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。また、関連する調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

期末レポートとして、何か心理言語学の研究を行うとした場合の仮想研究計画書をまとめてもらいます。初回授業時にその詳細を提示しますので、授業期間中もそれを見越して各自文献調査を進め構想を練っておくようにしてください。

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉・木山 幸子（教授）

講義コード：LB55305, **科目ナンバリング：**LHM-LIN311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：

Methods of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：

授業は、参加者の分担による論文紹介の発表および質疑応答の形式で行う。これにより、卒業論文作成のための基礎知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について批判的な姿勢から学びとる。

2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の

4. 学習の到達目標：

言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文1の紹介発表、質疑応答
3. 論文2の紹介発表、質疑応答
4. 論文3の紹介発表、質疑応答
5. 論文4の紹介発表、質疑応答
6. 論文5の紹介発表、質疑応答
7. 論文6の紹介発表、質疑応答
8. 論文7の紹介発表、質疑応答
9. 論文8の紹介発表、質疑応答
10. 論文9の紹介発表、質疑応答
11. 論文10の紹介発表、質疑応答
12. 論文11の紹介発表、質疑応答
13. 論文12の紹介発表、質疑応答
14. 論文13の紹介発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、配布すること。

9. その他：

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉, 小泉 政利, 木山 幸子 (教授)

講義コード：LB65304, **科目ナンバリング：**LHM-LIN311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：

Methods of linguistic research II

3. 授業の目的と概要：

3 年生は前期に引き続き論文紹介の発表を行い、4 年生は卒業論文の計画を中間発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

1. 卒業論文の中間発表においては、テーマの選択や先行研究の動向についてまとめ、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果などについて、できるだけ具体的な経過と見通しを発表する。
2. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書いた

4. 学習の到達目標：

よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文 1 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
3. 論文 2 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
4. 論文 3 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
5. 論文 4 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
6. 論文 5 の紹介発表、質疑応答
7. 論文 6 の紹介発表、質疑応答
8. 論文 7 の紹介発表、質疑応答
9. 論文 8 の紹介発表、質疑応答
10. 論文 9 の紹介発表、質疑応答
11. 論文 10 の紹介発表、質疑応答
12. 論文 11 の紹介発表、質疑応答
13. 論文 12 の紹介発表、質疑応答
14. 論文 13 の紹介発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

9. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB51404, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コーパスによる言語の分析

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of language with corpora

3. 授業の目的と概要：

2011 年に国立国語研究所が公開した現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) は、日本語のコーパス言語学に新しいページを開いた。しかし、それを適切に利用することは実は容易ではない。BCCWJ の構成や検索ソフトウェアの仕様などを知ることによって、日本語の研究のために BCCWJ を適切に利用することができるようになることが、この授業の目的である。BCCWJ の設計と構築に関する教科書を読みながら、必要に応じて他の資料から詳細な補足的情報も得て、知識を深める。実際にさまざまな条件で検索を行い、BCCWJ のデータの

4. 学習の到達目標：

BCCWJ の性質を理解し、言語研究に役立たせるための技能を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. コーパスにおける設計。サンプリング
3. BCCWJ の設計
4. BCCWJ のサブコーパスの特徴
5. BCCWJ における書籍のサンプリング
6. BCCWJ の電子化フォーマット
7. BCCWJ における言語単位
8. BCCWJ における形態素解析
9. 検索サイト： 少納言
10. 検索サイト： 中納言
11. 中納言の高度な使用
12. 歴史コーパスなど
13. 国語研日本語ウェブコーパスなど
14. その他のコーパス
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

山崎誠編『書き言葉コーパス 設計と構築』（朝倉書店、2014）

ほか、資料を用意する。

8. 授業時間外学習：

授業時間外にも、関連情報の取得に努め、自主的にコーパスを利用してみることを。

9. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB52206, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語データ分析法基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basic Methods of Language Data Analysis

3. 授業の目的と概要：

本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。用意された課題データについて、統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。統計学の専門家ではなくとも、言語データを定量的に分析することの楽しさを味わってもらいたいと思います。

4. 学習の到達目標：

定量的言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 変数の色々
3. 統計的検定
4. カイ二乗検定①
5. カイ二乗検定②
6. 残差分析
7. 評定者間信頼性分析
8. データの分布・標準化
9. t 検定①
10. t 検定②
11. t 検定③
12. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ①
13. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ②
14. 分散分析 (Analysis of variance: ANOVA) ③
15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の関連の調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

実習の内容を確認する宿題を課すことがあります。また、関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

文学部の学生にとって、統計分析は必ずしもなじみやすいものではないかもしれません。実際、数多くある分析手法を駆使できるようになるには相当の訓練と経験が必要になると思います。わからないことは当たり前なので、分析の考え方でもソフトの扱い方でも、つまづいたら遠慮なく尋ねてください。授業外の質問も歓迎します。意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思います。

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB62208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

言語データ分析法発展

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Methods of Language Data Analysis

3. 授業の目的と概要：

本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。後期はとくに、種々の多変量解析の手法を扱います。用意された課題データについて、統計ソフトウェアを使いながら分析を体験してもらいます。統計学の専門家ではなくとも、言語データが多変量解析から示される結果のおもしろさを味わってみたいと思います。

4. 学習の到達目標：

定量的言語研究に必要な多変量解析手法の要点を把握する。また、多要因で構成される言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 統計的検定の概要
3. 相関分析①
4. 相関分析②
5. 尺度の信頼性分析
6. 回帰分析①
7. 回帰分析②
8. 回帰分析③
9. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ①
10. 共分散分析 (Analysis of covariance: ANCOVA) ②
11. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ①
12. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ②
13. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ③
14. マルチレベルモデリング (線形混合効果モデル) ④
15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)、授業時間外の関連調査・実験の体験 (若干)

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

実習の内容を確認する宿題を課すことがあります。また、関連の調査や実験に参加してもらう機会を設けます (参加は任意)。

9. その他：

本科目は、前期の同教員による言語交流学演習「言語データ分析法基礎」の続きですので、同科目の単位を修得済みであるか、その内容を十分に習得している学生のみ受講を認めます。前期に引き続き、自由に質問できる環境をつくり、意欲ある受講生の皆さんが自立的に言語データ分析ができるようになるためのサポートをしたいと思います。

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB63403, 科目ナンバリング：LHM-LIN312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

生成統語論

2. Course Title (授業題目)：

Generative Syntax

3. 授業の目的と概要：

この授業では、生成統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. 学習の到達目標：

生成統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：統語論とは何か
2. 生成文法 1
3. 生成文法 2
4. 品詞 1
5. 品詞 2
6. 品詞 3
7. 構成素構造 1
8. 構成素構造 2
9. 構成素構造 3
10. 構造関係 1
11. 構造関係 2
12. 構造関係 3
13. 束縛理論 1
14. 束縛理論 2
15. 復習とまとめ

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB65208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コーパス言語学の展開

2. Course Title (授業題目)：

Advances in corpus linguistics

3. 授業の目的と概要：

2011 年に国立国語研究所により開発された「現代日本語書き言葉均衡コーパス」により、日本語研究に新しいインフラがもたらされた。これ以外にも各種の日本語コーパスが開発され、公開されつつある。コーパスを利用した日本語研究の文献・論文を読むことによって、コーパスの意義およびコーパス利用の動向への理解を深め、将来に向けた可能性についても考察する。

担当者が論文を紹介し、コーパスを使う意義に特に注目しながら、内容を検討していく形式で授業を行う。

4. 学習の到達目標：

コーパスを利用する意義やコーパスを利用した日本語研究の現状、およびその可能性について深い理解を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文紹介および検討 1
3. 論文紹介および検討 2
4. 論文紹介および検討 3
5. 論文紹介および検討 4
6. 論文紹介および検討 5
7. 論文紹介および検討 6
8. 論文紹介および検討 7
9. 論文紹介および検討 8
10. 論文紹介および検討 9
11. 論文紹介および検討 10
12. 論文紹介および検討 11
13. 論文紹介および検討 12
14. 論文紹介および検討 13
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表・議論への参加 60%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

適切な論文を選択できるよう、あらかじめ十分に検討すること。

9. その他：

国語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国語学概論	日本語の歴史	2	大木 一夫	3	月	5	1
国語学概論	方言研究	2	小林 隆	4	月	5	2
現代日本語学概論	日本語学概論	2	甲田 直美	3	火	3	3
現代日本語学概論	ことばのバリエーション	2	甲田 直美	4	火	3	4
国語学基礎講読	古典語・方言講読	2	小林 隆	4	月	2	5
国語学基礎講読	近代(明治期)の文語 文講読	2	齋藤 倫明	3	水	5	6
国語学各論	方言学的日本語史研究	2	小林 隆	6	火	2	7
国語学各論	日本語文法研究	2	大木 一夫	5	木	2	8
国語学各論	日本語文法変化の研究	2	小柳 智一	集中(5)			9
現代日本語学各論	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	5	月	3	10
現代日本語学各論	「連語」から見た「カテゴリーカルミーニング」	2	齋藤 倫明	5	月	4	11
国語学講読	三宝絵を読む(上)	2	大木 一夫	5	月	2	12
国語学講読	三宝絵を読む(下)	2	大木 一夫	6	木	2	13
国語学演習	方言調査法	2	小林 隆	5	火	2	14
現代日本語学講読	近世言語論講読	2	齋藤 倫明	6	水	5	15
現代日本語学演習	文章・談話の構造	2	甲田 直美	6	月	3	16

科目名：国語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LB31502, **科目ナンバリング：**LHM-LIN203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語の歴史

2. Course Title (授業題目)：

History of the Japanese language

3. 授業の目的と概要：

言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつりかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要について把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法の概要を把握する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。
- (2) 言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。
- (3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語は変化する
2. 日本語史の資料
3. 日本語文法史(1) 古代語文法体系 (その 1)
4. 日本語文法史(2) 古代語文法体系 (その 2)
5. 日本語文法史(3) 古代日本語文法の変容
6. 日本語文法史(4) 近代語の文法体系へ
7. 日本語文法史(5) 近代語文法体系 (その 1)
8. 日本語文法史(6) 近代語文法体系 (その 2)
9. 日本語文法史補遺
10. 語彙史とは何か
12. 日本語語彙史(1) 近代以前の語彙
13. 日本語語彙史(2) 近代語の語彙
14. 試験
15. まとめ

6. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。

9. その他：

科目名：国語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：小林 隆 (教授)

講義コード：LB41502, **科目ナンバリング：**LHM-LIN203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

方言研究

2. Course Title (授業題目)：

dialectology

3. 授業の目的と概要：

方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は国語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようなになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。「方言と方言学」「方言の音韻・アクセント・語彙・文法」「方言の分類」「現代の方言」などの基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面をテーマとすることもあ

4. 学習の到達目標：

- (1) 方言に対する関心を高め研究対象として理解できるようにする。
- (2) 方言研究について概括的な知識を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 方言研究への導き
2. 2. 方言の音韻 (1)
3. 2. 方言の音韻 (2)
4. 3. 方言のアクセント (1)
5. 3. 方言のアクセント (2)
6. 4. 方言の語彙 (1)
7. 4. 方言の語彙 (2)
8. 5. 方言の文法 (1)
9. 5. 方言の文法 (2)
10. 6. 方言の表現法 (1)
11. 6. 方言の表現法 (2)
12. 7. 方言の歴史と現在 (1)
13. 7. 方言の歴史と現在 (2)
14. 7. 方言の歴史と現在 (3)
15. 8. 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

筆記試験 (80%)・出席 (20%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

日ごろ、自分および自分の周囲の人々の方言について観察することで、授業の内容について体験的・具体的に理解するように努める。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：現代日本語学概論／ Modern Japanese (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB32301, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語学概論

2. Course Title (授業題目)：

Modern Japanese

3. 授業の目的と概要：

日本語学の諸領域と言語の分析を構成する概念について解説する。

講義は以下の順序で進める。

- I. 人間の言語の特徴
- II. ことばと理解
- III. 構造主義と音声・音韻、音声と言語
- IV. 言語単位
- V. レトリックと言語

4. 学習の到達目標：

- (1) 国語学・日本語学における諸研究とその背景を理解する。
- (2) 文構造の研究が言語使用者の知識や認識と対応している様相を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語研究の基礎概念
2. 日本語の特色
3. 記号と言語
4. ことばと認識
5. カテゴリー認識と言語
6. 構造言語学とその後
7. 意味論の進展
8. 「体系」をめぐる概念
9. 日本語の音声
10. 語と文、そして文章
11. 文法論 1
12. 文法論 2
13. 文章論 1
14. 文章論 2
15. 研究テーマの設定の仕方と研究方法

6. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [10%]・提出物 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

各テーマごとに小レポートを課し、各課の理解を確認する。

9. その他：

科目名：現代日本語学概論／ Modern Japanese (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-LIN204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ことばのバリエーション

2. Course Title (授業題目)：

Variation in Japanese Language

3. 授業の目的と概要：

言語の持つ、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、研究の実例と分析方法について講義する。抽象的所有物ではなく、実際の場面で使用された、具体的使用文脈における言語を扱う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。
- (2) 会話分析の基本的技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 言語資料の収集と作成
2. 言語資料の特性 1
3. 言語資料の特性 2
4. 言語資料の特性 3
5. 思考と言語
6. 書き言葉と話し言葉 1
7. 書き言葉と話し言葉 2
8. 物語と文化比較
9. 映像資料と音声資料、そして文字資料
10. 文法論と談話論の接点 1
11. 文法論と談話論の接点 2
12. 話者交替と参与構造
13. 会話の構造 1
14. 会話の構造 2
15. 研究の方法

6. 成績評価方法：

出席 10%、提出物 50%、筆記試験 50%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業内で資料プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。

9. その他：

科目名：国語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：小林 隆 (教授)

講義コード：LB41205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN212J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

古典語・方言講読

2. Course Title (授業題目)：

Classical Japanese and dialects

3. 授業の目的と概要：

江戸時代に成立した全国方言集、越谷吾山の『物類称呼』を国語学的に読み解く。近世の言葉に親しむとともに、方言的な背景を明らかにしていく。テキストは版本を使用する。

授業は発表形式とする。参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨むこととする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 古典語を国語学的に読み解くために必要な方法論を修得すること。
- (2) 方言辞典や方言地図の利用方法を身に着けること。
- (3) 近世から現代にかけての方言の動態に興味を持つこと。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめにー授業への導入

2. 授業の内容と方法

3. 越谷吾山『物類称呼』について

4. 発表 1

5. 発表 2

6. 発表 3

7. 発表 4

8. 発表 5

9. 発表 6

10. 発表 7

11. 発表 8

12. 発表 9

13. 発表 10

14. 発表 11

15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 (出席状況等)、試験 (変体仮名の解読等)、レポートの 3 つによって評価する。

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨むことが必要である。

9. その他：

特になし。

科目名：国語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：齋藤 倫明 (教授)

講義コード：LB33503, **科目ナンバリング：**LHM-LIN212J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近代（明治期）の文語文講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading of the Literary Language in the Meiji Period

3. 授業の目的と概要：

近代（明治期）の文語文を講読する。具体的には、「明六社」（1873 年結成）の機関誌『明六雑誌』（1874～1875 年刊・全 43 号）を読む。同誌には、西村茂樹、津田真道、西周、中村正直、加藤弘之、福沢諭吉ら当時の第一級の知識人が、文明開化論、言語政策、婦人問題、哲学、思想、経済、法律、教育等をめぐって様々な論説を発表した。明治初期の啓蒙期を象徴する学術雑誌である。本講読では、同誌の中から適宜文章を選択し、一字一句丁寧に読むことを通して、近代文語文に慣れるとともに、明治初期の日本語の具体的様相を把握することを目指す。

4. 学習の到達目標：

1. 近代文語文を精確に読めるようになる。
2. 明治初期の日本語の様相を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。「明六社」と「明六雑誌」についての概説と具体的な進め方に関する説明。
2. 第 1 回目の講読。
3. 第 2 回目の講読。
4. 第 3 回目の講読。
5. 第 4 回目の講読。
6. 第 5 回目の講読。
7. 第 6 回目の講読。
8. 第 7 回目の講読。
9. 第 8 回目の講読。
10. 第 9 回目の講読。
11. 第 10 回目の講読。
12. 第 11 回目の講読。
13. 第 12 回目の講読。
14. 第 13 回目の講読。
15. まとめ。

6. 成績評価方法：

レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

必要があれば適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。

9. その他：

国語学専修に所属する学生は必ず履修すること。

科目名：国語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LB62205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目)：

study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要：

これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言葉の運用面を取り上げることにし、その地域差を明らかにするとともに、社会的な視点も交えて歴史的考察へと進んでいきたい。

4. 学習の到達目標：

方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 授業への導入
2. 2. 目的・方法・資料
3. 3. オノマトペ（1）
4. 3. オノマトペ（2）
5. 4. 感動詞（1）
6. 4. 感動詞（2）
7. 5. 挨拶表現（1）
8. 5. 挨拶表現（2）
9. 6. 言語行動（1）
10. 6. 言語行動（2）
11. 7. 談話展開（1）
12. 7. 談話展開（2）
13. 8. 言語的発想法（1）
14. 8. 言語的発想法（2）
15. 9. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（80%）・出席（20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』（岩波新書）のほか、授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

言葉の運用面の地域差について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：国語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫（教授）

講義コード：LB54202, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：

現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、時間表現の文法。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
- (2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 文法論の立場と方法
3. 文法論的分析(1)
4. 文法論的分析(2)
5. 文法論的分析(3)
6. 文法論的分析(4)
7. 文法論的分析(5)
8. 文法論的分析(6)
9. 文法論的分析(7)
10. 文法論的分析(8)
11. 文法論的分析(9)
12. 文法論的分析(10)
13. 文法論的分析(11)
14. 文法論的分析(12)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

9. その他：

科目名：国語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：小柳 智一 (非常勤講師)

講義コード：LB98818, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語文法変化の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of the grammatical change in Japanese

3. 授業の目的と概要：

日本語文法史の事例を整理することを通して、文法変化についての見方を深め、日本語研究の方法や態度を考えることを目的とする。取り上げるのは日本語文法史の個別的な事例だが、それらを一般的なレベルで俯瞰し、文法変化にどのような傾向があるか、なぜそのような傾向があるのか、という問題を考える。近年の文法変化研究で使用されている用語および概念を検討しながら、現にある事例を無理せず普通に見ることによって、どのような言語の景色が披けるかを試みる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語文法史に関する前提や基礎知識が理解できるようになる。
- (2) 文法変化についての多様な捉え方が理解できるようになる。
- (3) 立論のための整合的かつ体系的な思考法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 言語の歴史と記述
3. 言語変化の段階と要因
4. 言語変化の傾向と動向
5. 機能語生産
6. 文法的意味の源泉と変化
7. 文法変化の方向
8. 文法変化の方向と統語的条件
9. 「主観」という用語
10. 文法変化と多義化
11. 対人化と推意
12. 多義化と意味の連帯
13. 文法制度化
14. 消失の言語変化
15. まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

教科書として、小柳智一『文法変化の研究』（くろしお出版）を使用する。

参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を読み、その内容の要点を把握して参加する。
- (2) 講義内の説明についての疑問点を整理し、解決に努める。

9. その他：

科目名：現代日本語学各論／ Modern Japanese (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB51302, 科目ナンバリング：LHM-LIN306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. 学習の到達目標：

(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 音声, イントネーション
3. ターン交替, TCU
4. 分析データの記述法
5. 音声転記の方法
6. コーパス, 言語のバリエーション
7. コンピューター実習 KWIC Finder, Praat, Audacity
8. 会話に頻繁に見られる現象 1
9. 会話に頻繁に見られる現象 2
10. 会話に頻繁に見られる現象 3
11. 会話に頻繁に見られる現象 4
12. 研究テーマの着眼点, レポートの書き方
13. 研究の進め方 1
14. 研究の進め方 2
15. レポートの書き方

6. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。
音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。
会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。
論文を読んで論点を提出する。

9. その他：

科目名：現代日本語学各論／ Modern Japanese (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明（教授）

講義コード：LB51402, 科目ナンバリング：LHM-LIN306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「連語」から見た「カテゴリーカルミーニング」

2. Course Title (授業題目)：

“Categorical Meaning” viewed from the “Word Combination”

3. 授業の目的と概要：

「語」と「文」とは、基本的な言語単位として一般に認められているが、両者の間にも立場によって様々な言語単位が設定されている。そこで、本講義では、(1)従来、そういった言語単位としてどのようなものが設定されているのか、(2)なぜ様々な言語単位が設定されるのか、(3)本来、どういった言語単位を設定するのが望ましいのか、といった点について考察することを通し、最終的には、そもそも言語単位とは何か、といった点を明らかにすることを目指す。今年度は、そのための一環として教科研の「連語」という単位を取り上げ、それと意味との関わりという観点から、教科研に特有の意味的概念「カテゴリーカルミーニング」について検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 「言語単位」についての理解を深める。
2. 種々の具体的な文法論の言語単位とその考え方について理解する。
3. 「語」と「文」の間にある言語単位の考え方について理解する。
4. 「連語」という単位とその問題点について理解する。
5. 「カテゴリーカルミーニング」について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（前年度までの講義の流れ、今年度の予定等）
2. 「連語」について
3. 「連語」における問題点－意味との関わりから－
4. 「カテゴリーカルミーニング」とは何か
5. 「カテゴリーカルミーニング」についての先行研究（その一）
6. 「カテゴリーカルミーニング」についての先行研究（その二）
7. 先行研究の問題点（その一）
8. 先行研究の問題点（その二）
9. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その一）
10. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その二）
11. 「連語」と「カテゴリーカルミーニング」との関わり（その三）
12. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その一）
13. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その二）
14. 「カテゴリーカルミーニング」の新しい捉え方（その三）
15. まとめと今後の課題

6. 成績評価方法：

レポート [80%] ・ 出席 [10%] ・ その他 [10%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書は講義中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回コメントペーパーを配布するので、前回自分が提出したコメントペーパーの内容について自分なりにある程度下調べをして講義に臨むようにする。

9. その他：

特になし。

科目名：国語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫 (教授)

講義コード：LB51208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

三宝絵を読む (上)

2. Course Title (授業題目)：

Linguistic study of “Sampōe” (Illustrations of the Three Jewels)

3. 授業の目的と概要：

平安時代成立の仏教説話集「三宝絵」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「三宝絵」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「三宝絵」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「三宝絵」 解題
3. 古辞書概説 (1)
4. 古辞書概説 (2)
5. 発表の方法
6. 担当範囲についての発表 (1)
7. 担当範囲についての発表 (2)
8. 担当範囲についての発表 (3)
9. 担当範囲についての発表 (4)
10. 担当範囲についての発表 (5)
11. 担当範囲についての発表 (6)
12. 担当範囲についての発表 (7)
13. 担当範囲についての発表 (8)
14. 担当範囲についての発表 (9)
15. 担当範囲についての発表 (10) ・まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

9. その他：

第6セメスターの「国語学講読」(三宝絵を読む (下)) も連続して履修すること。

科目名：国語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：大木 一夫 (教授)

講義コード：LB64206, **科目ナンバリング：**LHM-LIN313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

三宝絵を読む (下)

2. Course Title (授業題目)：

Linguistic study of “Sampōe” (Illustrations of the Three Jewels)

3. 授業の目的と概要：

平安時代成立の仏教説話集「三宝絵」を丁寧に読みながら、日本語史の資料としての「三宝絵」がいかなる性格をもつものであるのか、そこに見られる言語はいかなるものなのかを、さまざまな視点から検討する。また、そのような検討をふまえ、「三宝絵」を資料の一端として、日本語の歴史・変遷の諸相を分析する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
- (2) 日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。
- (3) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語史研究の方法 (1)
3. 日本語史研究の方法 (2)
4. 日本語史研究の方法 (3)
5. 担当範囲についての発表 (1)
6. 担当範囲についての発表 (2)
7. 担当範囲についての発表 (3)
8. 担当範囲についての発表 (4)
9. 担当範囲についての発表 (5)
10. 担当範囲についての発表 (6)
11. 担当範囲についての発表 (7)
12. 担当範囲についての発表 (8)
13. 担当範囲についての発表 (9)
14. 担当範囲についての発表 (10)
15. 担当範囲についての発表 (11)・まとめ

6. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

7. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配付する。参考文献は講義内で随時示す。

8. 授業時間外学習：

- (1) 日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
- (2) 文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

9. その他：

第5セメスターの「国語学講読」(三宝絵を読む (上)) から連続して履修すること。

科目名：国語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：小林 隆（教授）

講義コード：LB52207, **科目ナンバリング：**LHM-LIN314J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

方言調査法

2. Course Title (授業題目)：

M e t h o d of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要：

方言のしくみや地理的広がり把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

4. 学習の到達目標：

方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業
3. 方言的特徴の調べ方についての解説（1）
4. 方言的特徴の調べ方についての解説（2）
5. テーマ等設定に向けての作業（1）
6. テーマ等設定に向けての作業（2）
7. 中間報告（1）
8. 中間報告（2）
9. 調査票の作り方についての解説
10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法
11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方
12. 現地調査と結果の分析（1）
13. 現地調査と結果の分析（2）
14. 最終報告（1）
15. 最終報告（2）、授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50%）・出席（50%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

- ①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。
- ②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

9. その他：

オフィスアワー：随時

科目名：現代日本語学講読／ Modern Japanese (Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：齋藤 倫明（教授）

講義コード：LB63503, 科目ナンバリング：LHM-LIN315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近世言語論講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading of the Modern Japanese Linguistic Works

3. 授業の目的と概要：

近世言語論の大きな流れを形成した本居宣長とその学統を継ぐ一派（「八衢派」）の言語論を講読する。今年度は、そのうちの東条義門（1786～1843）の『山口栞』（1836 年刊）を読む。本書は、本居宣長の息子春庭の『詞の八衢』『詞の通路』の考えを継承し、日本語の用言についてまとめて論じたものである。本講義では、活字本と東北大学図書館蔵本の版本とを対比させつつ、一字一句精確に読み解くとともに、八衢派の流れを汲む東条義門の所説を理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

1. テキストに書かれていることを精確に理解する。
2. 日本語学史上における近世言語論の特質を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（講義の進め方、東条義門と「山口栞」についての概説等）。
2. 「山口栞」の講読（その一）。
3. 「山口栞」の講読（その二）。
4. 「山口栞」の講読（その三）。
5. 「山口栞」の講読（その四）。
6. 「山口栞」の講読（その五）。
7. 「山口栞」の講読（その六）。
8. 「山口栞」の講読（その七）。
9. 「山口栞」の講読（その八）。
10. 「山口栞」の講読（その九）。
11. 「山口栞」の講読（その十）。
12. 「山口栞」の講読（その十一）。
13. 「山口栞」の講読（その十二）。
14. 「山口栞」の講読（その十三）。
14. 「山口栞」講読の総括。

6. 成績評価方法：

レポート（60%）、授業への取り組み方（20%）、出席（20%）。

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

必要があれば適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

講義に臨むに当たっては、前回分を復習の上、次回分を読んで下調べしておくこと。

9. その他：

特になし。

科目名：現代日本語学演習／ Modern Japanese (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：甲田 直美 (准教授)

講義コード：LB61306, **科目ナンバリング：**LHM-LIN316J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

文章・談話の構造

2. Course Title (授業題目)：

Discourse and Conversation Analysis

3. 授業の目的と概要：

これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。

- I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、
- II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法、
- III. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

4. 学習の到達目標：

- (1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。
- (2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データの種類とその扱い：分析の観点
2. ジャンル、レジスター、スタイルと言語差
3. テキストにおけるジャンル差
4. コーパス研究 1
5. コーパス研究 2
6. 文章における諸現象 1
7. 文章における諸現象 2
8. 会話における諸現象 1
9. 会話における諸現象 1
10. ドラマの構造分析
11. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
12. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
13. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可能な分析方法
14. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方
15. 論文の書き方：論文の構造、研究計画の立案の仕方

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。論文を読んで、論点を把握し、批判的検討を行う。

9. その他：

受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語教育学概論	日本語と日本語教育	2	才田 いずみ	3	火	3	1
日本語教育学概論	日本語教育の基礎	2	才田 いずみ	4	火	3	2
現代日本論概論	現代日本における家族	2	田中 重人	3	火	2	3
現代日本論概論	現代日本における職業	2	田中 重人	4	火	2	4
日本語教育学基礎講読	外国語学習と習得	2	才田 いずみ	3	月	5	5
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小河原 義朗	4	月	5	6
現代日本論基礎講読	本を読む	2	田中 重人	3	火	1	7
現代日本論基礎講読	論文作成の基礎	2	田中 重人	3	金	2	8
現代日本論基礎講読	研究法入門	2	田中 重人	4	金	2	9
日本語教育学各論	学習者と社会	2	島崎 薫	6	火	3	10
日本語教育学各論	日本語教育方法論概説	2	衣川 隆生	集中(5)			11
日本語教育学各論	コミュニケーションのための日本語教育文法	2	野田 尚史	集中(6)			12
日本語教育学講読	中間言語語用論	2	才田 いずみ	6	月	2	13
日本語教育学演習	コンピュータ利用と日本語教育	2	才田 いずみ	5	火	4	14
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラムの評価	2	小河原 義朗	6	火	4	16
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	5	金	3	17
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	小河原 義朗	5	水	3、4	18
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	小河原 義朗	6	水	3、4	19
現代日本論講読	現代日本論論文講読	2	田中 重人	5	金	4	20

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
現代日本論演習	質問紙調査の基礎	2	田中 重人	5	水	2	21
現代日本論演習	調査的面接の基礎	2	田中 重人	6	水	2	22
現代日本論演習	統計分析の基礎	2	田中 重人	5	木	2	23
現代日本論演習	実践的統計分析法	2	田中 重人	6	木	2	24

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LB32302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語と日本語教育

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Teaching of Japanese as a Foreign Language

3. 授業の目的と概要：

- 1) 日本語の音声・文法・文字等の言語要素について、その構造や体系を知る。
- 2) 日本語を学ぶ人々に対して、上記の情報をどう提示するかを考える。
- 3) 日本語教育の置かれた社会的状況についても学ぶ。

4. 学習の到達目標：

日本語のしくみや特徴を再認識すると同時に日本語教育への理解を深める。
自らの日本語使用や日本語能力を振り返る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
授業の進め方について
2. 日本語の音声 (1)
3. 日本語の音声 (2)
4. 学習者の音声 (1)
5. 学習者の音声 (2)
6. 日本語の文字と表記 (1)
7. 日本語の文字と表記 (2)
8. 用言の活用と学習者の習得 (1)
9. 用言の活用と学習者の習得 (2)
10. 用言の活用と学習者の習得 (3)
11. 初級の文型と語用論 (1)
12. 初級の文型と語用論 (2)
13. 学ばれにくい日本語の構文 (1)
14. 学ばれにくい日本語の構文 (2)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

筆記試験 [70%]・平常点 (発言・クラス参加度・授業中の課題) [30%]

7. 教科書および参考書：

参考書：小林ミナ (2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための 教授法 37』アルク。
佐藤武義編著 (1996)『展望 現代の日本語』白帝社, ほか。

8. 授業時間外学習：

配布したプリントを見直すなどの復習をする。
授業で扱った問題に関して、周囲の日本人の日本語使用を観察する。
参考書を読む。

9. その他：

3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LB42302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語教育の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics in Teaching of Japanese as a Foreign Language

3. 授業の目的と概要：

- 1) 機能(function)や概念(notion)をはじめ, シラバスデザインに関わる基本要素について学ぶ。
- 2) 主要な外国語教授法について知る。
- 3) 学習者の日本語や授業のあり方など, 日本語コースをめぐる諸要素の評価について知る。
- 4) 設定された課題について, グループで授業活動を組み立て, 短い模擬授業を行う。

4. 学習の到達目標：

日本語教育における学習と教育に関して, 基礎的な知識を得る。
教授法理論と授業の組み立て方について学んだ知識を使ってみる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
授業の進め方
文法項目と機能
2. カリキュラムとシラバス
3. シラバスデザインとコースデザイン
4. 教授法とその理論：最近注目されている授業 1
5. 教授法とその理論：最近注目されている授業 2
6. 教授法と教室活動 1
7. 教授法と教室活動 2
8. 教授法の歴史的変遷
9. 特色ある教授法
10. 模擬授業の組み立て
11. 模擬授業の実践 1
12. 模擬授業の実践 2
13. 模擬授業の実践 3
14. 学習者へのフィードバックと評価
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

筆記試験 [40%]・レポート [30%]・平常点 (発言およびクラス参加度, 授業課題) [30%]

7. 教科書および参考書：

参考書：小林ミナ (2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法 37』アルク。
D.A. ウィルキンズ (1984)『ノーショナルシラバス』桐原書店/オックスフォード。
川口義一・横溝紳一郎 (2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房。
国際文化フォーラム (2013)『外国語学習のめやす』

8. 授業時間外学習：

授業時に配布したプリントを復習する。

参考書を読む。

模擬授業の実施については, グループメンバーと相談して案を練り, 授業に必要なものを用意する。

9. その他：

原則として3セメスターの日本語教育学概論「日本語と日本語教育」を受講済みであること。

3回以上欠席した場合は, 特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：現代日本論概論／ Study of Contemporary Japan (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB32202, **科目ナンバリング：**LHM-LIN206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代日本における家族

2. Course Title (授業題目)：

Family in Japan

3. 授業の目的と概要：

「家族」をめぐる問題は、さまざまな学問領域で研究対象となっています。この授業では、社会学を中心に、法学・経済学・人口学などにおける家族研究の成果を概観したうえで、現代日本社会における家族問題について考えます。トピックとしては、親族関係の分析、家族の形態と制度、結婚と離婚、出生と育児、ライフコースからみた家族、人口変動と家族などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課したり、各自の役割分担にしたがって調べたことを互いに教えあう活動をするこゝも

4. 学習の到達目標：

- (1) 家族研究の基礎的な概念と理論を理解する；
- (2) 実証的データに基づいて現代日本における家族の現状を把握する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 親族と家族
- 家族の法：報告と討論
- 家族の法：まとめ
- 法律情報の調べかた
- 人口学の考えかた
- 結婚と出生
- ここまでの復習と進度確認課題
- ライフサイクルの変化
- 家族変動
- レポート内容について面談
- 家族の経済学
- 全体のまとめとレポート内容についての討論

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題 (65%)、期末レポート (35%) を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】神原文子 (ほか編) (2016) 『よくわかる現代家族』 (第2版) ミネルヴァ書房. 【参考書】利谷信義 (2010) 『家族の法』 (第3版) 有斐閣. 藤見純子・西野理子 (2009) 『現代日本人の家族』 有斐閣. 京極高宣・高橋重郷 (2008) 『日本の人口減少社会を読み解く』 中央法規出版. 湯沢雍彦・宮本みち子 (2008) 『データで読む家族問題』 (新版) 日本放送出版協会.

8. 授業時間外学習：

毎回の課題・宿題とレポート作成

9. その他：

授業中の課題遂行のため、携帯用通信機器や電子辞書の持ち込みを推奨する。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論概論／ Study of Contemporary Japan (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB42203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代日本における職業

2. Course Title (授業題目)：

Work in Japan

3. 授業の目的と概要：

職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。

4. 学習の到達目標：

現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 労働統計(1) さまざまな働きかた
- 労働統計(2) 賃金と労働時間
- 雇用をめぐる法と政策
- 外部労働市場と内部労働市場
- 企業の人事管理と労働者のキャリア
- ここまでの復習と進度確認課題
- 社会階層と職業
- 社会移動と職業・教育
- ジェンダーと労働
- 社会的不平等と職業
- 課題再提出と進度確認課題
- 課題返却と講評

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題によって評価する。

7. 教科書および参考書：

【参考書】厚生労働省 (2017) 『知って役立つ労働法』。

労働政策研究・研修機構 (2010) 「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597。

宮本太郎 (2009) 『生活保障』岩波書店。

犬塚先 (編) (2003) 『新しい産業社会学』(改訂版) 有斐閣。

嵩さやか・田中重人 (編) (2007) 『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。

8. 授業時間外学習：

各回の課題・宿題

9. その他：

受講者は、3セメスタ開講の現代日本論概論「現代日本における家族」を履修しているか、それと同等の知識を習得済みであることが望ましい。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LB31506, **科目ナンバリング：**LHM-LIN213J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

外国語学習と習得

2. Course Title (授業題目)：

Foreign Language Learning and its Acquisition

3. 授業の目的と概要：

- 1) 応用言語学の分野の基本的な英文文献を読み、言語習得・外国語習得についての基本的な考え方や重要な研究成果を知る。
- 2) 外国語を学ぶことのメカニズムやそれに関係する諸要素についての知識を得るとともに、よりよい外国語学習のあり方についても考える力をつける。

4. 学習の到達目標：

- 1) 言語習得や言語教育の分野の研究に必要な概念や用語に親しむ。
- 2) 第一言語習得と第二言語習得の共通点、相違点を知る。
- 3) 学習者にとって外国語を学ぶという行為がどのようなものであるのかを知る。
- 4) 外国語学習の授業のあり方について自分の考えを明確化する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業を進める方法については、初回授業で受講者と相談して決定するが、担当教員の提案は以下の通り。

- ・教科書として提示した英文文献を 1 週または 2 週に 1 章のペースで読み進める。
- ・毎回各章の内容を問うタスクシートを与えるので、受講者はそれに従って各自予習をする。
- ・授業では小グループで予習結果を確認しつつ、教科書に掲載されている問題について考えたり、自分たちの抱いた疑問点について考えたりする。さらに、自らの外国語学習経験などと記載内容を照らし合わせながら、内容についてディスカッションを行い、理解を深める。
- ・グループで話し合っても解決できない点があれば、教員に尋ねたりクラス全体で考えたりする。

1. 授業のガイダンス

授業の進め方の決定、次週以降の担当の決定。

2. Chapter 1 の内容について話し合う。

予習でよく理解できなかった点については相互に質問し合って確認する。

(以下、方法は毎回同じ)。

3. Chapter 2

4. Chapter 3 の前半

5. Chapter 3 の後半

6. Chapter 4 の前半

7. Chapter 4 の後半

8. Chapter 5 の 1 回め

9. Chapter 5 の 2 回め

10. Chapter 5 の 3 回め

11. Chapter 6

12. Chapter 7 の前半

13. Chapter 7 の後半

14. Chapter 8

15. Conclusion とまとめ

全体を読んだ段階で、第二言語習得について理解したこと、

疑問に思ったことなどについて話し合う。

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・「授業課題およびクラス貢献度」[40%]

7. 教科書および参考書：

教科書: Brown, Steven and Larson-Hall, Jenifer (2012) "Second Language Acquisition Myths: Applying second language research to classroom teaching". Ann Arbor: The University of Michigan Press.

8. 授業時間外学習：

毎回配布するタスクシートを用いながら、定められた範囲を予習する。授業進行の担当者となったときには、テキストの内容で皆がつまづきそうな箇所について、関連文献を調べて説明できるようにしてくる。

9. その他：

3 回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（准教授）

講義コード：LB41506, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語教育文法

2. Course Title (授業題目)：

Pedagogical Grammar in Japanese language

3. 授業の目的と概要：

日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、毎回提示されるトピックに関する課題に答えるために、次のような活動を通して進める。(1)課題に対する考えをまとめる。(2)個別、または協働して課題を解く。(3)担当資料、課題に対する解を共有、発表し合い、全体で議論する。(4)課題に対する解について改めてまとめる。

4. 学習の到達目標：

- (1)日本語教育ための文法の基礎を理解し、説明できる。
- (2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。
- (3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション・学習者の文法
2. 品詞(1)
3. 品詞(2)
4. 文の構造
5. 格助詞
6. 主題化
7. 自動詞と他動詞
8. ヴォイス
9. テンス
10. アスペクト
11. ムード
12. 複文
13. 文章と談話
14. 文法を教える
15. まとめと期末テスト

6. 成績評価方法：

期末テスト 30%・クイズ 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：現代日本論基礎講読／ Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB32105, 科目ナンバリング：LHM-LIN214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

本を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Books

3. 授業の目的と概要：

受講者の関心にしたがって本を選び、読み取った内容について教員と議論します。どのような本をどの程度のペースで読むかは受講者によって個別に決めますが、およそ新書 1 冊を 2 週間で読む程度の進度を標準とします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 学術的な書物を読めるようになる
- (2) 読んだ内容について議論し、理解を深める

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業開始時にどのような本をどれくらいのペースで読むかを決め、それにしたがって読み進めます。2 週間に 1 回程度、教員と個別に面談し、読み取った内容についての報告と議論をおこないます。

6. 成績評価方法：

面談時の報告・議論の内容による

7. 教科書および参考書：

なし

8. 授業時間外学習：

読む本を自分で選定し、面談時まで読んで理解し、報告を作成する

9. その他：

受講希望者が多い場合には、受講者数の制限をおこなう可能性があります。授業時間割では火曜 1 講時を指定してありますが、この時間の授業は初回のみです。2 回目以降は、受講者それぞれに面談時間を決めます。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論基礎講読／ Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB35204, **科目ナンバリング：**LHM-LIN214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

論文作成の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Academic Writing

3. 授業の目的と概要：

大学での研究 (たとえば授業での課題, レポート, 卒業論文など) で要求される文章は、高等学校までの「作文」とは本質的にちがいます。研究の文章には、(1) データに基づいた論理的な推論を中心とする、(2) 論理構造に沿った章立てや段落分けが重要である、(3) 誤解をまねかないよう正確に書かなければならない、(4) 先人の業績と自分の意見とを区別しなければならない、(5) そのために文献参照の規則がこまかく定められている、といった特徴があります。この授業では、これらのルールを学ぶと同時に、実際に論文を執筆し、受講者相互の批評をとおして執筆のプロセスを習得します。

4. 学習の到達目標：

大学での研究に必要な文章の書きかたを習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 論文の基本形
- パラグラフ
- 文と文をつなぐ
- 構文解析
- 構想・立案・材料の準備
- 草稿を読む
- 記号などの用法
- データを簡潔に表現する；中間レポート提出
- 科学的文体
- 書誌情報の利用
- 中間レポートの返却と講評；期末レポートについて面談
- 文献参照の種類と方法
- 公表文書の倫理
- 全体のまとめ；期末レポート執筆に向けて討論

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題 (40%)、中間レポート (20%)、期末レポート (40%) を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】木下是雄 (1981) 『理科系の作文技術』中央公論社。

8. 授業時間外学習：

毎回の課題とレポート作成

9. その他：

日本語教育学研究室で卒業論文を執筆するためには、論文の書きかたを習得していることが必要条件になるので、同研究室所属の学部生は必ず受講すること。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論基礎講読／ Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB45205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

研究法入門

2. Course Title (授業題目)：

Academic Study Skills

3. 授業の目的と概要：

「研究」とは、答えるに値する問いをみつけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。書籍・雑誌・マスメディアなどからの資料収集と読解、情報整理とアイデア創出、発表と討論の技術のほか、書店や図書館などの施設の利用方法も学びます。

4. 学習の到達目標：

知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 「研究」とは何か
- 卒業論文・修士論文について発表
- 図書館見学実習
- 本を読む (1)：速読
- 書店実習
- 本を読む (2)：批判と議論
- 研究テーマについて面談
- 本を読む (3)：精読
- アイディアの創出
- アイディアの交換
- プロジェクトとしての研究
- 議論を組み立てる
- 期末レポートについて面談
- 発表会
- 口頭試問

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題 (50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問 (50%：主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)

7. 教科書および参考書：

【教科書】佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應義塾大学出版会。

8. 授業時間外学習：

各回の課題のほか、各自のレポート作成のための研究活動をおこなう

9. その他：

受講人数や各種施設の利用期日などによって授業計画を変更する可能性があります。

また、授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：島崎 薫（講師）

講義コード：LB62302, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

学習者と社会

2. Course Title (授業題目)：

Japanese language learners and society

3. 授業の目的と概要：

日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る
- (2) 日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる
- (3) 学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる
- (4) グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

オリエンテーション・自己紹介

学習者と社会をつなぐ実践に関する文献購読とそれに基づいたディスカッション

グループで学習者と社会をつなぐプログラムや活動をデザインするグループワーク

中間発表、最終発表

6. 成績評価方法：

参加態度 40%、プログラムデザイン（グループプロジェクト）30%、最終レポート 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で適宜配布予定

8. 授業時間外学習：

授業時間外でグループ活動をする必要があります。

9. その他：

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：衣川 隆生 (非常勤講師)

講義コード：LB98819, **科目ナンバリング：**LHM-LIN307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語教育方法論概説

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Education Methodology

3. 授業の目的と概要：

- (1) 言語教育のパラダイムシフトの要因となった社会的背景、理論的背景の基本的な概念を理解し説明できるようになること、
(2) 構成主義的教育観に基づいた学習環境をデザインし検証する基礎的な力を身につけることを目的として、講義においては
(1) 課題 (資料講読・資料分析-事前課題を含む)、(2) 課題の解釈の共有と発展、(3) 自己評価を含む振り返りを行う。

4. 学習の到達目標：

1. 本講義で取り扱う以下の主要な概念について自己の学習経験、教育経験に照らし合わせて解釈を行い、説明できるようになる。
・客観主義・実証主義
・構成主義
・能力観・学習観・教育観
・学習ストラテジー
・自律学習能力
・メタ認知能力・メタ認知知識・メタ認知活動
2. 自律学習能力育成を目指した教育事例を分析、検討し、理論に基づいた教室活動、学習環境デザインを行うことができる。
3. 自分自身の概念理解、学習環境デザインについて振り返り、自己評価し、持続的学習の目標を設定することができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション・教室活動の体験
2. 教室活動の体験・振り返り
3. 言語教育のパラダイムシフト(1)
4. 言語教育のパラダイムシフト(2)
5. 構成主義(1)
6. 構成主義(2)
7. 構成主義・振り返り
8. 学習ストラテジー(1)
9. 学習ストラテジー(2)
10. 自律学習能力 (メタ認知能力) (1)
11. 自律学習能力 (メタ認知能力) (2)
12. 学習ストラテジー・自律学習能力・振り返り
13. 自律学習能力 (メタ認知能力) を育てる教室活動・学習環境(1)
14. 自律学習能力 (メタ認知能力) を育てる教室活動・学習環境(2)
15. 自律学習能力 (メタ認知能力) を育てる教室活動・学習環境・振り返り

6. 成績評価方法：

課題(30%)、振り返り(40%)、自己評価(15%)、授業参加度 (出席率と協働作業の貢献度により評価) (15%)

7. 教科書および参考書：

講義内で適宜指定、または配布する。

参考資料

佐々木倫子(2006)「パラダイムシフト再考」『日本語教育の新たな文脈-学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性』アルク, p. 259-283.

義永美央子(2008)「第二言語話者の「能力」-能力観の変遷と第二言語習得研究のパラダイム・シフト-」『CHAT Technical Reports』, No. 7, pp. 1-15., 関西大学人間活動理論研究センター

<<http://www.chat.kansai-u.ac.jp/publication>

8. 授業時間外学習：

講義内で指示する課題を行うこと。

9. その他：

資料購読と事前課題、授業では事前課題に基づく話し合い、振り返りを中心に進める。グループ・ワークに積極的に参加することを期待する。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：野田 尚史 (非常勤講師)

講義コード：LB98820, **科目ナンバリング：**LHM-LIN307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コミュニケーションのための日本語教育文法

2. Course Title (授業題目)：

Pedagogical Japanese grammar for communication

3. 授業の目的と概要：

日本語非母語話者のための日本語教材で文法がどのように扱われているかを分析するとともに、コミュニケーションを重視した日本語教材では文法をどのように扱うのがよいかを検討する。

具体的には、次のような観点から分析を行う。

- (1) 現行の日本語教材での文法の扱い
- (2) 日本語教材の文法と日本語非母語話者が必要な文法の違い
- (3) コミュニケーションを重視した日本語教材に必要な文法
- (4) コミュニケーションを重視した日本語教材の具体例

4. 学習の到達目標：

- (1) さまざまな日本語教材での文法の扱いを分析できるようになる。
- (2) 日本語教材の文法と日本語非母語話者が必要な文法の違いを分析できるようになる。
- (3) コミュニケーションを重視した日本語教材に必要な文法を考えられるようになる。
- (4) コミュニケーションを重視した日本語教材の具体例を考えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (コミュニケーションのための日本語教育文法とは)

【日本語教科書で取り上げられる文法】

2. 初級教科書で取り上げられる文法項目
3. 初級教科書で取り上げられる文法項目の順序
4. 中級教科書で取り上げられる文法項目

【日本語教科書の文法と日本語学習者が必要な文法の違い】

5. 日本語教科書の文法と現実の日本語の違い
6. 日本語教科書の文法とコミュニケーションに必要なことの違い
7. 日本語教科書の文法と習得状況の違い

【コミュニケーションのための日本語教育文法に必要な視点】

8. 日本語教育の「常識」は絶対的なものではない
9. コミュニケーションに必要な日本語とは？
10. 一人ひとりの学習目的や母語を考える

【コミュニケーションのための日本語教育文法の具体例】

11. 「聞く」コミュニケーションのための教育
12. 「話す」コミュニケーションのための教育
13. 「読む」コミュニケーションのための教育
14. 「書く」コミュニケーションのための教育

15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 70%, 授業参加度(調査課題の発表を含む) 30%

7. 教科書および参考書：

野田尚史(編)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版, 2005 年.
野田尚史(編)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版, 2012 年.
新屋映子・姫野伴子・守屋三千代『日本語教科書の落とし穴』アルク, 1999 年.
森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房, 2011 年.
山内博之『プロフィエーションから見た日本語教育文法』ひつじ書房, 2009 年.

8. 授業時間外学習：

日本語教科書についての調査を中心に調査課題を出すので、授業時間外に各自が調査をしていくことが必要。

9. その他：

ウェブサイト：<http://www.nodahisashi.org>

メールアドレス：noda.hisashi@ninjal.ac.jp

科目名：日本語教育学講読／ Teaching of Japanese Language (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LB61205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN317J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中間言語語用論

2. Course Title (授業題目)：

Interlanguage Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

中間言語語用論に関する文献の講読を通じて、語用論の基礎を学ぶ。

日本語の文献を講読するが、必要に応じて英文文献も参照する。

授業の進め方については、初回に受講者と相談して決定するが、3～4 人程度の小グループを単位としてグループワークで実施する。

4. 学習の到達目標：

語用論の基礎を学び、用語を理解する。

学習者の目標言語の発達過程や母語との関係などについての知識を得る。

読み取った内容をわかりやすく説明することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の進め方：3～4 人程度の小グループを編成し、グループワークで進める。

教員の提案する進め方は以下のとおりであるが、具体的な進め方は受講者と相談して決定する。

案 1

・グループごとにローテーションで発表者（レポーター）役と指定討論者（ディスカッサント）役を務める。

・指定討論者グループは、発表者グループとは独立に予習を行い、重要なポイントやわかりにくい点などについて、発表者に対して確認・質問をする。

・発表者グループは、協力し合ってわかりやすいレジュメを作成し、それをいながら、授業を進める。質問等に対して答えだけでなく、受講者に対して質問を返し、考えさせるなど、全員を授業に参加させる工夫ある授業進行が要求される。

案 2

・3～4 人のグループの中で発表者と指定討論者を決め、全員が予習をしてきた上で、授業では発表者の作成したレジュメをもとに、指定討論者を中心に質疑やディスカッションを行いながら読み進める。

進度は以下のとおり。

1. 授業の進め方の決定とイントロダクション
2. 第 1 章
3. 第 2 章
4. 第 3 章 (1)
5. 第 3 章 (2)
6. 第 4 章 (1)
7. 第 4 章 (2)
8. 第 5 章 (1)
9. 第 5 章 (2)
10. 第 5 章 (3)
11. 第 6 章
12. 第 7 章 (1)
13. 第 7 章 (2)
14. 第 8 章
15. まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート 40%, 発表者役と授業進行とレジュメ作成 20%, 指定討論者役 20%, その他の授業貢献 10%, 出席 10%

7. 教科書および参考書：

教科書：清水崇文 (2009) 『中間言語語用論概論：第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク。

8. 授業時間外学習：

教科書を予習すること。

読んでわからない点を整理し、わからないことについては、関連文献を調べたりすること。あるいは、授業で発表者グループに質問できるようにしておくこと。

9. その他：

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

発表者役や指定討論者役を務めるときには、グループ内でよく協力して準備すること。準備を欠席したり、当日の授業をメンバーに無断で欠席するなどの迷惑行為は慎むこと。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LB52406, **科目ナンバリング：**LHM-LIN318J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コンピュータ利用と日本語教育

2. Course Title (授業題目)：

ICT and Japanese Language Learning

3. 授業の目的と概要：

テクノロジーの進歩により、我々の日常生活にもネットワーク通信が盛んに組み込まれ、教育・学習場面においても ICT (Information Communication Technology: 情報通信技術) の利用が当たり前のことになってきている。こうした教育学習環境で行われる日本語教育・日本語学習はどのようなものであり得るだろうか。

日本語授業にパソコンやモバイル機器を持ち込み、情報通信テクノロジーを生かした授業をデザインするとき、どのような学習活動が可能になるかを多角的に考える。

同時に、ICT のもたらす効果が「見せかけの効果」になっていないか、活動デザインを評価する視点の獲得も目指す。

4. 学習の到達目標：

1. ICT を日本語授業に活用するとき、どのような利用法があるのかを知る。
2. 授業への ICT 利用の利点と欠点を意識できるようになる。
3. 授業の目的や学習者、通信環境などを考慮して、効果的に ICT を利用した授業活動がデザインできるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、個人活動とグループ活動を組み合わせて実施する。

1. オリエンテーション

受講者各自の教育・学習での ICT 利用体験について話し合う。

2. 日本語授業における ICT 利用の調査 1

受講者各自が日本語授業における ICT 利用の事例を調査・収集する

3. 日本語授業における ICT 利用の調査 2

小グループで収集した事例を持ち寄り、分類・分析する。

グループの分類基準から導かれる項目に該当事例のない項目があれば、そこに当てはまる利用法を考え、次回までに類似の事例を探索してくる。

4. 各グループの調査結果の発表

全体を通して分類方法のバリエーションを把握する。

事例の多寡の示すところを考える。

5. 日本語教育における ICT 利用：理論と実際 1

6. 日本語教育における ICT 利用：理論と実際 2

7. 目的別の ICT 利用 1

インプットかアウトプットか、技能統合的な活動をするのか、個人活動か協働活動かなど、受講者と話し合った上で学習目的を絞り、グループあるいは個人で、目的に合致した授業での ICT 利用をデザインする。

グループで実施する場合には、グループの構成員全員が同一学習者群に対して目的の異なる授業を分担して考える。

グループ内での発表・検討を行った上で、クラス全体に対して発表する。

(以下、10 回目まで同様の活動が続く)

8. 目的別の ICT 利用 2

9. 目的別の ICT 利用 3

10. 目的別の ICT 利用 4

11. アクティブ・ラーニングと ICT

12. 自律学習と遠隔学習

13. ICT 利用とクラスコントロール

14. ICT 利用の評価とオルタナティブ

15. まとめ

6. 成績評価方法：

期末課題 40%・授業の個人課題 30%・グループ課題への貢献 20%・出席と参加度 10%

7. 教科書および参考書：

参考書：国際文化フォーラム (2013) 『外国語学習のめやす』

教育工学会編 『教育工学事典』

鈴木克明 2002. 『教材設計マニュアル：独学を支援するために』 北大路書房.

鄭仁星・久保田賢一 (編著) 2006. 『遠隔教育と e-ラーニング』 北大路書房.

三宅なほみ 1997. 『インターネットの子どもたち』 岩波書店. ほか

8. 授業時間外学習：

授業では、グループでの方向性の話し合いや、各自のデザインについての検討は行うが、課された個人課題やグループ課題については、授業時間外に必要な先行研究の検討や調査、実現可能性のチェックなどを行って、課題に応える案を作成すること。また、授業内での発表も予定されるので、わかりやすいプレゼンテーションの準備も行うこと。

9. その他：

特段の理由なく3回欠席した場合には単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（准教授）

講義コード：LB62407, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語コースカリキュラムの評価

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Course evaluation

3. 授業の目的と概要：

日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

4. 学習の到達目標：

- (1) 言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2) 様々な評価の方法について理解し、説明できる。
- (3) 日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. コースデザイン
3. コースカリキュラムの評価(1)
4. パフォーマンス評価
5. コースカリキュラムの評価(2)
6. ルーブリック評価(1)
7. ルーブリック評価(2)
8. コースカリキュラムの評価(3)
9. 伝統的評価と代替的評価
10. テストによる評価(1)
11. テストによる評価(2)
12. スタンダードの分析(1)
13. スタンダードの分析(2)
14. ポートフォリオ評価
15. バックワード・デザインとまとめ

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（准教授）

講義コード：LB55306, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：

The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要：

学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。
- (2) 目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. コミュニケーション活動 1
3. コミュニケーション活動 2
4. 会話とは
5. 会話の分析
6. モデル会話 1
7. モデル会話 2
8. ロールプレイ 1
9. ロールプレイ 2
10. インタビュー 1
11. インタビュー 2
12. プレゼンテーション 1
13. プレゼンテーション 2
14. フィードバックと評価 1
15. フィードバックと評価 2

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：小河原 義朗 (准教授)

講義コード：LB53309, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語コース運営の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Designing a Japanese Language Course

3. 授業の目的と概要：

10月から運営する日本語コースを念頭におきながら、教科書分析および模擬授業とその検討を中心に、以下の内容を扱う。

- 1 語学学習環境としての「教室」のあり方
- 2 学習支援者としての教師のあり方
- 3 シラバス, 到達目標設定, 学習項目設定
- 4 授業見学の視点
- 5 授業活動デザイン
- 6 学習者の日本語

4. 学習の到達目標：

日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 日本語初級用教科書の検討 1
3. マイクロティーチング 1, 日本語初級用教科書の検討 2
4. マイクロティーチング 2, 授業活動のデザインについて
5. 日本語初級用教科書の検討 3
6. 模擬授業の実施
7. 模擬授業の振り返り
8. 日本語中級用教科書の検討 1
9. 日本語中級用教科書の検討 2, 授業活動のデザインの検討
10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1
11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2
12. 授業見学の視点, シラバスデザイン案の作成
13. 教師と学習者のあり方について, コース概要と学習者の募集, 役割分担
14. オリエンテーションの実施プラン作成, ニーズ調査・ブレイスメントテストの検討
15. まとめと6セメスターの日本語コースの開講準備

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「発表態度」「クラス貢献度」「ジャーナル」) [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク

坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ

西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版

文化外国語専門学校編(2000)『新文化初級日本語 I』凡人社.

筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社.

川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日

8. 授業時間外学習：

日本語の教科書を種々閲読し, 内容や使用法について考える。

マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。

実施したマイクロティーチングや模擬授業について, 問題点を洗い出し, 改善策を考える。

9. その他：

日本語教育学概論, 3セメスター開講の日本語教育学基礎講読を含む関係科目を10単位以上履修済みまたは履修中のこと。

6セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。

全回授業に出席し, 積極的に参加すること。

時間外に, 日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：小河原 義朗 (准教授)

講義コード：LB63310, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Course: its Operation and Improvement

3. 授業の目的と概要：

実際に運営する日本語コースについて、以下の課題に取り組み、授業活動のデザイン力と実践力を養う。

教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。

- 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。
- 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。
- 3 自分の教授スタイルに気づく。
- 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。
- 5 授業分析の方法を知り、実践する。
- 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。

4. 学習の到達目標：

日本語コースを運営しながら、シラバスの改変、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション, オリエンテーションの結果について
2. 日本語コース運営の方針について, 授業担当について, 授業報告と授業の予定 1
3. 授業報告と授業の予定 2, 教室活動のデザインとバリエーション
4. 授業報告と授業の予定 3, 教室活動の評価：その視点
5. 授業報告と授業の予定 4, 教室活動の評価と改善 1
6. 授業報告と授業の予定 5, 授業分析の方法 1
7. 授業報告と授業の予定 6, 学習者の観察
8. 授業報告と授業の予定 7, 授業分析の結果, 教室活動の評価と改善 2
9. 授業報告と授業の予定 8, 教師行動の分析：ティーチャートーク
10. 授業報告とまとめ, コースの振り返りと評価
11. 教室活動のバリエーション, シラバスの問題点
12. 授業分析の方法 2, 学習者の達成度の評価
13. 授業分析の方法 3, 教師行動の分析
14. 報告書の作成について, 日本語教育学実習全体についての振り返り
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「コース運営」「授業報告」「クラス貢献度」「ジャーナル」「報告書作成」) [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク

坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ

西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版

筑波ランゲージグループ (1991)『Situational Functional Japanese』凡人社。

川口義一・横溝紳一郎 (2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房, ほか。

8. 授業時間外学習：

授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。

授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。

9. その他：

5セメスターの日本語教育学実習を履修済みのこと。

全回授業に出席し、積極的に参加すること。

教壇実習は夜間に実施する予定。

コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。

科目名：現代日本論講読／ Study of Contemporary Japan (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB55405, **科目ナンバリング：**LHM-LIN320J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代日本論論文講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Seminar in Contemporary Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：

研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1 論文を、(a) 鍵概念の抽出 (scanning)、(b) 構造の抽出 (skimming)、(c) 図表の解説、(d) ロジックの抽出、の 4 人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。

4. 学習の到達目標：

(1) 論文の探しかたと読みかたを理解する；(2) プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 論文をさがす (1)：日本語文献
- 論文をさがす (2)：英語文献
- 論文の読みかた (1)：鍵概念と構造
- 論文の読みかた (2)：図表とロジック
- プレゼンテーションの準備
- 発表と質疑
- 論文ごとに担当者を決めてプレゼンテーション (各自 2 回以上)
- 録画視聴と振り返り
- 全体のまとめと講評

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題 (30%)、担当部分のプレゼンテーション(40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答 (30%)を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。

【参考書】諏訪邦夫 (1995)『発表の技法』講談社。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと

9. その他：

授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

質問紙調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Questionnaire Survey

3. 授業の目的と概要：

質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

4. 学習の到達目標：

(1) 質問紙調査の長所と短所を把握する；(2) 質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 調査課題の設定
- 既存調査と先行研究の探索
- 調査対象者と調査方法
- 調査の企画
- 質問文と回答欄
- 調査実施について面談
- 調査票の構成
- 調査票の検討
- エディティングとコーディング
- データの入力と点検
- 報告書の執筆
- 調査結果発表会
- 全体のまとめとレポート執筆についての相談

6. 成績評価方法：

授業中の課題（40%）、学期末に提出する質問紙（30%）、調査結果に基づくレポート（30%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】轟亮・杉野勇（編）(2017)『入門・社会調査法 [第3版]』法律文化社。

8. 授業時間外学習：

毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成

9. その他：

5 セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB63205, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

調査的面接の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of In-depth Interview

3. 授業の目的と概要：

面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

4. 学習の到達目標：

- (1) 面接調査の長所と短所を把握する；
- (2) 面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 研究のイメージをつかむ
- 調査的面接の方法
- シナリオの作成
- 面接実習
- 面接実習結果について検討
- 対象者の選びかた
- 調査計画について討論
- インタビュー実施から書き起こしまで
- 分析
- 報告書
- 発表会
- 調査的面接の倫理
- 全体のまとめとレポート執筆に向けての討論

6. 成績評価方法：

授業中の課題（50%）、調査結果に基づく口頭発表とレポート（50%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】松浦均・西口利文（2008）『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。

8. 授業時間外学習：

各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成

9. その他：

5セメスタ開講の現代日本論演習「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB54207, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

統計分析の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Statistical Analysis

3. 授業の目的と概要：

意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。

4. 学習の到達目標：

(1) 統計分析の基礎を理解する；(2) データ分析ができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- SPSS 入門
- 統計分析の基礎
- 度数分布表とグラフの利用
- クロス表分析の基礎
- 連関係数
- クロス表の解釈
- ここまでの復習と進度確認課題
- 平均と分散
- 平均値の比較
- 分散分析
- 推測統計の基礎と区間推定
- 統計的検定
- さまざまな検定手法
- 全体のまとめとレポート内容についての相談

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

8. 授業時間外学習：

毎回の課題とレポート作成の準備

9. その他：

実習室で利用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

実践的統計分析法

2. Course Title (授業題目)：

Statistical Analysis in Practice

3. 授業の目的と概要：

研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法を取りあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法を取りあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。

4. 学習の到達目標：

さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 推測統計の基礎
- 正規分布の利用
- 統計的検定と検定力
- 順位相関係数
- 積率相関係数
- 相関係数行列
- ここまでの復習と進度確認課題
- 符号検定
- 対応のある平均値の比較
- 多変量解析
- 全体のまとめとレポート内容について相談

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

8. 授業時間外学習：

毎回の課題とレポート作成の準備

9. その他：

5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
哲学思想概論	近代哲学史(2)——自由と行為	2	城戸 淳	3	月	4	1
哲学思想概論	近代哲学史(3)——自己意識と人格同一性	2	城戸 淳	4	月	4	2
哲学思想概論	古代哲学史(前篇)	2	荻原 理	3	木	2	3
哲学思想概論	古代哲学史(後篇)	2	荻原 理	4	木	2	4
現代哲学概論	近現代哲学の諸問題(1)	2	直江 清隆	3	金	2	5
現代哲学概論	現代哲学の諸問題(2)	2	直江 清隆	4	金	2	6
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原 塑	3	水	4	7
現代哲学概論	科学哲学入門	2	原 塑	4	水	4	8
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(1)	2	直江 清隆. 荻原 理. 城戸 淳	3	水	3	9
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	荻原 理. 直江 清隆. 原 塑. 城戸 淳	4	水	3	10
哲学思想基礎講読	Horkheimerの“Montaigne und die Funktion der Skepsis”を読む(継続)	2	小松 恵一	3	木	3	11
哲学思想基礎講読	Horkheimerの“Montaigne und die Funktion der Skepsis”を読む(継続)	2	小松 恵一	4	木	3	12
哲学思想各論	プラトンの魂論	2	荻原 理	6	月	3	13
哲学思想各論	「フランクフルト学派」の哲学とその周辺	2	齋藤 直樹	6	火	4	14
哲学思想各論	分析哲学を使いこなす	2	伊藤 春樹	5	木	4	15
哲学思想各論	死者と価値、およびそれを語る言語	2	柏端 達也	集中(5)			16
生命環境倫理学各論	生命環境倫理の諸問題	2	直江 清隆	5	火	3	17

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
哲学思想演習	アーレント『革命について』第5章を読む	2	森 一郎	5	火	4	18
哲学思想演習	プラトン『饗宴』を読む (1)	2	荻原 理	5	火	5	19
哲学思想演習	プラトン『饗宴』を読む (2)	2	荻原 理	6	火	5	20
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』 研究	2	城戸 淳	5	水	5	21
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』 研究	2	城戸 淳	6	水	5	22
哲学思想演習	カントの歴史哲学	2	城戸 淳	5	木	2	23
哲学思想演習	カント『判断力批判』の 美学	2	城戸 淳	6	木	2	24
哲学思想演習	現代分析哲学・科学哲 学入門	2	原 塑	5	金	2	25
哲学思想演習	現代分析哲学・科学哲 学入門	2	原 塑	6	金	2	26
哲学思想演習	哲学のメソッド	2	原 塑	5	金	3	27
哲学思想演習	記号論理学	2	原 塑	6	金	3	28
哲学思想演習	フッサール「幾何学の 起源」を読む	2	直江 清隆	5	金	5	29
哲学思想演習	フッサール「幾何学の 起源」を読む	2	直江 清隆	6	金	5	30
生命環境倫理学演習	生誕や差別の生命倫 理学	2	直江 清隆	6	火	3	31

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB31401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近代哲学史 (2) ——自由と行為

2. Course Title (授業題目)：

History of Modern Philosophy 2: Freedom and Action

3. 授業の目的と概要：

自然法則に支配された世界において、はたして人間は自由に行為しうるのか。これは、近代科学の決定論が自覚されるにつれ、近代人の心をますます締めつけた問いである。自然法則は人間の自由を脅かすデーモンなのだろうか。それとも人間の自由には、自然の経過を変更する力があるのだろうか。そんな力がないとすれば、人は自然の操り人形であって、自由の意識や道徳的良心は幻想にすぎないことになるのか。

この講義では、17 世紀から 18 世紀にかけての近代哲学史から、代表的な自由論のいくつかを検討しつつ、自由と行為をめぐる問いに迫りたい。

4. 学習の到達目標：

自由と行為をめぐる近代哲学の概要を把握したうえで、みずから問題について思考し記述することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 行為と自由意志——導入として
- 2 ホッブズ・ブルームホルツ論争 (1) ——選択と理性
- 3 ホッブズ・ブルームホルツ論争 (2) ——欲望と意志
- 4 デカルトにおける自発性と無差別 (1) ——『第四省察』の自由論
- 5 デカルトにおける自発性と無差別 (2) ——『哲学原理』での転向？
- 6 スピノザの運命論——能動的感情へ
- 7 ロックの自由論 (1) ——意志・有意・自由
- 8 ロックの自由論 (2) ——幸福・落ち着かなさ・停止
- 9 ヒュームの両立論——理性と情念
- 10 ライプニッツの可能世界論 (1) ——必然性と確実性
- 11 ライプニッツの可能世界論 (2) ——神と世界創造
- 12 若きカントの自由意志論——自発性へ
- 13 カントの第三アンチノミー (1) ——経験的性格と叡知的性格
- 14 カントの第三アンチノミー (2) ——超越論的観念論
- 15 カントの自律論——自由から道徳へ

6. 成績評価方法：

数回のコメントと期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。その他は授業で紹介する。

8. 授業時間外学習：

講義で紹介した哲学書を手にとり、読むことを試みてください。

9. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB41401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近代哲学史 (3) —— 自己意識と人格同一性

2. Course Title (授業題目)：

History of Modern Philosophy 3: Self-consciousness and Personal Identity

3. 授業の目的と概要：

デカルトの「私は考える」は、自己意識に立脚した「精神」という新局面を切りひらいたが、あわせて、その精神の同一性をめぐる問いを残した。これに答えようとしたロックの人格同一性論は、イギリスで大きな論争を巻き起こし、大陸ではライプニッツやカントも応答を試みることになる。

この講義では、自己意識と人格同一性をめぐる近代哲学史のいくつかの重要な局面を概観して、「私」をめぐる哲学的問題に迫りたい。

4. 学習の到達目標：

自己意識と人格同一性をめぐる近代哲学史の概要を理解し、みずからその問題を考え、記述することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 自己意識と人格同一性——導入として
- 2 デカルトのコギトと霊魂不滅 (1) —— 欺く神と私
- 3 デカルトのコギトと霊魂不滅 (2) —— 心身の実在的区別
- 4 ロックの人格同一性論 (1) —— 物体、人間、人格
- 5 ロックの人格同一性論 (2) —— 意識と記憶
- 6 ロックの人格同一性論 (3) —— 人格と法廷
- 7 人格同一性をめぐるイギリスの論争 (1) —— バークリ、バトラー、リード
- 8 人格同一性をめぐるイギリスの論争 (2) —— 分割と魂
- 9 ライプニッツにおける意識と人格 (1) —— モナドの階梯
- 10 ライプニッツにおける意識と人格 (2) —— 実体、意識、人格
- 11 ヒュームと自我の問題 (1) —— 経験論の原理
- 12 ヒュームと自我の問題 (2) —— 知覚の束
- 13 カントの第三誤謬推理 (1) —— 時間と自己
- 14 カントの第三誤謬推理 (2) —— カントとロック
- 15 総括と展望

6. 成績評価方法：

数回のコメントと期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。その他は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

講義で紹介した哲学書を手にとり、読むことを試みて下さい。

9. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：荻原 理 (准教授)

講義コード：LB34202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

古代哲学史 (前篇)

2. Course Title (授業題目)：

History of Ancient Philosophy (Part 1)

3. 授業の目的と概要：

- ・古代ギリシア哲学のうち、ミレトス学派からプラトンまでの主な哲学者（ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス、ソクラテスも含む）の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
- ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもら（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。
- ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう（数名まで）。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。

4. 学習の到達目標：

- ・ミレトス学派からプラトンまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
- ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

ミレトス学派 (1)：万物のアルケの探究

タレス、アナクシマン드로ス、アナクシメネス

2. ミレトス学派 (2)：アナクシマン드로スの断片

クセノファネス：神を擬人的に思い描くことへの批判

3. ピュタゴラス：万物は数から成る、魂は輪廻する

ヘラクレイトス：反対者は一致する

4. エレア派 (1)：パルメニデス

ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」（導入）

5. エレア派 (2)：ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」（教室で議論）

6. エレア派 (3)：「アキレスは亀に追いつけない」（議論の続き、ゼノンの意図）ゼノンの弁証論

エレア派の挑戦に応える多元論者たち (1)：エンペドクレス

7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち (2)：アナクサゴラス、デモクリトス

ソフィステス（プロタゴラス）、弁論家（ゴルギアス）

8. ソクラテスとプラトンへのイントロ：ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのか

ソクラテス (1)：プラトン『ソクラテスの弁明』を中心に

9. ソクラテス (2)：プラトン『ソクラテスの弁明』

・『クリトン』を中心に（続き）

10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】

プラトン (1)：『メノン』（探究のアポリア、想起説）など

11. プラトン (2)：『パイドン』（魂不死、イデア論）など

12. プラトン (3)：『国家』（ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係）など

13. プラトン (4)：『国家』（善のイデア）など

14. プラトン (5)：論じ残したこと

15. 授業のまとめ学期末試験

6. 成績評価方法：

学期末試験（持ち込み不可）のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションをしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する（試験を受けなくてよい）。

7. 教科書および参考書：

参考書：

加藤信朗『ギリシア哲学史』（東京大学出版会、1996 年）

内山勝利（責任編集）『哲学の歴史 1』（中央公論新社、2008 年）

それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

（他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。）

9. その他：予備知識は特に必要ない。

授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい（した場合、厳しく対応します）。

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：荻原 理 (准教授)

講義コード：LB44202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

古代哲学史 (後篇)

2. Course Title (授業題目)：

History of Ancient Philosophy (Part 2)

3. 授業の目的と概要：

- ・古代ギリシャ哲学のうち、アリストテレス、ヘレニズム哲学、新プラトン主義の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
- ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらう (質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので)。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回 (以降) でもよい。
- ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう (数名まで)。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。

4. 学習の到達目標：

- ・アリストテレス以降での西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
- ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

アリストテレス (1)：形相と質料

2. アリストテレス (2)：形相と質料

3. アリストテレス (3)：始動因

4. アリストテレス (4)：行為の目的論

5. アリストテレス (5)：自然の目的論

6. アリストテレス (6)：オルガノン

7. アリストテレス (7)：芸術論など

8. ヘレニズム哲学 (1)：ヘレニズム哲学へのイントロ

ヘレニズム哲学 (2)：主にエピクロス派

9. ヘレニズム哲学 (3)：主にエピクロス派

10. ヘレニズム哲学 (4)：エピクロス派とストア派

11. ヘレニズム哲学 (5)：主にストア派

12. ヘレニズム哲学 (6)：主にストア派

13. ヘレニズム哲学 (7)：懐疑主義

14. 新プラトン主義

15. 授業のまとめ学期末試験

6. 成績評価方法：

学期末試験 (持ち込み不可) のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する (試験を受けなくてよい)。

7. 教科書および参考書：

参考書：

内山勝利 (責任編集)『哲学の歴史 1』(中央公論新社、2008 年)

内山勝利 (責任編集)『哲学の歴史 2』(中央公論新社、2007 年)

A・A・ロング『ヘレニズム哲学』(京都大学学術出版会、2003 年)

それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)

9. その他：なし

予備知識は特に必要ない。

授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい (した場合、厳しく対応します)。

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB33202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代哲学の諸問題（1）

2. Course Title（授業題目）：

Issues in Contemporary Philosophy

3. 授業の目的と概要：

- ・現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。
- ・20 世紀哲学は近代の人間観、自然観への問い返しを含んでいます。それはまた、学問とは何か、理性とは何かという問いとも結びついています。この講義では、そうした問い返しの具体例として、「懐疑と相対主義」「歴史と価値」「生活世界」「因果性」などに関する近代の問題の所在と、20 世紀の大陸系、英米系の哲学におけるその扱いを検討していきます。ヴェーバー、ヘルダー、ヘーゲル、ディルタイ。ハイデガー、ガダマー、フッサールなどが取り上げられる予定です。コメントメーパーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、授業のうち何回かについてはワークシート を用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキスト の主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

4. 学習の到達目標：

現代哲学の話題について理解し、簡単なものにせよ、自分なりの考えを持てるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 哲学はなにではないのか
2. 懐疑と相対主義 (1)
3. 懐疑と相対主義 (2)
4. 懐疑と相対主義 (3)
5. 歴史と価値 (1)
6. 歴史と価値 (2)
7. 歴史と価値 (3)
8. 異なるものの理解 (1)
9. 異なるものの理解 (2)
10. 生活世界と学問 (1)
11. 生活世界と学問 (2)
12. 因果性 (1)
13. 因果性 (2)
14. 因果性 (2)
15. まとめ

【必要に応じてテーマを一部変更することがあります】

6. 成績評価方法：

平常点 30％ レポート 70％

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。また随時授業中に紹介します。

8. 授業時間外学習：

授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。ISTU も活用する予定です。

9. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB43202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代哲学の諸問題（2）

2. Course Title（授業題目）：

Issues in Contemporary Philosophy

3. 授業の目的と概要：

- ・現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。
- ・20 世紀哲学は近代の人間観、自然観への問い返しを含んでいます。それはまた、学問とは何か、理性とは何かという問いとも結びついています。この講義では、現象学をはじめとする大陸哲学を題材に、身体、他者、技術、環境などに関する問いの所在と解決の方途を検討します。コメントメーパにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、授業のうち何回かについてはワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

4. 学習の到達目標：

現代哲学の話題について理解し、簡単なものにせよ、自分なりの考えを持てるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. ことばと身体
3. ことばと身体
5. 身体という謎(1)
6. 身体という謎(2)
7. 身体という謎(3)
8. 身体という謎(4)
9. 他者という謎(1)
10. 他者という謎(2)
11. 他者という謎(3)
12. ロボットとのコミュニケーション
13. 環境と技術(1)
14. 環境と技術(2)
15. まとめ

【必要に応じてテーマを一部差し替えるすることがあります】

6. 成績評価方法：

平常点 30% レポート 70%

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。また随時授業中に紹介します。

8. 授業時間外学習：

授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、自分なりに考えて次回に臨むという作業を繰り返して下さい。ISTU も活用する予定です。

9. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB33402, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心の哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Philosophy of Mind

3. 授業の目的と概要：

心の哲学は 20 世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質—心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性—を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。

4. 学習の到達目標：

1. 概念や論証を分析する技術を習得する。
2. 心や意識についての現代的議論を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

学期を通じた授業の構成は以下の通りである。

1. はじめに
2. 心の因果性 1
3. 心の因果性 2
4. 心の因果性 3
5. 心と意識 1
6. 心と意識 2
7. 心と意識 3
8. 心の志向性 1
9. 心の志向性 2
10. 心の志向性 3
11. 心の合理性 1
12. 心の合理性 2
13. 心の合理性 3
14. 心に関する諸問題
15. まとめ

6. 成績評価方法：

課題の提出 (60%)、テスト (40%)

7. 教科書および参考書：

金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007 年

8. 授業時間外学習：

授業用スライドを、あらかじめ ISTU にアップロードしておくので、授業前に内容を確認しておくこと。

9. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB43403, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

科学哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Philosophy of Science

3. 授業の目的と概要：

科学が特別な知の形態であることを、科学的推論、検証や反証、科学理論の構造を説明することで、明らかにしていく。
講義形式。毎回の授業後に、授業に対する感想やコメントを提出してもらう。

4. 学習の到達目標：

1. 科学的知識の特徴を理解する。
2. 科学哲学上の様々な議論を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

学期を通じた授業の構成は以下の通りである。

1. イントロダクション
2. 科学と推論 1
3. 科学と推論 2
4. 反証主義 1
5. 反証主義 2
6. 科学革命
7. パラダイム論
8. 研究プログラム論
9. 科学と実在
10. 科学と説明
11. 科学に関する諸問題 1
12. 科学に関する諸問題 2
13. 科学に関する諸問題 3
14. 科学に関する諸問題 4
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業に出席し、コメント・ペーパーを提出する (60%)、テスト (40%)

7. 教科書および参考書：

A. F. チャルマーズ『改訂新版 科学論の展開』(高田喜紀代志、佐野正博訳) 恒星社厚生閣、2013 年
森田邦久『理系人に役立つ科学哲学』科学同人、2010 年

8. 授業時間外学習：

授業用スライドをあらかじめ ISTU にアップロードしておくので、授業前に授業用スライドの内容を確認しておくこと。

9. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆, 荻原 理, 城戸 淳 (教授 他)

講義コード：LB33301, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

哲学研究のレッスン (1)

2. Course Title (授業題目)：

Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の10回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の5回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。

4. 学習の到達目標：

- (1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
- (2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(1)
3. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(2)
4. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(3)
5. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(4)
6. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論(5)
7. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(1)
8. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(2)
9. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(1)
10. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(2)
11. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第1章(3)
12. 発表と討論(1)
13. 発表と討論(2)
14. 発表と討論(3)
15. 発表と討論(4)

6. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点（60％）と、最後の発表ないしレポート（40％）で評価します。

7. 教科書および参考書：

廣松渉『世界の共同主観的存在構造』（岩波文庫）

プリントを配布します。

参考書は演習内で指示します。

8. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員およびTAに相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。

9. その他：なし

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。（倫理学基礎講読と合併で授業します。倫理学専修の方は倫理学基礎講読に登録して下さい）

哲学専修の2年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：荻原 理・直江 清隆・原 壘・城戸 淳 (准教授 他)

講義コード：LB43301, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

哲学研究のレッスン (2)

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy for Beginners: 2

3. 授業の目的と概要：

前期の「哲学研究のレッスン (1)」の続きです。哲学専修の2年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(倫理学専修の方は「倫理学研究のレッスン」の欄をご覧ください。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の10回ほどは英語のテキストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の4回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します(前期・後期を通じて1人1回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くことになります)。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

4. 学習の到達目標：

(1) 哲学・倫理学の英語文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論できるようになる。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心から議論を展開できるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

変更するかもしれません。

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～11. 同書の 'Self' の章を読み、議論する。

12～15. 発表と討論

6. 成績評価方法：

英語テキストについてのレジメ報告や討論 (60%)。最後4回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

7. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

8. 授業時間外学習：

英語テキストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。

レジメ報告を担当するさい、事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けて下さい。

9. その他：なし

倫理学基礎講読と合併で授業します。

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：小松 恵一（非常勤講師）

講義コード：LB34302, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Horkheimer の “Montaigne und die Funktion der Skepsis” を読む（継続）

2. Course Title (授業題目)：

Reading Horkheimers “Montaigne und die Funktion der Skepsis” (continued)

3. 授業の目的と概要：

目的は、以下の通りです。

1. 初期ホルクハイマーのもっとも美しい論文のひとつ (Odo Marquard の評) である “Montaigne und die Funktion der Skepsis” をドイツ語で精読することによって、ドイツ語で哲学論文を読むことへの導入とする。
2. 「懐疑」の近代哲学上の意味について考察する。
3. 近代市民社会の構造を「懐疑」をめぐる近代哲学と関係させて論ずる。
4. 宗教改革（昨年はちょうど 500 年目にあたる）における現世否定と市民社会の勃興の関係を考察する。

概要

は、以下の通りです。

1. ドイツ語本文を一文一文の内容を、文法的事項を含めて、矯めつ眇めつ読解してゆく。
2. はじめに、学生の皆さんにドイツ語を読み、日本語訳してもらう。
3. 担当を決めることはしないので、少なくとも 2 ページほど予習してくることを求める。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ語の単語は、最低限 3000 語理解できるようになること。
2. 西洋近代の重要な哲学者の基本的立場を表現できるようになること。
3. 哲学と社会の関係について、ホルクハイマーの洞察に態度がとれるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「懐疑」の社会的背景について
2. ピロンとモンテーニュ
3. デカルトの懐疑とモンテーニュの懐疑
4. ゲーテとモンテーニュ
5. 懐疑と感覚主義
6. 懐疑と宗教改革（プロテスタンティズム）
 - (1) ルターとの関係
7. 懐疑と宗教改革
 - (2) カルヴァンとの関係
8. ヒュームの懐疑
9. カントにおける懐疑
10. 懐疑とヘーゲル (1) 精神現象学における懐疑の位置
11. 懐疑とヘーゲル (2) ホルクハイマーのそれに対する態度
12. 懐疑と全体主義 (1) 懐疑と現実順応
13. 懐疑と全体主義 (2) 懐疑の批判的力
14. 懐疑と批判哲学 (1) ホルクハイマーの近世哲学における懐疑に対する総括
15. 懐疑と批判哲学 (2) 批判哲学における懐疑の位置

6. 成績評価方法：

毎回の課題ならびにレポートによる。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Fischer の全集による (Max Horkheimer, Gesammelte Schriften, Bd. 4, S.236ff.)

8. 授業時間外学習：

予習は必須です。It is mandatory to read at least two pages of the text for next session.

9. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：小松 恵一（非常勤講師）

講義コード：LB44302, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Horkheimer の “Montaigne und die Funktion der Skepsis” を読む（継続）

2. Course Title (授業題目)：

Reading Horkheimers “Montaigne und die Funktion der Skepsis” continued

3. 授業の目的と概要：

目的と概要は前期と同様

4. 学習の到達目標：

到達目標は前期と同様

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に読み終わったところから始める。その際、時間的余裕があれば、特にカントの『プロレゴメナ』のヒュームに関連する箇所、および、ヘーゲルの『精神現象学』の「自己意識の自由」における「懐疑主義」の部分の抜粋を読む。

6. 成績評価方法：

毎回の課題ならびにレポートによる。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Fischer の全集による (Max Horkheimer, Gesammelte Schriften, Bd. 4, Fischer, S.236-S.294)

8. 授業時間外学習：

テキスト二ページは読むという予習は必須です。It is mandatory to read two pages of text before each lecture.

9. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB61303, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

プラトンの魂論

2. Course Title (授業題目)：

Plato on the soul

3. 授業の目的と概要：

プラトンによる魂の原的把握の諸形態、ならびに、魂をめぐる思索の諸展開を理解する。そして同じ事柄をめぐる自ら思考する。プラトンの初期・中期・後期を通じて考察する。

講義形式だが、積極的に質問してほしい。希望者がいれば数名まで、プレゼンテーションをお願いする。

4. 学習の到達目標：

プラトンの魂論について正確に説明できるようになる。同じ事柄について自らの思索を語り出すようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回：オリエンテーション

2 回ほど：プラトン初期の魂論（『弁明』、『クリトン』、『ゴルギアス』）

5～6 回：プラトン中期の魂論（『饗宴』、『パイドン』、『パイドロス』）

5～6 回：プラトン後期の魂論（『テアイテトス』、『ピレボス』、『法律』）

6. 成績評価方法：

学期末レポート（またはプレゼンテーション）

7. 教科書および参考書：

授業時に指定する。

8. 授業時間外学習：

授業の内容について考え、わかりにくかったところや、自分で考えたことをまとめておく（次回の授業で質問等するために）。

9. その他：なし

ギリシャ語の知識は必要ない。

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：齋藤 直樹 (非常勤講師)

講義コード：LB62402, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

「フランクフルト学派」の哲学とその周辺

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of Frankfurt School and Its Surrounding Ideas

3. 授業の目的と概要：

「フランクフルト学派」とは、1920 年代にフランクフルト大学に設立された社会研究所のメンバーと思想的ないしは歴史的に関連をもつ思想家集団のことをいう。彼らの思想の基本的な特徴は、マルクスが提示した史的唯物論を土台としつつも、当代の哲学ならびに経験諸科学が示す最新の知見を逐一導入することを通じて、現代社会のアクチュアルな問題を批判的に解明しようとする「学際的唯物論」の構想にある。本講義では、この構想の現代へと至る批判的な継承過程を、第一世代による「道具的理性批判」(ホルクハイマー／アドルノ)、第二世代による理性批判の「コミュニケーション論的転回」(ハーバーマス)、第三世代による「承認論的転回」(ホネット)を主軸として概観し、彼らの思想を支える哲学的主張の骨子を通史的に理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

1. 20 世紀初頭から現在に至るフランクフルト学派の思想的展開を通史的に捉えることができるようになる
2. 「批判理論」の理念ならびに方法論的な特徴を理解することができるようになる
3. 理論と実践ないしは哲学と社会の関係のあり方に対して自分なりの観点を持つことができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フランクフルト学派の社会的背景：ナチズムとユダヤ人問題
2. フランクフルト学派の思想的背景：マルクスとフロイト
3. 初期フランクフルト学派の思想(1)：ホルクハイマーにおける「批判」概念
4. 初期フランクフルト学派の思想(2)：ベンヤミンの「アレゴリー論」
5. 第一世代の思想(1)：初期アドルノにおける「自然史の理念」と「コンステラチオン」
6. 第一世代の思想(2)：『啓蒙の弁証法』における「道具的理性批判」
7. 第一世代の思想(3)：『否定弁証法』における理性批判の展開
8. 第一世代の思想(4)：『美の理論』における否定的ユートピアニズムの射程
9. 第二世代の思想(1)：ハーバーマスによるアドルノ批判
10. 第二世代の思想(2)：理性批判の「コミュニケーション論的転回」
11. 第二世代の思想(3)：公共性の構造転換—「システム」と「生活世界」
12. 第三世代の思想(1)：ホネットによるハーバーマス批判
13. 第三世代の思想(2)：理性批判の「承認論的転回」
14. 第三世代の思想(3)：「物象化」概念への承認論的アプローチ
15. フランクフルト学派の現代的展開

6. 成績評価方法：

学期末のレポート (80%)、平常点 (20%)

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、必要に応じて補助資料を配付する。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

指定された文献あるいは配布された資料を熟読するとともに、各回の講義内容をその都度ノート等にまとめ整理しておくこと。

9. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：伊藤 春樹 (非常勤講師)

講義コード：LB54402, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

分析哲学を使いこなす

2. Course Title (授業題目)：

A way to master analytical philosophy

3. 授業の目的と概要：

分析哲学とは、無難に言えば、第二次世界大戦後の英語圏における哲学潮流のことである。この時期のイギリス、オーストラリア（オーストラリア、ニュージーランド）のほぼすべての哲学者（倫理学者、法哲学者、古典文献学者を含む）と、アメリカの多くの哲学者が分析哲学者である。日本の大学は、戦前、官学ではドイツ哲学が、私学ではイギリス哲学が主流であって、棲み分けがなされていたが、戦後は、おもに東京大学と京都大学を中心に、若い人たちの間に同時代の英米哲学を真剣に学ぶ動向が生じた。「分析哲学(analytical philosophy)」という名称には英語の場合でも pejorative な意味合いがこめられているが、日本語では露骨に蔑称であるゆえに、その若い日本人たちにも、分析哲学をやっているが「分析哲学者」と呼ばれるのを嫌う傾向があった。東北大学は伝統的に分析哲学に関心が低い、というよりほとんど問題外といった風情である。しかしながら分析哲学はイギリス経験論を母体としており、その自然主義的傾向は、人文諸科学や自然科学と陸続きであり、またアリストテレスに対して高い親和性を有している。分析哲学が現象学と異母兄弟の間柄にあることを思い出してみるのも無駄ではあるまい。ただしこの兄弟はひどく仲が悪いが、分析哲学は、それを嫌うよりも使いこなすにしくはないのである。なにしろ、ドイツ観念論ほどはむずかしくないのだから。と言ってみても、難解であるがゆえに哲学として学ぶ価値があると固く信じて疑わない真面目な学生諸君にしてみれば、分析哲学のわかりやすさそのものがイカガワシクうるつだろうから、何をかいわんやだが。この授業では、分析哲学を、〈ことばの哲学〉と〈こころの哲学〉と〈存在論〉の三つに絞って、それぞれの問題領域がどのような理論構成の下に展開されて来たかをみることによって、分析哲学の広がりと限界を見極めることを目指している。分析哲学を使いこなすためには、分析哲学が開発してきた概念や理論を知ると同時に、その限界を見極めることも不可欠である。分析哲学を使いこなすとは、分析哲学を哲学の辺境として見るのではなくむしろ哲学の王道とみなすことである。授業では、担当教員の論文を材料に、それらの論文が分析哲学内部のどのような論争状況を背景に書かれたものであるかの解説を中心に進められる。〈ことばの哲学〉では、Frege の Bedeutung という概念が Quine や Dummett に引き継がれて意味論のもとに存在論的議論をいかに活性化したかが示される。〈こころの哲学〉では、Ryle 流の二元論的枠組みが Davidson や Putnam によって乗り越えられて一元論的な見方が主流になったにもかかわらず、難問を抱えている現状が示される。〈哲学の哲学〉では、意志と自由の問題において分析哲学的な存在論が逢着している限界が示される。

4. 学習の到達目標：

分析哲学者の論争的論文を教材として分析哲学の現場を実況中継風に学ぶことができるので、分析哲学者の本音や雑談もふくめて、哲学的思索の実際を知ることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：分析哲学とはなにか。
- 2：ことばの哲学（1）：Frege が開いた新しい眺望：「埋設文における固有名の指示について」「同一性言明について」
- 3：ことばの哲学（2）「私のセマンティックス」
- 4：ことばの哲学（3）「単称存在言明について」
- 5：ことばの哲学（4）「虚構における指示」
- 6：ことばからこころへ：こころの問題はことばの問題でもある。Ryle を超えていく。
- 7：こころの哲学（1）「感情とクオリア」
- 8：こころの哲学（2）「こころとは何か」
- 9：こころの哲学（3）「意識の本質をどこに置くか」
- 10：こころの哲学（4）「「痛い！」は認識か」
- 11：こころから哲学へ：哲学にあたらしい眺望を開くのも哲学の仕事だ。
- 12：哲学の哲学（1）「libertarianism を自然化する」
- 13：哲学の哲学（2）「偶然性について」
- 14：哲学の哲学（3）「両立論論駁——ホップズの場合——」
- 15：哲学の哲学（4）「両立論の息の根」：両立論とは活動（批判）を停止した哲学のことである。

6. 成績評価方法：

分析哲学者の論争的論文を教材として分析哲学の現場を実況中継風に学ぶことができるので、分析哲学者の本音や雑談もふくめて、哲学的思索の実際を知ることができる。

7. 教科書および参考書：

必用な文献・資料はそのつど紹介し、また配布するが、分析哲学を知るスタンダードな教材としては、〈ことばの哲学〉については、すこし古いが飯田隆著『言語哲学大全Ⅰ～Ⅳ』を、〈こころの哲学〉については、すこし難しいかもしれないが信原幸弘編『シリーズ心の哲学Ⅰ～Ⅲ』を薦めたい。いずれも発行は勁草書房。

8. 授業時間外学習：

教材として配布される資料（担当教員が書いた論文）を前もって読んでおくこと。資料に対して激的な批判を考えること。

9. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：柏端 達也 (非常勤講師)

講義コード：LB98821, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

死者と価値、およびそれを語る言語

2. Course Title (授業題目)：

The Dead, Value and Our Language about Them

3. 授業の目的と概要：

「死者」をめぐるのは、いわゆる虚構の対象（架空物）に関するのと類比的な存在論的問題が生じると同時に、かなり風あいの異なる価値論的な問題が生じる。それらの問題には日常的なものと理論的なものがある。「これから生まれてくる者」、「生まれてくることのない者」をめぐるのも、それぞれの仕方で、同様の問題状況がある。人や「人」と呼ばれうるもののカテゴリーは、あなたや私といった、いま現に生きて直接影響を及ぼしあえる人間たちよりもおそらくずっと広い範囲を覆っている。この講義では、現代の形而上学や価値論、および言語哲学の観点から、それら「人」のカテゴリーをめぐる諸問題の状況を素描することを試みたい。そのなかから個別的な問題への取り組みに向けて一歩進むための道を示唆できればよいと考えている。

4. 学習の到達目標：

- (1) 「死者」がどのように存在論的な問題を生じさせ、かつそれがどのように価値の問題と関わるのかを理解すること。
- (2) 現代の形而上学、価値論、および言語哲学の基本的な概念装置にある程度なじむこと。
- (3) 関連する哲学的問題について自分なりに何か考えてみようという気が起きること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 存在と非存在をめぐる議論の概観(1)
3. 存在と非存在をめぐる議論の概観(2)
4. 死者の問題(1)
5. 理論(1)
6. 死者の問題(2)
7. 死者の問題(3)
8. 理論(2)
9. 理論(3)
10. これから生まれてくる者に関する問題
11. 理論(4)
12. 生まれてくることのない者に関する問題
13. 理論(5)
14. その他の問題
15. 総括

※あくまで「進度予定」のため、各回テーマの順番と比率は弾力的に変更されうる。

6. 成績評価方法：

学習目標達成度を測る授業内の複数回のコメントペーパー（40％）と1回の筆記試験（60％）で評価する。

7. 教科書および参考書：

柏端達也『現代形而上学入門』2017年、勁草書房。その他、授業中にも口頭またはプリントで示唆する。

授業は配布したプリントを用いて進める。

8. 授業時間外学習：

予習は必要ないが、ふり返って考えてみてどうしても分からないところがあればそのままにせず次の回で質問してほしい。とくに技術的な事柄については。

9. その他：なし

科目名：生命環境倫理学各論／ Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆 (教授)

講義コード：LB52302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生命環境倫理の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Issues in Bio- and Environmental Ethics

3. 授業の目的と概要：

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考える能力を養う。

科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められているのである。

今学期は、尊厳をテーマに、

- 1) 尊厳という概念
- 2) 尊厳概念の諸相 (生命、環境、技術など)
- 3) 人間の尊厳と近代科学

について順に論じ、哲学的・倫理学的問題の所在を明らかにする。(講義となっているが、必要に応じて、大学院生による報告も織り交ぜることを予定している)。

4. 学習の到達目標：

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考えることができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：尊厳という概念はいかなる意味か
2. 尊厳という概念は有効か (生命倫理における人間の尊厳) (1)
3. 尊厳という概念は有効か (生命倫理における人間の尊厳) (2)
4. ヒト胚と尊厳
5. ターミナルケアと人間の自律 (1)
6. ターミナルケアと人間の自律 (2)
7. 尊厳死 (1)
8. 尊厳死 (2)
9. 障害と尊厳
10. 自然の価値 (1)
11. 自然の価値 (2)
12. ロボットと人間の尊厳 (1)
13. ロボットと人間の尊厳 (2)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

【必要に応じて内容を差し替えアップデートを図ることがある】

6. 成績評価方法：

レポート 80% 授業への参加 20%

7. 教科書および参考書：

教材は必要に応じてコピーを配布します。

参考書：加藤泰史編『尊厳概念のダイナミクス』2017、Human Dignity and Bioethics, 2008 『ドイツ応用倫理学の現在』2002 ほか。

8. 授業時間外学習：

出席して討議に参加するように努めること。生命倫理学や環境倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：森 一郎（兼務教員）

講義コード：LB52407, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

アーレント『革命について』第5章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Hannah Arendt's On Revolution, Chapter 5

3. 授業の目的と概要：

ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』『活動的生涯』に次ぐ第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963年）とドイツ語版（1965年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める（ドイツ語版からの日本語訳を配布予定）。今学期は、第5章「時代の新秩序」を読んでゆく。

4. 学習の到達目標：

- ・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。
- ・哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。
- ・テキストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。
- ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語版のHannah Arendt, Über die Revolutionの試訳を配布し、主にそれに拠って議論する予定。英語版On Revolutionとその邦訳『革命について』も参照する。

毎回の担当者は、段落ごとにまとめたレジュメを作成、配布し、それに基づいて報告し、議論をリードする。ドイツ語原文に照らしての訳文の検討も歓迎する。

授業の進行スケジュールは、おおむね以下を予定している。

- 第1回 ガイダンスとイントロダクション——『革命について』を今日読むことの重要性
- 第2回 第5章第1節（その1）——革命における権威の必要性
- 第3回 第5章第1節（その2）——古代の法観念と近代の自然法思想
- 第4回 第5章第1節（その3）——来世での応報の信仰
- 第5回 第5章第1節（その4）——政治における無神論の危険
- 第6回 第5章第1節（その5）——自明の真理という権威
- 第7回 第5章第2節（その1）——権威としての創設それ自体
- 第8回 第5章第2節（その2）——権力と権威のローマ的区別
- 第9回 第5章第2節（その3）——ローマ的分立のアメリカにおける制度化
- 第10回 第5章第3節（その1）——創設とその永続性
- 第11回 第5章第3節（その2）——始まりの問題へ
- 第12回 第5章第3節（その3）——原理としての始まり
- 第13回 第5章第3節（その4）——可死性と誕生性
- 第14回 二つの憲法の間で——維新精神と平和主義
- 第15回 まとめ——改憲、護憲、加憲、そして活憲

6. 成績評価方法：

平常点（出席は当然とし、発表担当、議論への参加など）を60%、学期末レポートを40%として総合評価する。

7. 教科書および参考書：

- ・ドイツ語版テキスト試訳をコピーして配布したものを、主要テキストとする。
- ・原書は購入を勧めるが、希望者には該当箇所をコピーして配布する予定。
Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper; Hannah Arendt, On Revolution, Penguin Books
- ・英語版からの日本語訳は、参考書として各自購入を勧める。
ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫

8. 授業時間外学習：

毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。

各回の担当者には担当箇所のテキスト精読と入念なレジュメ作成が求められること、言うまでもない。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB52502, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

プラトン『饗宴』を読む (1)

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Plato's SYMPOSIUM, 1

3. 授業の目的と概要：

(前年度に引き続き、本年度前期は) 209e5 あたりから、プラトン『饗宴』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。

4. 学習の到達目標：

今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。

最初はゆっくり（1 回に 8 行ほどからスタート）、だんだんとペースを上げていき、最後は 1 回に OCT の 1 ページ半くらい進めるようになりたい（各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。）

アルキピアデス乱入の箇所までは進みたい。

6. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

7. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

次回に読む箇所の予習

9. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB62503, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

プラトン『饗宴』を読む(2)

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Plato's SYMPOSIUM (2)

3. 授業の目的と概要：

前期に読み進めたところから引き続き、プラトン『饗宴』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。

4. 学習の到達目標：

今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

アルキビアデス演説をできるだけ読み進める。

6. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

7. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

次回に読む箇所の予習

9. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB53504, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』(1781/87 年)の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示した超越論的演繹論を承けて、さらにカテゴリーを時間的に図式化し、それぞれをアプリアリな総合判断(原則)のかたちへと定式化してゆくところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は図式論から原則論を、後期は引き続き原則論を、原文のドイツ語で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語などの各種コメンタリーや研究書・論文などを、輪番でレジュメにして報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2 第二篇 原則の分析論
- 3 序論 超越論的判断力一般について
- 4 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (1 判断と包摂)
- 5 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (2 図式と像)
- 6 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (3 量・質・関係・様相)
- 7 第一章 純粋悟性概念の図式的機能について (4 実在化と制限)
- 8 第二章 純粋悟性のあらゆる原則の体系
- 9 第一節 あらゆる分析的判断の最高原則について (1 矛盾律について)
- 10 第一節 あらゆる分析的判断の最高原則について (2 矛盾と時間)
- 11 第二節 あらゆる総合的判断の最高原則について (1 総合の媒介者)
- 12 第二節 あらゆる総合的判断の最高原則について (2 経験の可能性の条件)
- 13 第三節 純粋悟性のあらゆる総合的原則の体系的呈示 (1 悟性の法則)
- 14 第三節 純粋悟性のあらゆる総合的原則の体系的呈示 (2 数学的／力学的使用)
- 15 1 直観の公理 (1 第二版の証明) (続く)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB63504, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』(1781/87 年)の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示した超越論的演繹論を承けて、さらにカテゴリーを時間的に図式化し、それぞれをアプリアリな総合判断(原則)のかたちへと定式化してゆくところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は図式論から原則論を、後期は引き続き原則論を、原文のドイツ語で読みすすめる(範囲は進捗状況に応じて変わる場合がある)。また、英語・ドイツ語・日本語などの各種コメンタリーや研究書・論文などを、輪番でレジュメにして報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 (承前) 1 直観の公理 (2 外延量)
- 2 1 直観の公理 (3 幾何学)
- 3 2 知覚の予科 (1 第二版の証明)
- 4 2 知覚の予科 (2 予料について)
- 5 2 知覚の予科 (3 実在性と内包量)
- 7 3 経験の類推 (1 第二版の証明)
- 8 3 経験の類推 (2 第一版の証明)
- 9 A 第一類推 実体の持続性の原則 (1 第二版の証明)
- 10 A 第一類推 実体の持続性の原則 (2 第一版の証明)
- 11 A 第一類推 実体の持続性の原則 (3 変化と基体)
- 12 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (1 第二版の証明)
- 13 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (2 家と船)
- 14 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (3 継起と因果)
- 15 B 第二類推 因果律に即した時間的継起の原則 (4 時間と因果の問題)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB54208, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カントの歴史哲学

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Philosophy of History

3. 授業の目的と概要：

批判期のカントは『ベルリン月報』などの雑誌に、政治、宗教、歴史など幅広い話題について、ときには時事や新刊書にも触れながら、さまざまなエッセーを寄稿していた。この演習では、このうち、広義の歴史哲学に属すると見られる諸論文を読む。(とりあげるテキストは、受講生の関心や演習の進捗などに応じて変更することがある。)

演習は邦訳書をもとに進める (もちろんドイツ語原典の講読が望ましい)。担当者による報告とその後の質疑応答・討議によって、カントの歴史哲学の諸相について理解を深めるものとする。

4. 学習の到達目標：

カントの歴史哲学論文を読み、その基本思想を把握し、批判的に思考する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 カントの歴史哲学への導入
- 2 『世界市民という視点からみた普遍史の理念』(1) 報告
- 3 『世界市民という視点からみた普遍史の理念』(2) 討議
- 4 『世界市民という視点からみた普遍史の理念』(3) 研究
- 5 『啓蒙とは何か』(1) 報告
- 6 『啓蒙とは何か』(2) 討議
- 7 『啓蒙とは何か』(3) 研究
- 8 『人類の歴史の憶測的な起源』(1) 報告
- 9 『人類の歴史の憶測的な起源』(2) 討議と研究
- 10 『万物の終焉』(1) 報告
- 11 『万物の終焉』(2) 討議と研究
- 12 『永遠平和のために』(1) 報告
- 13 『永遠平和のために』(2) 討議
- 14 『永遠平和のために』(3) 研究
- 15 総括的考察

6. 成績評価方法：

報告、討論、期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

カント『永遠平和のために/啓蒙とは何か 他 3 編』中山元訳、光文社古典新訳文庫。

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさず演習に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB64208, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『判断力批判』の美学

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Aesthetics in Critique of Power of Judgment

3. 授業の目的と概要：

カントの『判断力批判』の第1部「美感的 (aesthetisch) 判断力の批判」は、近代の「美学 (Aesthetik)」に哲学的基礎を与えた。とはいえ、批判哲学の概念装置が自由自在に駆使されていることもあり、なかなか独学では読みとおしにくいところがある。この演習では、美と崇高をめぐるカントの思索に迫るべく、「美感的判断力の分析論」を読みすすめる。

演習は邦訳書をもとに進める (専門的に学ぼうとする者にはドイツ語原典による講読を勧める)。担当者による報告、その後の質疑応答、解説、討議を通じて、カント美学の基本を理解することをめざす。

4. 学習の到達目標：

カント美学の基本を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 カント美学への導入
- 2 美の分析論 趣味判断の第一契機 「質」 (1 美感的判断と関心)
- 3 趣味判断の第一契機 「質」 (2 美、快適、善)
- 4 趣味判断の第二契機 「量」 (1 普遍的な適意)
- 5 趣味判断の第二契機 「量」 (2 主観的普遍性)
- 6 趣味判断の第三契機 目的の「関係」 (1 合目的性)
- 7 趣味判断の第三契機 目的の「関係」 (2 魅力と完全性)
- 8 趣味判断の第四契機 対象の「様相」 (1 主観的必然性)
- 9 趣味判断の第四契機 対象の「様相」 (1 共通感覚について)
- 10 崇高の分析論
- 11 数学的崇高
- 12 力学的崇高
- 13 美感的判断の解明への一般的注解
- 14 純粋な美感的判断の演繹 (1 趣味判断の演繹)
- 15 純粋な美感的判断の演繹 (2 共通感覚と関心)

6. 成績評価方法：

報告、討議、期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

教科書 (テキスト) 『カント全集 8 判断力批判 上』 牧野英二訳、岩波書店、1999 年。／Immanuel Kant, Kritik der Urteilskraft, PhB, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 2009.

参考書 熊野純彦『カント 美と倫理とのはざままで』 講談社、2017 年。

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさず演習に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB55210, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代分析哲学・科学哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Analytic Philosophy and the Philosophy of Science

3. 授業の目的と概要：

分析哲学や科学哲学の文献を読解し、理解を深めるためには、論理学や統計学、様相などの基礎概念への習熟が欠かせない。イギリスの科学哲学者 David Papineau の Philosophical Devices は、この必要性を満たすために、文系の学生向けに書かれた著作である。前期では、この本の前半、つまり集合論を扱った第 1 部と、必然性と偶然性、アプリオリとアポステリオリ、分析性と総合性について解説している第 2 部を検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 集合論、様相などの基礎概念に習熟する。
2. 英語で書かれた哲学文献を読解することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Philosophical Devices の前半部の章立ては以下の通りである。

Part I Sets and Numbers

1. Naive Sets and Russell's Paradox
2. Infinite Sets
3. Orders of Infinity

Part II Analyticity, A Prioricity, and Necessity

4. Kinds of Truths
5. Possible Worlds
6. Naming and Necessity

授業の初回はイントロダクションで、その後、Part I、Part II の各章をそれぞれ 2 回の授業時間を使って読解し、それぞれの章についている練習問題と取り組む。途中、数回の授業を質疑応答にあてる。

6. 成績評価方法：

レジュメの担当 60%、学期末レポートの作成 40%

7. 教科書および参考書：

David Papineau. 2012. Philosophical Devices--Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

8. 授業時間外学習：

教科書の中で各授業で扱う箇所に、事前に目を通すとともに、練習問題の解答を作成する。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB65209, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代分析哲学・科学哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Analytic Philosophy and the Philosophy of Science

3. 授業の目的と概要：

分析哲学や科学哲学の文献を読解し、理解を深めるためには、論理学や確率、様相などの基礎概念への習熟が欠かせない。イギリスの科学哲学者 David Papineau の Philosophical Devices は、この必要性を満たすために、文系の学生向けに書かれた著作である。後期では、この本の後半、つまり確率を扱った第3部と、論理学について解説している第4部を検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 確率、論理学などの基礎概念に習熟する。
2. 英語で書かれた哲学文献を読解することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Philosophical Devices の後半部の章立ては以下の通りである。

Part III The Nature and Uses of Probability

7. Kinds of Probability
8. Constraints on Credence
9. Correlations and Causes

Part IV Logic and Theories

10. Syntax and Semantics
11. Soundness and Completeness
12. Theories and Gödel's Theorem

授業の初回はイントロダクションで、その後、Part III、Part IV の各章をそれぞれ2回の授業時間を使って読解し、それぞれの章についている練習問題と取り組む。途中、数回の授業を質疑応答にあてる。

6. 成績評価方法：

レジュメの担当 60%、学期末レポートの作成 40%

7. 教科書および参考書：

David Papineau. 2012. Philosophical Devices--Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

8. 授業時間外学習：

教科書の中で各授業で扱う箇所に、事前に目を通すとともに、練習問題の解答を作成する。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LB55307, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：

How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：

哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を講義した後、サイモン・ブラックバーン著『ビッグクエスチョンズ 哲学』(山邊昭則・下野葉月 訳)を用いたワークショップ型の演習を行なう。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. 学習の到達目標：

1. 哲学論文の分析方法に習熟する。
2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. インTRODakション
2. 哲学研究方法論講義
3. 文献のまとめ方講義
- 4～7. ワークショップ型演習 (4～5人のグループに分かれて、選んだテーマについて討論する)
- 8～9. ワークショップ発表
- 10～15. 卒論・修論構想発表

6. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む (60%)、研究発表 (40%)

7. 教科書および参考書：

サイモン・ブラックバーン『ビッグクエスチョンズ 哲学』(山邊昭則・下野葉月 訳) 2015 年、ディスカバリー
佐々木健一『論文ゼミナール』2014 年、東京大学出版会
戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012 年、NHK 出版会

8. 授業時間外学習：

論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

9. その他：なし

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は哲学専修・倫理学専修 3 年次の学生向けである。他専修や他学年で受講を希望する者は授業担当教員と相談すること。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LB65305, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

記号論理学

2. Course Title (授業題目)：

Formal Logic

3. 授業の目的と概要：

一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. 学習の到達目標：

1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。
2. 記号の操作法を身につける。
3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー 1
7. タブロー 2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性 1
12. 日本語による推論の妥当性 2
13. 日本語による推論の妥当性 3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する（60%）、テスト（40%）

7. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014 年
丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014 年

8. 授業時間外学習：

自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB55502, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フッサール「幾何学の起源」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl's "Der Ursprung der Geometrie"

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

フッサールの晩年に書かれた「幾何学の起源」はいかにして理念的対象が意識に与えられてきたかを解明した本として名高い。また、後にデリダやメルロ＝ポンティが長大なコメントを付けたことでも有名である。この遺稿は、当初「志向的一歴史的問題としての」という形容詞が付けられて発表されたことから伺われるように、現象学の基礎概念である生活世界や歴史、言語などについて探求したものである。現象学的な科学哲学のみならず、歴史哲学、言語哲学などにも射程は伸びている。

この授業では現象学について最低限の紹介をしたのち、この遺稿をドイツ語の原文で読む。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進める。ドイツ語に慣れない学生は邦訳(英訳・仏訳)を参照してもよい。キー概念を元に現象学についての説明を加えるほか、不明点・問題点があればその都度議論する時間をとる。また、デリダやメルロ＝ポンティのコメントについて適当な時期に大学院生などに報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・テキストを原文で読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1, イントロダクション
- 2, 『危機』書の紹介
- 3, 「幾何学の起源」読解 (1)
- 4, 「幾何学の起源」読解 (2)
- 5, 「幾何学の起源」読解 (3)
- 6, 「幾何学の起源」読解 (4)
- 7, 「幾何学の起源」読解 (5)
- 8, 「幾何学の起源」読解 (6)
- 9, 「幾何学の起源」読解 (7)
- 10, 「幾何学の起源」読解 (8)
- 11, 「幾何学の起源」読解 (9)
- 12, 「幾何学の起源」読解 (10)
- 13, 「幾何学の起源」読解 (11)
- 14, 「幾何学の起源」読解 (12)
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

- レポート 50%
- 平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Der Ursprung der Geometrie, in: Husserliana VI, 1976, [邦訳: 『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』細谷貞夫、木田元訳、中公文庫所収)のコピーを配布する。ドイツ語が不得手な人には、英訳 Origin of geometry, an introduction も配布する。授業では、『幾何学の起源』エドムント・フッサール著；ジャック・デリダ序説、田島節夫、矢島忠夫、鈴木修一訳、青土社や、モーリス・メルロ＝ポンティ『フッ

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』や参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB65502, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フッサール「幾何学の起源」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl's "Der Ursprung der Geometrie"

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

フッサールの晩年に書かれた「幾何学の起源」はいかにして理念的対象が意識に与えられてきたかを解明した本として名高い。また、後にデリダやメルロ＝ポンティが長大なコメントを付けたことでも有名である。この遺稿は、当初「志向的一歴史的問題としての」という形容詞が付けられて発表されたことから伺われるように、現象学の基礎概念である生活世界や歴史、言語などについて探求したものである。現象学的な科学哲学のみならず、歴史哲学、言語哲学などにも射程は伸びている。

この授業では、前期に引き続き、この遺稿をドイツ語の原文で読む。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進める。ドイツ語に慣れない学生は邦訳（英訳・仏訳）を参照してもよい。キー概念を元に現象学についての説明を加えるほか、不明点・問題点があればその都度議論する時間をとる。また、デリダやメルロ＝ポンティのコメントについて適当な時期に大学院生などに報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・テキストを原文で読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、「幾何学の起源」と『危機』書（前期のおさらい）
- 2、「幾何学の起源」読解（1）
- 3、「幾何学の起源」読解（2）
- 4、「幾何学の起源」読解（3）
- 5、「幾何学の起源」読解（4）
- 6、「幾何学の起源」読解（5）
- 7、「幾何学の起源」読解（6）
- 8、「幾何学の起源」読解（7）
- 9、「幾何学の起源」読解（8）
- 10、「幾何学の起源」読解（9）
- 11、「幾何学の起源」読解（10）
- 12、「幾何学の起源」読解（11）
- 13、「幾何学の起源」読解（12）
- 14、まとめ(1)
- 15、まとめ(2)

6. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Der Ursprung der Geometrie, in: Husserliana VI, 1976, [邦訳:『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』細谷貞夫、木田元訳、中公文庫所収)のコピーを配布する。ドイツ語が不得手な人には、英訳 Origin of geometry, an introduction も配布する。授業では、『幾何学の起源』エドムント・フッサール著；ジャック・デリダ序説、田島節夫、矢島忠夫、鈴木修一訳、青土社や、モーリス・メルロ＝ポンティ『フッ

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する『ヨーロッパ的諸学の危機と超越論的現象学』や参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

9. その他：なし

科目名：生命環境倫理学演習／ Bio-Environmental Ethics (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆 (教授)

講義コード：LB62305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI314J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生誕や差別の生命倫理学

2. Course Title (授業題目)：

Bioethics of Reproduction and Discrimination

Bioethics of Reproduction and Discrimination

3. 授業の目的と概要：

科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められているのである。生殖医療、再生医療について、生命へのいかなる介入が認められるかが問われていることはよく知られているが、これは新たな問いである。この授業では、このような新たな技術の導入とそれが人の尊厳、とりわけ差別と関わってくる問題について考えていくことにする。参加者による英語論文(Erik Parens, Adrienne Asch(ed.), Prenatal testing and disability rights, 2000; Allen Buchanan, Beyond Humanity? 2011; Simon Peter van Rysewyk, Matthijs Pontier(ed.), Machine Medical Ethics, 2015 などから適宜選択する)の紹介と討論をメインとするが、適宜日本語の論文も取り上げる。

4. 学習の到達目標：

生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス(授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)
1. ガイダンス(授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)
2. 担当者による報告と内容についての議論 (1)
 - 2 出生前診断と障害者の権利
 - 3 出生前診断の現状
 - 4 親であること、障害、出生前診断
 - 5 家族における障害者の経験
 - 6 出生前診断への制限
 - 7 障害、出生前診断、選択的妊娠中絶
 - 8 出生前診断の障害者の社会的構成
 - 9 出生前診断や選択的妊娠中絶に対する障害者団体の態度
 - 10 出生前診断途と法
 - 11 出生前診断と医療者の倫理
 - 12 意図せざる結果
 - 13 出生前診断と社会構成主義批判
 - 14 配分の正義と新技術の普及
 - 15 まとめ

(参加者の関心に応じて扱う箇所を変更することがある)

6. 成績評価方法：

レポート(訳読の担当などを含む) 60% 授業全体への貢献度 40%

7. 教科書および参考書：

開講時にプリントを配布。参考書: 赤林朗編『入門・医療倫理 (1)』

そのほかの参考文献については適宜授業内で指示する。

8. 授業時間外学習：

担当の回でなくとも予習すること、出席して討議に参加するように努めること。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、基本書にも進んで取り組んで欲しい。

9. その他：なし

倫理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
倫理思想概論	現象学・倫理学通論	2	戸島 貴代志	3	火	2	1
倫理思想概論	倫理学の基礎	2	村山 達也	4	金	4	2
倫理思想基礎講読	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	3	月	2	3
倫理思想基礎講読	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	4	月	2	4
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (1)	2	村山 達也	3	水	3	5
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (2)	2	村山 達也	4	水	3	6
倫理思想各論	ルサンチマンについて	2	戸島 貴代志	6	火	2	7
倫理思想各論	ライプニッツ『形而上学 序説』を読む	2	村山 達也	5	金	4	8
倫理思想各論	哲学・思想を今考える ーハイデガー・ヘリゲ ル・禅を中心に	2	魚住 孝至	集中(6)			9
倫理思想演習	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	5	月	2	10
倫理思想演習	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	6	月	2	11
倫理思想演習	デカルト『方法叙説』講 読	2	村山 達也	5	水	2	12
倫理思想演習	デカルト『方法叙説』講 読	2	村山 達也	6	水	2	13
倫理思想演習	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	5	水	4	14
倫理思想演習	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	6	水	4	15
倫理思想演習	道徳的相対主義をめぐる 諸問題	2	村山 達也	5	金	2	16
倫理思想演習	利己主義をめぐる諸問 題	2	村山 達也	6	金	2	17

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LB32203, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現象学・倫理学通論

2. Course Title (授業題目)：

General argument of Phenomenology and Ethics

3. 授業の目的と概要：

ものは、〈外側から〉眺められ、〈内側から〉生きられる。前者すなわち〈表象する思考〉は対象から距離をとる客観的思考を目指し、後者すなわち〈遂行する思考〉は対象そのものと一つになる主体的思考を目指す。講義では、両者の中庸に本来の現象学的思考が位置することを説明し、倫理学の原点には常にかかる中庸が控えていることを、「外側から捉えることと内側から捉えること」という内容を中心にして説明する。

4. 学習の到達目標：

広い意味での哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方の理解を得ること

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ものを外側から知ることと内側から知ること①

第2回 ものを外側から知ることと内側から知ること②

第3回 ものを外側から知ることと内側から知ること③

第4回 存在と所有①

第5回 存在と所有②

第6回 思考の枠組み①

第7回 思考の枠組み②

第8回 個と場①

第9回 個と場②

第10回 時間・空間のサイズ①

第11回 時間・空間のサイズ②

第12回 言葉ともの①

第13回 言葉ともの②

第14回 自覚について

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席3割、レポート7割

7. 教科書および参考書：

ベルクソン『思想と動くもの』

ハイデガー『存在と時間』

戸島貴代志『創造と想起』

(以上は参考図書)

8. 授業時間外学習：

講義内容の復讐を中心に学習する。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB45401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI207J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

倫理学の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Ethics

3. 授業の目的と概要：

「何が善いことで、何が悪いことなのか」「善悪など人それぞれではないのか」「そもそもなぜ善いことをしなくてはいけないのか」「幸福とは何か」「道徳と幸福にはどんな関係があるのか」「生きることに何の意味があるのか」……。こうした、人間の生き方の価値をめぐって生じるさまざまな問題について、できるかぎり明確に、理論的に答えようとするのが倫理学です。

この講義を受講することで、現代倫理学の基礎知識や、そこで用いられる（やはり基礎的な）思考法についてひととおり学ぶことができます。ただし「現代」倫理学に特化しますので、倫理学的な側面については必要な範囲で触れるにとどまります。また、理論的な問題に特化しますので、いわゆる応用倫理学の問題については事例として簡単に挙げる程度です。

4. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の基礎知識（基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論）を身につける。
- (2) 倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。
- (3) 倫理学的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入——倫理学とは何か
第二回：道徳的相対主義——善さは人それぞれなのか
第三回：道徳的主観主義——倫理学に客観的な答えはあるのか
第四回：質問への回答
第五回：善悪の規準は何か——第一の答え
第六回：善悪の規準は何か——第二の答え
第七回：善悪の規準は何か——第三の答え
第八回：質問への回答、ならびに現代の正義論
第九回：幸福と道徳はどう関係しているか
第一〇回：あらためて幸福とは何か
第十一回：質問への回答、ならびに道徳と宗教の関係
第十二回：人生の意味は何か
第十三回：そもそも人生に意味などあるのか
第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明
第十五回：全体のまとめ

以上はあくまで予定です。これ以上の詳細については初回に説明します。

なお、理解度を確認し、その深化を図るため、毎回アンケートを取り（成績とはほぼ無関係）、質問に答える回を定期的に設けます。

6. 成績評価方法：

ほぼ学期末試験のみで行ないます。

7. 教科書および参考書：

教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考文献は講義内で適宜紹介します。

8. 授業時間外学習：

講義内容がやや豊富なので、適宜復習し、参考文献にもあたることを望ましい。

9. その他：なし

特別な予備知識は不要です。なお、演習や卒論指導にあたっては、本講義に相当する内容が既習であることを前提としますので、倫理学専攻の学生はできるかぎり履修してください。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LB31204, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

生の哲学と実存思想

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of life and Existentialism

3. 授業の目的と概要：

1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には生の秘める問題を深く考える訓練の場として臨んでもらいたい。

2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。

3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解し、生命一般についての諸問題を深く思考できること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 1
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 2
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 3
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 4
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 5
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 6
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 7
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 8
9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 9
10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 10
11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 11
12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 12
13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 13
14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 14
15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 15

6. 成績評価方法：

発表 5 割、出席 5 割

7. 教科書および参考書：

ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB41206, **科目ナンバリング：**LHM-PHI215J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生の哲学と実存思想

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of life and Existentialism

3. 授業の目的と概要：

1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には生の秘める問題を深く考える訓練の場として臨んでもらいたい。

2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。

3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解し、生命一般についての諸問題を深く思考できること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8
9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9
10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10
11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11
12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12
13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13
14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14
15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15

6. 成績評価方法：

発表5割、出席5割

7. 教科書および参考書：

ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB33302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI215J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

倫理学研究のレッスン (1)

2. Course Title (授業題目)：

Western Ethical Thought (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキスト (前期は日本語) をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します (前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい)。

4. 学習の到達目標：

- (1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
- (2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論 (1)
3. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論 (2)
4. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論 (3)
5. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論 (4)
6. パスカル『パンセ』の「賭け」の議論 (5)
7. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章 (1)
8. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章 (2)
9. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第 1 章 (1)
10. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第 1 章 (2)
11. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第 1 章 (3)
12. 発表と討論 (1)
13. 発表と討論 (2)
14. 発表と討論 (3)
15. 発表と討論 (4)

6. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

7. 教科書および参考書：

廣松渉『世界の共同主観的存在構造』(岩波文庫)

その他、必要なものはプリントで配布します。

参考書は演習内で指示します。

8. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。

9. その他：なし

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します (哲学基礎講読と合併で授業します。哲学専修の方は哲学基礎講読に登録して下さい)。

倫理学専修の 2 年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB43302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI215J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

倫理学研究のレッスン (2)

2. Course Title (授業題目)：

Ethics for Beginners: 2

3. 授業の目的と概要：

前期の「倫理学研究のレッスン (1)」の続きです。倫理学専修の2年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(哲学専修の方は「哲学研究のレッスン」の欄をご覧ください。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の10回ほどは英語のテキストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の4回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します(前期・後期を通じて1人1回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くことになります)。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

4. 学習の到達目標：

- (1) 哲学・倫理学の英語文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論できるようになる。
- (2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心から議論を展開できるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

変更するかもしれません。

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～11. 同書の 'Self' の章を読み、議論する。

12～15. 発表と討論

6. 成績評価方法：

英語テキストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後4回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

7. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

8. 授業時間外学習：

英語テキストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。

レジュメ報告を担当するさい、事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けて下さい。

9. その他：なし

哲学基礎講読と合併で授業します。

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LB62206, 科目ナンバリング：LHM-PHI307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ルサンチマンについて

2. Course Title (授業題目)：

On 'ressentiment'

3. 授業の目的と概要：

ニーチェのいう「ルサンチマン」について、私たちの一般的な行動能力の観点から解明する。そのさいに「貴族と奴隸」および「強者と弱者」といったニーチェ自身の用いるカテゴリーの射程について、ニーチェの考えとは違った「機を逸しない行動」という視点からの解明も試みる。

4. 学習の到達目標：

「ルサンチマン」について、善悪の基本的なとらえ方を基にして、多面的な仕方で理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 強者と弱者 1
- 2 強者と弱者 2
- 3 貴族と奴隸 1
- 4 貴族と奴隸 2
- 5 ルサンチマン 1
- 6 ルサンチマン 2
- 7 ルサンチマン 3
- 8 反動と反感 1
- 9 反動と反感 2
- 10 機ということ 1
- 11 機ということ 2
- 12 良いと善いについて
- 13 善悪の起源
- 14 善悪のかなた
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

出席 5 割、レポート 5 割

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する

8. 授業時間外学習：

復習を重視して下さい。

9. その他：なし

オフィスアワーは随時

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB55401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ライプニッツ『形而上学序説』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Leibniz, Discourse on Metaphysics

3. 授業の目的と概要：

十七世紀大陸合理主義の代表的人物であるライプニッツ (一六四六—一七一六) が自らの形而上学をはじめて体系的に提示した著作『形而上学序説』(一六八五頃) の内容を、第一節から順を追って解説します。その際、ライプニッツが論敵として意識していたデカルトやスピノザ、マルブランシュたちの哲学はもとより、まさにこの著作の内容をめぐる書簡をやり取りしたアルノーとの議論についても、ごく簡単に、必要な範囲で適宜補足します。

この著作について学ぶことで、西洋近世哲学についての基礎知識を得ると同時に、神、世界、魂 (そして認識、様相 (必然性や可能性) ……) についての統一的説明という西洋形而上学の一つの典型を簡明な仕方で概観することができ、さらに、哲学の古典を読む際に気をつけるべきことも学ぶことができます。また、とりわけ論争的文脈にも気を配ることで、ライプニッツ (たち) の哲学的思考それ自体にもできるかぎり肉薄したいと考えています。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世哲学やライプニッツについての基礎知識を学ぶ。
- (2) ライプニッツがどのような (独自の) 哲学的問題に取り組んでおり、どのような (独自の) 答えを提示したのかを学ぶ。
- (3) 哲学の古典に独力で取り組む力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：近世哲学ならびにライプニッツについての簡単な紹介
第二回：ライプニッツによる神の存在証明 (「理性に基づく自然と恩寵の原理」より)
第三回：『形而上学序説』第一—七節 (神について)
第四回：質問への回答
第五回：『形而上学序説』第八節 (真理と実体の関係について)
第六回：『形而上学序説』第九—十三節 (個体的実体について)
第七回：『形而上学序説』第十三節 (個体と様相について)
第八回：質問への回答
第九回：『形而上学序説』第十四—十六節 (能動と受動について)
第一〇回：『形而上学序説』第十七—二二節 (実体形相と自然について)
第十一回：質問への回答
第十二回：『形而上学序説』第二三—二九節 (認識について)
第十三回：『形而上学序説』第三〇—三二節 (自由と悪の存在について)
第十四回：『形而上学序説』第三三—三七節 (心身問題その他もろもろについて)
第十五回：質問への回答、ならびに全体のまとめ

各回とも該当箇所は事前に読んでいることを前提して解説します。また、挙手や指名、アンケートなどをつうじて質問を積極的に募り (講義冒頭に指名して訊くこともありえます)、できるだけ回答することを心がけます。そのため、以上の予定はあくまですべてが理想的に進んだ場合の予定であることをお断りしておきます。

6. 成績評価方法：

出席点 (四〇パーセント) + レポート (六〇パーセント)

7. 教科書および参考書：

以下のものが基本テキストです。ただし、必要なものはすべてプリントで配布します。

ライプニッツ (橋本由美子監訳) 『形而上学序説 ライプニッツ - アルノー往復書簡』平凡社ライブラリー。

Leibniz, Discours de métaphysique et Correspondance avec Arnauld, introduction, texte et commentaire par Georges Le Roy, J. Vrin, 1957.

8. 授業時間外学習：

上記のとおり、指定のテキストを事前に読んでいることを前提に講義します。

9. その他：なし

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：魚住 孝至 (非常勤講師)

講義コード：LB98822, **科目ナンバリング：**LHM-PHI307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

哲学・思想を今考えるーハイデガー・ヘリゲル・禅を中心に

2. Course Title (授業題目)：

Considering Philosophy and Thoughts from contemporaly Perspectives
-focused on Martin Heidegger, Eugen Herrigel, and Zen Buddhism

3. 授業の目的と概要：

前半は、ハイデガーの『存在と時間』の問題意識とそこで展開された実存論を見る。そして、その試みが途中で挫折したので、西欧形而上学の根底に戻ってそれを批判し、別の始まりへと転回しようとした彼の思索の道を考える。後半は、同様の思想的課題を抱きながら、弓道修行を通して日本の禅に「新たな実存のあり様」を見出したヘリゲルを介して、日本の禅の修行と思想を遡って問題にするとともに、現代の哲学的な立場から、禅や身体論について問題にしている諸論を踏まえて、現代における人間論の可能性を考える。

4. 学習の到達目標：

西洋哲学の発想とその人間論を典型的に示すとともに、「哲学の終焉」を宣したハイデガーの思索の歩みを考える。現代においてグローバルに展開すべき日本の思想の可能性として、禅とそれに関連する思想を考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス 現代における西洋哲学と日本思想の課題
- 第2回 ハイデガー『存在と時間』の構想と「世界-内-存在」
- 第3回 ハイデガー『存在と時間』における「死への存在」と歴史性
- 第4回 『存在と時間』の途絶と西洋形而上学の「何ゆえに」の問い
- 第5回 メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』における身体論
- 第6回 西洋形而上学とハイデガーの技術論「総かり立て体制」
- 第7回 後期ハイデガーの「何ゆえなし」と「放下」の思想
- 第8回 ヘリゲル『弓と禅』ー身心の修行と禅の世界
- 第9回 ヘリゲル『禅の道』ーヨーロッパから見た禅と日本文化
- 第10回 鈴木大拙『禅と日本文化』ー今日から見た問題点
- 第11回 禅の思想ー『十牛図』と道元『正法眼蔵』
- 第12回 西谷啓治『禅の立場』と上田閑照『禅仏教』
- 第13回 湯浅泰雄『身体論』ー東洋的身体論と修行論
- 第14回 「道・身心・修行」ー新たな人間の可能性
- 第15回 まとめ 現代社会における人間のあり方についての展望

6. 成績評価方法：

授業の最後の短い感想 (30%)、レポート (70%) を総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

木田元『ハイデガーの思想』(岩波新書・1993)、オイゲン・ヘリゲル (魚住孝至訳)『新訳 弓と禅』(角川ソフィア文庫・2015)、その他、プリント作成予定

8. 授業時間外学習：

予習、復習を丁寧に行ってください。

9. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB51209, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生の哲学と実存思想

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of life and Existentialism

3. 授業の目的と概要：

1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には生の秘める問題を深く考える訓練の場として臨んでもらいたい。

2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。

3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解し、生命一般についての諸問題を深く思考できること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 1
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 2
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 3
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 4
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 5
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 6
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 7
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 8
9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 9
10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 10
11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 11
12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 12
13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 13
14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 14
15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 15

6. 成績評価方法：

発表5割、出席5割

7. 教科書および参考書：

ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB61206, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生の哲学と実存思想

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy of life and Existentialism

3. 授業の目的と概要：

1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には生の秘める問題を深く考える訓練の場として臨んでもらいたい。

2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。

3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解し、生命一般についての諸問題を深く思考できること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	1
2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	2
3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	3
4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	4
5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	5
6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	6
7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	7
8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	8
9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	9
10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	10
11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	11
12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	12
13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	13
14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	14
15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」	15

6. 成績評価方法：

発表5割、出席5割

7. 教科書および参考書：

ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LB53207, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

デカルト『方法叙説』講読

2. Course Title (授業題目)：

Descartes, Discourse on Method

3. 授業の目的と概要：

デカルト（一五九六—一六五〇）が自らの哲学を簡略なかたちで提示した『方法叙説』（一六三七）第四部をフランス語で読みます。デカルト哲学が本格的に展開されているのはラテン語で書かれた『省察』（一六四一）のほうであり、『方法叙説』第四部は言うならその予告編でありダイジェスト版です。とはいえ、簡潔なので見通しがよく近寄りやすいだけでなく、固有の問題を含んだとても面白いテキストです（と私が言うまでもないでしょうが）。

フランス語テキストを読むと同時に、アルキエによる注釈（フランス語）や関連する研究論文・哲学書（日本語）などについての報告も挟むことによって、デカルトの思索をフランス語で辿り直しつつ現代の目から再検討することを目指します。

4. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれた哲学書を正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 哲学の古典から議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトと『方法叙説』についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

6. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

以下のものを基本テキストとします。必要なものはすべてプリントで配布します。邦訳は手に入れやすいものを各自で用意してください（邦訳はいずれも一長一短あり、それについては初回にお話しします。購入はそれ以降でも十分に間に合います）。

Descartes, Œuvres philosophiques, t. I, 1618-1637, éditées et commentées par F. Alquié, Garnier.

8. 授業時間外学習：

言うまでもありませんが、担当でないときも必ずテキストは読んでください。

9. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LB63206, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

デカルト『方法叙説』講読

2. Course Title (授業題目)：

Descartes, Discourse on Method

3. 授業の目的と概要：

デカルト『方法叙説』第四部を前期からの継続で読みます。読み終わった場合は、『方法叙説』第二部（精神を導く四つの規則についての箇所）や第三部（備えの道徳についての箇所）、ないし『方法叙説』に関連する所管の抜粋を読みます。これらについても、アルキエによる注釈（フランス語）や関連する研究論文・哲学書（日本語）などについての報告も挟むことによって、デカルトの思索をフランス語で辿り直しつつ現代の目から再検討することを目指します。

なお、後期からの参加もちろん歓迎です。

4. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれた哲学書を正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 哲学の古典から議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

6. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

以下のものを基本テキストとします。必要なものはすべてプリントで配布します。邦訳は手に入れやすいものを各自で用意してください（邦訳はいずれも一長一短あり、それについては初回にお話しします。購入はそれ以降でも十分に間に合います）。

Descartes, Œuvres philosophiques, t. I, 1618-1637, éditées et commentées par F. Alquié, Garnier.

8. 授業時間外学習：

言うまでもありませんが、担当でないときも必ずテキストは読んできてください。

9. その他：なし

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB53403, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8
9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9
10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10
11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11
12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12
13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13
14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14
15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15

6. 成績評価方法：

発表7割、出席3割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB63404, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 総合演習：「現象学」と「存在論」	1
2. 総合演習：「現象学」と「存在論」	2
3. 総合演習：「現象学」と「存在論」	3
4. 総合演習：「現象学」と「存在論」	4
5. 総合演習：「現象学」と「存在論」	5
6. 総合演習：「現象学」と「存在論」	6
7. 総合演習：「現象学」と「存在論」	7
8. 総合演習：「現象学」と「存在論」	8
9. 総合演習：「現象学」と「存在論」	9
10. 総合演習：「現象学」と「存在論」	10
11. 総合演習：「現象学」と「存在論」	11
12. 総合演習：「現象学」と「存在論」	12
13. 総合演習：「現象学」と「存在論」	13
14. 総合演習：「現象学」と「存在論」	14
15. 総合演習：「現象学」と「存在論」	15

6. 成績評価方法：

発表7割、出席3割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB55211, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

道徳的相対主義をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Moral Relativism

3. 授業の目的と概要：

「善悪は相対的なのか」「道徳的問題に客観的な答えはありうるのか」「競合しあうさまざまな価値観を前にして私たちはどうすべきなのか」といった問題、まとめて言えば道徳的相対主義をめぐる問題について、倫理学の入門書や論文・書籍の一部(いずれも日本語)を読みながら考えます。

担当者によるテキストの報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月なかば頃に四〇〇〇字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に(参加人数を勘案しながら)予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題についてテキストをもとに自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。
- (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。F81

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入&テキストの配布
第二回：倫理学の入門書の読解 (1)
第三回：倫理学の入門書の読解 (2)
第四回：倫理学の入門書の読解 (3)
第五回：倫理学の論文の読解 (1)
第六回：倫理学の論文の読解 (2)
第七回：倫理学の論文の読解 (3)
第八回：担当者によるレポート発表と議論 (以下同様)

6. 成績評価方法：

要約担当 (二〇パーセント) + レポート (六〇パーセント) + 議論への参加度 (二〇パーセント)

7. 教科書および参考書：

以下のものを予定しています(参加人数や参加者の希望により変化する可能性があります)。

- ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』第二章と第三章
- ・同『倫理学に答えはあるか』序章と終章
- ・マッキンタイア『美徳なき時代』第二章
- ・ネーゲル「価値の分裂」(『コウモリであるとはどのようなことか』所収)

8. 授業時間外学習：

演習で扱うテキストについては事前に熟読しておく必要があります。

9. その他：なし

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである(単位は取得できていなくても構わない)ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB65210, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

利己主義をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Ethics of Altruism

3. 授業の目的と概要：

「人のための行為というのも、結局は自分のために過ぎないのではないか」「人は利己的にしか行動できないのではないか」というより、人は利己的にふるまうべきなのではないか」といった問題、まとめていえば利己主義をめぐる問題について、倫理学の入門書や論文・書籍の一部（いずれも日本語）を読みながら考えます。

担当者によるテキストの報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月なかば頃に四〇〇〇字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に（参加人数を勘案しながら）予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題についてテキストをもとに自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。
- (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入&テキストの配布
- 第二回：倫理学の入門書の読解（１）
- 第三回：倫理学の入門書の読解（２）
- 第四回：倫理学の入門書の読解（３）
- 第五回：倫理学の論文の読解（１）
- 第六回：倫理学の論文の読解（２）
- 第七回：倫理学の論文の読解（３）
- 第八回：担当者によるレポート発表と議論（以下同様）

6. 成績評価方法：

要約担当（二〇パーセント）＋レポート（六〇パーセント）＋議論への参加度（二〇パーセント）

7. 教科書および参考書：

以下のものを予定しています（参加人数や参加者の希望により変化する可能性があります）。

- ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』第五章と第六章
- ・ブラックバーン『ビーイング・グッド』
- ・その他、モラル・サイコロジーや進化倫理学の入門書・論文など

8. 授業時間外学習：

演習で扱うテキストについては事前に熟読しておく必要があります。

9. その他：なし

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。

東洋・日本美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論— 彫刻の主題と表現	2	長岡 龍作	3	金	4	1
東洋・日本美術史概論	日本絵画史	2	杉本 欣久	4	金	4	2
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文 研究	2	長岡 龍作	5	金	5	4
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文 研究	2	杉本 欣久	6	金	5	5
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	3	火	3、4	6
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	4	火	3、4	7
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	5	月	2	8
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	6	木	2	9
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	5	水	3	10
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	6	水	3	12
東洋・日本美術史各論	古代・中世仏教絵画史 研究	2	泉 武夫	集中(5)			14
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長岡 龍作	5	木	2	15
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長岡 龍作	6	月	2	16
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡 龍作 杉本 欣久	5	火	2	17
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡 龍作 杉本 欣久	6	火	2	18

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB35401, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現

2. Course Title (授業題目)：

Basic study of Japanese art history—Subjects of sculpture and Representation

3. 授業の目的と概要：

古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。
- (2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。
- (3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イン트로ダクション—仏像とは何か？
2. 仏像と仏舎利
3. 釈迦如来への信仰と表現
4. 亡き人のための造像
5. 阿弥陀如来への信仰と表現
6. 薬師如来への信仰と表現
7. 弥勒菩薩への信仰と表現
8. 観音菩薩への信仰と表現
9. 霊験と仏像
10. 天の役割と表現
11. 地藏菩薩への信仰と表現
12. 神像の出現
13. 彫像がみちびく世界観
14. 肖像の表現と役割
15. 試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：杉本 欣久 (准教授)

講義コード：LB45402, **科目ナンバリング：**LHM-ART201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本絵画史

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Painting History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

1 回目 ガイダンス

2 回目 もののあはれ 一四季四時、花鳥風月一

3 回目 清浄・みそぎ・はらい 一神道の美術一

4 回目 吉祥 一現世利益、日本美術の正統一

5 回目 白鳳・奈良時代 一古代の絵画一

6 回目 平安時代 1 一密教一

7 回目 平安時代 2 一浄土教一

8 回目 平安時代 3 一天台法華教一

9 回目 平安時代 4 一絵巻物 1 (縁起絵巻)一

1 0 回目 平安時代 5 一絵巻物 2 (物語絵巻)一

1 1 回目 鎌倉時代 一肖像画一

1 2 回目 室町時代 1 一道釈人物画一

1 3 回目 室町時代 2 一水墨山水画一

1 4 回目 室町時代 3 一やまと絵とその画題一

1 5 回目 中世都市・京都とその文化

6. 成績評価方法：

レポートと平常点(5:5)による評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

【平常点】出席を前提とすることから、3 分の 1 以上を欠席した者には単位を与えない。

また、出席についての不正行為が見つかった場合には単位を与えない。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、

あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくとい。

9. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。レポートの採点を受けるためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB55501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

東洋・日本美術史論文研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on the papers of Oriental and Japanese art history

3. 授業の目的と概要：

東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジュメとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。

4. 学習の到達目標：

東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー東洋・日本美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
8. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
9. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
10. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
11. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
12. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
13. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
14. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。

8. 授業時間外学習：

参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。

Participants should carefully read the paper in advance.

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：杉本 欣久（准教授）

講義コード：LB65501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

東洋・日本美術史論文研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on the papers of Oriental and Japanese art history

3. 授業の目的と概要：

東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジュメとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。

4. 学習の到達目標：

東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクションー東洋・日本美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
8. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
9. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
10. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
11. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
12. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
13. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
14. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。

8. 授業時間外学習：

参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。

Participants should carefully read the paper in advance.

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB32303, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目)：

Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 写真資料の複写
2. 美術作品についての発表
3. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
4. 展示についての考え方と実践

4. 学習の到達目標：

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション
2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践
3. 写真資料の複写の方法と実践
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 美術作品についての口頭発表と講評
8. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 1
9. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 2
10. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 3
11. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 4
12. 博物館展示の考え方と実践 1
13. 博物館展示の考え方と実践 2
14. 博物館展示の考え方と実践 3
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

7. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

8. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

9. その他：なし

3・4セメの東洋・日本美術史基礎実習（長岡・杉本）は連続履修すること。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB42303, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目)：

Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品を理解するための文字資料の読解
2. 美術作品の光学的調査の理論と実践
3. コンピュータを利用したプレゼンテーションの方法と実践
4. 博物館実習

4. 学習の到達目標：

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 美術作品を理解するための文字資料の読解 1
3. 美術作品を理解するための文字資料の読解 2
4. 美術作品の光学的調査の理論と実践 1
5. 美術作品の光学的調査の理論と実践 2
6. 美術作品の光学的調査の理論と実践 3
7. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 1
8. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 2
9. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 3
10. コンピュータを利用した美術史プレゼンテーションの方法と実践 4
11. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 5
12. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 6
13. 展示の見学
14. 博物館実習
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

7. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

8. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

9. その他：なし

3・4セメの東洋・日本美術史基礎実習（長岡・杉本）は連続履修すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB51204, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、東アジアの宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、舍利信仰の広がりや美術の様相を見た後、東アジアの各時代の美術を取り上げ、特に世界観との関わりからその意味と表現を探っていく。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と美術の関係を理解する。
- (2) 美術に投影された世界観を理解する。
- (3) 表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり 1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり 2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり 3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 舍利信仰と美術 1
6. 舍利信仰と美術 2
7. 舍利信仰と美術 3
8. 中国南北朝時代の世界観と造形 1
9. 中国南北朝時代の世界観と造形 2
10. 中国隋唐時代の世界観と造形 1
11. 中国隋唐時代の世界観と造形 2
12. 中国五代北宋の世界観と造形 1
13. 中国五代北宋の世界観と造形 2
14. 朝鮮半島三国時代の仏教美術
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像一祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB61202, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、平安後期の造形と日本中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。さらに、空間と造形の関わりについても論じる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 平安時代後期の信仰と造形 1
3. 平安時代後期の信仰と造形 2
4. 平安時代後期の信仰と造形 3
5. 平安時代後期の信仰と造形 4
6. 日本中世の信仰と造形 1
7. 日本中世の信仰と造形 2
8. 日本中世の信仰と造形 3
9. 日本中世の信仰と造形 4
10. 空間と造形 1
11. 空間と造形 2
12. 空間と造形 3
13. 空間と造形 4
14. 空間と造形 5
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：杉本 欣久（准教授）

講義コード：LB53301, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 狩野派の系譜（室町から桃山）
- 3 回目 狩野派の系譜（江戸狩野と英派）
- 4 回目 8 代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 5 回目 日本刀の精神
- 6 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 7 回目 京都の町絵師（俵屋宗達から宮崎友禅へ）
- 8 回目 尾形光琳と乾山
- 9 回目 雪舟流 1 一雲谷派と長谷川派一
- 10 回目 雪舟流 2 一江戸と京都一
- 11 回目 対外交渉と長崎派
- 12 回目 沈南蘋と南蘋派
- 13 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 14 回目 浮世絵 1
- 15 回目 浮世絵 2

6. 成績評価方法：

レポートと平常点 (5:5) による評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

【平常点】出席を前提とすることから、3 分の 1 以上を欠席した者には単位を与えない。

また、出席についての不正行為が見つかった場合には単位を与えない。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。レポートの採点を受けるためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：杉本 欣久 (准教授)

講義コード：LB63303, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 作品の見かた一補筆・改変
- 3 回目 作品の見かた一真贋
- 4 回目 武士の絵画 1 一鑑戒
- 5 回目 武士の絵画 2 一暢神
- 6 回目 京都と円山派 1
- 7 回目 京都と円山派 2
- 8 回目 京都と四条派
- 9 回目 仏教における復古思想と書画
- 10 回目 大坂の絵画
- 11 回目 伊藤若冲
- 12 回目 考古の黎明と宝物の記録
- 13 回目 江戸の絵画 1 一明清画派 (渡辺玄対・谷文晁)
- 14 回目 江戸の絵画 2 一洋風画 (渡辺崋山・司馬江漢)
- 15 回目 東北の画人

6. 成績評価方法：

レポートと平常点(5:5)による評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

【平常点】出席を前提とすることから、3 分の 1 以上を欠席した者には単位を与えない。

また、出席についての不正行為が見つかった場合には単位を与えない。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ること

ができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。レポートの採点を受けるためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：泉 武夫（非常勤講師）

講義コード：LB98823, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代・中世仏教絵画史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study about Japanese Buddhist paintings in the ancient and medieval times

3. 授業の目的と概要：

美術として今日とらえられる作品は多様な側面をもっており、作品の理解には多方面からのアプローチが欠かせない。この授業では、仏教絵画の最盛期であった平安から鎌倉時代における仏画を中心とした絵画作品を取りあげ、様式史のみならず種々の視点からの理解法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本絵画の見方に対する基本的知識を習得する。
- (2) 仏画を中心とした古代・中世絵画史の様式史的分析法のみならず、それが存立した当時の宗教信仰・思想・社会的状況との関係を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は以下のようなテーマで進めてゆく

- 1) 仏画の様式史概観
- 2) 仏画研究へのアプローチⅠー図像とその表現
- 3) 仏画研究へのアプローチⅡー儀軌と「意楽」
- 4) 密教絵画の諸相Ⅰー曼荼羅と集合像
- 5) 密教絵画の諸相Ⅱー礼拝の本尊像
- 6) 浄土思想とその造形Ⅰー来迎図の発生と展開
- 7) 浄土思想とその造形Ⅱー盛期の来迎図
- 8) 浄土思想とその造形Ⅲー密教思想との交差
- 9) 荘厳の思想と表現Ⅰー金色の表象と意味
- 10) 荘厳の思想と表現Ⅱー「美麗」の価値観
- 11) 中世の神仏表現Ⅰー弥勒思想と絵画
- 12) 中世の神仏表現Ⅱー垂迹画の諸相
- 13) 中世の神仏表現Ⅲー「悲華経」の結ぶ世界
- 14) 素材の意味と表現Ⅰー銀と雲母
- 15) 素材の意味と表現Ⅱー絹地が語るもの

.....

6. 成績評価方法：

レポート・出席

7. 教科書および参考書：

教科書はなし。参考書は授業で示す。

8. 授業時間外学習：

美術全集などの図録で、各自、作品情報をアップデートするのが望ましい

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB54209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本美術資料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on art materials

3. 授業の目的と概要：

古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「信貴山縁起」上・中・下巻、「粉河寺縁起」一卷、「石山寺縁起」七巻、「頼焼阿弥陀縁起」上・下巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「一遍上人絵伝」十二巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝（華嚴縁起）」（元暁絵三巻・義湘絵四巻）、「慕帰絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「伴大納言絵詞」上（詞書欠）・中・下巻、「吉備大臣入唐絵巻」巻一～巻四（巻一詞書欠）、「玄奘三蔵絵」全十二巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. 学習の到達目標：

絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー授業の目的と方法論
2. パイロット発表
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
15. 総括と評価

6. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

9. その他：なし

5・6セメの東洋日本美術史講読（長岡）は連続履修すること。

オフィスアワー：月・火・金の 13:00～17:00（但し、授業時間外）

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LB64209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本美術資料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on art materials

3. 授業の目的と概要：

古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「信貴山縁起」上・中・下巻、「粉河寺縁起」一卷、「石山寺縁起」七巻、「頼焼阿弥陀縁起」上・下巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「一遍上人絵伝」十二巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝（華嚴縁起）」（元暁絵三巻・義湘絵四巻）、「慕帰絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「伴大納言絵詞」上（詞書欠）・中・下巻、「吉備大臣入唐絵巻」巻一～巻四（巻一詞書欠）、「玄奘三蔵絵」全十二巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. 学習の到達目標：

絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー授業の目的と方法論
2. パイロット発表
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
15. 総括と評価

6. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

9. その他：なし

5・6セメの東洋日本美術史講読（長岡）は連続履修すること。

オフィスアワー：月・火・金の 13:00～17:00（但し、授業時間外）

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB52208, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on art works

3. 授業の目的と概要：

東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 発表準備
8. 発表準備
9. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009 年

8. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB62209, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on artworks

3. 授業の目的と概要：

東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 発表準備
8. 発表準備
9. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

7. 教科書および参考書：

参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009 年

8. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

9. その他：なし

美学・西洋美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	2	1
美学・西洋美術史概論	西洋美学概論(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	2	2
美学・西洋美術史概論	ヨーロッパ美術の北と南 ——リアリズムの行方	2	尾崎 彰宏	4	金	3	3
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	3	水	4	4
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	4	水	4	5
美学・西洋美術史各論	ネーデルラント美術における共感表現、スペクタクル、美術市場	2	尾崎 彰宏	5	金	3	6
美学・西洋美術史各論	凱旋門と活人画	2	京谷 啓徳	集中(5)			7
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習(前期)	2	フォンガロ エンリコ	5	木	5	8
美学・西洋美術史演習	西洋美学演習(後期)	2	フォンガロ、エンリコ	6	木	5	9
美学・西洋美術史演習	西洋美術史に関する方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	5	金	4	10
美学・西洋美術史演習	西洋美術に関する方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	6	金	4	11
美学・西洋美術史実習	西洋美術史の基礎知識と調査入門	2	尾崎 彰宏	5	火	3、4	12
美学・西洋美術史実習	美術作品の調査法について	2	尾崎 彰宏	6	火	3、4	13

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB33203, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美学概論 (前期)

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：

美学とは何かという問題からはじめ、西洋美学の「大理論」時代を紹介することが目的である。美・美術・芸術などの根本的な概念について、古代ギリシャから順番に、それぞれを代表する哲学者、芸術家等を取りあげ、スライドを使いながら、背景となる哲学的思想について解説していく。

4. 学習の到達目標：

西洋美学における根本的な概念を紹介し、ギリシャ・ローマ時代からの美学の変遷について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の紹介：「美学」とは何か。
2. 翻訳の問題：「美」とは何か。
3. 調和・儀礼・アート・リズム。
4. 言外の美学：コレヤとテクネ。
5. 悲劇の誕生。
6. 西洋美学の「大理論」：ピタゴラス学派の美学。
7. ソフィスト達とゴルギアスの美学。
8. プラトンの美学：美のアイデア。
9. プラトンの美学：プラトンの芸術論。
10. アリストテレスの美学：『詩学』その一。
11. アリストテレスの美学：『詩学』その二。
12. ヘレニズム時代の美学：ストア学派の美学。
13. ローマ時代の美学：キケロの美学。
14. ローマ時代の美学：ヴィトルヴィウスの美学と『崇高について』。
15. 復習と試験。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、授業のプロトコール (記録)、学期末試験による評価を予定している。

7. 教科書および参考書：

講義中に詳しく指示する。

8. 授業時間外学習：

授業の復習を行なう。プロトコールを書く。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美学概論（後期）

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学における根本的な概念について、前期に学習した内容を踏まえたうえで、その変遷についてそれぞれを代表する哲学者、芸術家等を取りあげ、スライドを使いながら、背景となる哲学的思想について解説していく。

4. 学習の到達目標：

西洋美学における根本的な概念を紹介し、近代・現代に向かう美学の変遷について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. プロティノスの美学その一。
2. プロティノスの美学その二。
3. キリスト教と中世時代の美学。
4. 中世東欧の美学：ビザンチンの美学。
5. 中世西欧の美学：アウグスティヌスと中世のプラトン主義。
6. 人文主義とルネッサンスの美学：アルベルティ、フィチーノ、ブルーノの美学。
7. 近代への転換：バロックの美学。
8. 十八世紀の美学：カントその一。
9. 十八世紀の美学：カントその二。
10. 十九世紀の美学：シェリングとショーペンハウアー。
11. 十九世紀の美学：ヘーゲルとキルケゴール。
12. 十九世紀の美学：ニーチェの美学。
13. 二十世紀の美学の諸流その一。
14. 二十世紀の美学の諸流その二。
15. 復習と試験。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、授業のプロトコール（記録）、学期末試験による評価を予定している。

7. 教科書および参考書：

講義中に詳しく指示する。

8. 授業時間外学習：

授業の復習を行なう。プロトコールを書く。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB45302, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ美術の北と南 ——リアリズムの行方

2. Course Title (授業題目)：

Northern and South of European Art - The Way of Realism

3. 授業の目的と概要：

絵画には自然をありのままに描く手法、リアリズムと人間の内面に鏡をかざすリアリズムとがある。この両面に着目してルネサンス以降の西洋美術の流れを学ぶ。

4. 学習の到達目標：

(1) ルネサンス以降の美術作品の見方を学ぶことができる。(2) 美術の歴史を芸術家と地域が織りなす、「個性」のぶつかり合いという視点から学ぶことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イン트로ダクション

第2回 ジョット以前

第3回 ジョットと13世紀美術

第4回 ジョットのアレーナ礼拝堂

第5回 15世紀イタリア美術Ⅰ

第6回 15世紀イタリア美術Ⅱ

第7回 16世紀イタリア美術Ⅰ

第8回 16世紀イタリア美術Ⅱ

第9回 初期ネーデルラント美術

第10回 16世紀ネーデルラント美術Ⅰ

第11回 16世紀ネーデルラント美術Ⅱ

第12回 17世紀南北美術Ⅰ

第13回 17世紀南北美術Ⅱ

第14回 近代美術への道

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

平常点／試験／レポート

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業のテーマとの関連から読むべき本を指定するので、そうした書物を読んだり、実際に美術館等に足を運んで作品をじかに見たりすることが必要。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：森田 優子（非常勤講師）

講義コード：LB33406, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術史文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Intensive Reading of Western Art History

3. 授業の目的と概要：

欧文文献の精読を行い、美術作品を研究する基礎を身に着ける。

4. 学習の到達目標：

西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 講読 (1)

3. 講読 (2)

4. 講読 (3)

5. 講読 (4)

6. 講読 (5)

7. 講読 (6)

8. 講読 (7)

9. 講読 (8)

10. 講読 (9)

11. 講読 (10)

12. 講読 (11)

13. 講読 (12)

14. 講読 (13)

15. 試験

6. 成績評価方法：

授業への出席・発表（60%）、試験（40%）

7. 教科書および参考書：

教科書・参考書 プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業時間外学習 授業前に自分の分担部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：森田 優子（非常勤講師）

講義コード：LB43407, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術史文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Intensive Reading of Western Art History

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の研究を行う上で基礎となる欧文文献の精読を行い、美術作品研究の基礎を身に着ける。そのうえで、古典語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などにも目配りできるようになることが望ましい。

4. 学習の到達目標：

西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになるとともに、英語以外の言語についても調べられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 講読 (1)

3. 講読 (2)

4. 講読 (3)

5. 講読 (4)

6. 講読 (5)

7. 講読 (6)

8. 講読 (7)

9. 講読 (8)

10. 講読 (9)

11. 講読 (10)

12. 講読 (11)

13. 講読 (12)

14. 講読 (13)

15. 試験

6. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (60%)、試験 (40%)

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

授業前に自分の分担部分を精読・和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB55302, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ネーデルラント美術における共感表現、スペクタクル、美術市場

2. Course Title (授業題目)：

Empathy representation in the Netherlandish art, spectacle, art market

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていききたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのかアルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていきたい。

現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示すようにしたい。

4. 学習の到達目標：

美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第3回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第4回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第5回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第6回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第7回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第8回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第9回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第10回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第11回 レンブラントⅠ

第12回 レンブラントⅡ

第13回 レンブラントⅢ

第14回 18世紀ネーデルラント絵画

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

レポート／出席／試験

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

講義で取りあげた文献に自分で当たったり、紹介された作品を自分で見に行く努力が必要。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：京谷 啓徳 (非常勤講師)

講義コード：LB98824, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

凱旋門と活人画

2. Course Title (授業題目)：

Triumphal Arches and Tableaux Vivants

3. 授業の目的と概要：

活人画とはフランス語「tableau vivant (生きている絵画)」の翻訳語であり、衣裳を身に着けた人物が静止した状態で絵画を再現するパフォーマンスを意味する。明治期の日本には各種西洋風俗が流入したが、その一つである活人画は当時たいへんな流行を見た。そして明治の人々が活人画に打ち興じていたちょうどその頃、日清日露の戦勝を祝賀して全国に陸続と建設されたのが凱旋門であった。凱旋門と活人画、このまったく無関係に思える二つの西洋風俗は、実はかつて、ルネサンス期のヨーロッパにおいて結びついていた。両者は一体となってルネサンス宮廷の君主のスペクタクルを形作っていたのだ。本講義では「凱旋門と活人画」という新たな視点から、ルネサンス宮廷文化と近代日本をつなぐ糸を探ってみたい。

4. 学習の到達目標：

「凱旋門と活人画」という観点からスペクタクル文化を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. ルネサンスのハリボテ凱旋門(1)
3. ルネサンスのハリボテ凱旋門(2)
4. ルネサンスの活人画(1)
5. ルネサンスの活人画(2)
6. ポッセッソ―新教皇のスペクタクル(1)
7. ポッセッソ―新教皇のスペクタクル(2)
8. 近代の凱旋門
9. 近代の活人画(1)
10. 近代の活人画(2)
11. 近代の活人画(3)
12. 明治の凱旋門と活人画(1)
13. 明治の凱旋門と活人画(2)
14. 額縁ショウをめぐる
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する

8. 授業時間外学習：

特になし

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB54502, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美学演習（前期）

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。

4. 学習の到達目標：

西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

今年は特に、ドゥルーズのイメージおよび映画論を中心として議論をすすめる予定である。
文献を原文で、または日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。
取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。
参加者は、授業後、授業外に指定された映画を鑑賞することを必須とする。

6. 成績評価方法：

授業における議論および、最終口頭試験により総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書

ジル・ドゥルーズ（著）

Cinéma 1: L' image-mouvement (1983) 『シネマ 1 運動イメージ』 財津理、斎藤範訳 法政大学出版局、2008

Cinéma 2: L' image-temps (1985) 『シネマ 2 時間イメージ』 宇野邦一ほか訳 法政大学出版局、2006

ベルクソン（著）、熊野 純彦（翻訳）『物質と記憶』（岩波文庫）文庫

その他講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。映画を鑑賞する（必須）。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：フォンガロ、エンリコ（准教授）

講義コード：LB64502, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美学演習（後期）

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。

4. 学習の到達目標：

西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に引き続き、ドゥルーズのイメージおよび映画論を中心として議論をすすめる予定である。

文献を原文で、または日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。

取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。

参加者は、授業後、授業外に指定された映画を鑑賞することを必須とする。

6. 成績評価方法：

授業における議論および、最終口頭試験により総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書

ジル・ドゥルーズ（著）

Cinéma 1: L' image-mouvement (1983) 『シネマ 1 運動イメージ』 財津理、斎藤範訳 法政大学出版局、2008

Cinéma 2: L' image-temps (1985) 『シネマ 2 時間イメージ』 宇野邦一ほか訳 法政大学出版局、2006

ベルクソン（著）、熊野 純彦（翻訳）『物質と記憶』（岩波文庫）文庫

その他講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。映画を鑑賞する（必須）。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB55406, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術史に関する方法論の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Problems of Methodology on Western Art History

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek に掲載された論文を中心に取りあげる。

4. 学習の到達目標：

西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。作品を分析する方法を身につけることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅰ

第3回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅱ

第4回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅲ

第5回 ネーデルラント美術関係文献Ⅰ

第6回 ネーデルラント美術関係文献Ⅱ

第7回 ネーデルラント美術関係文献Ⅲ

第8回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅰ

第9回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅱ

第10回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅰ

第11回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代美術関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代美術関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代美術関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席／平常点／レポート

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB65404, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術に関する方法論の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Multifaceted problems of methodology on Western art history

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek に掲載された論文を中心に取りあげる。

4. 学習の到達目標：

西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅰ

第3回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅱ

第4回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅲ

第5回 ネーデルラント美術関係文献Ⅰ

第6回 ネーデルラント美術関係文献Ⅱ

第7回 ネーデルラント美術関係文献Ⅲ

第8回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅰ

第9回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅱ

第10回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅰ

第11回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代美術関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代美術関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代美術関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席／平常点／レポート

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史実習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB52306, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術史の基礎知識と調査入門

2. Course Title (授業題目)：

Basic Understanding of Western Art History and Introduction to its Research Methodology

3. 授業の目的と概要：

西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。

4. 学習の到達目標：

美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひととおり自分で行えるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、発表の仕方、展覧会評の書き方
2. 展覧会見学
3. 写真撮影の仕方
4. 調書の作り方、作品記述の方法
5. 発表
6. 展覧会見学
7. 学術文献、論文の探し方
8. 小テスト、発表
9. 小テスト、発表
10. 展覧会見学
11. 小テスト、発表
12. 小テスト、発表
13. 小テスト、発表
14. 小テスト、発表
15. まとめ

※展覧会の開催日程により、予定変更となる場合あり

6. 成績評価方法：

レポート、テスト、出席などによって評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：H・W・ジャンソン『西洋美術の歴史』（創元社）

8. 授業時間外学習：

表の準備、小テスト対策（復習）、展覧会評の提出

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史実習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB62306, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品の調査法について

2. Course Title (授業題目)：

How to look at art works and to discuss them deeply.

3. 授業の目的と概要：

◆授業内容：美術史は何よりも作品観察から出発する。この作品をどのように観察し、それを言葉で表現するか、そのためにはどのようなアプローチが必要かを学ぶ。

4. 学習の到達目標：

美術作品にかんするより高度な観察力と記述力を養うことができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 はじめに

第2回 空想の美術展の作成のための準備Ⅰ

第3回 空想の美術展の作成のための準備Ⅱ

第4回 空想の美術展のタイトルについて

第5回 空想の美術展のコンセプトⅠ

第6回 空想の美術展のコンセプトⅡ

第7回 美術館へ作品見学Ⅰ

第8回 空想の美術展の作品選定Ⅰ

第9回 美術館へ作品見学Ⅱ

第10回 空想の美術展の作品選定Ⅱ

第11回 美術館へ作品見学Ⅲ

第12回 空想の美術展の中間報告

第13回 空想の美術展の仕上げ

第14回 美術館へ作品見学Ⅳ

第15回 空想の美術展の合評会

6. 成績評価方法：

出席／平常点／レポート

7. 教科書および参考書：

ジャンソン『美術の歴史』、その他は授業時間に指示する。

8. 授業時間外学習：

できるだけ美術館、博物館に足を運びじかに作品に接するようにする。できれば、ヨーロッパの美術館へ出かけることができれば、大きく視野が広がる。

9. その他：なし

社会学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
社会学概論	現代社会の秩序と動態	2	長谷川 公一	3	木	1	1
社会学概論	地域ケア・システムの社会学	2	永井 彰	4	木	1	2
社会学基礎演習	平成の社会変動学	2	長谷川 公一	3	火	5	3
社会学基礎演習	コミュニケーション行為の理論	2	永井 彰	4	水	5	4
社会学基礎演習	相互行為論の基礎視角	2	木村 雅史	4	月	4	5
社会学各論	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	6	火	4	6
社会学各論	質的研究概論	2	徳川 直人	5	水	3	7
社会学各論	環境問題と社会運動の社会学	2	長谷川 公一	5	木	2	8
社会学各論	ハーバーマスの社会理論	2	永井 彰	6	木	2	9
社会学各論	福祉社会の成り立ち	2	菅原 真枝	5	火	3	10
社会学各論	ダニエル・ベルの社会理論と現代アメリカ社会	2	清水 晋作	集中(5)			11
社会学各論	“被害者になる”こと の社会学	2	本郷 正武	集中(6)			12
社会学演習	船橋晴俊を読む	2	長谷川 公一	5	火	4	13
社会学演習	社会科学のなかの社会学	2	永井 彰	6	水	2	14
社会学実習	社会調査実習(1)	2	小松 丈晃	5	金	3、4	15
社会学実習	社会調査実習(2)	2	小松 丈晃	6	金	3、4	16

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：長谷川 公一 (教授)

講義コード：LB34103, **科目ナンバリング：**LHM-SOC201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代社会の秩序と動態

2. Course Title (授業題目)：

The Dynamics and Social Order of the Modern Society

3. 授業の目的と概要：

日常的な世界から出発して、社会学の基礎概念・基礎視角をもとに理論的に考察し、社会学的なまなざしの特徴を理解する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 行為論・組織論・権力論などをおして、社会学の基礎概念や基礎視角について理解を深める。
- (2) 相互行為や社会秩序、組織とネットワーク、メディアとコミュニケーション、政治参加などについて考察する。
- (3) 現代社会について、洞察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション：平成の時代とは

第2回 現代社会を捉える視角

第3回～第5回 相互行為

第6回～第8回 社会構造と秩序問題

第9回～第11回 グローバル化の諸様態

第12～第14回 リスク社会と公共圏

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席とふだんの受講姿勢を重視する。期末に試験を行う。

7. 教科書および参考書：

長谷川公一ほか『社会学』有斐閣、2007年。好井裕明『「今、ここ」から考える社会学』筑摩書房、2017年。

8. 授業時間外学習：

予習・復習に努める。

9. その他：なし

オフィスアワー：月 5

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LB44103, **科目ナンバリング：**LHM-SOC201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

地域ケア・システムの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Community Care System

3. 授業の目的と概要：

主として農村地域社会をフィールドとしながら、医療や福祉をめぐる地域社会の動態を地域ケア・システムの社会学として概説する。

4. 学習の到達目標：

地域ケア・システムの社会学について理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 地域ケア・システムの社会学
3. 農村地域社会の社会学
4. 長野県の中山間地域における地域ケア・システムの形成（1）
5. 長野県の中山間地域における地域ケア・システムの形成（2）
6. 農村医療から地域ケアへ（1）
7. 農村医療から地域ケアへ（2）
8. 岩手県沢内村の50年を振り返る（1）
9. 岩手県沢内村の50年を振り返る（2）
10. 公私協働と住民参加の問題（1）
11. 公私協働と住民参加の問題（2）
12. 離島の地域ケア
13. 災害と地域ケア・システムの形成
14. 地域ケア・システムの社会学再考
15. まとめ

6. 成績評価方法：

講義時に毎回提示する課題提出による。

7. 教科書および参考書：

教室にて指示する。

8. 授業時間外学習：

講義時に課題を提示する。課題をこなすことで、授業の復習を行う。

9. その他：なし

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LB32502, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

平成の社会変動学

2. Course Title (授業題目)：

Social Change of "the Heisei Era"

3. 授業の目的と概要：

平成の 30 年間に社会はどのように変化したのか。政治・経済・家族・友人関係・メディア・インターネット・スマートフォン・グローバル化・食など、データにもとづいて多面的に社会変動を考察する。

4. 学習の到達目標：

社会変動を把握する際のデータ収集方法と分析視角について理解を深める。参加者が各自の関心にしたがって、社会変動に関するデータを収集し、今後の研究課題を発見する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 イン트로ダクション

第 2 回 政治の変動

第 3 回以降は、出席者が各自関心分野にしたがって変動の方向についてデータを用いて紹介・分析する

第 15 回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席および担当回の報告内容、最終レポートを重視する。

7. 教科書および参考書：

小熊英二編『平成史 増補新版』河出書房（2014 年）。吉見俊哉『ポスト戦後社会』岩波新書（2009 年）。

8. 授業時間外学習：

新聞やテレビのドキュメンタリーを見て、平成時代の社会変動について問題意識を涵養する。

9. その他：なし

演習参加者全員が、意欲をもって授業にのぞんでください。前回の授業を十分に咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって出席してください。

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LB43503, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

コミュニケーション行為の理論

2. Course Title (授業題目)：

The theory of Communicative Action

3. 授業の目的と概要：

ドイツの社会学者・哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『コミュニケーション行為の理論』をドイツ語原文で講読する。
専門文献をドイツ語で精読する方法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

- 1) ドイツ語で専門文献を読解できる能力を獲得する。
- 2) 専門文献を精読するとはどのようなことなのかを理解できるようになる。
- 3) コミュニケーション行為理論の基本的な考え方を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イン트로ダクション
2. テクストの講読
3. テクストの講読
4. テクストの講読
5. テクストの講読
6. テクストの講読
7. テクストの講読
8. テクストの講読
9. テクストの講読
10. テクストの講読
11. テクストの講読
12. テクストの講読
13. テクストの講読
14. テクストの講読
15. テクストの講読

6. 成績評価方法：

平常点（毎回の訳文作成）50%、レポート 50%。

7. 教科書および参考書：

Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns, Band 1: Handlungsrationalität und gesellschaftliche Rationalisierung; Band 2: Zur Kritik der funktionalistischen Vernunft, Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1981.

8. 授業時間外学習：

授業前に、各自、訳文を作成する。

授業後、授業での検討をふまえて、各自、訳文を再点検する。

9. その他：なし

ドイツ語学習のために、社会学専修以外の学生の履修を歓迎する。

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar) 曜

日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：木村 雅史（非常勤講師）

講義コード：LB41403, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

相互行為論の基礎視角

2. Course Title (授業題目)：

basic viewpoint of interaction studies

3. 授業の目的と概要：

コミュニケーションは、社会を再生産する場であると同時に、社会に異議申し立てを行い、社会を変化させる場でもある。コミュニケーションがもつ多様な意味や役割を理解するためには、社会とコミュニケーションの関係を多角的な視点から分析・考察することが必要になる。このような問題意識のもと、この授業では、社会学における「相互行為論」の諸理論について学びながら、相互行為論的な視点から自分の研究課題を設定し、分析・考察できるようになることを目的とする。授業は、各回のテーマに沿った課題論文を皆で購読し、議論するかたちで進める。授業後半では、授業で扱った諸理論に関する各自の研究発表（各理論の最新の研究動向紹介、各理論を使った具体的な事例分析等）、受講生全員での討論を行い、各理論の特徴や限界、応用可能性等について理解を深める。受講生は、研究発表や討論の成果もふまえつつ、自分の研究課題について分析・考察を進め、最終的にレポートにまとめる。

4. 学習の到達目標：

- ①相互行為論の基本的な考え方やその諸理論に関する知識を習得する。
- ②コミュニケーションや相互行為に関する自らの関心や問題意識を高め、自分の研究課題として問題化できるようになる。
- ③相互行為論的な視点から自分の研究課題について分析・考察を行い、説得的な議論を展開できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 役割取得と自我形成
3. 主我と客我
4. ドラマツルギー
5. 内集団と外集団
6. 相互行為儀礼
7. 親密性と共依存
8. 多元的現実
9. 多層的現実
10. シンボリック相互作用論
11. 構築主義
12. エスノメソドロジー
13. 研究発表と討論 (1)
14. 研究発表と討論 (2)
15. 研究発表と討論 (3)

6. 成績評価方法：

出席 [30%]、研究発表と討論（報告内容や発言の積極性など）[20%]、レポート [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各回の授業で購読する課題論文はこちらで準備する。参考文献は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回、次の授業準備用のコミュニケーション・ペーパーを配布するので、事前に課題論文を読み、自分なりの論点や疑問点をコミュニケーション・ペーパーにまとめた上で授業に臨むこと。

9. その他：なし

授業に関する問い合わせは、tadafumi_kjp@yahoo.co.jp まで。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LB62403, **科目ナンバリング：**LHM-SOC301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Risk and Ignorance

3. 授業の目的と概要：

自然災害のリスクなどへの対処には、自然科学のみならず人文社会科学の知が必要である。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知(想定外)の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. 学習の到達目標：

- ・社会学における各アプローチの特徴と課題について理解できるようになる。
- ・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め—人文社会科学における研究動向概観—
2. リスク社会論再考—U. ベックの社会理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスクと道徳 (3)
8. リスク社会と信頼 (1)
9. リスク社会と信頼 (2)
10. 公共財としての科学知とその課題—地域社会と科学—
11. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめと総合討論

6. 成績評価方法：

授業終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と平常点 40%+学期末のレポート提出 60%で評価

7. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、必要なものを適宜指示する

8. 授業時間外学習：

授業において、毎回、学習課題を出す予定

9. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：徳川 直人（兼務教員）

講義コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

質的研究概論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Qualitative Inquiry in Sociology

3. 授業の目的と概要：

資料蒐集、日誌、ノートといった社会学的知の生産技術の基本を実践してもらいつつ、オリジナル教材を使った講義と演習を通じて種々の質的方法について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界、調査倫理の基本について理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

質的分析法入門

方法としてのフィールドノート

感受概念

非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計

聞き書き

インタビュー

自然主義的観察

参与観察

グラウンデッドな接近法

エスノメソドロジー

エスノグラフィー

事例分析とモノグラフ

ヒューマン・ドキュメント

アクション・リサーチ

調査倫理

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [50%]。予復習の見られない出席や、指定文献を読了しないレポートは、認めない。

7. 教科書および参考書：

『方法としてのフィールドノート』『質的研究用語事典』など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

8. 授業時間外学習：

毎回の読み物について目を通すこと。また授業内容についての復習（用語の意味確認）などを提出すること。学期末レポートに向けて日常的にフィールドワーク実践に少しずつ取り組むこと。

9. その他：なし

公式サイト <http://www.sp.is.tohoku.ac.jp/toku/> および ISTU にて資料等を閲覧する。また、所載のメールを随時利用してよい。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：長谷川 公一 (教授)

講義コード：LB54203, **科目ナンバリング：**LHM-SOC301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

環境問題と社会運動の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology on Environmental Problems and Social Movements

3. 授業の目的と概要：

世界的な経済成長と公害・環境問題を背景に、1970 年代にアメリカで誕生した環境社会学は、日本においても独自の展開を遂げました。世界と日本の環境社会学のそれぞれの特徴を考察します (2-4 回)。環境社会学を生み出す契機にもなった社会運動を反省的に捉える中から、社会運動研究も活性化しました (5-7 回)。2011 年の福島原発事故と 2015 年のパリ協定の採択を契機に、各国のエネルギー政策や気候変動政策、産業政策はいま大きく転換しつつあります (8-13 回)。それにもかかわらず原発事故の当事国日本はなぜ変わろうとしないのか、なぜ変わらないのか。国際社会はいま鋭く問いかけています (14・15 回)。このような問いかけに、私たちは、社会学の視点からどのように対峙することができるのでしょうか。受講者のみなさんと一緒に考えていきましょう。

4. 学習の到達目標：

1997 年に採択された京都議定書を基礎に、2015 年に気候変動に関するパリ協定が誕生しました。京都議定書やパリ協定のよう新たな環境政策は、環境問題をめぐる、社会運動と政策当局、産業界との相互の緊張関係の中から生まれてきました。ポスト平成時代の幕開けが迫る 2018 年。やがて 2030 年、2050 年を迎えます。この講義では、1) 環境社会学と社会運動論の歴史を振り返り、それぞれの研究課題を把握したうえで、2) 具体的な環境問題として原子力発電、気候変動問題を取りあげ、環境政策と社会運動の接点から、理論的および実践的課題について理解を深めましょう。3) これらをとおして、福島原発事故の当事国である日本がなぜ変わらないのか、現代日本の社会と政治の課題についても考察します。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ポスト平成時代を生きる君たちへ (第 1 回)
2. 環境社会学の課題と展開 (2-4 回)
3. 社会運動論という視座 (5-7 回)
4. 脱原子力社会へ (8-10 回)
5. 脱炭素社会へ (11-13 回)
6. リスク社会における運動の政策化と政策の運動化 (14 回)
7. 日本は変わるのか (15 回)

6. 成績評価方法：

出席状況や質疑・討議への参加状況 (平常点、40%程度を予定) と、課題レポート (60%程度を予定) により評価します。

7. 教科書および参考書：

長谷川 公一 『環境運動と新しい公共圏：環境社会学のパースペクティブ』 (有斐閣) ISBN:4-641-07667-7 本講義の基本的な問題意識を述べたもの。受講者は、なるべく入手してください。長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 『社会学』 (有斐閣) ISBN:978-4-641-05370-0 社会学の代表的な教科書の一つ。

長谷川公一・品田知美編 『気候変動政策の社会学：日本は変わるのか』 (昭和堂) ISBN:978-4-8122-1553-1 終章「脱炭素社会への転換を」を寄稿。11-13 回に対応。

長谷川公一・山本薫子編 『原発震災と避難：原子力政策の転換は可能か』 (有斐閣) ISBN:978-4-641-17433-7 終章「福島原発震災から何を学ぶのか」を寄稿。8-10 回に対応。

ハンドアウトを配布予定。

8. 授業時間外学習：

担当教員の問題意識を把握するために、授業前にできるだけ、次の 2 点に目を通してきてください。

(1) 『脱原子力社会へ：電力をグリーン化する』 (岩波新書、2011 年 9 月刊)。読みやすい新書版。福島原発事故を契機に、世界的に、エネルギーをめぐる大転換が始まりつつある。

(2) 「卒業生に贈る言葉」 (卒業生へのメッセージ。2001 年度以降の毎年分を載せている)。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~hasegawa/farewell.html>

9. その他：なし

基本的に講義形式で授業を進めますが、講義の途中であつても受講者の積極的な質問やコメントを歓迎します。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LB64201, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ハーバーマスの社会理論

2. Course Title (授業題目)：

Social Theory of J. Habermas

3. 授業の目的と概要：

ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。

4. 学習の到達目標：

ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ハーバーマス研究の視座と方法
3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
10. コミュニケーション行為概念の再規定
11. 生活世界論の再構成
12. 生活世界とシステム
13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
14. 再構成的社会学の可能性
15. 講義のまとめ

6. 成績評価方法：

(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]

7. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。

8. 授業時間外学習：

授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。

9. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：菅原 真枝（非常勤講師）

講義コード：LB52303, **科目ナンバリング：**LHM-SOC301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

福祉社会の成り立ち

2. Course Title (授業題目)：

the constitution of welfare society

3. 授業の目的と概要：

福祉社会学の基本的な考え方をとりあげる。社会福祉の現代的課題を学びながら、福祉社会の成り立ちについて理解する。

4. 学習の到達目標：

福祉社会学の基本的な考えかたを理解し、社会福祉の現代的課題について多様な立場から説明することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義を中心に以下のとおり進める。

1. 福祉国家と福祉社会
2. 社会福祉事業
3. 自立と依存
4. 福祉ニーズの多様化
5. 貧困
6. 障害者の就労
7. 子育て支援
8. 地域生活を支える福祉サービス
9. 家事労働
10. 介護の社会化
11. 介護労働
12. 老人ホーム
13. 外国人ケアワーカー
14. 老人ホームと地域社会
15. 福祉社会の成り立ち

6. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。[Will be introduced in the class.]

8. 授業時間外学習：

新聞や書籍を通じて、授業内容に関する情報や話題を収集すること。[Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.]

9. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：清水 晋作 (非常勤講師)

講義コード：LB98825, **科目ナンバリング：**LHM-SOC301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ダニエル・ベルの社会理論と現代アメリカ社会

2. Course Title (授業題目)：

Daniel Bell's Social Theory and Modern American Society

3. 授業の目的と概要：

ダニエル・ベルの社会理論の考察を通じて、現代社会の諸問題について分析する。理論を考察する中で、アメリカ社会の具体的事象を取り上げるが、それらはアメリカ社会だけの問題にとどまらず、日本を含めた現代社会に共通の課題である。取り上げるテーマは、資本主義、民主主義、官僚制、エスニシティなどである。またベルの社会理論を中心に扱うが、その際にマルクス、ウェーバー、パーソンズ、マートン、ベラーなどの他の社会学者との関連も検討する。

4. 学習の到達目標：

- ①ダニエル・ベルを中心に社会学の理論について説明することができる。
- ②授業で取り上げる現代社会の主要な問題について説明することができる。
- ③社会理論を用いて、現代社会の諸問題について批判的に分析することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ダニエル・ベルの社会学史における位置づけ
2. 公共知識人
3. 冷戦と資本主義
4. 「資本主義の文化的矛盾」
5. 消費社会——リッツァー「再魔術化」論
6. 官僚制——アメリカの福祉政策
7. エスニシティ①——ギャング
8. エスニシティ②——マートン「アノミー」論
9. 禁酒法
10. マッカーシズム①——アメリカン・デモクラシー
11. マッカーシズム②——反知性主義
12. マッカーシズム③——マッカーシズムからトランプ現象へ
13. 「イデオロギーの終焉」
14. 「脱工業社会」論と大学紛争
15. ダニエル・ベルの社会理論と現代社会

6. 成績評価方法：

レポート (70%)、出席およびコメントカードの提出状況 (30%)

7. 教科書および参考書：

参考書

清水晋作『公共知識人 ダニエル・ベル——新保守主義とアメリカ社会学』(勁草書房、2011年)

その他の参考文献は授業の中で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業の中で紹介した参考文献を読み、現代社会の諸課題について自分なりの視点から考察を深める。

9. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：本郷 正武 (非常勤講師)

講義コード：LB98826, **科目ナンバリング：**LHM-SOC301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

“被害者になる”ことの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of “Becoming Victims”

3. 授業の目的と概要：

いわゆる「薬害」問題や公害問題などの被害者「になる」各種プロセスを取り上げ、「被害者」をめぐる諸問題をとらえる分析方法を多角的に検討する。

4. 学習の到達目標：

社会運動論や医療社会学がこれまで提起してきた諸概念や理論枠組みを使って、「被害者（あるいは当事者）になる」プロセスを多角的に考察し、理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義は以下のように進める。進度によって多少内容が前後する場合がある。

【1日目】

1. イントロダクション
2. HIV/AIDSをめぐる集合行為
3. 「薬害 HIV」問題の諸相
4. 「医療化」概念にみる運動のプロセス + 本日の「まとめ」

【2日目】

1. 「薬害」問題の多様性
2. 「薬害」概念による問題理解の様式
3. 食品公害をめぐる社会運動
4. HIV 性行為感染での「被害者」とは + 本日の「まとめ」

【3日目】

1. 環状島モデルにみる「当事者」の置かれた立場
2. カミングアウトのポリティクス
3. ライフスタイル運動にみる「弱い主体」
4. 障害者運動にみる「強い主体」 + 本日の「まとめ」

【4日目】

1. ハンセン病回復者にみる「Becoming Victims」のプロセス
2. 水俣病患者にみる「Becoming Victims」のプロセス
3. 「Becoming Victims」のプロセスの理論的検討 + 本日の「まとめ」

6. 成績評価方法：

各日の最後の「まとめ」（合計4回）による（100%）。やむを得ず当該時間を欠席する場合、代替のミニレポートを課すことも考慮する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は以下の通り。以下に挙げた以外にも適宜参考文献を講義中に紹介する。

本郷正武, 2007, 『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』ミネルヴァ書房。

中川輝彦・黒田浩一郎編, 2010, 『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房。

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編, 2004, 『社会運動の社会学』有斐閣。

盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編, 2017, 『社会学入門』ミネルヴァ書房。

曾良中清司・長谷川公一・町村敬志・樋口直人編著, 2004, 『社会運動という公共空間：理論と方法のフロンティア』成文堂。

8. 授業時間外学習：

「薬害」や「公害」、社会運動に関するニュースや Web 上の言説について日頃から注意しておくこと。講義中に紹介する参考文献を手にとってみる。

9. その他：なし

2019 年 1 月 22 日（火）～25 日（金）の開講を予定。

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LB52408, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

舩橋晴俊を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Harutoshi Funabashi' Works

3. 授業の目的と概要：

舩橋晴俊（1948-2014 年）の主要な著作・論文の読解をとおりて、社会学を学ぶ〈よろこび〉を再発見しましょう。『社会学をいかに学ぶか』を手始めとして『社会制御過程の社会学』などの著作を読解します。

4. 学習の到達目標：

舩橋晴俊は、見田宗介などの理論的影響を受けながら、その生涯を賭して社会学の理論と実践の往還・架橋に真摯に取り組んだ独創的な社会学者です。新幹線公害問題や核燃料サイクル施設問題、福島原発事故の究明などに取り組みましたが、社会問題研究の中から理論的洞察を深めようとしたところに、舩橋の真骨頂がありました。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

舩橋晴俊の生涯とその時代/『社会学をいかに学ぶか』をいかに学ぶか I・II/主著『社会制御過程の社会学』の背景と基本構想/主著『社会制御過程の社会学』を精読する／まとめ

6. 成績評価方法：

出席、質疑・討論への参加、最終レポートを重視する。

7. 教科書および参考書：

舩橋晴俊『社会学をいかに学ぶか』弘文堂（2012）、同『社会制御過程の社会学』東信堂（2018、近刊）。

8. 授業時間外学習：

演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞんでください。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって出席してください。

9. その他：なし

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LB63207, **科目ナンバリング：**LHM-SOC302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会科学のなかの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology in Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

通常のばあい、社会学の歴史は、オーギュスト・コントから語られる。そして、他の社会科学から切り離された独自の専門科学として、取り扱われる。しかし、いうまでもなく、社会学は、社会科学が展開するなかで、その一領域として分化した。社会学にも、社会科学の発展史という共通の根がある。

この授業では、内田義彦や大塚久雄の著作を手がかりにしながら、社会科学のなかで社会学はどのような位置を占めるのかを考えるとともに、社会科学的な思考法について考察を深めることにしたい。

4. 学習の到達目標：

社会科学の展開史のなかに社会学を位置づけることができるようになる。

社会科学に共通する思考法を理解できるとともに、社会学独自の発想法とは何かを理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業のガイダンス

2. 『社会認識の歩み』問題と方法／生活現実と社会科学／「方法論」とメソドロジー／社会科学の言葉

3. 『社会認識の歩み』運命へのチャレンジ

4. 『社会認識の歩み』国家の制作 (1)

5. 『社会認識の歩み』国家の制作 (2)

6. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (1)

7. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (2)

8. 『社会認識の歩み』学問総合化の二つの道

9. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (1)

10. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (2)

11. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (3)

12. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (4)

13. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (1)

14. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (2)

15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

(レポート (50%) 授業時の受講票提出 (50%))

7. 教科書および参考書：

内田義彦『社会認識の歩み』岩波書店、1971年。

大塚久雄『社会科学の方法——ヴェーバーとマルクス』岩波書店、1966年。

8. 授業時間外学習：

授業時間前に、各自テキストを読む。

講義での討議や解説をふまえて、各自テキストを読み直す。

9. その他：なし

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：小松 丈晃（准教授）

講義コード：LB55308, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会調査実習（1）

2. Course Title（授業題目）：

Sociology (Research) I

3. 授業の目的と概要：

社会調査実習（1）の目的は、次の2点である。（1）社会調査の理論と方法を理解する。（2）社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。この授業では、社会調査の基礎と概要（意義・種類・方法・歴史・課題・調査倫理など）を学ぶとともに、社会調査実習（2）で予定されている現地での調査実施に向けた準備作業までを行う。

4. 学習の到達目標：

- ・社会調査のための基本的な方法を習得する。
- ・社会調査を行うための仮説構築を行えるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 社会科学と社会調査
2. 社会理論と社会調査
3. 社会調査における価値・倫理
4. 社会調査の方法（1）
5. 社会調査の方法（2）
6. 社会調査の方法（3）
7. 社会調査の方法（4）
8. 社会調査の方法（5）
9. 問題の設定（1）
10. 問題の設定（2）
11. 既存調査の検討（1）
12. 既存調査の検討（2）
13. 仮説の構成（1）
14. 仮説の構成（2）
15. 調査対象の選定

6. 成績評価方法：

授業への出席と発言 50%＋（ミニレポートも含めた）課題レポート 50%

7. 教科書および参考書：

参考文献は、授業で適宜、指示します。また、適宜、必要な資料を配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。

9. その他：なし

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時, 後期 金曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小松 丈晃（准教授）

講義コード：LB65306, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会調査実習（2）

2. Course Title（授業題目）：

Sociology (Research) II

3. 授業の目的と概要：

社会調査実習（2）の目的は次の2点である。（1）インタビュー調査の技法を習得する。（2）設定したテーマに関して社会調査を実施し、その分析を行う。この授業では、社会調査の技法について理解を深めるとともに、社会調査実習（1）で行った準備作業を踏まえて調査を実施する。その過程をつうじて調査と分析の技法を習得する。

4. 学習の到達目標：

- ・インタビュー調査の技法を習得する。
- ・設定したテーマについて社会調査を実施しその分析を行えるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査の企画
2. 調査項目の設定（1）
3. 調査項目の設定（2）
4. インタビューの技法（1）
5. インタビューの技法（2）
6. インタビューの実施（1）
7. インタビューの実施（2）
8. 調査結果の処理（1）
9. 調査結果の処理（2）
10. 調査結果の分析（1）
11. 調査結果の分析（2）
12. 調査結果の分析（3）
13. 調査報告書の企画
14. 調査報告書の作成
15. 調査報告（口頭発表）

6. 成績評価方法：

授業への出席と発言50%＋（ミニレポートも含めた）課題レポート50%

7. 教科書および参考書：

参考書は、授業の中で適宜、指示します。また、必要に応じて、資料を配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。

9. その他：なし

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
行動科学概論	ミクロ-マクロ問題入門	2	佐藤 嘉倫	3	月	4	1
行動科学概論	ゲーム理論入門	2	佐藤 嘉倫	4	月	4	2
行動科学概論	社会調査の基礎	2	木村 邦博	3	火	5	3
行動科学概論	社会調査の実際	2	木村 邦博	4	火	5	4
行動科学基礎演習	行動科学の基礎	2	浜田 宏	3	金	4	5
行動科学基礎演習	行動科学のための因果 推論入門	2	神林 博史	4	火	3	6
行動科学基礎実習	多変量解析	2	永吉 希久子	4	水	4、5	7
行動科学基礎実習	行動科学基礎実習	2	永吉 希久子	5	水	4、5	8
行動科学各論	リスクと防災の社会学	2	佐藤 嘉倫	5	月	5	9
行動科学各論	格差・不平等・リスクの 社会学	2	佐藤 嘉倫	6	月	5	10
行動科学各論	差別の社会学	2	永吉 希久子	6	木	2	11
行動科学各論	数理社会学	2	武藤 正義	集中(5)			12
行動科学演習	質問の科学	2	木村 邦博	5	月	4	13
行動科学演習	「質問の科学」実験実 習	2	木村 邦博	6	月	4	14
行動科学演習	ベイズアプローチによる 社会学の理論と実証	2	浜田 宏	5	水	2	15
行動科学演習	社会秩序の自己組織 化とエージェント・ベ ースト・モデル	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	5	水	3	16
行動科学演習	エージェント・ベースト・ モデルによる自己組織 性の解明	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	6	水	3	17
行動科学演習	社会的排除	2	永吉 希久子	5	金	2	18
行動科学演習	実践計量社会学	2	永吉 希久子	6	金	2	19

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB31402, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ミクロ-マクロ問題入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Micro-macro Problems

3. 授業の目的と概要：

次に上げるモデルを用いて、個人の行動から社会的結果が生じる過程の分析を進める。

- (1) 個人的意思決定モデル
- (2) 交換モデル
- (3) 拡散モデル
- (4) 学習モデル

4. 学習の到達目標：

個人と社会の相互連関について理解を深め、社会現象を分析する方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション (1) (教科書第1章、第2章)
- 2. イントロダクション (2) (教科書第1章、第2章)
- 3. 推論の評価 (1) (教科書第3章)
- 4. 推論の評価 (2) (教科書第3章)
- 5. 選択モデル (1) (教科書第4章)
- 6. 選択モデル (2) (教科書第4章)
- 7. 選択モデル (3) (教科書第4章)
- 8. 交換モデル (1) (教科書第5章)
- 9. 交換モデル (2) (教科書第5章)
- 10. 交換モデル (3) (教科書第5章)
- 11. 適応モデル (1) (教科書第6章)
- 12. 適応モデル (2) (教科書第6章)
- 13. 拡散モデル (1) (教科書第7章)
- 14. 拡散モデル (2) (教科書第7章)
- 15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル構築の方法論を考察する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート [%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

レイブ・マーチ『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜第5講時 (事前予約をすること)

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB41402, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ゲーム理論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Game Theory

3. 授業の目的と概要：

ゲーム理論の基礎的な論理を理解することをめざす。

講義でカバーする内容は次のようなものである。

- ・ゲーム理論による説明形式
- ・戦略型ゲームとナッシュ均衡
- ・展開型ゲームと部分ゲーム完全ナッシュ均衡
- ・繰り返しゲームとフォーク定理
- ・不完備情報ゲームと完全ベイジアン均衡
- ・進化ゲーム理論

4. 学習の到達目標：

- (1) ゲーム理論の基本的論理を理解できるようになる。
- (2) ゲーム理論を用いた学術論文の内容を理解できるようになる。
- (3) 自分で簡単なゲーム理論的モデルを構築できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1) (教科書 1, 2, 3)
2. イントロダクション (2) (教科書 1, 2, 3)
3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (1) (教科書 4, 5, 6)
4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (2) (教科書 4, 5, 6)
5. 展開形ゲーム (教科書 9, 10, 11)
6. 展開形ゲームの応用 (教科書 12, 13)
7. 繰り返しゲーム (1) (教科書 14, 15)
8. 繰り返しゲーム (2) (教科書 14, 15)
9. 不完備情報ゲーム (教科書 16, 17)
10. 不完備情報ゲームの応用 (1) (教科書 20)
11. 不完備情報ゲームの応用 (2) (教科書 20)
12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプラーター・ダイナミクス (1) (教科書 22, 23, 24)
13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプラーター・ダイナミクス (2) (教科書 22, 23, 24)
14. 確率進化ゲーム理論 (教科書 25)
15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを構築する方法論を考察する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート [%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008 年

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜第 5 講時 (事前に予約すること)

グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの基幹科目「リスクと社会」を兼ねる。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB32501, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Social Surveys

3. 授業の目的と概要：

現代社会を特徴づける人間活動の 1 つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

4. 学習の到達目標：

社会調査に関する基本的な知識を修得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史
3. 調査内容の決定(1)
4. 調査内容の決定(2)
5. 調査対象の決定(1)
6. 調査対象の決定(2)
7. 調査の実施と処理(1)
8. 調査の実施と処理(2)
9. 結果の集計と分析(1)
10. 結果の集計と分析(2)
11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)
12. 調査報告をまとめる
13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)
14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)
15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理

6. 成績評価方法：

筆記試験による。

7. 教科書および参考書：

教科書：原純輔・浅川達人 『社会調査』（改訂版）放送大学教育振興会、2009.

8. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

9. その他：なし

- (1) 行動科学概論（社会調査の実際）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 A に対応。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB42501, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会調査の実際

2. Course Title (授業題目)：

Social Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：

社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。

4. 学習の到達目標：

社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査票の設計とワーディング 1（説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法）
2. 調査票の設計とワーディング 2（調査票の構成、ワーディングと回答の歪み）
3. 標本抽出と統計的推測 1（標本抽出法）
4. 標本抽出と統計的推測 2（統計的推測）
5. 標本抽出と統計的推測 3（統計的検定）
6. 因果推論の方法 1（因果関係と相関関係）
7. 因果推論の方法 2（因果的規定力の推定）
8. 測定と尺度構成 1（測定と尺度構成の考え方）
9. 測定と尺度構成 2（多次元尺度の考え方）
10. 測定と尺度構成 3（社会的地位の測定法）
11. 多変量解析の基礎 1（重回帰分析の考え方）
12. 多変量解析の基礎 2（質的変数と重回帰分析）
13. 多変量解析の基礎 3（パス解析と因子分析）
14. データの整理と作成 1（調査票の配布・回収からエディティン、コーディング、データ入力とクリーニングまで）
15. データの整理と作成 2（非定形データの処理・分析法）

6. 成績評価方法：

筆記試験による。

7. 教科書および参考書：

参考書：原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004

8. 授業時間外学習：

参考書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

9. その他：なし

- (1) 行動科学概論（社会調査の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 B に対応。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：浜田 宏（教授）

講義コード：LB35403, **科目ナンバリング：**LHM-OS0202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

行動科学の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学の基本的な考え方を修得するために、経済学・心理学・社会学の代表的理論を紹介する。

4. 学習の到達目標：

1. 行動経済学の代表的理論を理解する。
2. 人間の認知バイアスを理解する。
3. 人間行動の基本的な数学モデルを理解する
4. 統計分析の基礎を理解する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 二つのシステム：システム1（速い思考）とシステム2（遅い思考）
3. 注意と努力—衝動的で直感的なシステム1
4. 怠け者のコントローラー—論理思考能力を備えたシステム2
5. ヒューリスティクスとバイアス（少数の法則—統計に関する直感を疑え）
6. アンカー—数字による暗示
7. 利用可能性ヒューリスティック
8. 自信過剰（わかったつもり）
9. 後知恵とハロー効果
10. 妥当性の錯覚—自信は当てにならない
11. 直感対アルゴリズム—専門家の判断は統計より劣る（ほか）
- 12—14. プロスペクト理論とその発展的問題
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 [30%]
授業時間内での報告 [30%]
コメントペーパー [30%]
期末課題 [10%]

7. 教科書および参考書：

教科書：ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー』早川書房

8. 授業時間外学習：

輪読回では授業で扱うテキストの範囲を事前により、コメントペーパーを準備する。コメントはISTUをつかって授業前に提出すること。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：神林 博史（非常勤講師）

講義コード：LB45404, **科目ナンバリング：**LHM-OS0202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

行動科学のための因果推論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Causal Inference for Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学において非常に重要な課題である因果推論（原因と結果の判断）について、その基本的な考え方と代表的な分析方法を紹介する。

4. 学習の到達目標：

到達目標

- (1) 因果推論とは何かを正しく理解できる。
- (2) 因果推論を行うための統計的方法を理解できる。
- (3) 具体的な社会現象について、自分で因果推論を行う能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

伊藤（2017）をテキストとして、因果推論の考え方と代表的な方法を解説する。授業は、一週目にテキストを講読し、二週目にテキストの内容に関連した課題を参加者が報告するという二週一セットの形で進める。

1. イントロダクション：因果推論とは何か
2. なぜデータから因果関係を導くのは難しいのか（第1章の講読）
3. 因果関係の判断が難しい事例を探してみよう（第1章の課題報告）
4. 現実の世界で「実際に実験をしてしまう」（第2章の講読）
5. 自分でRCTをデザインしてみよう（第2章の課題報告）
6. 「境界線」を賢く使うRDデザイン（第3章の講読）
7. 自然実験を用いた研究を探してみよう（第3章の課題報告）
8. 「階段状の変化」を賢く使う集積分析（第4章の講読）
9. 集積分析ができそうな社会現象を探してみよう（第4章の課題報告）
10. 「複数期間のデータ」を生かすパネル・データ分析（第5章の講読）
11. パネル・データ分析の実例を探してみよう（第5章の課題報告）
12. 実践編：データ分析をビジネスや政策形成に生かすためには？（第6章の講読）
13. データ分析で成功した事例・失敗した事例を探してみよう（第6章の課題報告）
14. 上級編：データ分析の不完全性や限界を知る（第7章の講読）
15. 因果推論をさらに深く学ぶために（まとめと今後の学習の指針）

6. 成績評価方法：

授業内での課題報告（40%）、授業内での質問やコメント（30%）、期末課題（30%）

7. 教科書および参考書：

伊藤公一郎. 2017. 『データ分析の力：因果関係に迫る思考法』 光文社新書

その他の文献は授業時に指示する

8. 授業時間外学習：

テキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時. 後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB43408, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

多変量解析

2. Course Title (授業題目)：

Quantitative Research Methods

3. 授業の目的と概要：

統計ソフトウェア R を用いた演習を通じて、多変量解析の諸技法の理論とデータの分析の実際についての理解を深める。

4. 学習の到達目標：

- 1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。
- 2) 統計ソフトウェア R を用いて、多変量解析を行うことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の内容は以下の通り。

- 1 社会調査と分析の流れ
- 2 R の基礎と記述統計(1)：度数分布表
- 3 R の基礎と記述統計(2)：平均、分散、グラフの利用
- 4 推測統計(1)：平均の差の検定、分散分析
- 5 推測統計(2)：相関と偏相関
- 6 推測統計(3)：クロス集計表とエラボレーション
- 7 多変量解析(1)：回帰分析
- 8 多変量解析(2)：ダミー変数の利用と交互作用効果
- 9 多変量解析(3)：二項ロジスティック回帰
- 10 多変量解析(4)：多項ロジスティック回帰・順序ロジスティック回帰
- 11 多変量解析(5)：主成分分析と因子分析
- 12 多変量解析(6)：媒介効果の分析
- 13 多変量解析(7)：マルチレベル分析
- 14 多変量解析(8)：分析モデルの構築と手法の選定
- 15 多変量解析(9)：総合演習

6. 成績評価方法：

毎回の課題（40%）、最終レポート（60%）

7. 教科書および参考書：

永吉希久子. 2016. 『行動科学の統計学』 共立出版.

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎回課題を出すので、翌週までに課題を準備しておくことが求められる。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時. 前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：永吉 希久子 (准教授)

講義コード：LB53401, **科目ナンバリング：**LHM-OS0203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

行動科学基礎実習

2. Course Title (授業題目)：

社会調査演習

3. 授業の目的と概要：

社会調査を行う上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とし、授業を通して社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。この授業では特に量的調査を中心に扱う。

具体的には、東北大学文学部生とその友人を対象にした質問紙調査を行う。調査のテーマ設定、調査票の作成や調査の実施、データの入力、分析、報告を行う。「東北大学生のネットワークと意識」を共通のテーマとして設けたうえで、受講生の関心に応じてグループに分け、質問項目を考えてもらう予定である。

4. 学習の到達目標：

- ① 社会調査を行うための技法を身につけ、実際の調査を適切な方法で実施できるようになる。
- ② 仮説の設定およびその検証方法を理解し、分析結果を仮説と関連させながら適切に表現できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

具体的なスケジュールは以下のとおりである。第1回から第5回の授業では、関心の近い受講者が集まってグループに分かれてもらい、仮説や質問項目の検討を行ってもらう。ただし、最終的には各グループの質問項目を1つの調査票にまとめ、実査やデータの入力作業は全受講者で行う。

1. 社会調査とは・社会調査の進め方
2. 社会調査のデザイン・調査テーマの設定
3. 先行研究、既存調査の整理
4. 仮説の設定、実査方法・調査対象者の検討
5. 質問項目の検討
6. 調査票の作成
7. 実査
8. エディティング・コーディング
9. 調査結果の入力
10. データのクリーニング
11. データ分析による仮説の検証 (1)
12. データ分析による仮説の検証 (2)
13. 結果の報告・報告書原稿の執筆
14. 報告書原稿の輪読・修正
15. 報告書の作成

6. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (60%)、最終報告書 (40%)

7. 教科書および参考書：

轟亮・杉野勇『入門・社会調査法』法律文化社, 2010.

8. 授業時間外学習：

調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する。

実査段階：対象者へのアポイントや実査への参加。

分析段階：報告書原稿の作成。

9. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB51502, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

リスクと防災の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Risk and Disaster Prevention

3. 授業の目的と概要：

教科書に収められている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。

- ・ 社会関係資本と防災
- ・ 消防団のあり方
- ・ 防災とコミュニティ
- ・ 災害ボランティア

4. 学習の到達目標：

自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 本講義の概略を解説する。
2. 教科書 (1) 第 2 章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。
3. 教科書 (1) 第 3 章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。
4. 教科書 (1) 第 4 章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。
5. 教科書 (1) 第 5 章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。
6. 教科書 (1) 第 6 章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。
7. 教科書 (1) 第 7 章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。
8. 教科書 (1) 第 9 章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。
9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。
10. 教科書 (2) 第 1 章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。
11. 教科書 (2) 第 2 章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。
12. 前回に続いて、教科書 (2) 第 2 章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。
13. 教科書 (2) 第 3 章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
14. 教科書 (2) 第 4 章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

- (1) 吉原直樹 (編), 2012, 『防災の社会学ー防災コミュニティの社会設計に向けて』(第 2 版), 東信堂.
- (2) ダニエル・アルドリッチ, 2015, 『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』, ミネルヴァ書房.

その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時 (事前に予約すること)

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB61502, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

格差・不平等・リスクの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Disparity, Inequality, and Risk

3. 授業の目的と概要：

教科書に収録されている論文の中から講義テーマに合うものを取り上げて、参加者同士の議論によって理解を深めていく。

4. 学習の到達目標：

現代社会の格差と不平等の問題を社会階層論の視点から理解することを目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ひとり親家庭と教育達成 (教科書 16 章)
3. 教育達成過程の階層差 (教科書 17 章)
4. 学校から職業への移行 (1) (教科書 5 章)
5. 学校から職業への移行 (2) (教科書 5 章)
6. 若年労働市場 (1) (教科書 4 章、6 章)
7. 若年労働市場 (2) (教科書 4 章、6 章)
8. 転職 (1) (教科書 1 章、2 章、3 章)
9. 転職 (2) (教科書 1 章、2 章、3 章)
10. 女性の就労 (1) (教科書 8 章、11 章)
11. 女性の就労 (2) (教科書 8 章、11 章)
12. ライフイベント (教科書 9 章、10 章)
13. 高齢者の格差 (教科書 13 章)
14. ライフスタイル (教科書 14 章、15 章)
15. 今までの講義で取り上げたテーマを振り返り、現代日本における格差、不平等、リスクの問題を総合的に検討する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：佐藤嘉倫・尾嶋史章 (編)『格差と多様性』(現代の階層社会 第 1 巻)、東京大学出版会。

参考書：石田浩・近藤博之・中尾啓子 (編)『趨勢と比較』(現代の階層社会 第 2 巻)、東京大学出版会。

斎藤友里子・三隅一人 (編)『流動化の中の社会意識』(現代の階層社会 第 3 巻)、東京大学出版会。

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時 (事前に予約すること)

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：永吉 希久子 (准教授)

講義コード：LB64202, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

差別の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociological Theory of Discrimination

3. 授業の目的と概要：

今日の日本においては、ヘイトスピーチ規制のための法律の制定が検討されるなど、差別問題が重要な社会問題となっている。私たちの多くは、差別が間違っただけという規範を共有している。にもかかわらず、その根絶は容易ではない。この授業では、心理学や社会学などにおける差別研究の知見を紹介しつつ、差別はなぜ生じ、なぜなくなるのかを考える。

4. 学習の到達目標：

- 1) 現代社会で生じている差別のさまざまな形態について説明できるようになる。
- 2) 今日の日本において差別が生じる要因について、理論にもとづいた自分なりの見解を持ち、議論できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義形式で行うが、受講生のディスカッションを適宜行うので、積極的な参加が求められる。
以下のスケジュールで行う予定であるが、授業の進度や受講生の関心に応じて変更する場合がある。

第1回 イン트로ダクション：差別とは何か

第2回 【理論編】パーソナリティ論

第3回 【理論編】社会的カテゴリ化

第4回 【理論編】ステレオタイプ

第5回 【理論編】集団間関係

第6回 【理論編】メディアの影響

第7回 【理論編】接触理論

第8回 【理論編】偏見論への批判

第9回 【理論編】差別の制度化

第10回 【理論編】反差別の法制化とその効果

第11回～第14回 具体的な事例についての考察

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

毎回のコメントシート (30%)、最終レポート (70%) をもとに評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

参考書は授業の中で適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

普段から新聞を読むなどして、社会の中で起こっていることに関心を持つておくこと。

授業の復習をしておくこと。

9. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：武藤 正義 (非常勤講師)

講義コード：LB98827, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

数理社会学

2. Course Title (授業題目)：

Mathematical Sociology

3. 授業の目的と概要：

数理社会学を学ぶうえでポイントとなる数理モデルを解説する。

(1) 社会の数理モデルに関するイントロダクションの後(第1講)、ミクロ-マクロリンクのシンプルなモデルとして閾値モデルから入り(第2講)、その発展型として流行のモデルや人口の離散ロジスティックモデルを紹介する(第3講)。これらのモデルにはカオスの考え方が反映されている(周期3はカオスを意味する)。カオスモデルには大国と小国のモデルなどの相互行為モデルもある(第4講)。

(2) 相互行為モデルの典型例であるゲーム理論の基礎をふまえたの

4. 学習の到達目標：

- (1) 閾値モデルおよびカオスモデル(流行のモデル／大国と小国のモデル)を理解する。
- (2) ゲーム理論および社会的ジレンマのロジックを理解する。
- (3) 社会的価値志向(利他志向と平等志向)および二層ゲーム・モデルを理解する。
- (4) アローの不可能性定理と自己言及のパラドクスを理解する。
- (5) 社会ネットワーク分析の基本(バランス理論とスモールワールド)を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 閾値モデル
3. 流行のモデル
4. 大国と小国のモデル
5. ゲーム理論の基礎
6. 社会的ジレンマ
7. 利他志向と平等志向
8. 二層ゲーム・モデル
9. 異質性と最適応答ダイナミクス
10. 投票の数理
11. アローの不可能性定理
12. 自己言及のパラドクス
13. バランス理論(符号付ネットワーク)
14. スモールワールド・ネットワーク
15. 総括：数理社会学とは何か

6. 成績評価方法：

授業課題 [40%]、レポート [60%]

7. 教科書および参考書：

参考書：土場学ほか編『社会をモデルでみる』勁草書房

8. 授業時間外学習：

集中講義なので、よく復習して授業内容はその日のうちに理解する。

9. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB51405, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

質問の科学

2. Course Title (授業題目)：

Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、そこでは質問紙（調査票）が用いられることも多い。質問紙（調査票）の作成は長い間「アート」に属するものと見なされて来たけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究成果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配り

4. 学習の到達目標：

認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定法の諸問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、担当の決定
2. 質問の科学の概観
3. 回答選択肢のレイアウト
4. 項目の方向性とグルーピング
5. 中間選択肢の影響(1)：検出の方法
6. 中間選択肢の影響(2)：個人特性との関連
7. 中間選択肢の影響(3)：メカニズムの検討
8. 複数回答か個別強制選択か
9. 最小限化（満足化）(1)：分析結果への影響
10. 最小限化（満足化）(2)：そのメカニズムと House Effect
11. 回答指示の非遵守と反応バイアス
12. レスポンス・スタイルの測定モデル
13. センシティブなトピックと使い捨て項目
14. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法
15. 総合的討論

6. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]

7. 教科書および参考書：

演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」（附属図書館、CiNii, J-STAGE 等を経由）や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。

参考文献：グローヴズ他（大隅昇監訳）『調査法ハンドブック』朝倉書店

8. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

9. その他：なし

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB61403, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

「質問の科学」実験実習

2. Course Title (授業題目)：

Exercises in the Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

認知科学的視点に基づいた「質問の科学」に関する理解を、実験実習を通して深める。その理解にもとづいて、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を習得する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」、「テキストマイニング」などの関連分野の動向にも目配りをする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 測定と尺度構成の基本的な考え方を、実習を通して理解する。
- (2) 人々が質問紙に回答する際の認知的メカニズムに関する理解を深める。
- (3) 準実験的フィールド調査と実験室実験を通して、質問紙の設計と調査実施の技法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、グループ編成
2. 分類とコーディング
3. 尺度構成法
4. 評定法・序列法・対比較法
5. 準実験的調査の企画と実施(1)：調査テーマと調査対象の検討
6. 準実験的調査の企画と実施(2)：質問項目と質問文の検討
7. 準実験的調査の企画と実施(3)：実査の準備と実施
8. 準実験的調査の企画と実施(4)：データの整理と分析
9. 自由記述データのテキストマイニング(1)：2次分析の企画
10. 自由記述データのテキストマイニング(2)：基礎集計
11. 自由記述データのテキストマイニング(3)：多変量解析
12. ランダムイズド・レスポンス法(1)：実験の企画、用具等準備
13. ランダムイズド・レスポンス法(2)：協力者募集と実験実施
14. ランダムイズド・レスポンス法(3)：実験実施とデータの整理
15. ランダムイズド・レスポンス法(4)：データの分析

6. 成績評価方法：

レポート(6回)[50%]、平常点(課題への取り組み)[50%]

7. 教科書および参考書：

原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004.

そのほかの文献については、授業で指示する。

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書や参考文献を事前に読み、予習をしておく。
- (2) 教科書等で指定された作業(調査・実験・データ分析等を含む、共同作業の場合もある)を行い、その結果をレポートにまとめる。
- (3) 教科書等にある「問題」について考え、その結果をレポートにまとめる。

9. その他：なし

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：浜田 宏 (教授)

講義コード：LB53208, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ベイズアプローチによる社会学の理論と実証

2. Course Title (授業題目)：

Sociological Theory and Bayesian Statistics

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. 学習の到達目標：

Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 分布生成モデル
2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定と MCMC
3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい
4. ベイズ統計モデルリング 3 R と Stan の導入
5. ベイズ統計モデルリング 4 R と Stan の導入
6. ベイズ統計モデルリング 5
7. Stan による分析 1 モデル式の書き方
8. Stan による分析 2 回帰
9. Stan による分析 3 階層モデル
10. Stan による分析 4 階層モデル
11. Stan による分析 5 分布生成モデルとの接合
12. Stan による分析 6 分布生成モデルとの接合
13. Stan による分析 7
14. Stan による分析 8
15. まとめと総括

6. 成績評価方法：

レポート [50%], 出席 [30%], その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]

7. 教科書および参考書：

教科書：松浦健太郎, 2016, 『Stan と R で統計モデリング』共立出版

参考書：久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店.

Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.

その他の参考書は適宜指示する

8. 授業時間外学習：

毎週, テキストの該当範囲を事前に読んでくること.

9. その他：なし

本演習では R と Stan を使用するので, 実行環境を整えたノート PC を毎回持参すること.

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴 (教授)

講義コード：LB53310, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル

2. Course Title (授業題目)：

Self-organization of Social Order and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、いくつかの論文を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。

4. 学習の到達目標：

進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1)
2. イントロダクション (2)
3. 社会秩序概念の検討 (1)
4. 社会秩序概念の検討 (2)
5. 自己組織性の理論的検討 (1)
6. 自己組織性の理論的検討 (2)
7. 自己組織性の経験的分析 (1)
8. 自己組織性の経験的分析 (2)
9. 進化ゲーム理論 (1)
10. 進化ゲーム理論 (2)
11. 計算社会学入門 (1)
12. 計算社会学入門 (2)
13. エージェント・ベースト・モデル (1)
14. エージェント・ベースト・モデル (2)
15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。

9. その他：なし

オフィスパワー：水曜日第5講時（事前に予約すること）

第6セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴 (教授)

講義コード：LB63311, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of Self-organization and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。

4. 学習の到達目標：

前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. プログラミング入門 (1)
3. プログラミング入門 (2)
4. プログラミング入門 (3)
5. 研究テーマの決定とグループ分け
6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)
7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)
8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)
9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)
10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)
11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)
12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)
13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)
14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)
15. 各グループによる最終的な研究報告

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時 (事前に予約すること)

第 5 セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：永吉 希久子 (准教授)

講義コード：LB55212, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会的排除

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Social Exclusion

3. 授業の目的と概要：

授業目的：近年、貧困や格差の問題を、社会参加からの排除としてとらえる「社会的排除」という概念が注目されている。この授業では社会的排除についての基礎的文献の読解と討論を通して、社会的排除に関する基礎的理論を理解し、現代日本における社会的排除の実態を知るとともに、社会的排除が生じるメカニズムやその抑止の可能性について検討する。

授業内容・方法：授業の前半では、社会的排除についての全般的な理論を学び、後半では、個々の事例や対策として行われている政策について取り上げ、検討する予定である。

4. 学習の到達目標：

- 1) 社会的排除の概念の内容とその特徴を理解し、説明できるようになる。
- 2) 社会的排除が生じるメカニズムについての理論を理解し、説明できるようになる。
- 3) 社会的排除の理論を用いて、日本社会における格差の問題とそれが生じるメカニズムについて説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は3部構成になっている。第一部(1～4回目)では、社会的排除の概念についての理解を深める。第二部(6～10回)では、ホームレス、若年労働者、高齢者、貧困地域の社会的排除を扱った文献の講読を通して、それぞれの対象が置かれている状況を把握するとともに、どのようなメカニズムで排除が生じているのかを知る。特に、学校、家族、職場、社会保障制度が、個々の対象の社会的排除にどのように関連しているのかを考える。第三部(11～14回)では、日本において政府や民間が社会的排除の抑止のために行っているプログラムについて学び、評価する。

授業では、グループごとに担当回を決め、初回授業で指示された文献について紹介を行ってもらう。
それをもとに、全体で議論する。

スケジュールは以下の予定である。

1. イントロダクション
2. 【理論編】社会的排除とは何か
3. 【理論編】シティズンシップと社会的排除
4. 【理論編】福祉国家と社会的排除
5. 【理論編】ライフコースと社会的排除
6. 【事例編】不安定就労
7. 【事例編】子ども
8. 【事例編】高齢者
9. 【事例編】ホームレス
10. 【事例編】剥奪地域
11. 【政策編】福祉政策
12. 【政策編】労働市場政策
13. 【政策編】教育政策
14. 【政策編】都市政策
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業での発表(30%)、ディスカッションへの参加(20%)、最終レポート(50%)

7. 教科書および参考書：

初回授業で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業までに各回の文献を読み、自分なりの疑問点や批判点を挙げておくことが求められる。
また、日本における社会的排除の状況を、統計等を用いて調べておくことが、最終レポート作成に必要となる。

9. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：永吉 希久子 (准教授)

講義コード：LB65211, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

実践計量社会学

2. Course Title (授業題目)：

Quantitative Sociology

3. 授業の目的と概要：

計量的な社会学研究を行うためには、理論についての理解に加え、理論を計量分析可能な形で検証するための操作化の手続きや分析方法についての理解が非常に重要になる。この授業では、計量的な手法で行われた研究論文を講読することにより、そこでどのような操作化が行われているのかを学ぶ。また、そこで行われている分析をレプリケートすることで、実際にデータを分析するためのデータのハンドリングや、分析手法の習得を行う。これによって、自分自身で計量的な手法を用いた論文を書くための実践的な知識を身に付けることが、この授業の目的である。

4. 学習の到達目標：

- ① 社会学理論を計量的に分析する際の、適切な操作化ができるようになる。
- ② 計量社会学で用いられる基本的・発展的な分析手法を習得し、Rを用いて自分で分析ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は分析方法の説明の回、文献内容の理解の回、レプリケートの回に分けられる。レプリケートは無料の統計ソフトRを用いて行う。Rの使い方については第二回の授業で説明するため、事前の知識は必要としない。

具体的なスケジュールは以下を予定しているが、変更の可能性がある。

1. イントロダクション
2. Rの使い方の基礎
3. 家族と規範：岩井・保田 (2008)
4. 重回帰分析を用いたレプリケート (PC 使用)
5. 階層帰属意識：数土 (2012)
6. 多項ロジスティック回帰分析を用いたレプリケート (PC 使用)
7. マルチレベル分析
8. 福祉国家：池田 (2016)
9. マルチレベル分析を用いたレプリケート (PC 使用)
10. 固定効果モデル
11. メンタルヘルス：中澤 (2010)
12. 固定効果モデルを用いたレプリケート (PC 使用)
13. イベントヒストリー分析
14. 職業移動：石田 (2014)
15. イベントヒストリー分析を用いたレプリケート (PC 使用)

6. 成績評価方法：

授業での課題 (40%)、最終レポート (60%)

7. 教科書および参考書：

授業予定参照。参考文献は授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを事前に読み、課題を行うことが求められる。
また、用いた分析方法についての復習を行うことが、最終レポート作成に必要な。

9. その他：なし

重回帰分析や多項ロジスティック回帰の結果が読めることを前提としているので、これらの手法について未習の場合は自分で学ぶなどしてから参加してほしい。

心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
実験心理学概論(心理学概論)	心理学概論	2	阿部 恒之	3	水	2	1
実験心理学概論(心理学概論)	心理学概論	2	坂井 信之	4	月	3	2
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	辻本 昌弘	3	月	4	3
社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学	2	荒井 崇史	4	金	3	4
心理学実験	心理学基礎実験	2	坂井 信之・行場 次朗・阿部 恒之・辻本 昌弘・荒井 崇史	3	火	3、4	5
心理学研究法	心理学研究法	2	坂井 信之・行場 次朗・阿部 恒之・辻本 昌弘・荒井 崇史	4	火	3、4	6
心理学各論	態度の心理学	2	今城 周造	集中(6)			7
実験心理学各論(知覚・認知心理学)	知覚・認知心理学	2	行場 次朗	6	月	5	8
実験心理学各論(感情・人格心理学)	感情・人格心理学	2	阿部 恒之	5	水	1	9
実験心理学各論(神経・生理心理学)	神経・生理心理学	2	坂井 信之	6	水	3	10
実験心理学各論(心理学統計法)	心理調査概論	2	倉元 直樹	5	月	2	11
社会心理学各論(文化心理学)	文化心理学	2	辻本 昌弘	6	金	2	12
社会心理学各論(司法・犯罪心理学)	司法・犯罪心理学	2	荒井 崇史	5	金	3	13
実験心理学演習Ⅱ	感情の心理と生理	2	阿部 恒之	6	水	1	14
実験心理学演習Ⅲ	応用心理学(行動経済学)の文献研究	2	坂井 信之	5	水	3	15
実験心理学演習Ⅳ	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	6	月	2	16
社会心理学演習Ⅰ	犯罪・非行と心理学	2	荒井 崇史	6	木	2	17
社会心理学演習Ⅱ	コミュニティと社会行動	2	辻本 昌弘	5	木	2	18
心理学特殊実験Ⅰ	心理学特殊実験Ⅰ	2	辻本 昌弘・行場 次朗・阿部 恒之・坂井 信之・荒井 崇史	5	火	3、4	19

心理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
心理学特殊実験Ⅱ	心理学特殊実験Ⅱ	2	辻本 昌弘・行場 次朗・ 阿部 恒之・坂井 信之・ 荒井 崇史	6	火	3、4	20

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LB33204, **科目ナンバリング：**LHM-PSY206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理学概論

2. Course Title (授業題目)：

General Psychology

3. 授業の目的と概要：

感情心理学・生理心理学の研究例に題材にとりながら、心理学の基礎を概観する。

適宜、実験や調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究に触れてもらう。

キーワード： 心理学史・感情・ストレス・生理心理学・応用心理学

4. 学習の到達目標：

心理学の成り立ちや、人の心の基本的な仕組み・働きを中心に、心理学に関する広範な視点を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

教科書「心理学の視点 24（第 14-17 章）」の講読を中心に進め、投影で要点を押さえる。主な内容は以下に記すが、ガイダンスで詳述する。

- 1 回目 心理学と諸科学
- 2 回目 心理学の歴史：ヴント以前の心理学
- 3 回目 心理学の歴史：科学的心理学の成立と展開
- 4 回目 心理学の歴史：計算機科学と脳科学の影響
- 5 回目 心理学の諸分野：系統発生的基盤
- 6 回目 心理学の諸分野：個体発生的基盤
- 7 回目 心理学の諸分野：認知的基盤
- 8 回目 心理学の諸分野：言語的基盤
- 9 回目 心理学の諸分野：社会的基盤
- 10 回目 心理学の諸分野：制度的基盤
- 11 回目 心理学の諸分野：文化的基盤
- 12 回目 心理学の諸分野：適応的基盤
- 14 回目 心理学の諸分野：個人的基盤
- 15 回目 試験とまとめ

6. 成績評価方法：

定期試験（60%）、実験調査への参加等の平常点（40%）

7. 教科書および参考書：

心理学の視点 24（阿部恒之ほか 5 名著、国際文献社）

8. 授業時間外学習：

テキストの予習・復習を十分に行うこと。また、実験・調査の一部は時間外学修として実施するので、必ず参加すること。

9. その他：なし

科目名：実験心理学概論（心理学概論）／ General Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LB41301, **科目ナンバリング：**LHM-PSY206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理学概論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Psychology

3. 授業の目的と概要：

毎回実生活で生じる様々な事象を取り上げ、それらを実験心理学ではどのように解釈できるかということを実験例を挙げながら説明する。また、実験とはどのようなものかということを実感してもらうため、実験や調査への協力を求める。

4. 学習の到達目標：

実生活に見られる心理学的現象について、実験心理学ではどのようにアプローチしていくかについて理解し、日常生活で生じる問題が解決できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：心理テストと性格検査（導入）

第2回：心理学と諸科学

第3回：心理学の歴史 I

第4回：心理学の歴史 II

第5回：心理学の歴史 III

第6回：心理学の諸分野：個体発生的基盤

第7回：心理学の諸分野：認知的基盤

第8回：心理学の諸分野：言語的基盤

第9回：心理学の諸分野：社会的基盤

第10回：心理学の諸分野：制度的基盤

第11回：心理学の諸分野：文化的基盤

第12回：心理学の諸分野：適応的基盤

第13回：心理学の諸分野：個人的基盤

第14回：心理学の展開

第15回：まとめ

定期試験

6. 成績評価方法：

定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）

7. 教科書および参考書：

心理学の視点 24 阿部恒之ほか5名 国際文献社 2012

8. 授業時間外学習：

毎回の授業に関する小レポートへの回答が必要である。また、心理学に関する様々な調査・実験に参加し、心理学の知見の習得方法を体験する必要がある。

9. その他：なし

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LB31407, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：

Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：

2 者関係から社会全体までさまざまなレベルの集団や集合体を視野に入れて人間の社会性を論じる。授業では社会心理学の理論モデルや研究例を、日常の具体的現象に関連づけながら解説していく。

4. 学習の到達目標：

社会、集団、家族に関する社会心理学の代表的な理論モデルと研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 態度と行動
2. 社会的影響
3. 社会的現実の構成
4. 多数派と少数派
5. 集合行動
6. 相互依存関係
7. 社会的ジレンマ
8. 援助行動
9. 規範と信頼
10. 文化の影響
11. 集団間関係
12. 社会的自己
13. 集団意思決定
14. 家族の機能と関係
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜資料を配布するとともに参考書を紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

9. その他：なし

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。履修希望者が多すぎる場合には履修者を制限することがある。

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）／ Social, Group and Family Psychology (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：荒井 崇史（准教授）

講義コード：LB45303, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会・集団・家族心理学

2. Course Title (授業題目)：

Social, Group and Family Psychology

3. 授業の目的と概要：

本授業では、社会心理学における基礎的なトピックス（社会的認知、態度、対人関係・対人行動、集団的相互作用、家族の機能等）についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で紹介する。

4. 学習の到達目標：

社会的認知、態度、対人魅力、援助行動、攻撃行動、集団の影響、家族の機能等、本授業で取り上げるトピックスに関する社会心理学的理論を理解し、説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：社会心理学の概説
2. 対人認知
3. 態度と行動
4. ステレオタイプと偏見
5. 自己評価と自尊感情
6. 自己呈示と自己開示
7. 対人関係の形成と発展
8. 対人コミュニケーション
9. 援助行動と攻撃行動
10. 社会的相互作用
11. 集団におけるパフォーマンス
12. 同調と服従
13. ソーシャルサポート
14. 家族の人間関係
15. 本授業の総括と知識確認

6. 成績評価方法：

最終試験・レポート 60%, 受講態度 40%（授業内課題 20%, その他 20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

9. その他：なし

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：心理学実験／ Psychological Experiment (Experimentation)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：坂井 信之, 行場 次朗, 阿部 恒之, 辻本 昌弘, 荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LB32304, 科目ナンバリング：LHM-PSY208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理学基礎実験

2. Course Title (授業題目)：

Basic Psychological Experiment

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

4. 学習の到達目標：

心理学実験の基本を実験を通じて学び、基本的スキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：社会的態度の測定

第3回：統計解析法

第4回：SPSS

第5回：動物の行動観察

第6回：記憶検索

第7回：鏡映描写

第8回：囚人のジレンマ

第9回：ステレオタイプ

第10回：感覚の尺度化

第11回：反応時間

第12回：幾何学的錯視

第13回：ポリグラフ

第14回：脳機能計測

第15回：応用心理学分野実験

6. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

心理学実験室で指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

後期の心理学研究法と連続履修すること。 ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：心理学研究法／ Psychological Methodology (Research Method)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時, 後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：坂井 信之, 行場 次朗, 阿部 恒之, 辻本 昌弘, 荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-PSY209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：

Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。

4. 学習の到達目標：

心理学実験・調査法などの基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：図書館情報検索実習

第2回：心理の仕事（家裁調査官）

第3回：フィールドワーク I

第4回：フィールドワーク II

第5回：心理測定法

第6回：卒論修論中間発表会

第7回：WAIS-III 知能検査

第8回：ロールシャッハテスト I

第9回：ロールシャッハテスト II

第10回：感情評価（覚醒水準の測定）

第11回：カウンセリング

第12回：臨床心理学

第13回：心理の資格

第14回：社会調査会社における心理学の応用

第15回：通期課題のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

心理学実験室で指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：なし

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

前期の心理学実験と連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：心理学各論／ Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：今城 周造 (非常勤講師)

講義コード：LB98828, 科目ナンバリング：LHM-PSY301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

態度の心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of attitude

3. 授業の目的と概要：

私たちが生きていくうえで、環境をどう評価し、環境とどう関わって行くかは重要なテーマである。環境内の対象への評価と行動は、態度と深い関係がある。態度の形成と変化、生活における態度の役割について、幅広く解説していく。

4. 学習の到達目標：

態度と態度変化に関する社会心理学の代表的な理論と研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 態度概念：狭義には/広義には
2. 態度測定：どの側面をどう測るか
3. 態度形成の規定因：どうしてそう考えるようになるか
4. 態度機能：態度は何の役に立つか
5. 態度強度：ぶれない態度/ふらつく態度—違いは何か
6. 態度-行動関係：態度が行動をもたらす/その逆も?
7. 態度変化の諸相：どの方向へどの程度
8. 説得の構成要素：それは説得ではない
9. 説得の中心ルート：よく考えて意見を変える
10. 説得の周辺ルート：直観的に意見を変える
11. 説得過程の諸理論：意見が変わる多様な理由
12. 説得への抵抗：「聞き流す」「拒否する」
13. 態度と文化：日本ではそうでもない?
14. 健康に関する態度と説得：Health communication
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

平常点 30% (コメントカードによる)、筆記試験 70%

7. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は講義内で紹介します。

8. 授業時間外学習：

予習よりも復習を重視します。資料を毎回配布しますので、それをもとに学習を進め、前回の講義の内容をよく理解したうえで出席してください。

9. その他：なし

科目名：実験心理学各論（知覚・認知心理学）／ Psychology of Perception and Cognition (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：行場 次朗（教授）

講義コード：LB61503, **科目ナンバリング：**LHM-PSY312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

知覚・認知心理学

2. Course Title (授業題目)：

Perceptual and cognitive psychology

3. 授業の目的と概要：

外界の情報、あるいは自らの身体内の情報を、人間がどのような機構と機能により、受容し、統合し、解釈するかについて、心理学的研究を中心にして、基礎的知見を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

人間の感覚・知覚の機序及びその障害について学び、理解を深める。

人の認知や記憶、思考パターンの特性について、それらの障害も含めて学び、理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 感覚モダリティと感覚閾、感覚順応
2. 視覚のはたらき：空間知覚 運動知覚、錯視
3. 物体知覚 顔認知
4. 色覚多様性、空間失認、物体失認
5. 聴覚系のはたらきと音声コミュニケーション
6. 化学的感覚 嗅覚 味覚 体性感覚
7. クロスモーダル知覚と錯覚
8. 選択的注意と不注意
9. 情報処理の二方向性：ボトムアップとトップダウン
10. 短期記憶 ワーキングメモリ 心的操作
11. 意味記憶 潜在記憶 イメージ
12. エピソード記憶 偽りの記憶
13. 宣言的記憶 手続き的記憶 スキーマ
14. 演繹と帰納 判断バイアス
15. 認知と思考のゆがみと心の障害

6. 成績評価方法：

出席 20%、期末試験 80%

7. 教科書および参考書：

教科書は特に使用しないが、以下の参考書を用意することが望ましい。

参考書：感覚・知覚・認知の基礎 乾 敏郎（監修）（株）オーム社 ISBN 9784274211492

8. 授業時間外学習：

授業中に指定した資料や URL を通して、授業内容に関する情報や知識を収集すること。

9. その他：なし

オフィスアワーは特に設けないが、gyoba@m. tohoku. ac. jp にメールで問い合わせること。

科目名：実験心理学各論（感情・人格心理学）／ Psychology of Emotion and Personality (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LB53102, 科目ナンバリング：LHM-PSY313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

感情・人格心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of Emotion and Personality

3. 授業の目的と概要：

具体的な研究事例に触れながら，感情と人格について総合的に学ぶ。

キーワード： ジェームズ-ランゲ説・キャノン-バード説・ストレス・交感神経副腎髄質系・HPA 系・自尊心・自意識

4. 学習の到達目標：

感情と人格について以下のことを学び，日常生活における機能と影響を理解する。

①感情に関する理論及び感情喚起の機序，②感情が行動に及ぼす影響，③人格の概念及び形成過程，④人格の類型、特性等。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

教科書「ストレスと化粧の社会生理心理学」の講読を中心に進め，投影で要点を押さえる。主な内容は以下の通りだが，ガイダンスで詳述する。

- 1 回目 ガイダンス，感情の基礎
- 2 回目 感情の生物学的基盤
- 3 回目 感情の理論 1 古典的理論
- 4 回目 感情の理論 2 基本的感情説と次元説
- 5 回目 感情の理論 3 身体性を巡る理論の整理
- 6 回目 感情と行動
- 7 回目 感情の測定
- 8 回目 援助行動と共感性
- 9 回目 感情の制御・調整
- 10 回目 人格の概念
- 11 回目 知的機能の個人差
- 12 回目 人格の形成と変容
- 13 回目 人格の理論
- 14 回目 自尊心と自意識
- 15 回目 人格の障害

6. 成績評価方法：

期末レポート（50%），平常点と3回程度の小レポート（50%）

7. 教科書および参考書：

ストレスと化粧の社会生理心理学（阿部恒之著，フレグランスジャーナル社）

8. 授業時間外学習：

テキストを早い段階で通読すること。関連する論文を自ら見つけて，学んだ内容を発展的に自習して欲しい。

9. その他：なし

科目名：実験心理学各論（神経・生理心理学）／ Neuroscience and Physiological Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LB63304, 科目ナンバリング：LHM-PSY314J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

神経・生理心理学

2. Course Title (授業題目)：

Neuroscience and Physiological Psychology

3. 授業の目的と概要：

この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているのかについて理解することができるようになる

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進捗の予定は以下の通り。

第1回 日常生活を支える脳の仕組み

第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に

第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質

第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚

第5回 脳を測る：電気信号と化学信号

第6回 経験に基づく脳の変化

第7回 人の知情意を司る脳

第8回 ものを見るのは目か脳か？

第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？

第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？

第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？

第12回 お腹が空く理由は？

第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？

第14回 記憶を失った青年の話

第15回 心の病気＝脳の病気

6. 成績評価方法：

定期試験（70％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30％）

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布・紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。

9. その他：なし

科目名：実験心理学各論（心理学統計法）／ Statistics on Psychology (Special lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：倉元 直樹（兼務教員）

講義コード：LB51205, 科目ナンバリング：LHM-PSY315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

心理調査概論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Psychological Research

3. 授業の目的と概要：

主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法や検査法、記述式のテスト、小論文、面接試験等、主観的な評価を伴う測定法を用いた尺度を開発・自作する際の技術に関わる理論的背景について学ぶ。同時に、心理検査等、心理学的測定に関わる結果を評価するための理論について、その基礎的な概念を学ぶ。信頼性、妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論とその発展形である一般可能性理論、さらに探索的因子分析を中心に測定法の基礎を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

調査法の背景にある測定理論の基礎的な理解と論文によく用いられる指標に関するリテラシー。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション（テーマ、および、教科書の紹介）（1 コマ）
 2. 古典的テスト理論の基礎（測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念、妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数、信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味、並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン＝ブラウンの公式）（4～7 コマ）
 3. 信頼性の評価（再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理、スピアマン＝ブラウンの公式の一般化、 α 信頼性係数とその意味、内的整合性と測定誤差の仮定、KR 20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ、一般化可能性理論）（4～6 コマ）
 4. 探索的因子分析（因子分析の基礎概念、単純構造と尺度の分類、因子軸の回転、因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造、共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順）（3～5 コマ）
 5. 心理尺度作成の実際（心理学的構成概念の構築、下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集、テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率と IT 相関）（1～2 コマ）
 6. 期末考査（1 コマ）
6. 成績評価方法：
- 出席 [40% 程度]・討論参加 [20% 程度]・期末試験 [40% 程度]
7. 教科書および参考書：
- (1) E. G. カーマイン・R. A. ツェラー著（1983）『テストの信頼性と妥当性』, 朝倉書店
 - (2) 末永俊郎編（1987）『社会心理学研究入門』, 東京大学出版会
8. 授業時間外学習：
- 授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。受講者の理解度に応じて指定外の参考書を利用する場合がある。
9. その他：なし

科目名：社会心理学各論（文化心理学）／ Cultural Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-PSY316J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文化心理学

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Psychology

3. 授業の目的と概要：

文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。

4. 学習の到達目標：

文化心理学の代表的な理論モデルと具体的な研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化心理学とは
 2. 生まれか育ちか
 3. 心と文化
 4. 日本文化論
 5. 東洋と西洋の比較
 6. 文化と自己
 7. 適応する人間像
 8. 適応論による研究例
 9. 移民の異文化体験
 10. 文化変容
 11. 複数文化の影響
 12. 文化的アイデンティティ
 13. 多文化主義
 14. 異文化の理解
 15. まとめ
6. 成績評価方法：
レポート
7. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。授業中に適宜資料を配布するとともに参考書を紹介する。
8. 授業時間外学習：
各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。
9. その他：なし

科目名：社会心理学各論（司法・犯罪心理学）／ Forensic and Criminal Psychology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：荒井 崇史（准教授）

講義コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-PSY317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

司法・犯罪心理学

2. Course Title (授業題目)：

Forensic and Criminal Psychology

3. 授業の目的と概要：

本授業では、犯罪心理学の学問的位置づけ、刑事司法制度や犯罪統計など犯罪心理学を学ぶ上で基礎的な知識、犯罪原因に関する基礎理論、そして司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや援助についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックの基礎知識及び最新の研究を講義形式で説明する。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の3点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪原因論や犯罪機会論の視点から犯罪や非行の原因を理解する。
- (3) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや心理学的援助を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：司法・犯罪心理学の歴史
2. 犯罪と犯罪心理学
3. 刑事司法制度（1）：司法・犯罪に関連する法律
4. 刑事司法制度（2）：刑事司法制度の流れ
5. 犯罪統計の読み方
6. 犯罪・非行の生物学的原因
7. 犯罪・非行の心理学的原因
8. 犯罪・非行の社会学的原因
9. 環境と犯罪
10. 犯罪・非行の心理学的アセスメント
11. 犯罪者の処遇
12. 法と心理学
13. 科学的な犯罪捜査
14. 犯罪予防と地域社会への情報提供
15. 本授業の総括と知識確認

6. 成績評価方法：

試験 60%, 受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

9. その他：なし

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：実験心理学演習Ⅱ／ Experimental Psychology (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LB63102, **科目ナンバリング：**LHM-PSY319J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

感情の心理と生理

2. Course Title (授業題目)：

The psychology on emotion and body

3. 授業の目的と概要：

この授業では、感情心理学・生理心理学に関して議論する。各自が授業時に示されたテキストを読み、その内容を発表し、全員で議論する。

キーワード：心身問題、身体性、システム1・2、ジェームズ、キャノン、ダマシオ、ルドゥー

4. 学習の到達目標：

感情心理学・生理心理学について深く理解し、心と体の関連性について定見を得る。

また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初めの2回は、通常の授業形式で、感情心理学・生理心理学の概要や、発展的研究を紹介する。3回目以降は、学生による発表と討議によって行われる。

履修人数によって変更はあるが、一人が2回程度の発表を行うことを目指す。

- 1回目 感情心理学の基礎
- 2回目 生理心理学の基礎
- 3回目 発表と討議 (1組目)
- 4回目 発表と討議 (2組目)
- 5回目 発表と討議 (3組目)
- 6回目 発表と討議 (4組目)
- 7回目 発表と討議 (5組目)
- 8回目 発表と討議 (6組目)
- 9回目 発表と討議 (7組目)
- 10回目 発表と討議 (8組目)
- 11回目 発表と討議 (9組目)
- 12回目 発表と討議 (10組目)
- 13回目 発表と討議 (11組目)
- 14回目 発表と討議 (12組目)
- 15回目 まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、平常点と3回程度の発表 (50%)

7. 教科書および参考書：

授業中にプリント等を配布する。web経由での配布もあり。

8. 授業時間外学習：

自ら担当するテキストを読み、内容をわかりやすく要約し、パワーポイントで発表資料を作成する。授業2日前までにメール添付で提出すること（詳細は授業中に指示）。他の受講生の発表資料もコンピュータ上で閲覧できるようにするので、自分が発表当番でないときは、それを予習して授業に臨むこと。

9. その他：なし

発表資料は受講生に公開・閲覧されることを前提に作成すること。

科目名：実験心理学演習Ⅲ／ Experimental Psychology (Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LB53311, **科目ナンバリング：**LHM-PSY320J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

応用心理学（行動経済学）の文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Seminars on Applied Psychology and Behavioral Economics

3. 授業の目的と概要：

この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

4. 学習の到達目標：

- ① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
- ② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

最初に与えられた英語の専門書（Behavioral Economics）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

第 1 回 導入（講義の進め方／担当決め）

第 2 回 プレゼンテーションの方法

第 3 回 文献講読その 1

第 4 回 文献講読その 2

第 5 回 文献講読その 3

第 6 回 文献講読その 4

第 7 回 文献講読その 5

第 8 回 文献講読その 6

第 9 回 文献講読その 7

第 10 回 文献講読その 8

第 11 回 文献紹介その 1

第 12 回 文献紹介その 2

第 13 回 文献紹介その 3

第 14 回 文献紹介その 4

第 15 回 文献紹介その 5

6. 成績評価方法：

() 筆記試験・(○) リポート[40%]・() 出席

(○) その他（発表態度）[60%]

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。

9. その他：なし

何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@m.tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。

科目名：実験心理学演習Ⅳ／ Experimental Psychology (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：倉元 直樹（兼務教員）

講義コード：LB61207, **科目ナンバリング：**LHM-PSY321J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Fundamentals of Psychological Measurement

2. Course Title (授業題目)：

Fundamentals of Psychological Measurement

3. 授業の目的と概要：

量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。

英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。

4. 学習の到達目標：

心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1 コマ)

2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10 コマ)

3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10 コマ)

(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)

4. まとめ (1 コマ)

6. 成績評価方法：

出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

7. 教科書および参考書：

(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.

(2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

8. 授業時間外学習：

担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

9. その他：なし

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：社会心理学演習 I / Social Psychology (Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：荒井 崇史 (准教授)

講義コード：LB64210, **科目ナンバリング：**LHM-PSY322J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

犯罪・非行と心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：

本授業の目的は、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読することを通して、犯罪や非行に関連する心理学的な知識を深めることである。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の2点である。

- (1) 社会心理学並びに犯罪心理学の最新の研究に触れることで、犯罪・非行に関する心理学理論や知見への理解を深める。
- (2) 心理学の英文文献を読解する力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 1
3. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 2
4. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 3
5. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 4
6. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 5
7. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 6
8. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 7
9. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 8
10. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 9
11. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 10
12. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 11
13. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 12
14. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 13
15. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 14

6. 成績評価方法：

レポート (30%), 授業準備 (30%), 発表・討論参加 (40%)

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。担当する英文論文は授業内で決定するが、基本的には各自が準備する。なお、参考書等については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

9. その他：なし

履修状況によって、授業の運営形態や発表回数が変更になることがある。初回の授業で運営形態や担当を検討しますので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学演習Ⅱ／ Social Psychology (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：辻本 昌弘 (准教授)

講義コード：LB54210, **科目ナンバリング：**LHM-PSY323J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コミュニティと社会行動

2. Course Title (授業題目)：

Community and Social Behavior

3. 授業の目的と概要：

この授業では、コミュニティ・文化・社会行動・集合現象などに関する社会心理学の論文を精密に読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。受講生は、事前に論文を読み、関連文献を調べて資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

1. コミュニティ・文化・社会行動に関する社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。
2. 論文や文献を調べて的確に発表する力を涵養する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 (授業の進め方の説明)
2. コミュニティの文化と変容①
3. コミュニティの文化と変容②
4. コミュニティの文化と変容③
5. 文化と問題対処行動①
6. 文化と問題対処行動②
7. 移動・アイデンティティ・適応行動①
8. 移動・アイデンティティ・適応行動②
9. 移動・アイデンティティ・適応行動③
10. 社会問題と集合行動①
11. 社会問題と集合行動②
12. 社会問題と集合行動③
13. アクション・リサーチ①
14. アクション・リサーチ②
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表 (50%)、出席と討論参加 (50%)

7. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。

9. その他：なし

上に示した授業計画はおおよその予定であり、履修状況に応じて調整を行うことがある。

科目名：心理学特殊実験Ⅰ／ Individual Instruction on Psychological StudyⅠ (Special Experimentation)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：辻本 昌弘, 行場 次朗, 阿部 恒之, 坂井 信之, 荒井 崇史 (教授、准教授)

講義コード：LB52307, **科目ナンバリング：**LHM-PSY324J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理学特殊実験Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Individual Thematic Study on PsychologyⅠ

3. 授業の目的と概要：

心理学基礎実験、その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むために是非とも履修することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

心理学の実験や調査の方法を実践的に学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 研究テーマの選定 1
3. 研究テーマの選定 2
4. 理論と方法の学習 1
5. 理論と方法の学習 2
6. 研究計画の立案 1
7. 研究計画の立案 2
8. 実験・調査の実施 1
9. 実験・調査の実施 2
10. 実験・調査の実施 3
11. 実験・調査の実施 4
12. データの分析 1
13. データの分析 2
14. レポート作成 1
15. レポート作成 2

6. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。

9. その他：なし

履修は、原則として心理学専修の学生に限る。次セメスターの心理学特殊実験Ⅱと連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

科目名：心理学特殊実験Ⅱ／ Individual Instruction on Psychological Study II (Special Experimentation)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時, 後期 火曜日 4講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：辻本 昌弘, 行場 次朗, 阿部 恒之, 坂井 信之, 荒井 崇史 (教授、准教授)

講義コード：LB62307, **科目ナンバリング：**LHM-PSY325J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理学特殊実験Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Individual Thematic Study on Psychology II

3. 授業の目的と概要：

心理学基礎実験、その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに、受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し、実験や調査を行い、データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むために是非とも履修することが望ましい。

4. 学習の到達目標：

心理学の実験・調査の方法を実践的に学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 研究テーマの選定 1
3. 研究テーマの選定 2
4. 理論と方法の学習 1
5. 理論と方法の学習 2
6. 研究計画の立案 1
7. 研究計画の立案 2
8. 実験・調査の実施 1
9. 実験・調査の実施 2
10. 実験・調査の実施 3
11. 実験・調査の実施 4
12. データの分析 1
13. データの分析 2
14. レポート作成 1
15. レポート作成 2

6. 成績評価方法：

出席 (30%)、レポート (70%)

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。

9. その他：なし

履修は、原則として心理学専修の学生に限る。前セメスターの心理学特殊実験Ⅰと連続履修すること。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
文化人類学概論	アメリカ人類学における文化進化主義(1)	2	沼崎 一郎	3	火	4	1
文化人類学概論	アメリカ人類学における文化進化主義(2)	2	沼崎 一郎	4	火	4	2
文化人類学基礎講読	ジェンダー人類学入門	2	沼崎 一郎	3	火	2	3
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	川口 幸大	4	火	3	4
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	月	4	5
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	4	月	4	6
文化人類学各論	災害人類学	2	ボレー・ベンメレン・セバスチャン	6	金	3	7
文化人類学各論	博物館人類学	2	伊藤 敦規	集中(5)			8
文化人類学各論	ヨーロッパ人類学の現在	2	松前 もゆる	集中(6)			9
文化人類学演習	比較文化研究法	2	沼崎 一郎	5	火	3	10
文化人類学演習	文化人類学研究計画法	2	沼崎 一郎	6	火	3	11
文化人類学演習	Native American Literature	2	トニー・マガグナ	6	木	2	12
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	5	水	3、4	13
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	6	水	3、4	14

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB32401, **科目ナンバリング：**LHM-CUA201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

アメリカ人類学における文化進化主義（1）

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Evolutionism in American Anthropology (1)

3. 授業の目的と概要：

アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、ルイス・ヘンリー・モルガンとレズリー・ホワイトを中心に、19 世紀から 20 世紀前半の流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. 学習の到達目標：

- (1) 学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- (2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- (3) 論述試験に慣れる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 背景 1 18～19 世紀の文明思想
3. 背景 2 19～20 世紀の進化思想
4. 背景 3 19～20 世紀のアメリカ社会史
5. 背景 4 19～20 世紀のアメリカ民族学・人類学
6. ルイス・ヘンリー・モルガン：人と業績
7. イロコイ同盟の民族誌から親族の比較研究へ
8. 『古代社会』における文明思想と進化思想
9. レズリー・ホワイト：人と業績
10. 『文化の科学』における文化観と進化思想
11. 『文化の進化』における文明観と進化思想
12. 『現代資本主義文化』における資本主義論
13. モルガンからホワイトへ
14. 社会ダーウィニズムとアメリカ人類学
15. 総括と学期末試験

6. 成績評価方法：

講義ノート提出（50％）

論述試験（50％）

7. 教科書および参考書：

弓削尚子『啓蒙の世紀と文明観』世界史リブレット

江上生子『ダーウィン』清水書院

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る
- (2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

9. その他：なし

授業中に、電子辞書、ノート PC（タブレット）等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB42401, **科目ナンバリング：**LHM-CUA201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

アメリカ人類学における文化進化主義（2）

2. Course Title（授業題目）：

Cultural Evolutionism in American Anthropology（2）

3. 授業の目的と概要：

アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、ロバート・レッドフィールドを中心に、20 世紀前半の流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上でもっとも大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. 学習の到達目標：

- （1）学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- （2）講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- （3）論述試験に慣れる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 前期の復習
3. ロバート・レッドフィールド：人と業績
4. 初期シカゴ人類学
5. メキシコ調査と農村研究
6. 「民俗文化」概念の提唱
7. 『未開社会とその変貌』（1）
8. 『未開社会とその変貌』（2）
9. 『小さな共同体』
10. 『農民社会と文化』
11. レッドフィールドの文化観
12. レッドフィールドの文明観
13. レッドフィールドの歴史観
14. レッドフィールドと文化進化主義
15. 総括と学期末試験

6. 成績評価方法：

講義ノート提出（50％）

論述試験（50％）

7. 教科書および参考書：

弓削尚子『啓蒙の世紀と文明観』世界史リブレット

江上生子『ダーウィン』清水書院

8. 授業時間外学習：

- （1）教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る
- （2）個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

9. その他：なし

授業中に、電子辞書、ノート PC（タブレット）等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB32205, **科目ナンバリング：**LHM-CUA202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ジェンダー人類学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Anthropology of Gender

3. 授業の目的と概要：

ジェンダー人類学の民族誌的事例を初学者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、ジェンダー人類学の理論の初歩的理解を目指す。

受講生は、毎回 2-3 ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。そのうえで、内容について討議する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英文読解力を養う。
- (2) ジェンダー人類学の理論の基礎と民族誌的事例を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. Ch.3 Men and Not-Men: Sexuality and Gender in Brazil p.43-45
3. Ch.3 " p.45-46
4. Ch.3 " p.47-48
5. Ch.3 " p.49-52
6. Ch.3 " p.53-54
7. Ch.3 " p.55-56
8. 第3章のまとめとテスト
9. Ch.4 Liminal Gender Roles in Polynesia p.57-58
10. Ch.4 " p.58-61
11. Ch.4 " p.61-64
12. Ch.4 " p.64-66
13. Ch.4 " p.66-70
14. Ch.4 " p.70-71
15. 第4章のまとめとテスト

6. 成績評価方法：

毎回の授業での訳文の口頭発表と修正 (50%)

筆記試験 (50%)

7. 教科書および参考書：

Serena Nanda, Gender Diversity: Cross-Cultural Variations, 2nd edition, Waveland, 2014.

8. 授業時間外学習：

毎回、3 ページ分の訳文を準備し、OneDrive の所定のフォルダにアップロードしておく。授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。

9. その他：なし

人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB42305, **科目ナンバリング：**LHM-CUA202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代人類学入門

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、現代人類学の理論と方法とを初学者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。

受講生は、毎回 6 ～ 7 ページ程度予習して授業に臨み、順番に各段落の要約を発表する。そのうえで、内容について討議する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英文読解力を養う。
- (2) 人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 人類学の歴史
3. 文化とは
4. 家族親族
5. 結婚
6. 性
7. 宗教
8. 儀礼
9. 経済
10. エスニシティ
11. 移動とグローバリゼーション
12. 観光
13. フィールドワークと民族誌
14. 人類学と社会
15. 総合討論

6. 成績評価方法：

英文要約の口頭発表と授業での討論 (50%)

学期末の要約ノート提出 (50%)

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する

8. 授業時間外学習：

毎週、6 ～ 7 頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討論を踏まえて、要約ノートを修正する。毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。

9. その他：なし

人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB31403, **科目ナンバリング：**LHM-CUA203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：

文化人類学には、いくつかの代表的な主題がある (家族、ジェンダー、宗教、経済、移動など)。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各主題に関連した代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の考え方と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。

4. 学習の到達目標：

基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 文化人類学とは
3. フィールドワーク
4. 家族と親族
5. 宗教
6. ジェンダーとセクシュアリティ
7. 社会関係
8. 植民地主義
9. エスニシティ
10. 移民
11. トランスナショナリズム
12. 多文化共生
13. 観光
14. 経済
15. 人類学の応用

6. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他 (授業時の口頭発表と議論参加) [40%]

7. 教科書および参考書：

上水流久彦ほか編『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂。

他の文献については授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業についての予習ノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB41404, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：

文化人類学には、いくつかの代表的な理論や方法論がある（機能主義、構造主義、ジェンダー論、開発人類学など）。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各理論をもとに書かれた代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の理論と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。

4. 学習の到達目標：

専門文献の講読を通して、文化人類学の理論と研究方法について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 文化人類学の練習問題
3. 文化進化論＋文化伝播主義
4. 文化相対主義
5. 機能主義
6. 構造主義
7. 象徴人類学＋解釈人類学
8. エスニシティ論
9. 環境人類学
10. 医療・身体論
11. ジェンダー論
12. 開発論
13. 観光人類学
14. 多文化主義論
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業についての予習ノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン（兼務教員）

講義コード：LB65205, **科目ナンバリング：**LHM-CUA301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

災害人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：

文化人類学における 21 世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disaster という言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の類型、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. 学習の到達目標：

1. 災害問題について理解を深める。
2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。
3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. イントロダクション：現代世界における災害
- II. 人類学の視点から見た災害災害
- III. 災害に関する宗教団体の理論
- IV. 災害に関する自然科学の視点
- V. 映画スクリーンく 1: 災害の環境的と文化的の側面は何か
- VI. 災害時の社会的連絡
- VII. 災害における脆弱性
- VIII. 減災におけるレジリエンス
- IX. 被災者のコミュニティの強制変位
- X. 災害後の復興と社会正義
- XI. 災害における死と追悼のポリティクス
- XII. 博物館に災害の記憶と表示
- XIII. 災害ツーリズム
- XIV. 映画スクリーンく 2: 災害対応に携わるグループと各自目指
- XV. フィナーレ：将来の災害文化人類学

6. 成績評価方法：

出席、コメントとワークショップのレポートを総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書はなし。読書リストを教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

9. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), **単位数：**2

担当教員：伊藤 敦規 (非常勤講師)

講義コード：LB98829, **科目ナンバリング：**LHM-CUA301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

博物館人類学

2. Course Title (授業題目)：

Museum Anthropology

3. 授業の目的と概要：

世界の民族集団の文化や生活様式を伝えるために民族学博物館が作られてきた。スミソニアン協会の国立自然史博物館、アメリカ自然史博物館、大英博物館、オランダ国立民族学博物館、ロシアのクンストカメラ、日本の国立民族学博物館といった大規模な機関から、大学附属博物館や地域博物館までさまざまな形態がある。どの機関も創設から現在まで展示替えを繰り返し、博物館活動を改良してきた。本講義では、文化人類学における物質文化研究や民族学博物館の諸活動を俯瞰的かつ時系列的に理解すると共に、現代の博物館活動を行う上で重要な視点となっているソースコミュニティの人々との協働や民族誌資料のデジタル利用に際する著作権処理の問題といった最新の事例も学ぶ。国立民族学博物館が貸し出しているキットを用いて実際に民族誌資料に触れたり、キャプションの付され方などを学んだりすると共に、仙台市近郊の博物館を訪問し、民族誌・民俗資料の展示されている様子も実見する。こうした活動を通して、色々な展示実践を文化人類学的な視点に則って批判的に捉えられるような視点を養う。講義や演習の形式で授業を進めると共に、受講者には民族誌資料のサンプルを使用したモノや情報の収集と整理と展示を実践的に学ぶための課題を課す。

4. 学習の到達目標：

1. 博物館活動や民族誌資料に関する人類学的な理解を深める
2. 民族誌資料展示の理解の仕方を習得し、文化人類学的視点から批判的に捉えられるようにする
3. 資料展示のやり方を実践的に習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに 講義内容と方法の説明
2. 文化人類学における物質文化研究
3. 博物館活動：モノの収集、整理、保存、保管、研究、展示、返還
4. 欧米の民族学博物館と民族誌展示
5. 日本の民族学博物館と民族誌展示
6. 博物館とソースコミュニティの人々との協働
7. 民族誌展示におけるデジタル機器利用
8. 民族誌資料の著作権処理と孤児著作物化の問題
9. 『民族誌資料展示会』開催の趣旨説明
10. 校外学習、展示会・展示場実見
11. 校外学習、展示会・展示場実見
12. 校外学習、展示会・展示場実見
13. 『民族誌資料展示会』制作
14. 『民族誌資料展示会』制作
15. 『民族誌資料展示会』講評

6. 成績評価方法：

出席、課題レポート、『民族誌資料展示会』制作作品ならびに講評への参加

7. 教科書および参考書：

『展示する人類学』（高倉浩樹編、昭和堂、2015）

『国立民族学博物館収蔵「ホビ製」木彫人形資料熟覧——ソースコミュニティと博物館資料との「再会」1』（伊藤敦規編、国立民族学博物館、2017）

8. 授業時間外学習：

『民族誌資料展示会』の制作に関して、講義時間中の完成が困難な場合は、授業時間外学習を行う。

9. その他：なし

校外学習、展示会・展示場実見の会場は仙台市内か近郊の機関を予定していますが、講義初日にお知らせします。移動費と入場料は自己負担とします。

『民族誌資料展示会』制作の回については、ノートPCやタブレット端末の利用を推奨する。

講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), **単位数：**2

担当教員：松前 もゆる (非常勤講師)

講義コード：LB98830, **科目ナンバリング：**LHM-CUA301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ人類学の現在

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Europe

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパをフィールドとする人類学的研究は、人類学においては後発の分野であるが、近年、日本においても、またヨーロッパ(あるいは欧米)においても、新たな研究が蓄積されつつある。本授業では、いわゆる西欧だけでなく東欧も視野に入れ、とくに体制転換と EU 拡大、移動・移住、共同性、ジェンダーといったテーマに注目しながら、ヨーロッパ人類学の最近の議論を概観したい。ヨーロッパ地域への人類学的アプローチの可能性について学ぶとともに、そこから人類学全体の議論につなげて理解を深めることが本授業の目的である。

4. 学習の到達目標：

1. ヨーロッパを対象とする人類学的研究について、基本的な知識を身につける。
2. ヨーロッパの人類学的研究を人類学全体の議論とつなげて考え、自分なりに検討できるようになる。
3. 人類学的アプローチの特徴を知り、現代ヨーロッパの諸課題・諸現象を考える視角のひとつについて理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ヨーロッパという地域と人類学的アプローチ
2. 地中海ヨーロッパの語られ方—家族、ジェンダーと「名誉と恥」
3. 家族・村落研究の古典を読む
4. 民族、国家、ナショナリズム
5. EU 統合とヨーロッパ・アイデンティティ
6. 体制転換の人類学
7. 体制転換とジェンダー—体制転換の人類学②
8. 移民から見たヨーロッパ
9. 難民の人類学
10. 国際労働移動とジェンダー
11. 仕事の人類学—ヨーロッパの事例から
12. ヨーロッパにおける移動と場所
13. 国境をこえる家族
14. EU 拡大とシティズンシップ
15. 新たな共同性を考える

6. 成績評価方法：

レポート 60%、参加状況 40%により評価する。

なお、参加状況は、授業内での発言や授業後のコメント提出状況を含めて判断する。

7. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。

なお、以下の本を参考書としてあげておく。

石川真作・渋谷努・山本須美子(編)『周縁から照射する EU 社会』世界思想社、2012 年。

佐々木史郎・渡邊日日(編)『ポスト社会主義以後のスラヴ・ユーラシア世界』風響社。

8. 授業時間外学習：

これまでに履修した人類学関連の授業で学んだことと本授業の内容を照らし合わせ、参考書などにも目を通して、個々の考察を深めてほしい。

9. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎 (教授)

講義コード：LB52308, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

比較文化研究法

2. Course Title (授業題目)：

Cross-Cultural Analysis

3. 授業の目的と概要：

特定の慣習をひとつ選び、その慣習について比較文化的に考察するレポートを作成する。毎回の授業においては、各人がレジユメを準備し、それぞれの研究の進捗状況を報告して、クラス・ディスカッションを行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 民族誌資料検索の方法を身につける。
- (2) 文献資料から「民族誌的事実」を抽出する方法を習得する。
- (3) 「民族誌的事実」を文化横断的に比較し、人類学的に概念化するスキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究テーマの探索 1 ブレインストーミング
3. 研究テーマの探索 2 研究室所蔵の文献を調べる
4. 研究テーマの決定
5. 比較対象とする文化の探索 1 研究室所蔵の事典類を調べる
6. 比較対象とする文化の探索 2 広く民族誌を探す
7. 比較対象とする文化の決定
8. 文献収集 1 書籍を集める
9. 文献収集 2 論文を集める
10. 比較文化データベースの作成 民族誌的「事実」の収集
11. 比較文化的分析 1 民族誌的「事実」の比較検討
12. 比較文化的分析 2 民族誌的「事実」と人類学的「理論」の対照
13. 研究レポート執筆 1 序論執筆とクラス討論
14. 研究レポート執筆 2 本論執筆とクラス討論
15. 研究レポート執筆 3 結論執筆とクラス討論

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

6. 成績評価方法：

レジユメと口頭発表 [50%]

レポート [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書： 沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

参考書は、教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な分権の収集と読解、比較文化データベースの作成、研究レポート下書の執筆。

Dropbox を利用し、データベースおよびレポート下書の添削を行う。

9. その他：なし

3 回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB62308, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

文化人類学研究計画法

2. Course Title (授業題目)：

Research Design in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：

主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。
- (2) 研究計画の立て方を体得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究トピックの探索
3. 研究トピックの決定
4. 研究テーマの探索 1 ブレインストーミング
5. 研究テーマの探索 2 研究室の過去の卒業論文の探索
6. 研究テーマの探索 3 学術誌に掲載された論文の探索
7. 研究テーマの探索 4 人類学理論書の探索
8. 研究テーマの決定
9. 研究計画書の作成 1 問題設定の執筆とクラス討論
10. 研究計画書の作成 2 理論的背景の執筆とクラス討論
11. 研究計画書の作成 3 民族誌的背景の執筆とクラス討論
12. 研究計画書の作成 4 研究方法の執筆とクラス討論
13. 口頭発表 1 パワーポイントの作成
14. 口頭発表 2 パワーポイントを用いた発表練習（前半）
15. 口頭発表 3 パワーポイントを用いた発表練習（後半）

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

6. 成績評価方法：

出席と授業参加 [25%]
レジュメと口頭発表 [25%]
研究計画書 [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書： 沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

参考書は、授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。
Dropbox を利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。

9. その他：なし

3 回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。
授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：トニー・マガグナ (教授)

講義コード：LB64211, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

Native American Literature

2. Course Title (授業題目)：

Native American Literature

3. 授業の目的と概要：

This course will explore the lives and culture of Native Americans in the United States as it has been expressed through literature. We will begin with transcribed oral narratives and continue into the oratories, essays, and memoirs that capture the devastating conflicts of “contact” between Native tribes and European and U.S. populations. The predominance of the course, however, will focus on the contemporary voices of Native Americans writing today, following the “Native American Renaissance” of the 1960s and 1970s. Here, we will discover the ongoing efforts by many Native authors to both express and celebrate their inherited cultural traditions, as well as convey an identity and voice that is very much at home in the contemporary United States—and in the global community.

4. 学習の到達目標：

1. To understand the diverse histories and cultures of Native Americans, as represented in oral tradition;
2. To understand the consequences of European contact and U.S. conquest of Native American tribes;
3. To recognize the misrepresentations of Native

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. Introductions & Opening Conversation
- II. Imagining Native America Today: Clichés & Controversies
- III. Origin Stories
- IV. Cautionary Tales & Trickster Tales
- V. European Contact
- VI. Conquest & Displacement
- VII. Re-Education & Assimilation: Boarding Schools
- VIII. The Native American Renaissance: Part I
- IX. The Native American Renaissance: Part II
- X. “Wisdom Sits in Places:” Landscape & Identity
- XI. Pop Culture Indians: Misrepresentations
- XII. The Next Generation: Overview of Contemporary Native Writers
- XIII. Louise Erdrich
- XIV. Sherman Alexie
- XV. Student Presentations: Native America Abroad

6. 成績評価方法：

Mini written responses (20%); Presentations (25%); Participation (25%); Final short essay (30%)

7. 教科書および参考書：

All required texts will be made available at the beginning of the course, either digitally or as handouts.

8. 授業時間外学習：

Students are required to read designated material in advance and to prepare for their active participation in the discussion. As assigned, students are required to prepare for their own presentations. Additionally, please note that all instruction, discuss

9. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB53312, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：

Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目指す。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画の立案をはかる。

4. 学習の到達目標：

文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 過去の実習テーマの検討
4. 調査対象の検討
5. 調査対象の決定
6. フィールドワークの報告と討論①
7. フィールドワークの報告と討論②
8. フィールドワークの報告と討論③
9. フィールドワークの報告と討論④
10. フィールドワークの報告と討論⑤
11. フィールドワークの報告と討論⑥
12. フィールドワークの報告と討論⑦
13. フィールドワークの成果発表①
14. フィールドワークの成果発表②
15. フィールドワークの成果発表③

6. 成績評価方法：

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

フィールドワークの遂行とフィールドノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時. 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB63312, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：

Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

4. 学習の到達目標：

文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

6. 成績評価方法：

出席と平常点 [50%]

報告書 [50%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

9. その他：なし

宗教学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
宗教学概論	宗教の諸理論	2	山田 仁史	3	木	1	1
宗教学概論	宗教と現代社会	2	木村 敏明	4	木	1	2
宗教学基礎講読	宗教学の基礎理論	2	木村 敏明	3	金	3	3
宗教学基礎講読	ウェスターマルク再読	2	山田 仁史	4	金	3	4
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	3	金	5	5
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	4	金	5	6
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	3	月	4、5	7
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	4	月	4、5	8
宗教学各論	宗教と心理	2	高橋 原	5	水	3	9
宗教学各論	自然災害と宗教	2	木村 敏明	5	金	2	10
宗教学各論	宗教社会学概論	2	三木 英	集中(5)			11
宗教人類学各論	聖俗・性食論	2	山田 仁史	6	火	1	12
宗教学講読	A Study of Medical Folklore	2	アンドリュース デール	5	火	4	13
宗教学講読	A Study of Medical Folklore	2	アンドリュース デール	6	火	4	14
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	5	金	5	15
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史	6	金	5	16
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史. 高倉 浩樹	5	月	4、5	17
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史. 高倉 浩樹	6	月	4、5	18

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：山田 仁史 (准教授)

講義コード：LB34104, **科目ナンバリング：**LHM-RES201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教の諸理論

2. Course Title (授業題目)：

Theories of religion

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパ以外の諸宗教が視野に入ってくることにより、宗教学は成立した。その過程で生まれたさまざまな理論を、本講義ではヨーロッパ精神史のわくぐみで論じてゆく。

4. 学習の到達目標：

宗教に関する諸理論が生まれた背景について理解し、現代社会とのかかわりについて考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 はじめに
- 2 神話
- 3 儀礼
- 4 シャマニズム
- 5 社会
- 6 心理
- 7 トーテミズム
- 8 アニミズム
- 9 哲学
- 10 歴史
- 11 フェティシズム
- 12 タブーとマナ
- 13 言語
- 14 人類
- 15 おわりに

6. 成績評価方法：

毎回のフィードバック (出席確認を兼ねる。20%) と学期末レポート (授業に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%) により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は、山田仁史著『新・神話学入門』朝倉書店、2017 年。受講者は要購入。

8. 授業時間外学習：

授業で紹介する参考文献を読む、フィールドワークを行うなどして、学期末レポートに結実させてください。

9. その他：なし

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB44104, **科目ナンバリング：**LHM-RES201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教と現代社会

2. Course Title (授業題目)：

Religion and Modern Society

3. 授業の目的と概要：

この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。

4. 学習の到達目標：

現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。

宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 現代宗教の基礎理論 世俗化
3. 現代宗教の基礎理論 公共宗教
4. 現代宗教の基礎理論 民間信仰
5. 小括
6. 宗教と政治
7. 宗教と経済
8. 宗教と教育
9. 宗教と高齢化
10. 宗教と移民
11. 小括
12. 現代宗教学の最前線 神観念論
13. 現代宗教学の最前線 宗教集団論
14. 現代宗教学の最前線 社会貢献
15. まとめ

6. 成績評価方法：

毎回の授業後に提出する小レポート[40%]、期末のテスト[60%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』（櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015 年）をあげておく。

8. 授業時間外学習：

日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB35304, **科目ナンバリング：**LHM-RES202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教学の基礎理論

2. Course Title (授業題目)：

Basic theories of religious Studies

3. 授業の目的と概要：

この授業は宗教学の基礎的文献を読み、それをもとに討論を行うことで、宗教学の基本的理論と知識を身につけることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

宗教学の基本的理論を身につける

文献を正確に読み、それに基づいた議論を行うことができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のトピックに沿ってテキストの読解と討論をおこなう。

1. イントロダクション
2. 民間信仰
3. 民間信仰
4. 祖先崇拝
5. 祖先崇拝
6. シャマニズム
7. シャマニズム
8. 儀礼と祭り
9. 儀礼と祭り
10. 聖なるもの
11. 聖なるもの
12. 死生観
13. 死生観
14. 現代宗教
15. 現代宗教

6. 成績評価方法：

発表と授業への参加を総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。その他についてはイントロダクションで指示する。

A textbook will not be used.

8. 授業時間外学習：

全員が事前にテキストを熟読してくる。発表者は発表の準備が必要である。

Students should read text before class.

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：山田 仁史（准教授）

講義コード：LB45304, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ウェスターマルク再読

2. Course Title (授業題目)：

Rereading Westermarck

3. 授業の目的と概要：

民族学者エドワード・ウェスターマルク（1862-1939）の古典的名著『人類婚姻史』を題材に、宗教的信仰や食文化、儀礼の社会的機能などのかかわりの中で、人類の性行動や婚姻のありかたを探ってゆきます。

4. 学習の到達目標：

人類文化の多様性と共通性を感じながら、英文を丁寧に読んで内容の理解を深めましょう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストの第1巻第6章を読みすすめます。参加者による担当部分の発表とディスカッションにより進行します。

6. 成績評価方法：

担当箇所についての発表（50%）および議論への参加状況（50%）によって評価します。

7. 教科書および参考書：

Westermarck, Edward, The History of Human Marriage, 5th ed., Vol. 1, London: Macmillan, 1921 (Chapter 6: Religious prostitution, the lending and exchange of wives, feasts). 入手方法は初回に指示します。

8. 授業時間外学習：

担当部分だけでなく、毎回の該当箇所を事前に読み、自分なりの訳を作って参加してください。

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明, 谷山 洋三, 山田 仁史 (教授 他)

講義コード：LB35501, **科目ナンバリング：**LHM-RES203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論する力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け
2. 大学院生発表①理論的研究
3. 大学院生発表②実証的研究
4. 学部3年発表 1班
5. 学部3年発表 2班
6. 学部3年発表 3班
7. 学部3年発表 4班
8. 学部3年発表 5班
9. 予備日：学部3年欠席者のため
10. 学部4年発表 1班
11. 学部4年発表 2班
12. 学部4年発表 3班
13. 学部4年発表 4班
14. 学部4年発表 5班
15. 予備日：学部4年欠席者のため

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明, 谷山 洋三, 山田 仁史 (教授 他)

講義コード：LB45501, **科目ナンバリング：**LHM-RES203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論する力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け
2. 学部3年発表 1班
3. 学部3年発表 2班
4. 学部3年発表 3班
5. 学部3年発表 4班
6. 学部3年発表 5班
7. 予備日：学部3年欠席者のため
8. 学部4年発表 1班
9. 学部4年発表 2班
10. 学部4年発表 3班
11. 学部4年発表 4班
12. 学部4年発表 5班
13. 予備日：学部4年欠席者のため
14. 学部2年発表 1班
15. 学部2年発表 2班

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史 (教授 他)

講義コード：LB31404, **科目ナンバリング：**LHM-RES204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：宗教学におけるデータとは
3. 第二回：参与観察法
4. 第三回：インタビュー調査法
5. 第四回：質問紙調査法
6. 第五回：文献調査法・情報検索法
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本
9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。冬季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

9. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時、後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明、谷山 洋三、山田 仁史（教授 他）

講義コード：LB41405, **科目ナンバリング：**LHM-RES204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなうとともに、冬期に予定された共同調査に向けて調査計画の立案をおこなう。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション 後期授業の概要
- 2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
- 3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
- 4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
- 5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
- 6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
- 7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
- 8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
- 9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
- 10. 第九回、前期調査成果発表
- 11. 第十回、現地調査計画の立案
- 12. 第十一回、現地調査準備①地域について知る
- 13. 第十二回、現地調査準備②先行研究をまとめる
- 14. 第十三回、現地調査準備③質問項目を考える
- 15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。冬季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Winter Semester Research.

9. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 原（教授）

講義コード：LB53303, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

宗教と心理

2. Course Title (授業題目)：

Religion and psychology

3. 授業の目的と概要：

宗教学・宗教心理学の歴史を振り返りながら宗教を人間の心理から考える。

4. 学習の到達目標：

宗教に関わる人間の営みを、心の動きという観点から考える視点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義では、さまざまな宗教学者、宗教心理学者の考えの跡をたどりながら人間心理と宗教について考える。取り上げるトピックとして次のようなものを予定している。(順不同)

1. 遠藤周作『私の愛した小説』をめぐって
2. フロイトの精神分析と宗教
3. ユング心理学と宗教
4. 回心の研究
5. 日本の宗教学と宗教心理
6. 近代日本における宗教言説と宗教体験

6. 成績評価方法：

レポートによる。

7. 教科書および参考書：

遠藤周作『私の愛した小説』（新潮文庫）、他、授業内で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で照会する文献、配布資料などで理解を深める。

9. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB55205, **科目ナンバリング：**LHM-RES301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

自然災害と宗教

2. Course Title (授業題目)：

Natural Disaster and Religion

3. 授業の目的と概要：

この授業では自然災害に関連した様々な宗教的観念や実践をとりあげながら、現代社会における宗教の意義と課題について論じる。

4. 学習の到達目標：

現代社会における宗教の意義や課題について、宗教と自然災害に関する事例を通して理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 自然災害をめぐる観念：神話における災害
3. 自然災害をめぐる観念：「怪物」の表象
4. 自然災害をめぐる観念：諸宗教伝統の災害観
5. 自然災害をめぐる観念：災因論
6. 自然災害をめぐる観念：神義論の諸相
7. 小括
8. 自然災害をめぐる儀礼：予防儀礼と減災儀礼
9. 自然災害をめぐる儀礼：災禍の儀礼
10. 自然災害をめぐる儀礼：慰霊・追悼・記念の儀礼
11. 自然災害をめぐる儀礼：儀礼の復活とその意義
12. 小括
13. 復興と宗教：ソーシャル・キャピタルとしての宗教
14. 復興と宗教：レジリエンス
15. まとめ

6. 成績評価方法：

毎回の授業後提出の小レポート{40%}、期末レポート[60%]

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

新聞や読書などで普段からトピックに関連した情報を収集するようにつとめ、授業後の小レポートに反映させる。

9. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：三木 英 (非常勤講師)

講義コード：LB98831, **科目ナンバリング：**LHM-RES301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教社会学概論

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Sociology of Religion

3. 授業の目的と概要：

本講義は、講義担当者が追究してきた幾つかのテーマ、すなわち「現代の民俗宗教」「宗教集団・組織論」「被災地における宗教」「ニューカマーとその宗教」を中心に展開してゆく。そして講義を進めるなか、それら以外のテーマにも適宜言及して、宗教社会学の全体像を受講者に呈示できるよう、努める予定である。それによって本講義は、宗教に対する社会学的接近の重要性を受講生に理解せしめんとするものである。

4. 学習の到達目標：

受講生には、「宗教と社会」を巡る様々な論点が現代世界に存在すること、そしてそれらが研究される必要のあることを、講義を通して認識していただきたい。そうすれば、宗教社会学という学問の意義が理解されるであろう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 宗教社会学とは何か
2. 宗教社会学の古典
3. 現代日本の宗教・概観
4. 民俗宗教の持続と変容 (1)
5. 民俗宗教の持続と変容 (2)
6. 宗教集団・組織論 (1)
7. 宗教集団・組織論 (2)
8. 宗教集団・組織論 (3)
9. 宗教と震災 (1)
10. 宗教と震災 (2)
11. 宗教と震災 (3)
12. ニューカマーとその宗教 (1)
13. ニューカマーとその宗教 (2)
14. ニューカマーとその宗教 (3)
15. 私化された宗教の時代

6. 成績評価方法：

全講義終了後に提出いただくレポートを主とし、出席率及び受講態度を従として、総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は用いない。参考書については、講義中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

宗教社会学の文献に日頃から親しんでいただくことを希望する。とりわけ、本シラバスに記した講義テーマに関連する文献が望ましい。

9. その他：なし

科目名：宗教人類学各論／ Religious Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：山田 仁史 (准教授)

講義コード：LB62101, **科目ナンバリング：**LHM-RES302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

聖俗・性食論

2. Course Title (授業題目)：

Sacred and profane, sexuality and food

3. 授業の目的と概要：

宗教においてはしばしば、食と性にかんするタブーが課される。肉食妻帯を禁じた日本仏教はその一例である。性と食はなぜ（どこまで）パラレルなのか。この問題に取り組むため、本講義では主として性にかかわる習俗をとりあげ、語ってゆく。

4. 学習の到達目標：

自らと馴染みのない習俗を知り、それらを拒絶することなく、意義について客観的に考える態度を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 はじめに：聖と俗、性と食
- 2 性交と死の起源神話
- 3 巨根の〈動物の主〉
- 4 ヴァギナ・デントータの物語
- 5 掠奪婚の過去と現在
- 6 初夜権 (jus primae noctis)
- 7 いわゆる〈妻貸し〉をめぐる
- 8 一妻多夫婚の諸相
- 9 冥婚：死者の花嫁
- 10 聖娼：聖と性が会おうところ
- 11 聖婚 (hieros gamos)
- 12 インセスト・タブーは普遍的か
- 13 割礼と身体変工
- 14 拒食と禁欲
- 15 おわりに：食と性とはパラレルか

6. 成績評価方法：

学期末レポート（講義内容に関連のあるテーマを自由に設定し論じる。80%）および毎回のフィードバック（出欠確認を兼ねる。20%）により評価します。

7. 教科書および参考書：

Westermarck, Edward, The History of Human Marriage, 5th ed., 3 Vols., London: Macmillan, 1921; Ploss, Heinrich & Max und Paul Bartels, Das Weib in der Natur- und Völkerkunde, 11. Aufl., 3 Bde., Berlin: Neufeld & Henius, 1927; 中山太郎『日本婚姻史』東京：春陽堂、1928; 江守五夫『

8. 授業時間外学習：

独自に文献調査やフィールドワークを進め、学期末レポートにその成果を結実させてください。

9. その他：なし

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：アンドリュース デール (非常勤講師)

講義コード：LB52409, **科目ナンバリング：**LHM-RES303E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

A Study of Medical Folklore

2. Course Title (授業題目)：

A Study of Medical Folklore

3. 授業の目的と概要：

Illness is universal. With this in mind, we will examine various examples of medical folklore primarily from North America and Europe. We will discuss the connection between medical folklore and religious beliefs. Additionally, we will explore the practice

4. 学習の到達目標：

After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to cite examples of

5. 授業の内容・方法と進度予定：

Tentative Class Schedule

(1.) Guidance

(2.) Reading & Discussion of the text: Folk Curing: The Magical Component (part 1)

(3.) Reading & Discussion of the text: Folk Curing: The Magical Component (part 2)

(4.) Reading & Discussion of the text: Folk Curing: The Magical Component (part 3)

(5.) Reading & Discussion of the text: The Magical Transfer of Disease (part 1)

(6.) Reading & Discussion of the text: The Magical Transfer of Disease (part 2)

(7.) Reading & Discussion of the text: The Magical Transfer of Disease (part 3)

(8.) Reading & Discussion of the text: Deformity, Disease, and Physical Ailment as Divine Retribution (part 1)

(9.) Reading & Discussion of the text: Deformity, Disease, and Physical Ailment as Divine Retribution (part 2)

(10.) Reading & Discussion of the text: Deformity, Disease, and Physical Ailment as Divine Retribution (part 3)

(11.) Reading & Discussion of the text: Plugging, Nailing, Wedging, and Kindred Folk Medical Practices (part 1)

(12.) Reading & Discussion of the text: Plugging, Nailing, Wedging, and Kindred Folk Medical Practices (part 2)

(13.) Reading & Discussion of the text: Plugging, Nailing, Wedging, and Kindred Folk Medical Practices (part 3)

(14.) Reading & Discussion of the text: Measuring and Plugging: The Magical Containment of Disease (part 1)

(15.) Review

6. 成績評価方法：

Class exercises: 80%, Notebooks: 20%

7. 教科書および参考書：

"Magical Medicine: The Folkloric Component of Medicine in the Folk Belief, Custom, and Ritual of the Peoples of Europe and America." Wayland G. Hand. University of California Press, 1980.

8. 授業時間外学習：

3 to 5 hours per week of out of class study is required.

9. その他：なし

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：アンドリュース デール (非常勤講師)

講義コード：LB62408, **科目ナンバリング：**LHM-RES303E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：
A Study of Medical Folklore
2. Course Title (授業題目)：
A Study of Medical Folklore
3. 授業の目的と概要：
Illness is universal. With this in mind, we will examine various examples of medical folklore primarily from North America and Europe. We will discuss the connection between medical folklore and religious beliefs. Additionally, we will explore the practice
4. 学習の到達目標：
After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to summarize English text. (2) Be able to make basic translations of English text. (3) Be able to express an opinion in English. (4) Be able to cite examples of
5. 授業の内容・方法と進度予定：
Tentative Class Schedule
 - (1.) Guidance
 - (2.) Reading & Discussion of the text: Measuring with String, Thread, and Fibre: A Practice in Folk Medical Magic (part 1)
 - (3.) Reading & Discussion of the text: Measuring with String, Thread, and Fibre: A Practice in Folk Medical Magic (part 2)
 - (4.) Reading & Discussion of the text: Magical Treatment of Disease by Outlining the Ailing Part (part 1)
 - (5.) Reading & Discussion of the text: Over and Out: Magical Divestment in Folk Belief and Custom (part 1)
 - (6.) Reading & Discussion of the text: Over and Out: Magical Divestment in Folk Belief and Custom (part 2)
 - (7.) Reading & Discussion of the text: Passing Through: Folk Medical Magic and Symbolism (part 1), (8.) Reading & Discussion of the text: Passing Through: Folk Medical Magic and Symbolism (part 2)
 - (9.) Reading & Discussion of the text: Passing Through: Folk Medical Magic and Symbolism (part 3)
 - (10.) Reading & Discussion of the text: Animal Sacrifice in American Folk Curative Practice
 - (11.) Reading & Discussion of the text: The Mole in Folk Medicine: A Survey from Indic Antiquity to Modern America (part 1)
 - (12.) Reading & Discussion of the text: The Mole in Folk Medicine: A Survey from Indic Antiquity to Modern America (part 2)
 - (13.) Reading & Discussion of the text: Physical Harm, Sickness, and Death by Conjury: A Survey of the Sorcerer's Evil Art in America (part 1)
 - (14.) Reading & Discussion of the text: Physical Harm, Sickness, and Death by Conjury: A Survey of the Sorcerer's Evil Art in America (part 2)
 - (15.) Review
6. 成績評価方法：
Class exercises: 80%, Notebooks: 20%
7. 教科書および参考書：
"Magical Medicine: The Folkloric Component of Medicine in the Folk Belief, Custom, and Ritual of the Peoples of Europe and America." Wayland G. Hand. University of California Press, 1980.
8. 授業時間外学習：
3 to 5 hours per week of out of class study is required.
9. その他：なし
Office hours: The instructor will be available before and after the scheduled class.

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明, 谷山 洋三, 山田 仁史 (教授 他)

講義コード：LB55503, **科目ナンバリング：**LHM-RES304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論する力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方、班分け
2. 大学院生発表①理論的研究
3. 大学院生発表②実証的研究
4. 学部3年発表 1班
5. 学部3年発表 2班
6. 学部3年発表 3班
7. 学部3年発表 4班
8. 学部3年発表 5班
9. 予備日：学部3年欠席者のため
10. 学部4年発表 1班
11. 学部4年発表 2班
12. 学部4年発表 3班
13. 学部4年発表 4班
14. 学部4年発表 5班
15. 予備日：学部4年欠席者のため

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明, 谷山 洋三, 山田 仁史 (教授 他)

講義コード：LB65503, **科目ナンバリング：**LHM-RES304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教研究の技法

2. Course Title (授業題目)：

How to study religions: presentation and discussion class

3. 授業の目的と概要：

毎回複数の受講生あるいは大学院生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論する力を涵養することを目指す。

4. 学習の到達目標：

宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方、班分け
2. 学部3年発表 1班
3. 学部3年発表 2班
4. 学部3年発表 3班
5. 学部3年発表 4班
6. 学部3年発表 5班
7. 予備日：学部3年欠席者のため
8. 学部4年発表 1班
9. 学部4年発表 2班
10. 学部4年発表 3班
11. 学部4年発表 4班
12. 学部4年発表 5班
13. 予備日：学部4年欠席者のため
14. 学部2年発表 1班
15. 学部2年発表 2班

6. 成績評価方法：

発表および討論への参加

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

発表準備。

Preparation for presentation

9. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：前期 月曜日 4講時. 前期 月曜日 5講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明. 谷山 洋三. 山田 仁史. 高倉 浩樹 (教授 他)

講義コード：LB51406, **科目ナンバリング：**LHM-RES306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション
- 2. 第一回：民間信仰の基礎 社会組織と講
- 3. 第二回：民間信仰の基礎 年中行事①
- 4. 第三回：民間信仰の基礎 年中行事②
- 5. 第四回：民間信仰の基礎 人生儀礼①
- 6. 第五回：民間信仰の基礎 人生儀礼②
- 7. 第六回：民間信仰の基礎 神社と寺院
- 8. 第七回：民間信仰の基礎 民話と伝説
- 9. 第八回：民間信仰の基礎 民間信仰の現在
- 10. 第九回：調査と研究の倫理
- 11. 第十回：現地調査計画の立案
- 12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
- 13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
- 14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
- 15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

9. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時, 後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木村 敏明, 谷山 洋三, 山田 仁史, 高倉 浩樹 (教授 他)

講義コード：LB61404, **科目ナンバリング：**LHM-RES306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：

How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：

他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
- (2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査計画の立案 (アドバイザーとして)
12. 第十一回、現地調査準備①地域について知る (アドバイザーとして)
13. 第十二回、現地調査準備②先行研究をまとめる (アドバイザーとして)
14. 第十三回、現地調査準備③質問項目を考える (アドバイザーとして)
15. 第十四回、まとめ、現地調査の最終チェック (アドバイザーとして)

6. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

9. その他：なし

その他の科目 シラバス

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
人文統計学	統計学の基礎	2	木村 邦博	3	水	2	1
人文統計学	推測統計と多変量解析 の基礎	2	木村 邦博	4	水	2	2
人文情報処理	コンピュータを活用した データ処理と情報発信	2	湊 信吾	3	金	2	3
人文情報処理	コンピュータを活用した データ処理と情報発信	2	湊 信吾	4	金	2	4
英語演習	学術英語演習	2	中西 弘	4	木	2	5
高等英文解釈法	高等英文解釈法	2	鈴木 亨	4	金	2	6
英語論文作成法	Academic Writing I	2	マックス・フィリップス	3	水	2	7
英語論文作成法	Academic Writing II	2	マックス・フィリップス	4	水	2	8
ギリシャ語	ホメロス『イリアス』演習	2	尾園 絢一	3	月	4	9
ギリシャ語	ホメロス『イリアス』演習	2	尾園 絢一	4	月	4	10
ギリシャ語	古典ギリシャ語文法初 級	2	尾園 絢一	3	金	3	11
ギリシャ語	古典ギリシア語文法初 級	2	尾園 絢一	4	金	3	12
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	3	火	3	13
ラテン語	ラテン語原典講読	2	荻原 理	4	火	3	14
ラテン語	ラテン語初級講読	2	宮崎 正美	4	金	3	15
ラテン語	ラテン語初級文法	2	嶺岸 佑亮	3	金	4	17
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演 習(1)	2	西村 直子	3	木	3	18
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演 習(2)	2	尾園 絢一	4	木	3	19
中国語	初級中国語	2	馬 暁地	3	月	3	20

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
中国語	初級中国語	2	馬 暁地	4	月	3	21
朝鮮語	韓国語入門	2	権 来順	3	水	2	22
朝鮮語	韓国語初級	2	権 来順	4	水	2	23
イタリア語	イタリア語初級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	3	24
イタリア語	イタリア語初級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	3	25
イタリア語	イタリア語中級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	4	26
イタリア語	イタリア語中級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	4	27
イタリア語	イタリア語上級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	水	5	28
イタリア語	イタリア語上級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	水	5	29
イタリア語	イタリア語初級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	木	3	30
イタリア語	イタリア語初級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	木	3	31
イタリア語	イタリア語中級(前期)	2	フォンガロ エンリコ	3	木	4	32
イタリア語	イタリア語中級(後期)	2	フォンガロ エンリコ	4	木	4	33
専門中国語	中国語作文	2	馬 暁地	3	金	4	34
専門中国語	中国語作文	2	馬 暁地	4	金	4	35
専門ドイツ語	テキスト読解のための ドイツ語	2	嶋崎 啓	4	木	1	36
専門フランス語	フランス語の文章を読む	2	翠川 博之	3	火	2	37
専門フランス語	フランス語の文章を読む	2	翠川 博之	4	火	2	38
漢文講読	漢文訓読入門(文法 篇)	2	尾崎 順一郎	3	金	3	39

専修以外の基礎科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
漢文講読	漢文訓読入門(故事成語篇)	2	尾崎 順一郎	4	金	3	40
人文社会科学総合	臨床宗教師とスピリチュアルケア	2	谷山 洋三	4	月	2	41
人文社会科学総合	死から生を考える臨床死生学:人間の死とは何か?	2	大村 哲夫	3	月	3	42
人文社会科学総合	悲嘆学試論	2	大村 哲夫	4	月	3	43
人文社会科学総合	よりよい研究のための倫理	2	原 塑	3	月	4	44
人文社会科学総合	近代日本の歴史	2	クレイグ クリストファー	3	火	2	45
人文社会科学総合	日本文化と社会	2	クレイグ クリストファー	4	火	2	46
人文社会科学総合	宗教、スピリチュアリティ、心理療法	2	高橋 原	4	水	3	47
人文社会科学総合	研究と実践の倫理	2	行場 次朗, 戸島 貴代志, 阿部 恒之, 木村 邦博, 坂井 信之, 辻本 昌弘, 小林 隆, 小泉 政利	4	水	5	48
人文社会科学総合	死生学と宗教文化	2	高橋 原, 大村 哲夫	3	木	5	49
人文社会科学総合	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践	2	高橋 原, 木村 敏明, 谷山 洋三	4	木	5	50

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB33206, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

統計学の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Statistics

3. 授業の目的と概要：

統計学の基礎を学ぶ。

特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、クロス集計表など、記述統計学の手法を身につける。

4. 学習の到達目標：

官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. データと測定 (1)
2. データと測定 (2)
3. 度数分布と比率 (1)
4. 度数分布と比率 (2)
5. 代表値と変動 (1)
6. 代表値と変動 (2)
7. グラフによるデータの表現 (1)
8. グラフによるデータの表現 (2)
9. クロス集計表 (1)
10. クロス集計表 (2)
11. 関連の測度 (1)
12. 関連の測度 (2)
13. 3 変数間の関係を考える（因果関係、相関関係、疑似相関） (1)
14. 3 変数間の関係を考える（因果関係、相関関係、疑似相関） (2)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（10 回）による。

7. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ（海野他訳）『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

8. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。

9. その他：なし

- (1) 人文統計学（推測統計と多変量解析の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 C に対応。

科目名：人文統計学／ Statistics

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

推測統計と多変量解析の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Statistical Inference and Multivariate Analysis

3. 授業の目的と概要：

より高度な統計学の基礎を学ぶ。

特に、確率分布と統計的推測の考え方や、平均・比率の差の検定・推定、分散分析、相関分析、回帰分析、パス解析などの手法について理解する。

4. 学習の到達目標：

「統計学の基礎」をふまえて、より高度な統計的方法を理解するための基本事項について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 統計的推測と仮説検定(1)：確率論の基礎
2. 統計的推測と仮説検定(2)：統計的推定
3. 統計的推測と仮説検定(3)：統計的検定の理論
4. 2 平均値の差の検定(1)
5. 2 平均値の差の検定(2)
6. 複数平均値の差の検定(1)
7. 複数平均値の差の検定(2)
8. 2 変数の関連の分析：クロス集計表における関連の測度
9. 2 変数の関連の分析：相関係数
10. 2 変数の関連の分析：偏相関、因果推論、生態学的誤謬
11. 回帰分析の基礎(1)
12. 回帰分析の基礎(2)
13. 重回帰分析(1)
14. 重回帰分析(2)
15. 因果モデルとパス分析の基礎

6. 成績評価方法：

レポート(10 回)による。

7. 教科書および参考書：

教科書：ボンシュテット&ノーキ（海野他訳）『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

8. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

教科書の各章末にある「一般的問題」のうち指定されたものについて、レポートを作成する。

9. その他：なし

- (1) 人文統計学（統計学の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 D に対応。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：湊 信吾（非常勤講師）

講義コード：LB35205, **科目ナンバリング：**LHM-HUI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目)：

Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。
- ・Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- ・R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- ・SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- ・プログラミング言語 Python を用いプログラミングの練習を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作ることができるようになる。
- ・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・Python を使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. R を利用したデータ解析とグラフの作成
8. PowerPoint を使用したスライドの作成
9. Access で SQL を使用したデータベースの操作
- 10～13. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
- 14、15. Python プログラミング (基本とライブラリの利用)

6. 成績評価方法：

毎回、授業時間内にレポートを印刷し提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

7. 教科書および参考書：

毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

8. 授業時間外学習：

テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。

9. その他：なし

オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトの URL を教える。

教室の都合で履修人数を制限することがある。第 4 セメスターにも同内容の授業を開講するので、いずれかを履修すればよい。

科目名：人文情報処理／ Information Processing for the Humanities

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：湊 信吾（非常勤講師）

講義コード：LB45206, **科目ナンバリング：**LHM-HUI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コンピュータを活用したデータ処理と情報発信

2. Course Title (授業題目)：

Data processing and information providing with a computer

3. 授業の目的と概要：

以下の予定で講義および実習を行う。内容を変更する場合には授業中に連絡する。

- ・授業では前半、実習を交えながら解説を行う。後半、課題に取り組んでもらう。
- ・Excel では表を使用したデータ処理について練習する。
- ・R を使用したデータ解析の方法、グラフの表現について練習する。
- ・インターネットで文書を公開するには Web ページを作成する。Web ページを作るためのプログラミング言語として HTML、CSS および JavaScript の基本について学ぶ。
- ・SQL を使用したデータベースのプログラミングについて練習する。
- ・プログラミング言語 Python を用いプログラミングの練習を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・Excel を使用した実習により手軽にデータ分析を行うことができるようになる。
- ・R を使用して基本的なデータ解析やグラフの作成ができるようになる。
- ・PowerPoint のスライド作成を通して発表用の資料を簡単に作るようになる。
- ・Web ページを作ることで情報を外部に公開する方法について理解を深める。
- ・SQL のプログラミングを使用し汎用的にデータベースを操作できるようになる。
- ・Python を使いプログラミングの楽しさを体験してもらう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション として授業の概要、評価の方法、テキストの閲覧方法、欠席時の対応について説明
2. Excel (表計算の基本)
3. Excel (グラフの作成)
4. Excel (テキストファイルの扱い方)
5. Excel (組み込み関数の応用)
6. Excel (VBA プログラミング)
7. R を利用したデータ解析とグラフの作成
8. PowerPoint を使用したスライドの作成
9. Access で SQL を使用したデータベースの操作
- 10～13. HTML、CSS、JavaScript を使用した Web ページの作成 (その 1～その 4)
- 14、15. Python プログラミング (基本とライブラリの利用)

6. 成績評価方法：

毎回、授業時間内にレポートを印刷し提出してもらう。レポートの内容および提出日時により評価を決定する。

7. 教科書および参考書：

毎週、週末にインターネット経由でテキストを公開する。参考書についてはテキストおよび授業で紹介する。

8. 授業時間外学習：

テキストはインターネット上で公開するので予習に役立ててもらいたい。

9. その他：なし

オリエンテーションの時に連絡先やテキスト公開サイトの URL を教える。

教室の都合で履修人数を制限することがある。第 3 セメスターにも同内容の授業を開講するので、いずれかを履修すればよい。

科目名：英語演習／ Seminar in Practical English

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：中西 弘（非常勤講師）

講義コード：LB44203, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

学術英語演習

2. Course Title (授業題目)：

Reading Academic English

3. 授業の目的と概要：

主に心理言語学（言語習得・言語理解の心的メカニズム）を扱った英語論文の精読を行い、内容を正確につかむ訓練をする。さらに、その内容に関して、意見を述べ（Paragraph Writing）、言い換え（Paraphrasing）、要約する（Summarizing）ライティング活動を行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 学術的な英語の文章を正確に読む力を身につける。
- (2) 学術的な英語の文章を読んで、意見を述べたり、内容をまとめたりする力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 こどもの言語獲得にまつわる文献(プロソディの知覚) +Paragraph Writing(1)
- 2 こどもの言語獲得にまつわる文献(分節音の知覚) +Paragraph Writing(2)
- 3 こどもの言語獲得にまつわる文献(模倣が言語習得に果たす役割)+Paragraph Writing(3)
- 4 こどもの言語獲得にまつわる文献(母親語が言語習得に果たす役割)+Paragraph Writing(4)
- 5 こどもの言語獲得にまつわる文献(名詞・動詞の獲得プロセス) +Paragraph Writing(5)
- 6 授業のまとめと中間試験
- 7 記憶にまつわる文献（短期記憶・長期記憶の仕組み）+Paraphrasing(1)
- 8 記憶にまつわる文献（メンタルレキシコンの仕組み）+Paraphrasing(2)
- 9 記憶にまつわる文献（復唱技術と言語習得）+Paraphrasing(3)
- 10 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献(統語処理プロセス)+Paraphrasing(4)
- 11 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（チャンキングプロセス）+Summarizing(1)
- 12 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（プロソディの役割）+Summarizing(2)
- 13 リーディングの認知メカニズムにまつわる文献（推論のメカニズム）+Summarizing(3)
- 14 英語学習にまつわる文献(シャドーイングの認知メカニズム)+Summarizing(4)
- 15 授業のまとめと期末試験

6. 成績評価方法：

授業への取り組み姿勢(40%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

十分に予習して授業に臨んでください

9. その他：なし

科目名：高等英文解釈法／ Advanced English for Intensive Reading

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：鈴木 亨（非常勤講師）

講義コード：LB45207, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

高等英文解釈法

2. Course Title (授業題目)：

Reading Skills in English

3. 授業の目的と概要：

様々なスタイルの英文テキスト（小説、エッセイ、評論、映画脚本、歌詞、雑誌記事など）を素材に、実践的な英語の読解力を養成する。文及びパラグラフにおける構造的な特徴に注意して、正確な読解に取り組むことが求められる。

4. 学習の到達目標：

文章の構成における論理的かつ構造的な特徴をきちんと把握することにより、様々な英文スタイルの特性に応じて、必要で正確な読解ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Reading Literary Fiction
3. Judy Moody Gets Famous
4. Akeelah and the Bee
5. 11/22/63 (1)
6. 11/22/63 (2)
7. How Pleasure Works (1)
8. How Pleasure Works (2)
9. Looking for Rachel Wallace
10. What Money Can't Buy (1)
11. What Money Can't Buy (2)
12. Song Lyrics
13. Reclaiming Conversation (1)
14. Reclaiming Conversation (2)
15. 学期末試験と解説

6. 成績評価方法：

学期末試験および学期中に提出してもらう課題（学期中に 3 回、内容は適宜指示する）に基づいて、授業内容の理解度を総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読んで、その内容についての質疑応答や議論に備える。

9. その他：なし

使用するテキストはあらかじめ配布する。辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LB33207, **科目ナンバリング：**LHM-ENG203E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

Academic Writing I

2. Course Title (授業題目)：

Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：

This course is designed as an introduction to the academic writing process. Students will learn: a) correct format for writing essays, b) organization for different essay types, c) strategies for: pre-writing, revising and proofreading, and improving the readability of their writing and d) correct sentence and paragraph structures that meets the expectations of their target audience.

4. 学習の到達目標：

Students will learn that because English writing is a process, not a product, organizational expectations must be met. The course is designed to help students meet those expectations by teaching how to logically organize writing.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

6. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: homework, score earned on submitted essays, and workshop participation.

7. 教科書および参考書：

Course syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

8. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled if you have more than 2 unexcused absences. No auditors permitted.

9. その他：なし

科目名：英語論文作成法／ Creative Writing

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LB43206, **科目ナンバリング：**LHM-ENG203E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：

Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：

This course is a continuation of AWI. Therefore, the prerequisite for entering AWII is satisfactory completion of AWI. (Requests for a waiver must be made to the professor prior to admission to the course.) Student will study the research process and how to organize their research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material.

4. 学習の到達目標：

Students will do original research and write a fully documented research paper.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Oral Presentations of Research Paper

6. 成績評価方法：

Final grade to be determined by: research paper, and workshop participation.

7. 教科書および参考書：

Course syllabus based, in part, on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing 3rd Edition.

8. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory for all classes. You will be automatically expelled from the course if you have more than 2 unexcused absences. No auditors.

9. その他：なし

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB31405, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ホメロス『イリアス』演習

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Homer's Iliad

3. 授業の目的と概要：

ギリシア最古の文学作品であり、インド・ヨーロッパ語比較言語学における第1級の資料でもあるホメロスの叙事詩を講読する。トロイア戦争を舞台にした『イリアス』を第17巻から講読する。講読では、受講者に訳してもらい、教員が Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等の研究書を用いて、語形一つ一つについて音韻、活用、造語法、語源、アイオリス、イオニア、アッティカ諸方言の特徴などの視点から解説する。

4. 学習の到達目標：

- ・ホメロス叙事詩を訳すことができるようになる
- ・語形を文法的・語源的に分析できるようになる
- ・ギリシア語歴史文法の基礎を習得する
- ・辞書、文法書、専門書を使いこなすようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション、インド・ヨーロッパ語族とギリシア語派、ホメロス叙事詩の言語、韻律と音読
2. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (1)
3. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (2)
4. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (3)
5. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (4)
6. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (5)
7. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (6)
8. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (7)
9. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (8)
10. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (9)
11. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (10)
12. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (11)
13. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (12)
14. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (13)
15. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法 (14)

6. 成績評価方法：

出席 (40%)、毎回の予習 (30%) 授業内容の理解度 (30%)

7. 教科書および参考書：

テキストはオックスフォード大学古典テキストのコピーを配布する。辞書は Liddel&Scott, Greek English Lexicon (Abridged Edition) を使用すること。[A copy of text to read (Oxford Classical Texts) will be prepared by the instructor. It is recommended to use Liddel&Scott's Greek English Lexicon (Abridged Edition)]

8. 授業時間外学習：

毎回10～15行の予習が必要となる。復習を行い、授業で得た知識を使えるようになることを心がけること。[Participants are required to translate 11-15 lines of the text in advance, and expected to review knowledge learned in classes and to apply it.]

9. その他：なし

参加者は古典ギリシア語初級の知識を有すること。

[Participants are expected to have basic understanding of classical Greek.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB41406, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ホメロス『イリアス』演習

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Homer's Iliad

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、『イリアス』を第17巻を講読する。講読では受講者に訳してもらい、教員が Rix, Historische Grammatik des Griechischen; Risch, Wortbildung der homerischen Sprache; Frisk, Griechisches Etymologisches Wörterbuch 等の専門書を用いて語形一つ一つについて音韻、活用、造語法、語源、方言の特徴等視点から分析し、解説を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・ホメロス叙事詩を訳すことができるようになる
- ・語形を文法的・語源的に分析できるようになる
- ・ギリシア語歴史文法の基礎を習得する
- ・辞書、文法書、専門書を使いこなすようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（1）
2. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（2）
3. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（3）
4. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（4）
5. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（5）
6. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（6）
7. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（7）
8. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（8）
9. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（9）
10. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（10）
11. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（11）
12. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（12）
13. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（13）
14. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（14）
15. 『イリアス』XVII 講読、ギリシア語歴史文法（15）

6. 成績評価方法：

出席（40％）、毎回の予習（30％）授業内容の理解度（30％）

7. 教科書および参考書：

テキストはオックスフォード大学古典テキストのコピーを配布する。辞書は Liddel&Scott, Greek English Lexicon (Abridged Edition) を使用すること。[A copy of the text to read (Oxford Classical Texts) will be prepared by the instructor. It is recommended to use Liddel&Scott's Greek English Lexicon (Abridged

8. 授業時間外学習：

毎回10～15行の予習が必要となる。復習を行い、授業で得た知識を使えるようになることを心がけること。[Participants are required to translate 11-15 lines of the text in advance, and expected to review knowledge learned in classes and to apply it.]

9. その他：なし

参加者は古典ギリシア語初級の知識を有すること。前期と合わせて受講することが推奨される。

[Participants are expected to have basic understanding of classical Greek. It is recommended to take this class along with the course "Seminar on Homer's Iliad" in summer semester.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB35305, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典ギリシャ語文法初級

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Grammar of classical Greek

3. 授業の目的と概要：

古典ギリシア語を初めて学ぶ人を対象に文字の読み方から始め、練習問題を解きながら文法を習得する。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. 学習の到達目標：

古典ギリシア語文法の基礎を習得し、ギリシア語の簡単な文を訳せるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インド・ヨーロッパ語族とギリシア語派。アルファベット、発音、アクセント、音韻論
2. 動詞組織、現在直説法能動態の動詞変化、第 1 変化名詞 (PIE *-eh2-)
3. 未来直説法能動態の動詞変化、第 1 変化名詞 (PIE *-ih2-), 第 1 変化男性名詞
4. 未完了能動態の動詞変化、第 2 変化名詞・形容詞、前置詞
5. アオリスト直説法能動態の動詞変化、完了、過去完了直説法能動態の動詞変化、指示代名詞、強意代名詞
6. 繫辞 (copula) と後倚辞、疑問代名詞、不定代名詞
7. 現在直説法、未完了、未来の中動態の動詞変化、人称代名詞
8. アオリスト、完了、過去完了、未完了の中動態の動詞変化、再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞
9. 第 2 アオリスト、受動アオリスト (ē-アオリスト, thē-アオリスト)、第 3 変化名詞 (1)
10. 第 3 変化名詞 (2)、約音動詞 (verba contracta)
11. 黙音語幹動詞 (verba muta)、第 3 変化 (子音語幹) 形容詞の変化 (1)
12. 流音語幹動詞 (verba liquida)、第 3 変化 (子音語幹) 名詞の変化 (3)
13. 接続法能動態の動詞変化
14. 接続法中動態の動詞変化
15. 母音交替 (アブラウト)、形容詞 mégas polús の変化

6. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

7. 教科書および参考書：

教科書 [textbook]

田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』改訂版 (岩波全書 1996 年、新装版 2012 年)

最初の授業で紹介するので、入手すること。

[Students are required to have the textbook, which will be introduced at the beginning of the course]

詳しい文法書 [recommended reference grammars]

英語: W. Goodwin: Greek G

8. 授業時間外学習：

指示された練習問題を解いておくこと。文法事項を丸暗記するのではなく、ギリシア語の仕組みを理解することが大事である。[Students are required to do assigned exercises in advance. It is important not to learn grammatical rules by heart but to understand the mechanism of Greek grammar.]

9. その他：なし

後期と合わせて受講することが望ましい。

[It is recommended to take this class along with the course "Elementary Grammar of classical Greek" in winter semester.]

科目名：ギリシャ語／ Greek

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB45305, 科目ナンバリング：LHM-0FL201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典ギリシア語文法初級

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Grammar of classical Greek

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、練習問題を解きながら文法や語彙の理解を深める。後期は動詞の法 (modi)、格の用法などの統語論も学ぶ。歴史文法の視点に立った解説も交えながら、音韻法則や活用の種類などの原理の理解に重点を置いた授業を目指す。基本的には教科書に沿って進めていくが、順序を変えることもある。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

4. 学習の到達目標：

古典ギリシア語初級文法を習得し、平易なギリシア語の文章を訳せるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 条件文、約音名詞 (nomina contracta) の変化、アッティカ第 2 名詞変化、約音動詞 (verba contracta) の接続法
2. 予想的未来 (prospective) を表わす条件文、不定詞の作り方と用法、補語的不定詞 (accusativus cum infinitivo)
3. 第 3 変化名詞 (4)、関係代名詞
4. 希求法能動態と中受動態、第 3 変化形容詞 (1)
5. 可能的未来 (potential) を表わす条件文、第 3 変化名詞 (5)
6. 分詞の作り方と用法、第 3 変化名詞 (6)
7. 補語的分詞 (accusativus cum participio)、分詞の独立用法
8. 形容詞の比較、可能性 (potentialis) を表わす希求法、数詞、形容詞の比較の不規則変化
9. 普遍的又は反復的事態 (iterative) を表わす条件文、副詞および副詞の比較
10. 命令法能動態と中受動態、約音動詞 (verba contracta) の命令法、述語的分詞をとる動詞
11. 間接話法 (1) - (2)
12. 動詞的形容詞、間接話法 (3)、否定詞
13. 無幹母音型動詞 (mi 動詞) の変化 (語根型、重複型)
14. 無幹母音型動詞 (mi 動詞) の変化 (鼻音挿入型)
15. 統語論 (格の用法、文の種類)

6. 成績評価方法：

出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

7. 教科書および参考書：

教科書 [textbook]

田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』改訂版 (岩波全書 1996 年、新装版 2012 年)

最初の授業で紹介するので、入手すること。

[Students are required to have the textbook, which will be introduced at the beginning of the course]

詳しい文法書 [recommended reference grammars]

英語: W. Goodwin: Greek G

8. 授業時間外学習：

指示された練習問題を解いておくこと。文法事項を丸暗記するのではなく、ギリシア語の仕組みを理解することが大事である。[Students are required to do assigned exercises in advance. It is important not to learn grammatical rules by heart but to understand the mechanism of Greek grammar.]

9. その他：なし

前期と合わせて受講することが望ましい。

[It is recommended to take this class along with the course "Elementary Grammar of classical Greek" in winter semester.]

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB32305, 科目ナンバリング：LHM-0FL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Latin

3. 授業の目的と概要：

語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。（わからない点について積極的に質問してください。）

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。（参考までに、前年度にはルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」のごく一部を読みしました。前々年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のごく一部を、さらにその年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アキナス『神学大全』のごく一部を読みしました。）

4. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

6. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

（試験は行わず、レポート提出もありません。）

7. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。

8. 授業時間外学習：

復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

9. その他：なし

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB42306, 科目ナンバリング：LHM-0FL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語原典講読

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Latin

3. 授業の目的と概要：

語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法上の解説を受けながら、ゆっくり丁寧に読んでいきます（テキストの音読、語形変化の練習にも時間を取ります）。それを通じて、文法事項の確認をし、また、ラテン語に馴れていきます。（わからない点について積極的に質問してください。）

読むテキストは、参加者の希望・関心を訊きながら、教員が選定します。ジャンルの異なる複数のテキストを並行して読むことになるかもしれません。（参考までに、前年度にはルター「95 か条の提題」、カント「可感界と可知界の形式と諸原理」、ローマ法大全の「法学提要」のごく一部を読みしました。前々年度にはスピノザ『エチカ』、フォーテスキュー『イングランド法の礼賛について』のごく一部を、さらにその年度にはデカルト『省察』、「カルミナ・ブラーナ」、オウィディウス『変身物語』、トマス・アクィナス『神学大全』のごく一部を読みしました。）

4. 学習の到達目標：

授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。以降、テキストを丁寧に読んでいく。

最初の数回分のテキスト（テキスト 1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト 2 以降）。

第 1 回：イントロ

第 2 回：テキスト 1 数行 たとえば 1-3 行であろうか

第 3 回：テキスト 1 次の数行 たとえば 4 行-7 行途中でもであろうか

第 4 回：テキスト 1 その次の数行 たとえば 7 行途中-11 行でもであろうか

第 5 回：テキスト 1 さらにその次の数行 たとえば 11 行-18 行でもであろうか

第 6 回：テキスト 1 18-21 行 ならびに テキスト 2 1-3 行 でもであろうか

第 7 回：テキスト 1 22 行-27 行 ならびに テキスト 2 4-6 行 でもであろうか

第 8 回：テキスト 2 7-15 行 でもであろうか

第 9 回：テキスト 2 16-23 行 でもであろうか

第 10 回：テキスト 2 24-27 行 ならびに テキスト 3 1-4 行 でもであろうか

第 11 回：テキスト 2 28-32 行 ならびに テキスト 3 5-11 行 でもであろうか

第 12 回：テキスト 2 33-36 行 ならびに テキスト 3 12-17 行 でもであろうか

第 13 回：テキスト 3 18-21 行 ならびに テキスト 4 1-4 行 でもであろうか

第 14 回：テキスト 3 22-27 行 ならびに テキスト 4 5-10 行 でもであろうか

第 15 回：テキスト 4 11-22 行 でもであろうか

6. 成績評価方法：

出席：60% 授業時のパフォーマンス：40%

（試験は行わず、レポート提出もありません。）

7. 教科書および参考書：

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968 年初版、改訂 1979 年）を各自入手し、授業に持参して下さい。読むテキストはプリントを配布します。

8. 授業時間外学習：

復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

9. その他：なし

ラテン語初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しが多少あっても構いません）。

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：宮崎 正美（非常勤講師）

講義コード：LB45306, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語初級講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading original Latin text (for beginner)

3. 授業の目的と概要：

ラテン語テキストの基本読解

4. 学習の到達目標：

さまざまなラテン語テキスト（古代～現代）を、読み理解できるようになること。

併せて、古代のテキストの本文批判 (Textkritik) とその過程で、ラテン語がどのように用いられ役立ってきたか、実例を通して理解できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

・ガイダンス

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（概説）

・古文書と本文批判について（概説）

2.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（1）

・古文書と本文批判について（1）

・読解（1）

3.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（2）

・古文書と本文批判について（2）

・読解（2）

4.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（3）

・古文書と本文批判について（3）

・読解（3）

5.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（4）

・古文書と本文批判について（4）

・読解（4）

6.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（5）

・古文書と本文批判について（5）

・読解（5）

7.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（6）

・古文書と本文批判について（6）

・読解（6）

8.

前半のまとめ

・聖ヒッポリュトス『使徒伝承』とキリスト教典礼について

・〈翻訳〉という問題について

9.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（7）

・古文書と本文批判について（7）

・読解（7）

10.

・古文書と本文批判について（8）

・読解（8）

11.

・“TRADITIO APOSTOLICA” について（9）

・古文書と本文批判について（9）

・読解（9）

12.

- ・ “TRADITIO APOSTOLICA” について (10)
- ・ 古文書と本文批判について (10)
- ・ 読解 (10)

13.

- ・ “TRADITIO APOSTOLICA” について (11)
- ・ 古文書と本文批判について (11)
- ・ 読解 (11)

14.

- ・ “TRADITIO APOSTOLICA” について (12)
- ・ 古文書と本文批判について (12)
- ・ 読解 (12)

15.

- ・ 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

出席点(30%), レポート(50%), 課題(20%).

7. 教科書および参考書：

授業で使用する資料は、適宜、印刷して配付する.

[References are handed out at classes.]

8. 授業時間外学習：

授業で指定された予習・復習および課題を、必ずやっておくこと.

[Students are required to prepare for the assigned part of the designated text for each class. They are also required to make a thorough review.]

9. その他：なし

[This course will be taught in Japanese.]

参考書：B. ボット著、土屋吉正訳『聖ヒッポリュトスの使徒伝承—B. ボットの批判版による初訳』（オリエンツ宗教研究所、1999 年）

B. M. メッツガー著、土岐健治監訳『図説 ギリシア語聖書の写本——ギリシア語古文書学入門』（教文館 1985 年）

F. G. ケニオン著、高津春繁訳『古代の書物』（岩波新書 1953 年）

科目名：ラテン語／ Latin

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮（非常勤講師）

講義コード：LB35404, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ラテン語初級文法

2. Course Title (授業題目)：

Primary Latin

3. 授業の目的と概要：

古代ローマから近代に至るまで広く用いられてきた言語であるラテン語に実際に触れ、名詞・形容詞・動詞等の変化を習得することで、実際のテキストに触れるための基礎の獲得を目指す。

4. 学習の到達目標：

名詞・形容詞・動詞の活用を、文法書を見ながら自分で一通り出来るようになること。 比較的簡単な文章を理解することが出来るようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス。文字・発音・アクセントなど。名詞の活用（その1）。

第2回：名詞・形容詞の活用。動詞の活用（その1：現在形）。

第3回：動詞の活用（その2：現在形、および命令法）。

第4回：名詞・形容詞の活用（第3変化形、および第4, 5変化形）。

第5回：動詞の活用（その3：直接法の未完了過去、および未来）。

第6回：代名詞（その1：人称代名詞、指示代名詞、再帰代名詞）。

第7回：代名詞（その2：強意代名詞、不定代名詞など）。

第8回：動詞の活用（その4：直接法の完了、過去完了、未来完了）。

第9回：分詞・動名詞・動形容詞。

第10回：動詞の活用（その5：直接法の受動態）。

第11回：動詞の活用（受動態の続き）、形式受動態動詞、不定法。

第12回：関係代名詞、副詞、前置詞。

第13回：比較、数詞、接続法（その1）。

第14回：接続法（その2）、非人称構文、絶対的奪格。

第15回：接続法（その3）、ならびに試験。

6. 成績評価方法：

出席：10% 授業時の課題、音読など：60% テスト（筆記試験またはレポート）：30%

7. 教科書および参考書：

山下太郎著、『しっかり学ぶ初級ラテン語 文法と練習問題』。また、必要に応じてプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業時に指定された課題を欠かさず予習・復習すること。名詞・形容詞。動詞の活用を、自分で声に出したり、紙に書いたりしながら何度も繰り返すこと。

9. その他：なし

・To do one's lessons and review exercises assigned.

・To try to inflect again and again with voice and writing on paper.

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-0FL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

サンスクリット語基礎演習 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Sanskrit (Introductory Seminar 1)

3. 授業の目的と概要：

ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。

4. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の韻文が読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODakション (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
- 2 『ナラ王物語』第1章 (ナラとダマヤンティーの生い立ち) 1-3
- 3 同 4-6
- 4 同 7-10
- 5 同 11-14
- 6 同 15-19
- 7 同 20-22, 第2章 (ダマヤンティーの婿選びへ) 1-2
- 7 同 3-7
- 8 同 8-14
- 9 同 15-21
- 10 同 22-28
- 12 同 29-30, 第3章 (ナラとダマヤンティーの出会い) 1-5
- 13 同 6-12
- 14 同 13-19
- 15 同 20-25

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%), 授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：なし

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とするが、テキストは懇切丁寧にできているので、やる気があって相応の時間をかけることのできる人は、サンスクリット語初級と同時に始めることも可能。また、第3、4セメスターのサンスクリット語は連続履修することがのぞましい。

科目名：サンスクリット語／ Sanskrit

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：尾園 絢一（非常勤講師）

講義コード：LB44303, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

サンスクリット語基礎演習（2）

2. Course Title（授業題目）：

Sanskrit (Introductory Seminar 2)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、ランマンのサンスクリット読本をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙についての理解を深める。テキストの充実した語彙集・注記を活かして、できるだけ多く読みすすめていきたい。ホイットニーの文法書を適宜参照する。

4. 学習の到達目標：

平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 ナラ王物語第4章（ナラ王とダマヤンティーの会話）1－7
- 3 ナラ王物語第4章 8－15
- 4 ナラ王物語第4章 16－23
- 5 ナラ王物語第4章 24－31
- 6 ナラ王物語第5章（婿選びの儀式）1－9
- 7 ナラ王物語第5章 10－18
- 8 ナラ王物語第5章 19－27
- 9 ナラ王物語第5章 V 28－36
- 10 ナラ王物語第5章 V 37－46
- 11 ヒトーパデーシャ「有益な教え」、イントロダクション、プロローグ1
- 12 プロローグ2
- 13 プロローグ2
- 14 第1巻寓話2「老いた虎と旅人」
- 15 第1巻寓話2「老いた虎と旅人」

6. 成績評価方法：

平常点（40％）、予習（30％）、授業内容の理解度（30％）

7. 教科書および参考書：

Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader; W. D. Whitney, Sanskrit Grammar

8. 授業時間外学習：

一つ一つの語形を確定し、指定された部分を訳しておくこと。

9. その他：なし

サンスクリット初級の知識を有すること。第3セメスターのサンスクリット語・サンスクリット語基礎演習（1）と合わせて受講するのが望ましい。

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB31301, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

初級中国語

2. Course Title (授業題目)：

Primary Chinese

3. 授業の目的と概要：

発音練習を中心として授業を進める。繰り返し発音練習をすると同時に基本的な文法をも勉強する。一年の授業を通して中国語の学習の基礎を身につける。

4. 学習の到達目標：

汉语拼音(中国語の音標としてのローマ字)を見て、すぐに自分の口から正しく発音することが出来るのはこの授業の最大の目標である。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 四声の練習
- 第2回 子音の練習
- 第3回 母音の練習
- 第4回 同上
- 第5回 名前の訪ね方
- 第6回 形容詞述語文
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 動詞述語文
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 朗読試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：中国語／ Chinese

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB41302, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

初級中国語

2. Course Title (授業題目)：

Primary Chinese

3. 授業の目的と概要：

発音練習を中心として授業を進める。繰り返し発音練習をすると同時に基本的な文法をも勉強する。一年の授業を通して中国語の学習の基礎を身につける。

4. 学習の到達目標：

汉语拼音(中国語の音標としてのローマ字)を見て、すぐに自分の口から正しく発音することが出来るのはこの授業の最大の目標である。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 四声の練習
- 第2回 子音の練習
- 第3回 母音の練習
- 第4回 量詞について
- 第5回 同上
- 第6回 助詞について
- 第7回 同上
- 第8回 副詞について
- 第9回 同上
- 第10回 補語について
- 第11回 使役文
- 第12回 同上
- 第13回 受身の表現
- 第14回 同上
- 第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 朗読試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：権 来順（非常勤講師）

講義コード：LB33208, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

韓国語入門

2. Course Title (授業題目)：

Korean for Beginners

3. 授業の目的と概要：

韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。

4. 学習の到達目標：

学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨン：朝鮮半島の言語について
- 2 基本母音（単母音）と基本子音の学習
- 3 子音の激音・濃音、合成母音 11 文字の練習
- 4 一つ文字の終音、連音化、有声音化、流音化の学習
- 5 二つ文字の終音、激音化、濃音化、鼻音化の学習
- 6 日本語のハングル文字表記の練習
- 7 自己紹介の練習
- 8 指示代名詞と所有の表現
- 9 名詞文の肯定形と疑問形
- 10 名詞文の否定形
- 11 位置関係の表現
- 12 漢字語数詞、日付、曜日などの表現
- 13 固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現
- 14 形容詞の表現
- 15 まとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点

7. 教科書および参考書：

『かんたん！韓国語』著者 権来順 外 3 人（朝日出版社）、参考資料のプリント配布

8. 授業時間外学習：

毎回の内容を復習すること

9. その他：なし

科目名：朝鮮語／ Korean

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：権 来順（非常勤講師）

講義コード：LB43207, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

韓国語初級

2. Course Title (授業題目)：

Elementary Korean

3. 授業の目的と概要：

韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。

4. 学習の到達目標：

日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 現在形の用言活用 1 (規則活用)
- 3 現在形の用言活用 II (規則活用)
- 4 現在形の用言活用 (変則活用)
- 5 名詞文の過去表現
- 6 過去形の用言活用 1 (規則活用)
- 7 過去形の用言活用 II (規則活用)
- 8 過去形の用言活用 (変則活用)
- 9 願望を表す表現
- 10 羅列、逆接を表す表現
- 11 目的を表す表現
- 12 尊敬語に関して
- 13 意志を表す表現
- 14 計画を表す表現
- 15 まとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験、出席率、授業時の読み、書きなどの平常点

7. 教科書および参考書：

『かんたん！韓国語』著者 権来順 外 3 人 (朝日出版社)、参考資料のプリント配布

8. 授業時間外学習：

毎回の内容を復習すること

9. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語初級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Beginner)

3. 授業の目的と概要：

日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. コースの紹介。
2. 発音とアルファベット。
3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。
4. 形容詞と挨拶。
5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。
6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。
7. -are 規則動詞の直接法現在形。
8. 丁寧な表現。
9. 数字と聞き取り練習。
10. 小テストと-ere の規則動詞の直接法現在形。
11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。
12. 復習と聞き取り練習。
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB43303, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語初級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. -ere 規則動詞の直接法現在形。
3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。
4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。
5. C'è と ci sono。
6. 聞き取り練習と復習。
7. 小テストと時刻。
8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。
9. 会話の練習と-ire 規則動詞の直接法現在形その二。
10. Mi piace の使い方。
11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。
12. 再帰動詞。
13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB33407, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語中級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. Dov'è? C'è? の使い方。
3. Quanto costa? と会話の練習。
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 読解の練習と復習。
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。
8. 聞き取り練習と非人称動詞。
9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
10. 直接法近過去その一。
11. 直接法近過去その二。
12. 小テストと会話の練習。
13. 直接法近過去その三。
14. 代名詞と会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB43409, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語中級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 不規則動詞の直接法近過去。
3. 聞き取りと会話の練習。
4. 読解の練習と相対最上級。
5. 小テストと代名詞。
6. 疑問詞。
7. 会話の練習と序数詞。
8. 部分補語。
9. 聞き取りと会話の練習。
10. 読解の練習と小テスト。
11. 人称代名詞。
12. 会話の練習。
13. 絶対最上級。
14. 会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB33504, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語上級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：

この講義では、文法は学生の学習が不完全な部分を補う程度にとどめる。読解や場合によっては翻訳も行なえるように、日常的事物や本で使用されるような複雑な筋からなる文章の理解に向けた、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 小テストと直接法未来形。
4. Gerundio と進行動詞。
5. 会話と読解の練習。
6. 会話と聞き取りの練習。
7. 読解の練習と小テスト。
8. 直接法近過去と反過去その一。
9. 会話と読解の練習。
10. 直接法近過去と反過去その二。
11. 会話と読解の練習。
12. 人称代名詞。
13. 会話と読解の練習。
14. 聞き取り練習とテストの準備。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。

7. 教科書および参考書：

講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB43504, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語上級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Advanced Level)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、様々なテキストの読解、翻訳を行ない、日常的な会話表現、聞き取りに関してもさらに練習を行なっていく。イタリア文化についてのトピックをとりあげ、それに関する語彙、知識を深め、イタリア語の高度な運用を目指す。

4. 学習の到達目標：

これまで学んできたイタリア語文法を用いて、さらに高度な読解、翻訳、会話、聞き取りの能力を伸ばし、イタリア文化に関しても学んでいく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 会話と読解の練習。
3. 接続法現在形。
4. 会話と読解の練習。
5. 聞き取り練習と復習。
6. 会話と読解の練習。
7. 条件法と接続法。
8. 会話と読解の練習。
9. 聞き取り練習と復習。
10. 直接法の遠過去と大過去。
11. 会話と読解の練習。
12. 聞き取り練習と復習。
13. 復習。
14. テストの準備。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

会話・作文・翻訳・要約・聞き取りなどを通じて主に講義中に行なう。学期末に学習事項の確認テストを行なう。

7. 教科書および参考書：

講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB34304, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語初級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

日常生活で使用される対話表現を題材に、イタリア語特有の発音・リズムや言い回しを身につけ、名詞の性と数、形容詞の変化、定冠詞と不定冠詞、所有形容詞、指示詞、直接法現在の規則動詞といった基礎文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて初歩的な疑問文や否定文をつくり、会話表現の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話や挨拶の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. コースの紹介。
2. 発音とアルファベット。
3. 定冠詞・不定冠詞・名詞。
4. 形容詞と挨拶。
5. Essere 不規則動詞の直接法現在形。
6. Avere 不規則動詞の直接法現在形。
7. -are 規則動詞の直接法現在形。
8. 丁寧な表現。
9. 数字と聞き取り練習。
10. 小テストと-ere の規則動詞の直接法現在形。
11. Fare 不規則動詞の直接法現在形と命令形。
12. 復習と聞き取り練習。
13. 疑問詞。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。詳細については授業初回に指示する。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB44304, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語初級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Elementary Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活で使用される会話表現を題材に、不規則動詞、助動詞、再帰動詞、過去形といった基礎的文法の規則を習得する。同時に習得した文法知識を用いて、会話表現、作文の練習を行なう。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための初歩的な文法を習得する。主語・述語・補語にもとづく平易な文章を理解し、簡単な日常会話の表現ができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. -ere 規則動詞の直接法現在形。
3. Bere 不規則動詞の直接法現在形と読解の練習。
4. Andare 不規則動詞の直接法現在形。
5. C'è と ci sono。
6. 聞き取り練習と復習。
7. 小テストと時刻。
8. -ire 規則動詞の直接法現在形その一。
9. 会話の練習と-ire 規則動詞の直接法現在形その二。
10. Mi piace の使い方。
11. Uscire 不規則動詞の直接法現在形と人称代名詞。
12. 再帰動詞。
13. Dovere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
14. 小テストと復習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.1」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB34401, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語中級（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

これまでに学習した初級文法を復習しながら、引き続き実用イタリア語のための基礎文法を身につける。日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、命令法、半過去形、未来形、比較級と最上級などの中級文法の規則を習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力を養う。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. Dov'è? C'è? の使い方。
3. Quanto costa? と会話の練習。
4. Potere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
5. Venire 不規則動詞の直接法現在形。
6. 読解の練習と復習。
7. 小テストと Stare 不規則動詞の直接法現在形。
8. 聞き取り練習と非人称動詞。
9. Volere 不規則動詞の直接法現在形とその使い方。
10. 直接法近過去その一。
11. 直接法近過去その二。
12. 小テストと会話の練習。
13. 直接法近過去その三。
14. 代名詞と会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：イタリア語／ Italian

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LB44401, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

イタリア語中級（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Italian Language (Intermediate Level)

3. 授業の目的と概要：

前期セメスターに引き続き、日常生活の様々な場面に対応する会話表現や文章例を題材に、関係代名詞、受動態、条件法、接続法などの中級文法の規則を一通り習得する。同時に、文法知識を用いた実践的な会話練習を行ないながら、イタリア語文章の読解力・翻訳能力・作文能力をさらに発展させる。

4. 学習の到達目標：

実用イタリア語のための基礎文法を習得し、異なる話法や動詞の時制をはじめとする、より複雑なイタリア語の文章を理解し、明確かつ発展的に表現することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 復習。
2. 不規則動詞の直接法近過去。
3. 聞き取りと会話の練習。
4. 読解の練習と相対最上級。
5. 小テストと代名詞。
6. 疑問詞。
7. 会話の練習と序数詞。
8. 部分補語。
9. 聞き取りと会話の練習。
10. 読解の練習と小テスト。
11. 人称代名詞。
12. 会話の練習。
13. 絶対最上級。
14. 会話の練習。
15. 期末テストとまとめ。

6. 成績評価方法：

積極的な授業態度、小テストおよび学期末試験。

7. 教科書および参考書：

朝日出版「Opera Prima Vol.2」。

8. 授業時間外学習：

授業の復習と宿題を行なう。

9. その他：なし

辞書を必ず用意すること。

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB35405, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国語作文

2. Course Title (授業題目)：

Chinese writing

3. 授業の目的と概要：

基本文型の翻訳練習と自由テーマによる作文練習を通じて、中国語の作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時にやり、自由作文は宿題として毎週一篇提出してほしいこと。

4. 学習の到達目標：

一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきりと述べ、また、自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 “是” 動詞の翻訳練習
- 第2回 “有” 動詞の翻訳練習
- 第3回 “在” 動詞の翻訳練習
- 第4回 自由作文の講評
- 第5回 形容詞述語文の翻訳練習
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 自由作文の講評
- 第9回 動詞述語文の翻訳練習
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 自由作文の講評
- 第13回 名詞述語文の翻訳練習
- 第14回 同上
- 第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 作文試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：専門中国語／ Advanced Chinese

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：馬 曉地（准教授）

講義コード：LB45405, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中国語作文

2. Course Title (授業題目)：

Chinese writing

3. 授業の目的と概要：

基本文型の翻訳練習と自由テーマによる作文練習を通じて、中国語の作文の能力を高める。翻訳練習は授業の時にやり、自由作文は宿題として毎週一篇提出してほしいこと。

4. 学習の到達目標：

一つの出来事のあらすじを簡単な言葉ではっきりと述べ、また、自分の考え、気持ちをただしく表すことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 疑問文の翻訳練習

第2回 同上

第3回 同上

第4回 自由作文の講評

第5回 助詞の翻訳練習

第6回 同上

第7回 同上

第8回 自由作文の講評

第9回 複雑句の翻訳練習

第10回 同上

第11回 同上

第12回 自由作文の講評

第13回 複雑句の翻訳練習

第14回 同上

第15回 まとめと試験

6. 成績評価方法：

出席（50％） 作文試験（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント配布

8. 授業時間外学習：

予習と復習を重視する。

9. その他：なし

科目名：専門ドイツ語／ Advanced German

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LB44105, 科目ナンバリング：LHM-GER201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

テキスト読解のためのドイツ語

2. Course Title (授業題目)：

Reading german texts

3. 授業の目的と概要：

論説文、小説、エッセーなど様々なタイプのドイツ語の文を読むことにより、ドイツ語の文法の理解を定着させ、構文を分析的に解説する力を養うことを目指す。無理なく理解が進むよう初級文法を復習しながらゆっくり授業を進める予定である。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語のテキストを自力で読むことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 物語文の講読 1
- 3 笑話の講読 1
- 4 新聞記事の講読 1
- 5 エッセーの講読 1
- 6 哲学的論説文の講読 1
- 7 物語文の講読 2
- 8 笑話の講読 2
- 9 新聞記事の講読 2
- 10 エッセーの講読 2
- 11 哲学的論説文の講読 2
- 12 物語文の講読 3
- 13 笑話の講読 3
- 14 詩の講読
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回予習が必要です。細かく辞書を引いてください。授業の最後には課題が出されます。

9. その他：なし

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：翠川 博之（非常勤講師）

講義コード：LB32206, **科目ナンバリング：**LHM-FRE201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語の文章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read a French text

3. 授業の目的と概要：

2000 年に公開された J.P.=サルトルの未刊のシナリオ「レジスタンス」をテキストに用いて、その全文を読みます。この映画シナリオは、ナチス・ドイツ占領期にあたる 43 年から 44 年のあいだに創作されました。執筆そのものがサルトルにとってのレジスタンスだったと言えるでしょう。戦時下のドキュメントとしても読める興味深いテキストであるうえ、まさに映像がまぶたに浮かぶ力作です。

この作品を授業で読む目的は二つあります。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を正確に読むスキルの習得。文学的表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をします。訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術をものにしましょう。

4. 学習の到達目標：

- ① 高度な文法知識を身につけて、文章を正確に読めるようになる
- ② 一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる
- ③ 文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 テキストの背景説明
- 2 訳読：テキスト p. 1～p. 2
- 3 訳読：テキスト p. 2～p. 3
- 4 訳読：テキスト p. 4～p. 5
- 5 訳読：テキスト p. 5～p. 6
- 6 訳読：テキスト p. 7～p. 8
- 7 訳読：テキスト p. 8～p. 9
- 8 訳読：テキスト p. 10～p. 11
- 9 訳読：テキスト p. 11～p. 12
- 10 訳読：テキスト p. 13～p. 14
- 11 訳読：テキスト p. 14～p. 15
- 12 訳読：テキスト p. 16～p. 17
- 13 訳読：テキスト p. 17～p. 18
- 14 訳読：テキスト p. 19～p. 20
- 15 訳読：テキスト p. 20～p. 22

6. 成績評価方法：

平常点（訳読の回数と精度）80%、ノート（予習・復習の質）20%

7. 教科書および参考書：

Jean-Paul Sartre, 《Résistance》, in Les Temps Modernes, No609, 2000, pp. 1-22.

プリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回 1.5 ページ分を受講者全員で訳読していきます。予め担当者を決めませんので、各自がきちんと予習をして授業に臨む必要があります。ノートに和訳を準備してきてください。授業中に添削したノートを見直して文法メモを補うなど、復習も十分に行いましょう。

9. その他：なし

連絡先メールアドレス：hrykmdrkw@gmail.com

オフィスアワーについては開講時にお知らせします。

科目名：専門フランス語／ Advanced French

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：翠川 博之（非常勤講師）

講義コード：LB42206, **科目ナンバリング：**LHM-FRE201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語の文章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read a French text

3. 授業の目的と概要：

J. P. =サルトルの短編小説「壁」の全文を読みます。作品の背景は 1939 年のスペイン内乱。ファシスト政府軍に捕えられた人民戦線派の一市民が主人公で、その一人称語りによって物語が展開します。明日の夜明けまでに仲間の隠れ家を明かさなければ、処刑場の「壁」の前で銃殺される。限界状況における人間の自由と偶然性に翻弄される人間の運命が、簡潔で緊迫感のある文体で描き出されています。

この作品を授業で読む目的は二つです。第一に、文法知識の習得。これまでに蓄えた文法知識を実践的に活用する術を学びつつ、より高度な文法知識を身につけます。第二に、文章を正確に読むスキルの習得。文学的表現の微妙なニュアンスまで読み取る練習をします。訳読の訓練をしながら、文学テキストを味読するための技術をものにしましょう。

4. 学習の到達目標：

- ① 高度な文法知識を身につけて、文章を正確に読めるようになる
- ② 一定分量の文章を一定の速度で読めるようになる
- ③ 文学作品を鑑賞、批評するための読解力を養う

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 テキストの背景説明
- 2 訳読：テキスト p. 213～p. 214
- 3 訳読：テキスト p. 214～p. 215
- 4 訳読：テキスト p. 216～p. 217
- 5 訳読：テキスト p. 217～p. 218
- 6 訳読：テキスト p. 219～p. 220
- 7 訳読：テキスト p. 220～p. 221
- 8 訳読：テキスト p. 222～p. 223
- 9 訳読：テキスト p. 223～p. 224
- 10 訳読：テキスト p. 225～p. 226
- 11 訳読：テキスト p. 226～p. 227
- 12 訳読：テキスト p. 228～p. 229
- 13 訳読：テキスト p. 229～p. 230
- 14 訳読：テキスト p. 231～p. 232
- 15 訳読：テキスト p. 232～p. 233

6. 成績評価方法：

平常点（訳読の回数と精度）80%、ノート（予習・復習の質）20%

7. 教科書および参考書：

Jean-Paul Sartre, 《Le Mur》, dans Œuvres romanesques, Gallimard, 《Bibliothèque de la Pléiade》, 1991, pp.213-233. プリントを配付する。

8. 授業時間外学習：

毎回 1.5 ページ分を受講者全員で訳読していきます。予め担当者を決めませんので、各自がきちんと予習をして授業に臨む必要があります。ノートに和訳を準備してきてください。授業中に添削したノートを見直し文法メモを補うなど、復習も十分に行いましょう

9. その他：なし

連絡先メールアドレス：hrykmdrkw@gmail.com

オフィスアワーについては開講時にお知らせします。

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：尾崎 順一郎 (助教)

講義コード：LB35306, **科目ナンバリング：**LHM-LIT226J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

漢文訓読入門 (文法篇)

2. Course Title (授業題目)：

An introduction to reading classical Chinese texts in Japanese (1)

3. 授業の目的と概要：

この授業では漢文の文法事項を体系的に理解し、文法の面から漢文の読解力を向上させることを目的とし、文法事項 (文型、句形、語法、送り仮名など) に関する個々の性格、相互の関係、実際の用いられ方を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

受講生は本講を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

文法事項の解説とテキストの読解を行う。具体的には、授業の前半で個別の文法事項について解説し、後半で出席者とともにテキストの書き下し文と現代日本語訳の作り方を討論する。

[進度予定]

第 01 講 訓点と文型

第 02 講 再読文字

第 03 講 使役形

第 04 講 受身形

第 05 講 否定形 (1)

第 06 講 否定形 (2)

第 07 講 否定形 (3)

第 08 講 疑問形・反語形 (1)

第 09 講 疑問形・反語形 (2)

第 10 講 疑問形・反語形 (3)

第 11 講 比較形

第 12 講 限定形・累加形

第 13 講 抑揚形

第 14 講 練習問題

第 15 講 期末試験と解説

6. 成績評価方法：

予習プリント (50%)、期末試験 (50%)

7. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。参考書は授業中に紹介する。

References are handed out at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

授業中に配布する予習プリントを行う。

Students are required to submit class assignments.

9. その他：なし

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週金曜日 12:15~12:45 とする。

Office hours are from 12:15 to 12:45 on Fridays at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617

科目名：漢文講読／ Chinese Classics (Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：尾崎 順一郎 (助教)

講義コード：LB45307, **科目ナンバリング：**LHM-LIT226J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

漢文訓読入門 (故事成語篇)

2. Course Title (授業題目)：

An introduction to reading classical Chinese texts in Japanese (2)

3. 授業の目的と概要：

この授業では故事成語への理解を深めつつ、漢文の読解力を向上させることを目的とし、故事成語の出典となるテキストを読み解き、その内容とともに関連する知識を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

受講生は本講を通して、教育現場や専門分野に応用し得る漢文訓読の基礎的な知識を習得することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

故事成語に関連するテキストを読み解く。具体的には、出席者とともにテキストの書き下し文と現代日本語訳の作り方を討論する。

[進度予定]

- 第01講 故事成語 (1)
- 第02講 故事成語 (2)
- 第03講 故事成語 (3)
- 第04講 故事成語 (4)
- 第05講 故事成語 (5)
- 第06講 故事成語 (6)
- 第07講 故事成語 (7)
- 第08講 故事成語 (8)
- 第09講 故事成語 (9)
- 第10講 故事成語 (10)
- 第11講 故事成語 (11)
- 第12講 故事成語 (12)
- 第13講 故事成語 (13)
- 第14講 故事成語 (14)
- 第15講 期末試験と解説

6. 成績評価方法：

予習プリント (50%)、期末試験 (50%)

7. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。参考書は授業中に紹介する。

References are handed out at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

授業中に配布する予習プリントを行う。

Students are required to submit class assignments.

9. その他：なし

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週金曜日 12:15～12:45 とする。

Office hours are from 12:15 to 12:45 on Fridays at the Laboratory of Chinese philosophy, Room617

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：谷山 洋三（准教授）

講義コード：LB41207, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

臨床宗教師とスピリチュアルケア

2. Course Title (授業題目)：

Interfaith Chaplain and Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

臨床宗教師は公共空間でスピリチュアルケア、宗教的ケアを提供する宗教者である。スピリチュアルケアは、ホスピス運動に伴って日本に紹介され、緩和ケアの領域においては一定の理解を得られているものの、定着しているとはいいがたい。宗教的ケアは、欧米では「パストラルケア」としてキリスト者によって提供されてきたが、視点を替えれば、日本でも仏教、神道などでも概念化されないまま伝統的に実践されて来たと言うこともできる。臨床宗教師の実践に基づいて、この2つのケアの内容、相違点、共通点などについて考察する。また、体験的なワークを通して擬似的にスピリチュアルケア、宗教的ケアを体験することで、理解を深めたい。

4. 学習の到達目標：

臨床宗教師が提供するスピリチュアルケア、宗教的ケアについて基礎知識を得る

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. チャプレンとビハラー僧
3. 「臨床宗教師」の誕生
4. 生活の中にある心のケア
5. スピリチュアルペイン
6. スピリチュアルな探求
7. 「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
8. 「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
9. 宗教的資源の活用
10. 宗教的ケア
11. 臨床宗教師の可能性
12. 臨床宗教師の資質
13. ワークショップ「死の体験」
14. ワークショップ振り返り
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート[50%]、出席・討論への参加等[50%]

7. 教科書および参考書：

教科書（必ず購入してください）：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア：臨床宗教師の視点から』中外医学社、2016年（2600円＋税）

参考書：鎌田東二（編）『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビーイング・ネット・プレス、2014年

8. 授業時間外学習：

予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する

復習：授業で学んだことについて、実際の場면을想像しながら考察する

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（助教）

講義コード：LB31302, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？

2. Course Title (授業題目)：

Clinical thanatology thinking about life from death: What is a person's death?

3. 授業の目的と概要：

人は自らの死を予め体験することはできないが、他者の死を通して学ぶことはできる。人間だけが、「自分も死ぬことを意識できる動物」である。死は「自然現象」であると同時に、自他の死を受容する「文化現象」である。

ヒトという生物の生である「人生」は、自己と他者である事物を結びつけ、それに意味を与えることで作られる。「偶然」のできごとを、「運命」の出会いとするなど、人の生は合理的な思考のみで生きているわけではない。人生そのものが、映画や小説のテーマになるように、人は非合理的な生き方に意味を見出している。人があえて「合理的ではない行為」をとるとき、その行為には深い心理的な意味が込められている。人の死に関わる「葬送」、「慰霊（供養）」、「墓参」なども非合理的な行為であるが、当事者にとって意味ある行為となる。自他の死の受容についても同様に合理と非合理、立場の相違によって揺れる。本講では、具体的な「他者の死」から「自己の死」をデザインすることを通して、私たち一人一人の人間としての「生」を摸索する一助としたい。

4. 学習の到達目標：

1. タブー視されがちな自他の「死」を、具体的な事例を通して考えることによって、自らの「生」の意味をさぐる。 2. 「延命治療」や「尊厳死」、脳死、臓器移植、緩和医療、死に場所、「終活」、葬儀など現代の問題について自ら考える力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）について事例を通して考える。それぞれのテーマについて1-2回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、死に方・生き方には普遍的「正解」はなく、それぞれの人やおかれている状況によって異なることを学ぶ。

0. イントロダクション：闇の中でこそ光が。
 1. 現代人の死に場所：病院死と在宅死。
 2. 「ホスピス」とシシリー・ソンドース。
 3. 緩和医療におけるスピリチュアルケア。
 4. 臓器は誰のもの：死の判定と臓器移植。
 5. あらかじめ決める：「安楽死」と「尊厳死」。事前指示とその問題。
 6. 自らの死をデザインする：「エンディング・ノート」, 「終活」。
 7. 死を受容する心理：キューブラー=ロスの五段階説。
 8. グリーフ・ワークとしての5段階と意味再構成。
 9. 「よく生きる」ことと「ただ生きる」こと：生きる価値とは何か。
 10. 「ある少女の選択」：いのちは誰のもの？。
 11. 「死者ヴィジョン」の出現：医学的説明と文化的意味。
 12. 「ここは天国」：認知症の世界と死の受容。
 13. 寝たきりの生：『病牀六尺』の世界。
 14. グアテマラの宗教文化。

6. 成績評価方法：

毎時ミニット・ペーパー提出。学期末課題論文提出。

7. 教科書および参考書：

特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。Additional references and texts will be provided by the instructor.

8. 授業時間外学習：

40分程度の予習。About 40 minutes of study is required.

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（助教）

講義コード：LB41303, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

悲嘆学試論

2. Course Title (授業題目)：

Grief Studies Theory

3. 授業の目的と概要：

人は生きていく上でさまざまな「悲嘆 (grief)」と遭遇する。自分にとってかけがえのないもの：自分のいのち、大切な人、ペット、故郷、記念となる物…を「喪失 (loss)」した時、私たちは心理面はもちろん、身体的にも痛みを覚え、さまざまな症状をおこす。「悲嘆」とそれへの対応は、人類のはじまりより共にあるものの、「学」として確立された領域というより、むしろ実践的な「知恵」の側面をもつ。本講ではこうした現状を踏まえ、悲嘆をケアすること (grief care) と、悲嘆からの立ち直り (grief work) について、「宗教」の役割にも触れつつ考えていきたい。

4. 学習の到達目標：

1. 悲嘆という現象について理解する。2. 悲嘆を癒す「グリーフ・ケア」について学ぶ。3. 悲嘆からの立ち直り「グリーフ・ワーク」について学ぶ。4. 悲嘆と共に生きることにについて考える力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）について、できる限り事例を通して考える。それぞれのテーマについて1-2回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、自ら考えるとともに他者の考えを知り、考えを深める。

0. イントロダクション；「永訣の朝」 他者の死と私

1. 悲嘆と喪失

2. 苦しみの意味づけ

3. 自己の死と予期悲嘆

4. 看取り

5. 死別の癒し：葬儀・宗教儀礼の意味

6. 意味再構成理論

7. 『子を喪へるの親の心』

8. 災害死

9. 犯罪被害

10. 自死

11. 死者におくる卒業証書

12. 民間信仰：地蔵によるケア

13. 信仰治療 宗教と癒しなど

14. 現代的死の受容：遍在と自然回帰

15. その他

6. 成績評価方法：

毎時ミニット・ペーパーの提出。学期末課題論文提出。

7. 教科書および参考書：

特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。Additional references and texts will be provided by the instructor.

8. 授業時間外学習：

40分程度の予習。About 40 minutes of study is required.

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：原 塑（准教授）

講義コード：LB31406, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

よりよい研究のための倫理

2. Course Title (授業題目)：

Research Ethics and Research Integrity

3. 授業の目的と概要：

人文社会科学・自然科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方で導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生や大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、大学生や大学院生が、よい研究者になるために、どのような仕方で行うのが望ましいのか、また望ましくないのかを学ぶことを目的とします。

この授業は講義とワークショップという二つのパートからなります。講義では、まず研究倫理を概観した後で、その中の幾つかのトピック（査読、利益相反、軍事研究など）を深く議論します。ワークショップでは、受講者は「よい研究者」になるための方策や条件を、グループワークを行うことで考察していきます。

4. 学習の到達目標：

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 責任ある仕方で行う研究のために研究者が遵守すべき様々な規範について学び、そのような規範を遵守すべき理由を理解すること。
3. 研究不正行為のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになること。
4. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、以下のテーマを取りあげます。

1. イントロダクション
2. 実験研究の倫理
3. フィールド研究の倫理
4. 文献研究の倫理
5. 科学者の責任
6. ピアレビュー
7. 研究の再現性
8. 利益相反
9. 軍事研究
- 10～15. 研究に関するワークショップ

6. 成績評価方法：

授業中の討論やワークショップへの参加（60％）、レポートの提出（40％）

7. 教科書および参考書：

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』丸善出版、2015年

8. 授業時間外学習：

CITI Japan や学術振興会などが提供する研究倫理 e-learning を受講することを強くお勧めします。

9. その他：なし

ワークショップは学期中2日間を使って、集中して行います。ワークショップの開催日程を決めるため、初回の授業（4月9日に実施）に必ず出席してください。初回の授業に出席することができない場合には、講義担当者の原塑（電子メール：plastikfeld@gmail.com）に電子メール等で連絡してください。

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB32207, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

近代日本の歴史

2. Course Title (授業題目)：

Modern Japanese History

3. 授業の目的と概要：

授業は、世界史の一環として日本の近代史を学ぶ。世界という観点から日本を学ぶことによって、日本の近代・現代世界における位置の理解を深める。扱う時代は 1800 年から現在までである。

日本史に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学の考え方を学ぶ。

与えられた日本史の英語文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけでなく、英論文作成を学ぶことができる。

4. 学習の到達目標：

近代日本史に関する歴史学的な問題や主要な文献を意識する。

英語での歴史学のあり方を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. The Twilight of the Tokugawa: Japan in 1800
2. The Best of Times, the Worst of Times: Japan 1790-1844
3. Black Ships and Revolutions
4. Making Meiji: Establishing the State
5. New Days in Meiji Japan: The Cultural Revolution
6. Wither Imperialism?: Early Meiji Foreign Relations
7. Imperialism II: Bestial Inoculation
8. Can't Win for Losing: World War I and Imperial Democracy
9. Erotic, Grotesque, Nonsense: Authoritarian Backlash
10. Apocalypse: The Greater East Asian War
11. Atomic Peace: The American Occupation
12. The Three Deaths: Economy, Labour, Politics, 1950-1960
13. The Miraculous and the Mundane: Economy and International Relations, 1960-80
14. Gilded Toilets and Bursting Bubbles: Economic Growth and Crash
15. The Post-Postwar

6. 成績評価方法：

リアクション・ペーパー[45%] ・地図テスト[10%] ・出席・ディスカッション[45%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

2 回資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

2 reading responses are to be submitted during the semester.

9. その他：なし

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB42207, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

日本文化と社会

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Culture and Society

3. 授業の目的と概要：

授業は、現在日本の文化・社会と日本や海外においてそれを対象とする学問を紹介する。日本文化・社会に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学や社会学の考え方を学ぶ。

参加する学生の日本における経験そのものは資料となり、ディスカッションや発表でそれをアカデミックな視点から考え方を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

現在日本文化や社会に関する歴史的な問題や主要な文献を意識する。

「日本文化」という理念の神秘性をなくし、日本文化に関する本質主義的な思想を問題視する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction: The myth of national culture
2. Background: Japan since World War II
3. Middleness and disparity: Class in Contemporary Japan
4. Gender and work
5. The changing nature of employment
6. Education and class
7. Youth, crime, and punishment
8. Family life: men
9. Family life: women
10. Self and other in Japan
11. Invisibility and minority
12. Presentations
13. Presentations
14. The foreign in the everyday
15. 3.11

6. 成績評価方法：

発表[40%]・リアクション・ペーパー[20%]・出席・ディスカッション[40%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

Reading responses are to be submitted during the semester.

9. その他：なし

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：高橋 原（教授）

講義コード：LB43304, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

宗教、スピリチュアリティ、心理療法

2. Course Title (授業題目)：

Religion, Spirituality and psychotherapy

3. 授業の目的と概要：

宗教体験と心理療法について、危機に際して発動するスピリチュアリティという視点から考える。

4. 学習の到達目標：

スピリチュアリティとは何か、宗教体験と心理療法の関係から自分なりに説明できるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

人生の危機に際して発動するスピリチュアリティの諸相と、その統御を組み込んだ心理療法的な実践について次のようなトピックを取り上げる（順不同）。

1. 「無意識の発見」と原始的心理療法
2. 悪魔祓（エクソシズム）について
3. 「野の医者」と心理療法
4. 人生の危機とスピリチュアリティの発動（吉本伊信、エリザベス・キューブラ＝ロス、その他）
5. 宗教的体験と心理療法

6. 成績評価方法：

期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。

7. 教科書および参考書：

東畑開人『野の医者は笑う』（誠信書房）他、適宜、授業内で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献により理解を深める。

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：行場 次朗, 戸島 貴代志, 阿部 恒之, 木村 邦博, 坂井 信之, 辻本 昌弘, 小林 隆, 小泉 政利（教授 他）

講義コード：LB43505, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

研究と実践の倫理

2. Course Title (授業題目)：

Ethical problems in research and practical activities

3. 授業の目的と概要：

人文社会科学の分野で行われている複数の研究手法である調査、実験、フィールドワーク、聴き取り調査、歴史資料の収集や、研究不正などに関わる倫理的諸問題を複数教員が担当して解説する。

4. 学習の到達目標：

人文社会科学の諸分野における研究と、その知識に基づく社会的実践の場における倫理の基礎を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 人間と技術
3. 科学と倫理
4. 人を対象とした実験研究における倫理
5. 動物を対象とした実験研究における倫理
6. 社会心理学実験における倫理
7. 社会調査研究に必要な実践的問題と倫理
8. 調査研究における倫理問題の国内外の動向
9. 企業における研究・特許等の問題について
10. フィールドワークにおける倫理の問題
11. 海外でのフィールドワークの注意点
12. 聴き取り調査の実践と倫理の諸問題
13. 研究倫理の国内外の動向
14. 研究不正の防止と対応
15. 全体のまとめとレビュー

6. 成績評価方法：

出席 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

それぞれの担当教員の授業によっては、小レポート課題を出すことがある。成績評価の対象となる学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：高橋 原. 大村 哲夫（教授、助教）

講義コード：LB34501, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

死生学と宗教文化

2. Course Title (授業題目)：

Thanatology, Religion and Culture

3. 授業の目的と概要：

死生学と宗教文化に関する文献を毎回一本読み、人間の死と生について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

人間がどのように死と向き合ってきたのか、多様な文化の視点から考え、表現する視点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

『死生学年報』（東洋英和女学院大学死生学研究所）のバックナンバーから下記の論文を取り上げる（予定）。
具体的な進め方については初回に話しあって決める。

- (1) 死生学の誕生と死生観の探求 ―死をめぐる新しい文化の広がり― 島 蘭 進 2013
- (2) 「スピリチュアリティ」概念の再考 ―スピリチュアリティは霊的世界観を前提とするか？― 安藤泰至 2008
- (3) 死者の「祭祀」と「供養」をめぐる 池上良正 2006
- (4) 王朝人における死への眼差し ―臨終行儀と往生夢― 河東 仁 2006
- (5) 江戸の怪談にみる死生観 佐藤弘夫 2013
- (6) 宮沢賢治の悲嘆体験と立ち直りの過程について―妹トシの死との関連において― 平山正実 2005
- (7) 日本のシャーマニズムと死者との交流 佐藤憲昭 2014
- (8) 生のかたち、死のかたち ―西洋の美術表現を中心に― 佐倉 香 2007
- (9) ヒルデガルト・フォン・ビンゲン ―幻視と生きる― 鈴木桂子 2011
- (10) 死の舞踏の成立と伝播 小池寿子 2009
- (11) 死後の生―死生学における「宗教の領分」― 鶴岡賀雄 2011

6. 成績評価方法：

出席回数・授業内の発言などから総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

毎回の課題論文をコピーして配付する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献により理解を深める。

9. その他：なし

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：高橋 原, 木村 敏明, 谷山 洋三（教授 他）

講義コード：LB44501, 科目ナンバリング：LHM-OHS204B, 使用言語：2 カ国語以上

1. 授業題目：

実践宗教学試論～宗教者によるケア実践

2. Course Title (授業題目)：

Practice of care by religious specialists

3. 授業の目的と概要：

宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者を招く回があります。

各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師の理念
2. グリーフケアと宗教
3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

6. 成績評価方法：

出席回数、毎回提出のミニットペーパーによる。

7. 教科書および参考書：

特に指定しないが授業内で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献等で学習を深める。

9. その他：なし

専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
博物館概論	博物館概論	2	岡部 幹彦	集中(5)			1
博物館経営論	博物館経営論	2	高橋 修	集中(5)			2
博物館資料論	博物館資料・標本の特性	2	藤澤 敦	6	金	1	3
博物館資料保存論	博物館資料保存の方法と実務	2	水澤 教子	集中(5)			4
博物館展示論	博物館展示の理論と実践	2	水澤 教子	集中(6)			6
博物館情報・メディア論	博物館情報の現在	2	皿井 舞	集中(5)			8
博物館実習Ⅱ	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	5	金	4、5	9
博物館実習Ⅲ	博物館学資料分析法	2	阿子島 香	6	水	3、4	10
博物館実習Ⅳ	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	5	火	3、4	11
博物館実習Ⅴ	西洋美術史の基礎知識と調査入門	2	尾崎 彰宏	5	火	3、4	12
博物館実習Ⅵ	館園実習	1	藤澤 敦	集中(5)			13
地理学B	都市地理学からみた仙台	2	村山 良之	5	木	3	14
地誌学	都市社会の諸相・諸課題	2	小田 隆史	6	木	2	15
キリスト教史	世界の中のキリスト教	2	木村 敏明	6	水	2	16
書道	書表現の基礎(一) (漢字)	2	下田 真奈美	5	木	4	17
書道	書表現の基礎(二) (かな)	2	下田 真奈美	6	木	4	18
日本語・日本文化論講読	古典講読Ⅰ	2	高橋 章則	5	月	2	19
日本語・日本文化論講読	古典講読Ⅱ	2	高橋 章則	6	月	2	20
日本語・日本文化論講読	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	5	火	4	21

専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語・日本文化論講読	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	6	火	4	22
日本語・日本文化論講読	現代評論講読Ⅰ	2	高橋 章則	5	水	2	23
日本語・日本文化論講読	現代評論講読Ⅱ	2	高橋 章則	6	水	2	24
日本語表現論	日本語表現論Ⅱ	2	高橋 章則	6	水	1	25
日本語表現論	日本語表現論Ⅰ	2	高橋 章則	5	木	2	26

科目名：博物館概論／ Museology (General Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), **単位数：**2

担当教員：岡部 幹彦 (非常勤講師)

講義コード：LB98834, **科目ナンバリング：**LHM-CUM301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

博物館概論

2. Course Title (授業題目)：

Museology (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：

博物館の定義を通じて博物館の目的・機能、社会的存在意義について学習する。また、我が国及び諸外国の博物館の歴史と法制度等について学習し、その現状と課題ならびに我が国博物館の特性を理解する。博物館に関する基礎知識を修得し、専門性の基礎となる能力を養う。

スライドを用いて講義形式で進行するが、適宜対話形式をとる。内外の事例を数多くの映像で紹介するほか、実物資料も用いる。

4. 学習の到達目標：

博物館の本質的機能とその社会的存在意義を理解し、これらからの博物館活動を考え、実践するうえで必要な基礎知識を修得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、博物館の歴史 (1)
2. 博物館の歴史 (2) —日本の博物館史—
3. 博物館の定義 —博物館法と ICOM の定義—
4. 博物館の種類と区分 —設置者、運営者と法的区分—
5. 統計にみる博物館像 —日本の博物館の現状と課題—
6. 資料と情報 —資料の情報と価値を考える—
7. 展示 —観察と鑑賞、観る行為のもつ意味—
8. 保存 —博物館資料と地域所在資料、保存の意義—
9. 博物館教育 (1) —教育と学習、博物館ならではの学びとは—
10. 博物館教育 (2) —学びの契機の提供と学びのサポート—
11. 博物館と地域社会 (1) —施設運営から運動体の核としての発想へ—
12. 博物館と地域社会 —実践事例に学ぶ—
13. 高度情報化社会における博物館の機能 —新たな情報共有システムの構築—
14. 博物館と関連法令等 —国際条約と国内法—
15. まとめ —学芸員とは何か、求められる資質と役割—

6. 成績評価方法：

授業への取り組み姿勢とレポートにより総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリント配布または参考図書を適宜示す。

Main course materials will be handouts and no textbooks will be used. Reference books will be suggested when appropriate.

8. 授業時間外学習：

多くの博物館のウェブサイトを開覧し、また身近な博物館と訪れて案内リーフレットや展示案内、事業案内 (参加募集チラシ) 等を入手し、すくなくとも利用者として博物館を理解しておくこと。特別展 (企画展) や常設展を観覧して、展示テーマや展示構成、展示方法、展示設備等と観覧者の反応などを観察しておくこと。

Students are required to visit familiar museums and obtain pamphlets, exhibition guides and other relevant materials in order to understand museums as a visitor. Moreover, students need to observe themes, arrangements, exhibition methods of both temporary and permanent exhibitions as well as reaction and behavior of viewers. Furthermore, students need to visit websites of various museums.

9. その他：なし

科目名：博物館経営論／ Museum administration

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：高橋 修（非常勤講師）

講義コード：LB98835, 科目ナンバリング：LHM-CUM302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

博物館経営論

2. Course Title (授業題目)：

Museum Management

3. 授業の目的と概要：

博物館の活動は資料の研究、収集・保存、展示、普及交流事業といった基本的な活動に加え、地域振興、NPO やボランティア等の市民団体との連携、博物館評価など、その事業内容は多面化しつつあります。これら事業同士を結び付け、発展させていくために、あらためて博物館経営の在り方が問われています。博物館経営の現状と課題についての諸問題を学びます。

4. 学習の到達目標：

- 1：博物館経営の基本的な仕組みを理解する。
- 2：社会と博物館との関係の築き方について、博物館経営の視点からその現状と課題について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 博物館の使命と事業体系
- 第3回 博物館評価の仕組み
- 第4回 博物館のアメニティ ミュージアムショップとミュージアムレストランを中心に
- 第5回 博物館経営の中における組織・人員の在り方
- 第6回 博物館の運営形態 指定管理者制度を中心に
- 第7回 博物館経営における集客と広報
- 第8回 博物館の財政
- 第9回 博物館を支援する団体 博物館友の会を中心に
- 第10回 博物館同士のネットワーク
- 第11回 博物館経営における市民参画 博物館ボランティアを中心に
- 第12回 博物館経営と市民団体とのネットワーク NPO 法人との連携を中心に
- 第13回 博物館経営における学校教育とのネットワーク
- 第14回 博物館の危機管理
- 第15回 まとめ 博物館経営の課題

6. 成績評価方法：

平常点(30%)、小レポート(30%)、試験(40%)

平常点は授業への参加状況、小レポートの提出状況等から総合的に判断をします。

7. 教科書および参考書：

参考書：大堀・水嶋編『博物館学 III 博物館情報・メディア論*博物館経営論』（学文社、2012 年）

8. 授業時間外学習：

できるだけ様々な博物館を訪問し、運営の在り様について比較検討しながら、それぞれの館の個性を把握するよう努めてください。

9. その他：なし

科目名：博物館資料論／ Museum artifacts

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB65103, 科目ナンバリング：LHM-CUM303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

博物館資料・標本の特性

2. Course Title (授業題目)：

The characteristic of the various museum collections

3. 授業の目的と概要：

博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本には、多様な分野のものがあり、それぞれで特性が異なっている。その特性の違いに応じて、資料の収集と整理保管等の取り扱いの考え方や方法、調査研究の方法も異なっている。本講義では、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本について、3人の教員が各専門分野から、博物館資料としての特性を講義する。

4. 学習の到達目標：

博物館資料の多様性について理解する。博物館の資料としての、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本の特性について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 博物館法における博物館資料
3. 考古学資料の種類と特質
4. 考古学資料の収集と管理
5. 東北大学所蔵の考古学資料
6. 古生物学資料について（1）
7. 古生物学資料について（2）
8. 古生物学資料について（3）
9. 古生物学資料について（4）
10. 美術資料研究の歴史—江戸時代以前
11. 美術資料研究の歴史—明治時代
12. 美術資料研究—仏像について
13. 東日本大震災と博物館資料
14. 拡がる博物館資料
15. まとめ

6. 成績評価方法：

筆記試験(60%)と出席(40%)

7. 教科書および参考書：

プリント資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：なし

科目名：博物館資料保存論／ Museum preservation

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5)， **単位数：**2

担当教員：水澤 教子（非常勤講師）

講義コード：LB98836， **科目ナンバリング：**LHM-CUM304J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

博物館資料保存の方法と実務

2. Course Title (授業題目)：

Method and Technique of Museum Preservation

3. 授業の目的と概要：

博物館における資料保存の学史を通してその意義を理解する。また、博物館資料について素材別に適切な保存を行うための知識を身につけ、その方法と技術を学ぶ。さらに守り伝えられた資料によって広がる世界を実感し、調査研究や普及公開への道筋を把握する。特に歴史資料に関し、事前の科学分析、脆弱遺物を対象にした手仕事での保存処理、優先順位をつけての修復、保管方法と保管環境への配慮、展示という学芸員の一連の取り組みの例示や、作業におけるエピソードを通じて、資料保存に対する博物館学芸員としての基本的な知識や技術と特に留意すべき点を、具体的かつ実践的に修得する。

4. 学習の到達目標：

博物館における資料ならびにその展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識の修得をめざし、あわせて資料保存のための能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「資料保存の哲学」：博物館学における資料保存論の位置づけと博物館で資料を保存する意義を理解する。
2. 「博物館資料としての文化財」：博物館資料と文化財の定義と内容をジャンル別に把握する。文化財の体系と文化財保護法、エコミュージアムや自然環境の保護への取り組みの状況を理解する。
3. 「資料保存の学史と災害対策」：資料保存の学史を、博物館の設立、各種法律の制定、学問としての保存科学の発展の3側面から学ぶ。また、各種災害への対策を実例を通して理解する。
4. 「資料保存の諸条件」：資料劣化の原因となる温湿度、光、室内汚染について、その現状と対策の具体的な方法を、博物館における事例から学ぶ。
5. 「くん蒸とIPM」：博物館における生物被害の実態を整理し、ガスくん蒸とその方法並びに環境上の影響からここ10年の中で導入されたIPMの具体的な方法と今後の可能性について学ぶ。
6. 「資料の梱包と安全な輸送」：資料を安全に運搬するための形態別・素材別梱包方法を会得する。輸送のための留意点や、立ち会いの方法等について学習する。
7. 「金属製品の状態調査」：金属製品の構造や劣化状態の調査方法として主にX線透過撮影、分析SEMによる元素分析を取り上げる。分析機器の原理、構造調査等の方法、またその結果確認できる歴史的事実、そしてそれを公開する方法と意義について整理する。
8. 「展示室の環境と資料保存」：博物館を訪問して展示室と収蔵庫の環境保全の工夫について具体的に見学し、理解を深める。
9. 「保存科学と修理」：博物館の機器を用いての、保存処理と修理の実践的な方法について具体的に見学し、より深く学習する。
10. 「地域資源の保護と活用」：有形文化財のうち建造物、並びに史跡、名勝、天然記念物の保護の歴史を学び、その必要や活用の方向性を考察する。
11. 「無機質遺物の保存科学」：土器・石器・金属器・ガラス等の出土時の応急処置方法及び恒久的な保存処理方法、博物館で劣化が発生した場合の処置方法についての詳細、さらに保存処理が完了した資料を取り扱う場合の注意点を整理する。
12. 「木製品の科学的調査」：資料の保存処理の事前分析として科学的調査が必要である。特に木質遺物や漆紙文書の赤外線調査は歴史的な情報の抽出方法としても重要であり、その原理と技術、具体的な事例を取り上げ、実例をもとに解説する。
13. 「木製品の保存科学」：木製品・種実類・漆製品など有機質遺物の保存処理方法を具体的に紹介し、保存処理が完了した博物館資料に劣化が起こった場合の処置方法や、劣化を引き起こさないための資料の取り扱い上の注意点、保管方法を整理する。
14. 「土器・土製品の理化学分析」：土器の胎土分析は、素材調査と考古資料としての産地推定の両方の目的をもっている。本講では砂の光学顕微鏡分析と粘土の化学組成分析を組み合わせる実践される方法を詳細に解説し、博物館での具体的な分析・

展示事例として紹介する。

15. 「文化財を未来へ伝える意義の確認と試験」：博物館における資料保存の意義を理解する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

7. 教科書および参考書：

プリント資料を随時配布する。また参考文献について講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として木製品、金属製品などを展示している博物館を訪問し、資料の状態や展示の方法等授業で学んだ点に留意して確認してみる。

9. その他：なし

科目名：博物館展示論／ Museum exhibit planning and design

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6)， 単位数：2

担当教員：水澤 教子（非常勤講師）

講義コード：LB98837， **科目ナンバリング：**LHM-CUM305J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

博物館展示の理論と実践

2. Course Title (授業題目)：

Theory and Practice of Museum Exhibit

3. 授業の目的と概要：

展示は、博物館が収集・整理・保存して蓄積した資料を学際的な領域から調査研究して情報を引き出し、学術的かつ教育的な配慮のもとに、一般に広く公開することであり、博物館活動の要である。そして展示に込めた学芸員や博物館のメッセージは学術的にも社会的にも恩恵を与えるものでなければならない。本科目では、様々な展示の形態や歴史を知るとともに、展示の理論や方法論を把握し、さらに資料から展示を組み立てるにあたっての具体的な技術を修得することを目的とする。また、展示そのものの以外にも展示を構成する博物館での様々な取り組みを、実践例をもとに具体的に整理しながら紹介し、自主的に考え、実践できるような能力を養成する。

4. 学習の到達目標：

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を修得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「博物館と展示」：博物館の分類・種類を確認し、それぞれの意義や役割どのような展示が行われてきたかを事例をもとに概観する。特に総合博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館の代表例を取り上げる。
2. 「展示と展示論の歴史」：ディスプレイとしての展示と展示論の学史を具体例を参考にしながら学ぶ。また日本の博物館の歴史を展示の視点から整理するとともに、明治時代以来展示の目的と理念がどのように考えられ説明されてきたかを概観する。
3. 「展示の諸形態」：展示の形態に関して、展示意図の有無、提示型と説示型、見学者の参加の有無、学術的な視座など12種類の分類について学ぶ。さらに第一、第二、第三世代の展示の進化形態を実例に即して整理する。
4. 「展示の政治性と社会性」：博物館の展示が社会教育、生涯教育と深く関係する事例として、第一に戦争と展示、第二に民族と展示を具体的に取り上げて解説する。
5. 「展示の製作」：展示の構想、基本設計、実施設計から完成までの流れを把握する。タイトル、期間設定、資料選定、動線・視線といった展示の基本的な事項と、実際の作業工程管理の重要性について認識を深める。
6. 「展示の実務」：展示ケース、各種演示具など展示のための設備や造形物（模型、複製、ジオラマ）についてその分類や特徴を捉える。また、情報の伝達装置として解説パネル、キャプションの製作方法や、より効果的に見せるための調光方法について整理する。
7. 「展示解説Ⅰーパネルとグラフィック」：文字パネルによる文章解説や音声解説、画像を重視したグラフィックパネルや機器による解説について整理する。また、来館者に対するよりよい解説方法について学習する。
8. 「展示解説Ⅱー展示図録」：展示図録の意義をおさえ、その作成プロセスと印刷方法、メディアの使用法、校正の流れ等を具体的に講義するとともに、最近の展示図録のうち代表的な事例を紹介する。また、指定文化財の掲載公開に関する注意点についても触れる。
9. 「展示解説Ⅲー人による解説」：学芸員による口頭での解説の種類を知り、より効果的な解説を行うための注意点を抑え、具体的な解説事例から学ぶ。また、ミュージアムワークシートの活用方法やその意義を捉える。
10. 「展示の評価と改善更新」：博物館評価について、博物館が主体的に実施する自己評価、外部評価、第三者評価、そして博物館の設置者が行う評価について、具体例を交えて解説する。
11. 「展示環境と動線計画」：具体的に展示を見ながら来館者の動きと動線の関係、照明の使用法を確認する。展示物により興味を持たせるためのワークシートやアンケートを作成し、学芸員の活動を体験する。
12. 「資料整理と展示」：アーカイブスの整理方法と展示方法に関する具体例を見学し、より分かり易く知的欲求を満たす展示について考察を深める。
13. 「調査研究の成果としての展示」：資料を調査・研究し、そこから引き出された事実を蓄積して展示を構築していく説示

型展示の具体的実践例を紹介。展示の役割と重要性、市民への還元の様相を把握する。

14. 「コミュニケーションとしての展示」：展示への理解をより深めてもらうための具体的な取り組みの工夫、来館者とのコミュニケーションの実践例について学習する。

15. 「展示の意義および試験」：博物館における展示の意義を理解する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

7. 教科書および参考書：

プリント資料を随時配布する。また参考文献については講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として授業で学んだ点を博物館を訪問して確認してみる。

9. その他：なし

科目名：博物館情報・メディア論／ Museum informatics and media practices

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：皿井 舞（非常勤講師）

講義コード：LB98838, 科目ナンバリング：LHM-CUM306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

博物館情報の現在

2. Course Title (授業題目)：

The Current Situation of the Cultural Information in Museum

3. 授業の目的と概要：

博物館に求められる役割が大きく変化しつつあり、また高度情報化がますます進展する現在において、作品の収集・保管・活用を使命とする博物館は、いかなる文化財情報を作成し、発信していくのか。博物館における文化財情報とは何か、その情報の作成・整理・管理の理念と実際、さらに情報発信の方法について学ぶ。また文化財情報を利用する利用者の立場からも、日本だけではなく、世界においてどのような情報発信が行なわれているかを知り、博物館における情報のあり方について批判的に検証する。

4. 学習の到達目標：

高度情報化社会における博物館を取り巻く情報環境、その今日における課題について理解する。博物館における情報発信の方法を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、講義とミニ実習を中心とした授業とする。

1. ガイダンス
2. 博物館とメディア
3. 文化財情報の歴史 1
4. 文化財情報の歴史 2
5. デジタル技術と文化財情報 1
6. デジタル技術と文化財情報 2
7. 世界における文化財情報—米国・ゲッティ研究所の戦略—
8. 博物館と情報発信
9. 展覧会の成り立ち
10. ケーススタディ 1：近隣博物館施設の情報とメディア 1（臨地実習）
11. ケーススタディ 2：近隣博物館施設の情報とメディア 2（臨地実習）
12. ケーススタディ 3：展覧会をつくってみよう
13. 講評（ミニ実習）
14. メディアを活用した普及教育
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

講義のなかで適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報にできるだけ接して予備知識を持っておくことを勧める。

9. その他：なし

科目名：博物館実習Ⅱ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB55407, **科目ナンバリング：**LHM-CUM307J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：

歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

4. 学習の到達目標：

史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い
13. フィールド実習
14. 史料整理の基礎 (1)
15. 史料整理の基礎(2)

6. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[20%]・レポート[50%]

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

特になし。

9. その他：なし

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、可能な限り日本史実習・史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：博物館実習Ⅲ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (教授)

講義コード：LB63313, **科目ナンバリング：**LHM-CUM308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

博物館学資料分析法

2. Course Title (授業題目)：

Field Work and Methodology on Museology

3. 授業の目的と概要：

実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。
 2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。
 3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。
 4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。
 5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。
 6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。
 7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。
 8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。
 9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。
 10. 写真撮影 (1)。
 11. 写真撮影 (2)。
 12. 写真撮影 (3)。
 13. 保存処理に関する研修。
 14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。
 15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。
- 6. 成績評価方法：**
- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]
(○) その他 (具体的には、受講態度、発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

実測図の作成などの宿題が相当量ある。

9. その他：なし

前期に考古学実習を履修していることが望ましい。

科目名：博物館実習Ⅳ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅳ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

杉本 欣久（教授、准教授）

講義コード：LB52309, 科目ナンバリング：LHM-CUM309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目)：

Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 写真資料の複写
2. 美術作品についての発表
3. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
4. 展示についての考え方と実践

4. 学習の到達目標：

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践
3. 写真資料の複写の方法と実践
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 美術作品についての口頭発表と講評
8. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 1
9. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 2
10. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 3
11. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 4
12. 博物館展示の考え方と実践 1
13. 博物館展示の考え方と実践 2
14. 博物館展示の考え方と実践 3
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

7. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

8. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

9. その他：なし

科目名：博物館実習Ⅴ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅴ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB52310, **科目ナンバリング：**LHM-CUM310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

西洋美術史の基礎知識と調査入門

2. Course Title (授業題目)：

Basic Understanding of Western Art History and Introduction to its Research Methodology

3. 授業の目的と概要：

西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。

4. 学習の到達目標：

西洋美術史（古代～中世）について、最低限の知識を身につける。美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひとり自分で行えるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、発表の仕方、展覧会評の書き方
2. 展覧会見学
3. 写真撮影の仕方
4. 調書の作り方、作品記述の方法
5. 発表
6. 展覧会見学
7. 学術文献、論文の探し方
8. 小テスト、発表
9. 小テスト、発表
10. 展覧会見学
11. 小テスト、発表
12. 小テスト、発表
13. 小テスト、発表
14. 小テスト、発表
15. まとめ

※展覧会の開催日程により、予定変更となる場合あり

6. 成績評価方法：

発表（30%）、授業への貢献（30%）、小テスト（20%）、展覧会評（20%）

7. 教科書および参考書：

教科書：H・W・ジャンソン『西洋美術の歴史』（創元社）

※発表準備の際には、美術史関連図書を適宜参照

8. 授業時間外学習：

発表の準備、小テスト対策（復習）、展覧会評の提出

9. その他：なし

科目名：博物館実習Ⅵ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅵ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5)， 単位数：1

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB98839， 科目ナンバリング：LHM-CUM311J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

館園実習

2. Course Title (授業題目)：

Museum training at the Tohoku university museum, archives and botanical garden

3. 授業の目的と概要：

博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本類について管理や展示などの作業方法を、本学に付設する植物園、史料館、自然史標本館において実習する。履修希望者の専攻分野に応じて、実習を行う館園を割り振り、より実践的な実習となるようにする。

4. 学習の到達目標：

博物館における資料・標本類の管理や展示の実務作業を体験し習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体での進め方の説明と担当館園の割り振り
2. 展示見学
3. 収蔵庫見学
4. 資料管理方法の体験（1）
5. 資料管理方法の体験（2）
6. 資料管理方法の体験（3）
7. 小グループによる展示案作成（1）
8. 小グループによる展示案作成（2）
9. 小グループによる展示案作成（3）
10. 小グループによる展示案作成（4）
11. 展示案の発表
12. 展示作成作業（1）
13. 展示作成作業（2）
14. 展示作成作業（3）
15. まとめと講評

6. 成績評価方法：

出席（80%）、受講態度（20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。

8. 授業時間外学習：

実習のため、前回授業の内容を踏まえて、次の授業での作業が進行する。前回の授業で行った作業を確認し、次の授業に備えること。

9. その他：なし

学術資源研究公開センター（総合学術博物館、植物園、史料館）の教員スタッフがこの館園実習を担当する。授業実施期間以前に、事前のガイダンスを行う場合があるため、掲示に注意すること。

科目名：地理学B／ Geography B

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：村山 良之（非常勤講師）

講義コード：LB54301, 科目ナンバリング：LHM-GE0302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

都市地理学からみた仙台

2. Course Title (授業題目)：

Sendai: as a field of urban geography

3. 授業の目的と概要：

都市の成立、立地と機能、都市の内部構造などをめぐる都市地理学とその周辺諸科学の成果や基礎的な理論を理解する。あわせて、主たる素材となる仙台についての基本的な情報を獲得する。

4. 学習の到達目標：

- ・都市地理学に関する基礎的な知識を獲得し、これを説明できるようになる。
- ・仙台に関する都市地理学的知識を獲得し、仙台を案内できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション：高校までの「地理」と地理行列
2. 城下町とその変容(1)：近世城下町の成立とその地理的特徴（地形利用と空間構成）
3. 城下町とその変容(2)：城下町仙臺の地理的特徴
4. 城下町とその変容(3)：明治以降の城下町の変化
5. 城下町とその変容(4)：戦災復興
6. 都市と交通(1)：交通の発達と都市域の拡大および都市内部構造の変容
7. 都市と交通(2)：都市交通問題と世界のLRT
8. 市街地の拡大とDID：町村合併と国勢調査
9. 都市周辺の宅地開発(1)：仙台都市圏
10. 都市周辺の宅地開発(2)：宅地開発と自然災害
11. 都市の内部構造：因子生態研究
12. 都市の順位・規模法則：明治以降の日本の最上位都市群の変化
13. 中心地理論：クリスタラーによる都市分布の説明
14. 中枢管理機能と都市システム：日本の都市システム
15. 中枢管理機能と都市システム：世界都市仮説と東京

6. 成績評価方法：

複数回のレポート、100%

7. 教科書および参考書：

藤井正・神谷浩夫編『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房、2014年。

他にも授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは、授業終了後に予約。

9. その他：なし

受講生は「都市地理学からみた仙台」の未履修者のこと。

科目名：地誌学／ Topography

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小田 隆史（非常勤講師）

講義コード：LB64212, 科目ナンバリング：LHM-GE0303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

都市社会の諸相・諸課題

2. Course Title (授業題目)：

Multiple Aspects and Challenges in Urban Societies

3. 授業の目的と概要：

地誌学の役割は人間の居住様式の多様性を地域性として説明するところにある。この授業では、日本、先進国、発展途上国の都市社会を事例に、グローバリゼーションの影響を受けながら諸都市が直面するローカル／グローバルな課題と、その解決に向けた取り組みやその効果について理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

都市社会の諸相・諸課題に関する学習を通して地誌学的思考を身につけ、国内外の事例から、都市が直面する課題や解決に向けた取組などについての知識を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 地誌学とは一地誌と地域研究
2. 地理学と空間概念
3. 世界都市論
4. 先進国の都市化
5. 発展途上国の都市化
6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相
7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災
8. アメリカ地誌概説～その1
9. アメリカ地誌概説～その2
10. インナーシティと都市における多重剥奪
11. 移民・難民・エスニック集団と空間
12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住
13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ
14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ
15. 総括・振り返り・授業内テスト

6. 成績評価方法：

筆記試験 [40%]、出席 [50%]、レポート [10%] で評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

授業で必要な資料は適宜コピーして配布する。

No specific textbook is designated while some reading materials will be distributed during the course.

8. 授業時間外学習：

オフィシアワーは設けていないが、教員は東北大（青葉山）に隣接する宮城教育大キャンパスに研究室があるため、希望があれば授業の内容等に関する質問・研究に関する相談を受け付ける。事前に要アポイントメント（連絡先メール等は授業内で周知）。

There is no office hour for the lecturer, however, an appointment can be made for arranging a meeting for inquiries. The email address will be provided during the class.

9. その他：なし

受講生は「都市社会の諸相・諸課題」の未履修者のこと

科目名：キリスト教史／ History of Christianity

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB63208, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

世界の中のキリスト教

2. Course Title (授業題目)：

Global History of Christianity

3. 授業の目的と概要：

本講義では、二千年にわたるキリスト教の歴史を、「多様性」と「ダイナミズム」をキーワードとしながら概観する。

4. 学習の到達目標：

- (1) キリスト教とその歴史に関する基本的知識が理解できる
- (2) キリスト教の多様性とダイナミズムを理解できる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション
- 2. ユダヤからの出発①ユダヤ教
- 3. ユダヤからの出発②原始教団
- 4. アジアにおける展開①教義の確立
- 5. アフリカにおける展開①正統と異端、アウグスティヌス
- 6. 予備日：ビデオ鑑賞 アフリカのキリスト教
- 7. ヨーロッパにおける展開①ローマ帝国とキリスト教
- 8. ヨーロッパにおける展開②中世キリスト教
- 9. 予備日：ビデオ鑑賞 聖者と奇蹟信仰
- 10. ヨーロッパにおける展開③宗教改革
- 11. ラテンアメリカにおける展開①征服者としてのキリスト教
- 12. 北アメリカにおける展開①合衆国建国、大覚醒
- 13. ヨーロッパにおける展開④啓蒙時代、世界戦争とキリスト教
- 14. アジア・日本におけるキリスト教①イエズス会による宣教、キリシタン禁令と鎖国
- 15. アジア・日本におけるキリスト教②明治以降のキリスト教、聖書翻訳、大戦期のキリスト候

6. 成績評価方法：

授業中に配布するコメントペーパー[40%]、期末テスト[60%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない

Textbook will not be used.

参考書：松本宣郎（編）、『キリスト教の歴史』1・2、山川出版、2002年。

Reference: Matsumoto Norio(ed), The History of Christianity 1, 2, Yamakawa Shuppan, 2002.

8. 授業時間外学習：

内容を復習すること。

Students are required to review repeatedly.

9. その他：なし

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：下田 真奈美（非常勤講師）

講義コード：LB54404, 科目ナンバリング：LHM-OHU301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

書表現の基礎(一) (漢字)

2. Course Title (授業題目)：

The Elements of Calligraphy Expression (1) (Chinese Character)

3. 授業の目的と概要：

王羲之の用筆法による、楷書基本十点画を学ぶ。さらに、篆書、隸書、行書体を通じて、中国書道史の用筆法の変遷を学び、かつ書けるようにする。いずれも羊毛・長鋒を使用。

4. 学習の到達目標：

中国伝統の用筆法に従って、五つの書体を書けるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 楷書の基本十点画①（左はらい）
3. 楷書の基本十点画②（点1）
4. 楷書の基本十点画③（よこ画）
5. 楷書の基本十点画④（たて画）
6. 楷書の基本十点画⑤（折れ）
7. 楷書の基本十点画⑥（折れとはね）
8. 楷書の基本十点画⑦（曲がりとはね）
9. 楷書の基本十点画⑧（右はらい）
10. 楷書の基本十点画⑨（点2・点3）
11. 基本十点画のまとめ
12. 篆書
13. 隸書
14. 草書
15. 創作

6. 成績評価方法：

出席（毎時、清書提出）[100%]

7. 教科書および参考書：

肉筆手本・五體字類等。

8. 授業時間外学習：

11. 「基本十点画のまとめ」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。

9. その他：なし

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：下田 真奈美（非常勤講師）

講義コード：LB64403, 科目ナンバリング：LHM-OHU301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

書表現の基礎(二) (かな)

2. Course Title (授業題目)：

The Elements of Calligraphy Expression (2) (Hiragana Character)

3. 授業の目的と概要：

- いろは単体から高野切第三種の臨書、倣書ができるようにする。
- かな用小筆の執筆法・運筆法を、基礎から徹底して学習する。

4. 学習の到達目標：

独力でかなの古典臨書ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. かな用小筆の執筆法・運筆法
3. 基本練習といろは単体 1
4. いろは単体 2
5. いろは単体 3
6. いろは単体のまとめ
7. 変体仮名
8. 連綿
9. 高野切第三種の臨書 1
10. 高野切第三種の臨書 2
11. 高野切第三種の臨書 3
12. 高野切第三種の臨書 4
13. 高野切第三種の臨書 5
14. 高野切第三種の倣書（下書き）
15. 高野切第三種の倣書（清書）

6. 成績評価方法：

出席（毎時、清書提出）[100%]

7. 教科書および参考書：

肉筆手本・プリント・高野切三種（影印本）等。

8. 授業時間外学習：

14.「高野切第三種の倣書（下書き）」、15.「高野切第三種の倣書（清書）」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。

9. その他：なし

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB51211, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典講読 I

2. Course Title (授業題目)：

Classic reading I

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。

古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は

歌川広重「狂歌入り東海道」

である。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か
2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌
3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版
4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール
5. 講読 1 内裏・京
6. 講読 2 大津・草津
7. 講読 3 石部・水口
8. 講読 4 土山・坂之下
9. 講読 5 関・亀山
10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修
11. 講読 6 庄野・石薬師
12. 講読 7 四日市・桑名
13. 講読 8 宮・鳴海
14. 講読 9 藤川・赤坂
15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：なし

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB61208, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典講読Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Classic reading Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。

古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は

歌川広重「狂歌入り東海道」

である。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か
2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌
3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版
4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール
5. 講読 1 日本橋・品川
6. 講読 2 川崎・神奈川
7. 講読 3 保土ヶ谷・戸塚
8. 講読 4 藤沢・平塚
9. 講読 5 大磯・小田原
10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修
11. 講読 6 箱根・三島
12. 講読 7 沼津・原
13. 講読 8 吉原・蒲原
14. 講読 9 由井・奥津
15. まとめと評価 「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：なし

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本史基礎文献購読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction to source material
2. Reading and translation presentation
3. Reading and translation presentation
4. Reading and translation presentation
5. Reading and translation presentation
6. Reading and translation presentation
7. Reading and translation presentation
8. Reading and translation presentation
9. Reading and translation presentation
10. Reading and translation presentation
11. Reading and translation presentation
12. Reading and translation presentation
13. Reading and translation presentation
14. Reading and translation presentation
15. Reading and translation presentation

6. 成績評価方法：

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

9. その他：なし

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB42403, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本史基礎文献購読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction to source material
2. Reading and translation presentation
3. Reading and translation presentation
4. Reading and translation presentation
5. Reading and translation presentation
6. Reading and translation presentation
7. Reading and translation presentation
8. Reading and translation presentation
9. Reading and translation presentation
10. Reading and translation presentation
11. Reading and translation presentation
12. Reading and translation presentation
13. Reading and translation presentation
14. Reading and translation presentation
15. Reading and translation presentation

6. 成績評価方法：

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

9. その他：なし

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB53209, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代評論講読 I

2. Course Title (授業題目)：

Modern sentence reading I

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。

日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 1 日本文化を考える（1）
2. 導入 2 日本文化を考える（2）
3. 導入 3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む（1）
4. 導入 4 『日本文化史』「はじめに」を読む（2）
5. 導入 5 「日本文化論」の変容をめぐって
6. 講読 1 ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール
7. 講読 2 『菊と刀』②
8. 講読 3 『菊と刀』③
9. 講読 4 『菊と刀』④
10. 講読 5 『菊と刀』⑤
11. 講読 6 『菊と刀』⑥
12. 講読 7 『菊と刀』⑦
13. 講読 8 『菊と刀』⑧
14. 講読 9 『菊と刀』⑨
15. まとめと評価 『菊と刀』から新たな日本文化論へ

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：なし

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB63209, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代評論講読Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Modern sentence reading Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。

日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 1 日本文化を考える（1）
2. 導入 2 日本文化を考える（2）
3. 導入 3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む（1）
4. 導入 4 『日本文化史』「はじめに」を読む（2）
5. 導入 5 「日本文化論」の変容をめぐって
6. 講読 1 ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール
7. 講読 2 『菊と刀』②
8. 講読 3 『菊と刀』③
9. 講読 4 『菊と刀』④
10. 講読 5 『菊と刀』⑤
11. 講読 6 『菊と刀』⑥
12. 講読 7 『菊と刀』⑦
13. 講読 8 『菊と刀』⑧
14. 講読 9 『菊と刀』⑨
15. まとめと評価 日本文化と「わたし」

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：なし

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語表現論／ Japanese Composition

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB64213, 科目ナンバリング：LHM-OHU303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語表現論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Japanese expression theory Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。
あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。

日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。

レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語表現論」（5セメスター）との連続履修が望ましい。

4. 学習の到達目標：

日本語研究論文作成の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 1 論文とは 日本における論文作成のルール
2. 導入 2 論文作成の実際 先行研究の重要性
3. 導入 3 論文の構成 1 構成の作り方
4. 導入 4 論文の構成 2 序論の構成要素
5. 導入 5 論文の構成 3 研究の視点
6. 導入 6 論文の作成 1 先行論文の発見
7. 導入 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法
8. 導入 8 論文の作成 3 序論の意義
9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究
10. 実践 2 序論の作成① 背景説明
11. 実践 3 序論の作成② 問題点の明示
12. 実践 4 序論の作成③ 研究目的の明示
13. 実践 5 資料・データの利用
14. 実践 6 序論に対応した結論の書き方
15. まとめと評価 レポートの作成

6. 成績評価方法：

レポート提出

7. 教科書および参考書：

『論文ワークブック』（くろしお出版）

8. 授業時間外学習：

レポート作成

9. その他：なし

外国人留学生を対象とする。

科目名：日本語表現論／ Japanese Composition

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB54211, 科目ナンバリング：LHM-OHU303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語表現論 I

2. Course Title (授業題目)：

Japanese expression theory I

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。
あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。

日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。

レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語表現論」（6セメスター）の連続履修が望ましい。

4. 学習の到達目標：

日本語論文作成の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 1 論文とは 日本における論文作成のルール
2. 導入 2 論文作成の実際 先行研究の重要性
3. 導入 3 論文の構成 1 構成の作り方
4. 導入 4 論文の構成 2 序論の構成要素
5. 導入 5 論文の構成 3 研究の視点
6. 導入 6 論文の作成 1 先行論文の発見
7. 導入 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法
8. 導入 8 論文の作成 3 序論の意義
9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究
10. 実践 2 序論の作成① 背景説明
11. 実践 3 序論の作成② 問題点の明示
12. 実践 4 序論の作成③ 研究目的の明示
13. 実践 5 資料・データの利用
14. 実践 6 序論に対応した結論
15. まとめと評価 レポートの作成

6. 成績評価方法：

レポート提出

7. 教科書および参考書：

『論文ワークブック』（くろしお出版）

8. 授業時間外学習：

レポート作成

9. その他：なし

外国人留学生を対象とする。

教職科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国語科教育論Ⅰ	国語科教育論Ⅰ	4	相澤 秀夫	通年	水	1	1
英語科教育論Ⅰ	英語科授業の基礎・基本	4	リース エイドリアン	通年	月	3	2
ドイツ語科教育法Ⅰ	多読によるドイツ語の習得	2	菊池 克己	5	火	4	3
ドイツ語科教育法Ⅱ	ドイツ語文献講読を通してドイツ語教授法を考える	2	松崎 裕人	6	木	3	4
フランス語科教育法Ⅰ	Du savoir-faire au savoir-être	2	メヴェル・ヤン	5	月	2	5
フランス語科教育法Ⅱ	Du savoir-faire au savoir-être	2	メヴェル・ヤン	6	月	2	6
地理歴史科教育法Ⅰ	高等学校の地理授業の設計と実践	2	初澤 敏生	6	木	1	7
地理歴史科教育法Ⅱ	高等学校の歴史授業の設計と実践	2	菊池 茂樹	5	木	1	8
宗教科教育法Ⅲ	岡正雄の日本宗教論(1)	2	山田 仁史	5	金	1	9
宗教科教育法Ⅳ	岡正雄の日本宗教論(2)	2	山田 仁史	6	金	1	10

科目名：国語科教育論Ⅰ／ Teaching Theory of the Japanese Language Ⅰ

曜日・講時：通年 水曜日 1 講時

セメスター：通年， 単位数：4

担当教員：相澤 秀夫（非常勤講師）

講義コード：LB93101， 科目ナンバリング：LHM-EDU901J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

国語科教育論Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Theory of the Japanese Language Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

学習指導要領の理解並びに教材研究法、国語の授業づくりにかかる基本的な技能を身につける。

4. 学習の到達目標：

教育実習において指導案の作成および教壇実習ができるための実践的な力量を形成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 国語科教育の意義と目的(1)国語科教育の今日的な課題 (2)言葉を学ぶことの意義 (3)教科としての「国語科の目的」
2. 国語科教育論の問題点・課題
3. 現行の国語教室の問題点・課題
4. 学習指導要領と国語の授業作り(1)中学校国語科の構造と内容
5. 学習指導要領と国語の授業作り(2)高等学校国語科の構造と内容
6. 国語科の教材研究論(1)教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学習材の開発
7. 国語科の教材研究論(2)文章内容と言葉の扱い
8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成（演習）
9. 教材研究と発問づくり(その1)『少年の日の思い出』
10. 教材研究と発問づくり(その2)『走れメロス』
11. 教材研究と発問づくり(その3)『故郷』
12. 学習指導案の作成と検討（演習）
13. 模擬授業（演習）～全員行おう～
14. 国語科の評価
15. 国語科の歴史と今後の課題

6. 成績評価方法：

レポート・演習への参加等

7. 教科書および参考書：

教科書：文部科学省刊行『中学校・高等学校 指導要領解説（国語編）』『若手中学校国語教師のための指導テキスト』（明治図書）

8. 授業時間外学習：

具体的な説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくり、授業づくりの準備等を各自事前におこなう。

9. その他：なし

科目名：英語科教育論Ⅰ／ Teaching Theory of English I

曜日・講時：通年 月曜日 3 講時

セメスター：通年， 単位数：4

担当教員：リース エイドリアン（非常勤講師）

講義コード：LB91301， 科目ナンバリング：LHM-EDU903J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語科授業の基礎・基本

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Theory of English I

3. 授業の目的と概要：

- ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等に関する理解を深める。
- ・英語科授業の模擬授業を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。
- ・模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

外国語教育について学び、模擬授業や様々な問題に関するディスカッションを行う。外国語教育について学び、模擬授業や様々な問題に関するディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

- ①小テスト（40%）、②ディスカッション参加（20%）、③模擬授業（40%）

7. 教科書および参考書：

Brown, H. D., & Lee, H. (2015). Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy (4th ed.). White Plains, NY: Longman.

8. 授業時間外学習：

テキストを読んで、ディスカッションの準備や理解できるところとそうでないところを明確にした上で、授業に臨むこと。

9. その他：なし

英語科教育論Ⅰ は英語と日本語の両方で行われる。

科目名：ドイツ語科教育法 I / Teaching Method of German Studies I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：菊池 克己（非常勤講師）

講義コード：LB52410, 科目ナンバリング：LHM-EDU905J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

多読によるドイツ語の習得

2. Course Title (授業題目)：

German acquisition based on extensive reading (Tadoku)

3. 授業の目的と概要：

この授業では外国語習得のアプローチとして多読を取り上げ、多読を知識として紹介するだけでなく、実際に体験してもらう。それによって、懸命に勉強しても外国語が身についたという実感が持てない従来の学習法を相対化し、その問題点を考えると同時に、新しい外国語習得の可能性を探る。

4. 学習の到達目標：

- ・多読というアプローチを知る。
- ・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。
- ・ドイツ語での読書を習慣化する。
- ・従来の学習法を見直し、その問題点を考察する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は多読の実践が中心。多読は自分が楽しんで読める本を大量に訳さずに読む。絵本などのやさしい本から始めて、自分にあった本を自分で選んで読み、その経験を簡単に記録する。

- 1 オリエンテーション：多読とは何か？
- 2 多読実践 1：多読の読み方を知る
- 3 多読実践 2：自分にあった本の選び方
- 4 多読実践 3：読書を楽しむために
- 5 多読実践 4：多読に親しむ
- 6 多読実践 5：多読に親しむ
- 7 多読実践 6：多読に親しむ
- 8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる
- 9 多読実践 7
- 10 多読実践 8
- 11 多読実践 9
- 12 多読実践 10
- 13 多読実践 11
- 14 多読実践 12
- 15 多読経験を振り返って

6. 成績評価方法：

平常点 [100%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示

8. 授業時間外学習：

隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。

9. その他：なし

科目名：ドイツ語科教育法Ⅱ／ Teaching Method of German Studies II

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：松崎 裕人（非常勤講師）

講義コード：LB64301, 科目ナンバリング：LHM-EDU906J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読を通してドイツ語教授法を考える

2. Course Title (授業題目)：

Deutschdidaktik

3. 授業の目的と概要：

文学理論入門書を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。
併せて、補助教材や資料の使用法に習熟する。
その作業を通して、「科目」としてのドイツ語について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

中級ドイツ語の文献を読解することができる。
特殊辞典・事典を効果的に使うことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 講読 (1) およびビューハークンデについて (1)
- 3 講読 (2) およびビューハークンデについて (2)
- 4 講読 (3)
- 5 講読 (4) および独独辞典の活用 (1)
- 6 講読 (5) および独独辞典の活用 (2)
- 7 講読 (6)
- 8 講読 (7) とまとめ (1)
- 9 講読 (8) および事典の活用 (1)
- 10 講読 (9) および事典の活用 (2)
- 11 講読 (10)
- 12 講読 (11) およびランデスクンデについて (1)
- 13 講読 (12) およびランデスクンデについて (2)
- 14 講読 (13)
- 15 講読 (14) とまとめ (2)

6. 成績評価方法：

授業での発表と課題提出 (100%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：

J. Culler 『Literaturtheorie. Eine kurze Einführung』(Reclam UB, 2013 [2. Auflage])

4. Kap.: Sprache, Bedeutung und Interpretation (プリント配布)

それ以外のテキストや参考文献については開講時に紹介します。

8. 授業時間外学習：

毎回、テキスト1頁半ほどの準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

9. その他：なし

オフィスアワー等については開講時に案内します。

科目名：フランス語科教育法 I / Teaching Method of French Studies I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LB51210, **科目ナンバリング：**LHM-EDU909J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Du savoir-faire au savoir-être

2. Course Title (授業題目)：

Du savoir-faire au savoir-être

3. 授業の目的と概要：

Le cours permettra d'apprendre à apprendre. En s'appuyant sur la recherche en didactique ainsi que sur des exemples variés, empruntés notamment à des manuels de FLE en usage au Japon, il s'agira de cerner les objectifs langagiers, pragmatiques et socio-culturels d'un cours de FLE, de préciser les modalités de l'apprentissage d'une langue étrangère, d'apprendre à construire une séquence didactique et à évaluer les productions, les acquis.

4. 学習の到達目標：

Le cours aura une visée pratique mais donnera lieu à une réflexion méthodologique. Dans la perspective de cours de communication, en particulier, il permettra la construction d'activités suscitant l'interaction, l'auto-évaluation et une progressive autonomie de l'apprenant. Les spécificités des besoins et attentes de l'apprenant japonais seront soulignées.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Sensibilisation à l'interculturel
- 2) Langage verbal et langage paraverbal
- 3) Quelles compétences construire ? Quels objectifs se donner ?
- 4) Les mécanismes de l'apprentissage
- 5) Les ressorts de la motivation
- 6) Le choix des supports pour un cours de communication
- 7) L'apprentissage actionnel
- 8) La notion de séquence didactique. Choix, progression et articulation des activités
- 9) La compréhension de l'oral
- 10) L'expression orale (I)
- 11) L'expression orale (II)
- 12) La compréhension de l'écrit
- 13) L'expression écrite (I)
- 14) L'expression écrite (II)
- 15) Travaux d'étudiants

6. 成績評価方法：

Au premier semestre, l'évaluation prendra en compte pour 50 % la participation active aux cours. 50 % seront également accordés à un dossier réalisé en fin de semestre visant à observer et analyser les forces et faiblesses d'une séquence didactique.

7. 教科書および参考書：

Janine Courtillon, Élaborer un cours de FLE, Paris, Hachette Français Langue étrangère, 2003.

8. 授業時間外学習：

Régulièrement, les étudiants devront se pencher sur des extraits de manuels pour rendre compte de leur point de vue sur les stratégies didactiques mises en œuvre. Progressivement, ils auront à soumettre eux-mêmes des activités destinées à un cours de FLE, activités qui seront discutées collectivement.

科目名：フランス語科教育法Ⅱ／ Teaching Method of French Studies II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン（准教授）

講義コード：LB61209, **科目ナンバリング：**LHM-EDU910J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Du savoir-faire au savoir-être

2. Course Title (授業題目)：

Du savoir-faire au savoir-être

3. 授業の目的と概要：

Le cours permettra d'apprendre à apprendre. En s'appuyant sur la recherche en didactique ainsi que sur des exemples variés, empruntés notamment à des manuels de FLE en usage au Japon, il s'agira de cerner les objectifs langagiers, pragmatiques et socio-culturels d'un cours de FLE, de préciser les modalités de l'apprentissage d'une langue étrangère, d'apprendre à construire une séquence didactique et à évaluer les productions, les acquis.

4. 学習の到達目標：

Le cours aura une visée pratique mais donnera lieu à une réflexion méthodologique. Dans la perspective de cours de communication, en particulier, il permettra la construction d'activités suscitant l'interaction, l'auto-évaluation et une progressive autonomie de l'apprenant. Les spécificités des besoins et attentes de l'apprenant japonais seront soulignées.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Le contrat didactique
- 2) Les stratégies didactiques
- 3) La gestion de l'hétérogénéité
- 4) Concevoir des activités ludiques
- 5) Concevoir des activités créatives
- 6) L'utilisation de documents authentiques
- 7) L'usage de la presse
- 8) L'usage de la vidéo
- 9) L'apport des nouvelles technologies
- 10) Élaborer un apprentissage collaboratif : travail de groupe et jeux de rôles
- 11) Développer l'autonomie
- 12) L'auto-évaluation
- 13) Cerner les acquis. Construction de tests et de grilles d'évaluation
- 14) Observation et analyse d'une séquence didactique dans un manuel en usage au Japon
- 15) Travaux d'étudiants

6. 成績評価方法：

Au second semestre, l'évaluation des étudiants prendra en compte pour 50 % la participation active aux cours. 50 % seront également accordés à la présentation orale d'une séquence didactique.

7. 教科書および参考書：

Janine Courtillon, Élaborer un cours de FLE, Paris, Hachette Français Langue étrangère, 2003.

8. 授業時間外学習：

Régulièrement, les étudiants devront se pencher sur des extraits de manuels pour rendre compte de leur point de vue sur les stratégies didactiques mises en œuvre. Progressivement, ils auront à soumettre eux-mêmes des activités destinées à un cours de FLE, activités qui seront discutées collectivement.

9. その他：なし

科目名：地理歴史科教育法 I / Teaching Method of Geography and History Studies I

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：初澤 敏生（非常勤講師）

講義コード：LB64101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU913J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

高等学校の地理授業の設計と実践

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Method of Geography Study

3. 授業の目的と概要：

「高等学校学習指導要領地理歴史編解説」についての解説を行い、その特徴と課題を把握する。合わせて教科書分析を行い、その授業化のための留意点などを検討する。次いで、受講生が授業案を作成し、それに関する討議・講評を行う。その後、受講生をいくつかのグループに分けて模擬授業を作成・実践し、それについての討議を行う。模擬授業は各グループごとに 50 分 1 コマ分を行い、各授業実践に関して受講者全員で討議する。

4. 学習の到達目標：

平成 21 年度改訂学習指導要領の特徴と課題を理解した上で、高等学校地理の授業づくりに関する基礎的な考え方と方法、技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業に関するガイダンスと授業案作成にあたっての留意点
 2. 平成 21 年度改訂学習指導要領に関する解説（A 科目を中心に）
 3. 教科書分析（A 科目を中心に）
 4. 平成 21 年度改訂学習指導要領に関する解説（B 科目の系統学習を中心に）
 5. 教科書分析（B 科目の系統学習を中心に）
 6. 平成 21 年度改訂学習指導要領に関する解説（B 科目の地域学習を中心に）
 7. 教科書分析（B 科目の地域学習を中心に）
 8. 今後の学習指導要領について／防災教育について
 9. 授業案の講評（A 科目を中心に）
 10. 授業案の講評（B 科目を中心に）
 11. 模擬授業（グループ A）の実践と討議、講評①
 12. 模擬授業（グループ B）の実践と討議、講評②
 13. 模擬授業（グループ C）の実践と討議、講評③
 14. 模擬授業（グループ D）の実践と討議、講評④
 15. 振り返りと学習内容の定着
- 6. 成績評価方法：**
模擬授業の評価と授業づくりへの貢献度（50%）、作成した授業案の評価（40%）、授業中の積極性（10%）
- 7. 教科書および参考書：**
文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』（教育出版、平成 22 年 6 月）必携のこと。
- 8. 授業時間外学習：**
授業時間外に授業案づくりに関する課題を課す。また、グループ作成となる模擬授業づくりの準備等は授業時間外に行うことになるので、準備しておくこと。
- 9. その他：**なし

科目名：地理歴史科教育法Ⅱ／ Teaching Method of Geography and History Studies II

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：菊池 茂樹（非常勤講師）

講義コード：LB54101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU914J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

高等学校の歴史授業の設計と実践

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Method of History Study

3. 授業の目的と概要：

社会科教育の歴史及び教育課程の変遷を踏まえ、地理歴史科誕生の意義を明らかにするとともに、各科目の基本的な内容や特質を理解する。さらに、教材研究の仕方や学習指導案の作成など授業実践のための基礎を学ぶ。そのうえで、学習指導案を作成・検討し、グループ単位で模擬授業を行うことによって、授業構成や発問・板書など教育実習に向けた実践的な指導法や心構えを身につける。

4. 学習の到達目標：

- ①学習指導要領の変遷を踏まえた地理歴史科の目的、内容を理解する。
- ②歴史系科目の構造、内容、特質を把握する。
- ③各自の専門科目の学習指導案を作成する。
- ④模擬授業をととして授業構成力や実践力を高めるとともに、教育実習に向けての心構えを身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業に関するガイダンスと社会科の存在意義
2. 教育課程の変遷と社会科の再編成
3. 世界史A・Bの目標と内容
4. 日本史A・Bの目標と内容
5. 学習指導要領の「指導上の配慮事項」、追加項目
6. 授業と学習指導案の関係（VTR視聴）
7. 教材研究の意義と方法
8. 学習指導案の書き方
9. 学習指導案の講評（世界史A・B）
10. 学習指導案の講評（日本史A・B）
11. 模擬授業と授業評価①（演習）
12. 模擬授業と授業評価②（演習）
13. 模擬授業と授業評価③（演習）
14. 模擬授業と授業評価④（演習）
15. 新学習指導要領の要点
6. 成績評価方法：
模擬授業の評価（40%）、学習指導案の評価（30%）、小テスト（20%）、授業への参加・態度（10%）。
7. 教科書および参考書：
文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』（平成22年6月）必携のこと。
8. 授業時間外学習：
授業時間外に学習指導案の作成、模擬授業づくりの準備を行う。
9. その他：なし

科目名：宗教科教育法Ⅲ／ Teaching Method of Religions Studies III

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：山田 仁史（准教授）

講義コード：LB55102, 科目ナンバリング：LHM-EDU917J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

岡正雄の日本宗教論（1）

2. Course Title（授業題目）：

Masao Oka's thesis on Japanese religion

3. 授業の目的と概要：

民族学者・岡正雄（1898-1982）は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。

4. 学習の到達目標：

岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、担当者による邦訳の発表とディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

担当部分の発表（50%）と討論への参加状況（50%）により評価する。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5.3 Religion)。入手方法は初回に指示します。

8. 授業時間外学習：

岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。

9. その他：なし

科目名：宗教科教育法Ⅳ／ Teaching Method of Religions Studies IV

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：山田 仁史 (准教授)

講義コード：LB65104, **科目ナンバリング：**LHM-EDU918J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

岡正雄の日本宗教論 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Masao Oka's thesis on Japanese religion

3. 授業の目的と概要：

民族学者・岡正雄 (1898-1982) は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。

4. 学習の到達目標：

岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、担当者による邦訳の発表とディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

担当部分の発表 (50%) と討論への参加状況 (50%) により評価する。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5.3 Religion)

8. 授業時間外学習：

岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。

9. その他：なし

海外研修科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
基礎海外研修Ⅰ	基礎海外研修Ⅰ	3	文学部学務教育室長	通年			1
基礎海外研修Ⅱ	基礎海外研修Ⅱ	6	文学部学務教育室長	通年			2
発展海外研修Ⅰ	発展海外研修Ⅰ	3	文学部学務教育室長	通年			3
発展海外研修Ⅱ	発展海外研修Ⅱ	6	文学部学務教育室長	通年			4

科目名：基礎海外研修 I / Overseas Study (Introductory Seminar) Ib

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年， **単位数：**3

担当教員：文学部学務教育室長（教授）

講義コード：LB98801， **科目ナンバリング：**LHM-OAR903J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

基礎海外研修 I

2. Course Title (授業題目)：

Overseas Study (Introductory Seminar) I

3. 授業の目的と概要：

この授業は、3 か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。

海外留学中に月一回程度のリポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るリポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リポート作成とそれに基づいた指導 1
2. リポート作成とそれに基づいた指導 2
3. リポート作成とそれに基づいた指導 3
4. リポート作成とそれに基づいた指導 4
5. リポート作成とそれに基づいた指導 5
6. リポート作成とそれに基づいた指導 6
7. リポート作成とそれに基づいた指導 7
8. リポート作成とそれに基づいた指導 8
9. リポート作成とそれに基づいた指導 9
10. リポート作成とそれに基づいた指導 10
11. リポート作成とそれに基づいた指導 11
12. リポート作成とそれに基づいた指導 12
13. リポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

6. 成績評価方法：

リポート[50%]・面接試験[50%]

7. 教科書および参考書：

なし。

8. 授業時間外学習：

留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

9. その他：なし

この授業は3 ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修 I」，「基礎海外研修 II」，「発展海外研修 I」，「発展海外研修 II」があるが、合計 6 単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 3 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

科目名：基礎海外研修Ⅱ／ Overseas Study (Introductory Seminar) II

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年， **単位数：**6

担当教員：文学部学務教育室長（教授）

講義コード：LB98802， **科目ナンバリング：**LHM-OAR904J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

基礎海外研修Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Overseas Study (Introductory Seminar) II

3. 授業の目的と概要：

この授業は、6か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化させることを目的とする。

海外留学中に月一回程度のリポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るリポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リポート作成とそれに基づいた指導 1
2. リポート作成とそれに基づいた指導 2
3. リポート作成とそれに基づいた指導 3
4. リポート作成とそれに基づいた指導 4
5. リポート作成とそれに基づいた指導 5
6. リポート作成とそれに基づいた指導 6
7. リポート作成とそれに基づいた指導 7
8. リポート作成とそれに基づいた指導 8
9. リポート作成とそれに基づいた指導 9
10. リポート作成とそれに基づいた指導 10
11. リポート作成とそれに基づいた指導 11
12. リポート作成とそれに基づいた指導 12
13. リポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

6. 成績評価方法：

リポート[50%]・面接試験[50%]

7. 教科書および参考書：

なし。

None.

8. 授業時間外学習：

留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

9. その他：なし

この授業は6ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」，「基礎海外研修Ⅱ」，「発展海外研修Ⅰ」，「発展海外研修Ⅱ」があるが，合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 6 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

科目名：発展海外研修 I / Overseas Study (Seminar) Ib

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年, **単位数：**3

担当教員：文学部学務教育室長（教授）

講義コード：LB98832, **科目ナンバリング：**LHM-OAR905J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

発展海外研修 I

2. Course Title (授業題目)：

Overseas Study (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：

この授業は、3 か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化・発展させることを目的とする。海外留学中に月一回程度のリポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るリポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リポート作成とそれに基づいた指導 1
2. リポート作成とそれに基づいた指導 2
3. リポート作成とそれに基づいた指導 3
4. リポート作成とそれに基づいた指導 4
5. リポート作成とそれに基づいた指導 5
6. リポート作成とそれに基づいた指導 6
7. リポート作成とそれに基づいた指導 7
8. リポート作成とそれに基づいた指導 8
9. リポート作成とそれに基づいた指導 9
10. リポート作成とそれに基づいた指導 10
11. リポート作成とそれに基づいた指導 11
12. リポート作成とそれに基づいた指導 12
13. リポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

6. 成績評価方法：

リポート[50%]・面接試験[50%]

7. 教科書および参考書：

なし。

8. 授業時間外学習：

留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

9. その他：なし

この授業は3ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修 I」, 「基礎海外研修 II」, 「発展海外研修 I」, 「発展海外研修 II」があるが、合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 3 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

科目名：発展海外研修Ⅱ／ Overseas Study (Seminar) Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年， **単位数：**6

担当教員：文学部学務教育室長（教授）

講義コード：LB98833， **科目ナンバリング：**LHM-OAR906J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

発展海外研修Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Overseas Study (Advanced Seminar) Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

この授業は、6か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化・発展させることを目的とする。海外留学中に月一回程度のリポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るリポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リポート作成とそれに基づいた指導 1
2. リポート作成とそれに基づいた指導 2
3. リポート作成とそれに基づいた指導 3
4. リポート作成とそれに基づいた指導 4
5. リポート作成とそれに基づいた指導 5
6. リポート作成とそれに基づいた指導 6
7. リポート作成とそれに基づいた指導 7
8. リポート作成とそれに基づいた指導 8
9. リポート作成とそれに基づいた指導 9
10. リポート作成とそれに基づいた指導 10
11. リポート作成とそれに基づいた指導 11
12. リポート作成とそれに基づいた指導 12
13. リポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

6. 成績評価方法：

リポート[50%]・面接試験[50%]

7. 教科書および参考書：

なし。

None.

8. 授業時間外学習：

留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

9. その他：なし

この授業は6ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」，「基礎海外研修Ⅱ」，「発展海外研修Ⅰ」，「発展海外研修Ⅱ」があるが，合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 6 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

職業関連科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
キャリアデザイン講座	キャリア・イメージを作る	2	文学部入試就職室長	4	木	3	1
インターンシップ	インターンシップ(就業・ボランティア体験)	2	桜井 宗信	通年			3

科目名：キャリアデザイン講座／ Carrier Design Course

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：文学部入試就職室長（教授）

講義コード：LB44305, **科目ナンバリング：**LHM-OAR901J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

キャリア・イメージを作る

2. Course Title (授業題目)：

For making a concept of your own profession

3. 授業の目的と概要：

卒業後、どのような形で自分が「社会」に関わってゆくのかを考え、そのスタートに向けた準備をすることは、専門の勉学と並んで、学生時代に取り組まなくてはならない最重要テーマのひとつです。進路選択へ向けた準備として重要なことは、企業や官公庁で働く自分の姿を具体的にイメージし、就職へのモチベーションを高めることです。「具体的に」という意味は、たんに業種や職種を見きわめるというだけでなく、労働の対価を得て自立した生活を営むことの意義を認識し、またそれを支えている今の社会の経済的な仕組みがどうなっているのか、その中で自分にはどんな権利と義務が生じてくるのかなど、「生活」の全体に関する理解を持つということです。今年度から開講されるこのキャリアデザイン講座では、「働く人」になってゆくために必要な基礎的知識を提供するとともに、具体性のあるキャリア・イメージを形成してゆけるよう、様々な角度からのガイダンスを行います。なおこの授業は、キャリア支援センターとの連携によるものですが、取得単位は学部専門教育科目として卒業単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。

4. 学習の到達目標：

職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 日本経済の基本構造について(1)
3. 日本経済の基本構造について(2)
4. ビジネス全般について(1)
5. ビジネス全般について(2)
6. ビジネス全般について(3)
7. 公務員
8. 労働法
9. 二十歳のハローワーク
10. 業界研究(1)
11. 業界研究(2)
12. 業界研究(3)
13. 自己分析と就職活動(1)
14. 自己分析と就職活動(2)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業と指定されたセミナーへの出席およびその報告の提出（100%）。

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

授業中に指示された課題の準備。日常的に、新聞・ネット等を通じて経済情報に目配りすること。

9. その他：なし

職業関連科目「キャリアデザイン講座」実施計画

- 1 開講時期 2018 年度後期（木曜日 3 講時 13:00～14:30）
- 2 単位 2 単位
- 3 受講学年 2 年次以上
- 4 授業の概要

この授業では、文学部学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育指導を行う。

実施予定

回(実施日)	事 項	担 当 者
1 (10/4)	オリエンテーション	入試就職室長 キャリア支援センター 高橋修准 教授
2 (10/11) 3 (10/18)	日本経済の基本構造について	キャリア支援センター 高橋修准 教授
4 (10/25) 5 (11/1) 6 (11/8)	ビジネス全般について	外部非常勤講師 菅野健朗 (株 キャリア D)
7 (11/15)	公務員	外部非常勤講師 野村悟 (株 TAC)
8 (11/22)	労働法	外部非常勤講師 越川孝啓 (仙台市雇用労働相談 センター) + 大江広満 (仙台市雇 用労働相談センター代表相談員・ 社会保険労務士法人めぐみ事務 所)
9 (11/29)	20 歳のハローワーク	文学部入試就職室
10 (※) 11 (※) 12 (※)	業界仕事研究セミナー への参加	キャリア支援センター教員等 スピーカー: 各界で活躍する OB/OG
13 (1/10) 14 (1/17)	自己分析等スキル系研 修	キャリア支援センター 高橋修准教授 (予定)
15 (1/24)	まとめ	キャリア支援センター 高橋修准教授

※業界研究セミナー開催時期:

11 月～1 月にかけて、12 回程度を実施予定

5 その他

- ① 文学部 2 年次ガイダンスにキャリア支援センター教員が訪問し、上記授業の説明を行う。
- ② 成績評価については、文学部入試就職室長が行う。

科目名：インターンシップ／ Internship

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB98840， 科目ナンバリング：LHM-OAR902J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

インターンシップ（就業・ボランティア体験）

2. Course Title（授業題目）：

Internship（working and volunteer activities）

3. 授業の目的と概要：

実質 10 日間以上（60 時間以上）にわたる企業等での就業体験またはボランティア体験について、2 単位を授業単位として認める。大まかな流れは以下の通りである。

（1）4 月 履修を希望する学生は、ガイダンスに出席し、履修届を提出する。

（2）4 月～7 月 履修学生は、学部が提供する受入企業等の情報をもとに、あるいはみずから情報を収集して、各自インターンシップに応募し、受入内諾書を得しだい教務係に提出する。

（3）夏期休業中 履修学生は、実習を行い、実習修了証明書および報告書・評価書（いずれも学部で定めた様式による）を終了後 1 週間以内に教務係に提出する。

（4）1 月 履修学生は、報告会で報告する。

4. 学習の到達目標：

自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験または震災復興等ボランティア体験を行うことによって、職業適性や資質を正しく認識し、高い意識のもとで主体的な職業選択ができるようにする。また、社会体験を大学での勉強にフィードバックすることで、学生生活をより実りあるものとする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受入企業等での実習、ボランティア活動

3. 受入企業等での実習、ボランティア活動

4. 受入企業等での実習、ボランティア活動

5. 受入企業等での実習、ボランティア活動

6. 受入企業等での実習、ボランティア活動

7. 受入企業等での実習、ボランティア活動

8. 受入企業等での実習、ボランティア活動

9. 受入企業等での実習、ボランティア活動

10. 受入企業等での実習、ボランティア活動

11. 受入企業等での実習、ボランティア活動

12. 受入企業等での実習、ボランティア活動

13. 受入企業等での実習、ボランティア活動

14. 受入企業等での実習、ボランティア活動

15. 事後報告会での発表

6. 成績評価方法：

（1）ガイダンスへの出席，（2）実習修了証明書の提出，（3）実習報告書・評価書の提出，（4）事後報告会での発表

7. 教科書および参考書：

ガイダンスで指示する。

8. 授業時間外学習：

この科目は、受入企業等での履修学生の実習、あるいは震災復興等ボランティア活動を中心としている。

9. その他：なし

（1）選択必修科目としては 2 単位を上限とする。（2）就業体験は、夏期休業中に行うことを奨励する。（3）インターンシップ

という名称でなくとも、実質それに相当すると見なされる就業体験については、単位取得の対象として認めるので、担当教員に相談すること（福祉・医療施設での実習など）。